

今日を愛する。

LION

ライオン

サステナビリティ Webサイト2026

〈PDF版〉



より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する

当PDF版に掲載している情報の対象期間は、2025年1月～最新情報となります。

対象期間外に実施した活動も一部紹介しています。

＊目次の各項目をクリックすると本PDFの該当ページへ移動します。

目次	1
----	---

ライオンのサステナビリティ

トップメッセージ	4
----------	---

考え方と推進体制	5
----------	---

重要課題(マテリアリティ) 特定のプロセス	11
-----------------------	----

環境(Environment)

サステナブルな地球環境への取組み推進	13
--------------------	----

環境方針／マネジメント	17
-------------	----

脱炭素社会の実現	20
----------	----

事業所活動におけるCO2排出量削減	22
-------------------	----

製品のライフサイクルにおけるCO2排出量削減	25
------------------------	----

資源循環型社会の実現	28
------------	----

持続可能なプラスチック資源の活用	30
------------------	----

製品のライフサイクルにおける水使用量削減	39
----------------------	----

自然との共生(生物多様性)	43
---------------	----

生物多様性保全活動	44
-----------	----

ライオンのエコ製品(環境配慮型製品)	46
--------------------	----

ライオンエコ基準とは	51
------------	----

「暮らし、まいにち、エコ。」マーク表示製品一覧	53
-------------------------	----

化学物質管理	58
--------	----

環境に関する外部イニシアチブへの参画	64
--------------------	----

TCFD提言に基づく情報開示	66
----------------	----

TNFD提言に基づく情報開示	69
----------------	----

社会 (Social)

健康な生活習慣づくり	72
オーラルヘルスケア習慣の定着化に向けた取り組み	74
オーラルヘルスケア習慣の促進に役立つコンテンツ	84
清潔・衛生習慣の定着化に向けた取り組み	88
清潔・衛生習慣の促進に役立つコンテンツ	93
人的資本・労働安全	96
ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進	100
ワークライフエンリッチメントの推進	102
人材開発	106
従業員の健康増進	109
労働安全管理体制の充実	113
労使関係	119
人権の尊重	122
人権デューディリジェンスの推進	124
バリューチェーン上における人権侵害防止の取り組み	129
責任あるサプライチェーンマネジメントの構築	132
原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進	134
持続可能な原材料調達に向けて	139
顧客の満足と信頼の追求	143
品質保証、安心・安全への取り組み	146
お客様の声にお応えする取り組み	152
お客様への情報提供の強化	157

ガバナンス (Governance)

コーポレート・ガバナンス	159
--------------	-----

関連情報

ESGデータ・第三者検証	161
イニシアチブ・外部評価	180
ステークホルダー・エンゲージメント	185
社会貢献活動	189

海外グループでの取り組み	199
Lion Corporation (Korea)	200
獅王日用化工(青島)有限公司	210
獅王(香港)有限公司	214
獅王家品股份有限公司	216
Merap Lion Holding LLC	219
Lion Corporation (Singapore) Pte Ltd	221
Lion Kallol Limited	228
Lion Corporation (Thailand) Ltd.	229
Southern Lion Sdn. Bhd.	234
PT. Lion Wings	239
編集方針・各種ガイドライン対照表	243
ISO26000 対照表	244
GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード対照表	248
国連グローバル・コンパクト COP対照表	253
環境報告ガイドライン(2018年版) 対照表	255
サステナビリティ発行物ダウンロード	259
関連コンテンツ	262

トップメッセージ



より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)

ライオンは、1891年の創業以来、より良い習慣づくりを通じて人々の暮らしに寄り添ってきました。私たちの製品は、歯みがきや洗濯、掃除など、人々の何気ない日常生活の中にあります。こうした日常の行為を、より健やかで心地よいものへと変えていくことが、私たちの事業の原点であるとともに、中心を成すものでもあります。

例えば、正しい歯みがき習慣の定着や、より機能性の高い製品を使うことで、いつまでも健康な歯で食事を楽しめるようになります。家事を効率化できれば、家族団らんの時間をより多く生むことができます。こうした前向きな変化の積み重ねによって人々の毎日に貢献することこそ、ライオンのパーパス「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する（ReDesign）」であり、130年以上にわたり受け継がれてきた精神です。

当社はその精神を大切にしながら事業を営んでまいりましたが、当社を取り巻く事業環境は常に変化し、近年はその複雑さが一層増しています。例えば、地球規模での環境問題への対応においては、企業単位での取り組みのみならず、日々の暮らしの中でできる節水や節電、資源の有効活用といった社会全体の習慣の変容が求められています。グローバルな視点でみると、当社が事業を展開する北東アジアでは、高齢化の進展にともなう医療費の増加、東南・南アジアでは経済発展の段階に応じた健康・衛生習慣の整備など、社会課題は国・地域ごとに多様化しています。

こうした多様で複雑な社会課題と向き合い、持続的に社会価値と経済価値を創出していくために、パーパスを経営の軸に据え、「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」という経営ビジョンを掲げています。そして、その実現に向け、中長期経営戦略フレーム「Vision2030」を策定し、さまざまな事業活動を展開しています。

「より良い習慣づくり」は、社会課題の解決と経済価値の創出を両立させる活動であり、その積み重ねがサステナブルな企業価値の向上につながると考えています。より良い習慣づくりを通じて社会課題の解決にアプローチするという、当社ならではのユニークネスを最大限に発揮し、その取り組みの領域を日本にとどまらずアジアを中心に広げていくことで、持続的な成長の実現と、サステナブルな社会への貢献を目指してまいります。

代表取締役兼社長執行役員

竹森 征之

考え方と推進体制

- ✓ 基本的な考え方
- ✓ サステナビリティマネジメント(推進体制)
- ✓ サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)の2030年目標と進捗
- ✓ 持続可能な開発目標(SDGs)への貢献
- ✓ 重要課題特定のプロセス/歴史/イニシアチブ・外部評価

基本的な考え方

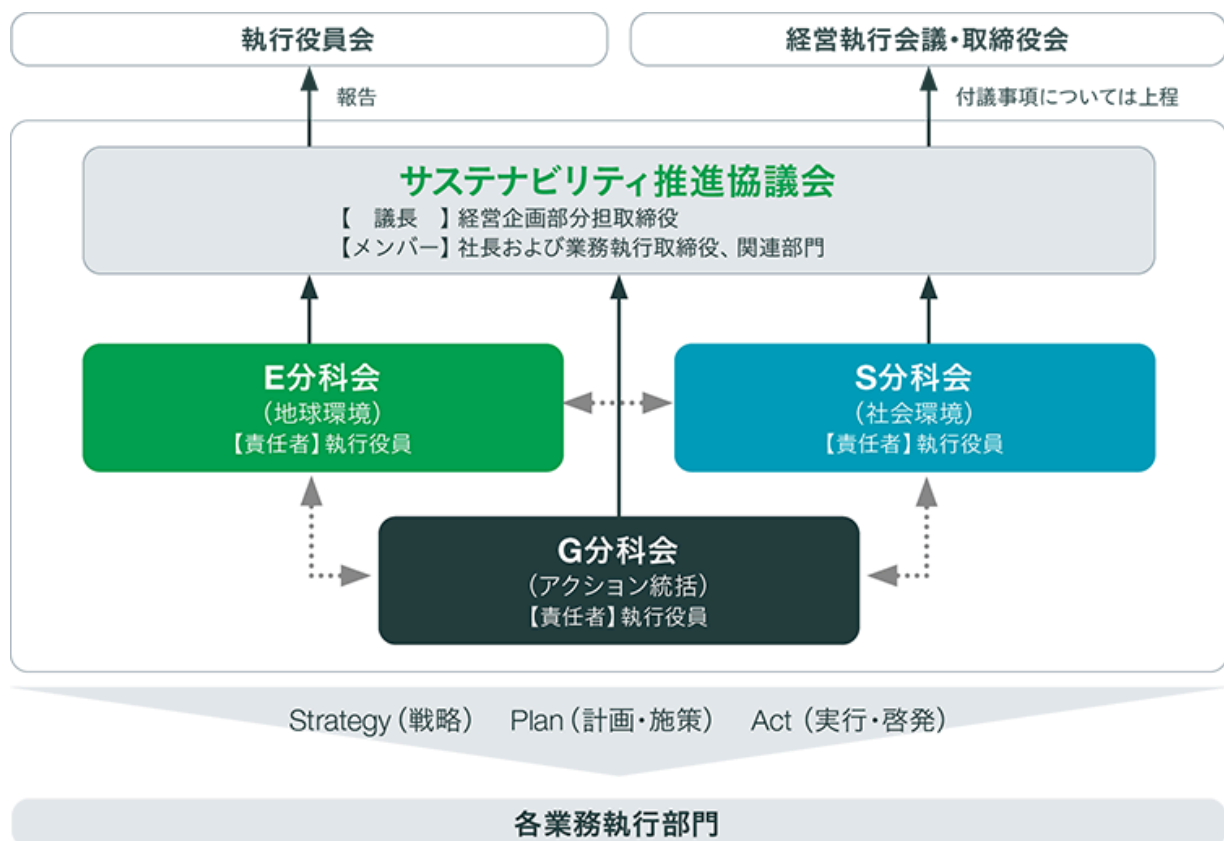
ライオンは、「事業を通じて社会のお役に立つ」という創業の精神を受け継ぎ、経済的発展のみならず、地球環境や社会の課題についても長期的かつ継続的に取り組んできました。

現在は、2030年に向けた経営ビジョン「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」を掲げ、ビジョン実現に向けては、パーパス(存在意義)「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)」を経営の起点とし、サステナブルな社会への貢献と事業の成長を目指しています。

サステナビリティマネジメント(推進体制)

サステナブルな経営を推進する仕組みとして、従来は社長を含む業務執行取締役全員と関連部門を構成メンバーとした「サステナビリティ推進会議」を開催していましたが、2021年より、社長を含む業務執行取締役全員と関連部門で構成する「サステナビリティ推進協議会」を設置しました(年2回開催)。

協議会の傘下に執行役員を責任者とするE・S・G、3つの分科会を設け、サステナビリティ重要課題に対する取組みの推進、ならびにモニタリングを行っています。協議会で決定した内容は執行役員会で共有され、必要に応じて経営執行会議・取締役会に付議・上程し、各業務執行部門の事業活動に反映しています。



サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)の2030年目標と進捗

当社グループは、2030年に向けた経営ビジョン「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」の実現や、持続可能な開発目標(SDGs)が目指す世界への貢献等を見据えた上で、「ライオングループ サステナビリティ重要課題と2030年目標」を設定しています。サステナビリティ重要課題は、当社グループが優位性を持つ事業領域での価値創造と、企業の社会的責任を果たしていく道筋として、13項目を特定しています。そのうち、「健康な生活習慣づくり」と「サステナブルな地球環境への取組み推進」は、当社が経営資源を投下して競争優位を確保する課題であり、最重要課題として位置づけています。

2030年目標では、より高い到達レベルでの目標を目指し、目標達成の定量的な評価ができる指標を設定しています。なお、新型コロナウイルスの感染拡大など社会環境の変化を踏まえ、2021年および2025年に指標・目標の見直しを、2024年に一部の算出方法を見直しました。

今後も当社グループは、サステナビリティを経営戦略に取り込む統合思考で、サステナブルな社会への貢献とさらなる事業成長を目指します。

サステナビリティ重要課題の2030年目標と進捗

重要課題	目標(2030年)	指標の進捗 (2025年実績)
E(環境) 最重要課題 ① サステナブルな地球環境への取組み推進 	事業所活動におけるCO ₂ 排出量の削減を目指します。	• 36%削減(2017年比) (カーボンクレジット購入分を控除した数値。 控除しない場合は27%削減)
	ライフサイクルにおけるCO ₂ 排出量の削減を目指します。	• 11%削減(2017年比)
	自社の排出量を上回るCO ₂ 削減により、社会におけるカーボンネガティブを目指します。	• アクションプランを策定し効果検証予定
	3R(Reduce〈削減〉、Reuse〈再利用〉、Recycle〈再資源化〉)とRenewable(持続可能な資源の活用)を積極的に推進します。	• 石化由来のプラスチック使用率⇒97%(国内) 包装・容器のサステナブル材料使用率2.9%
	ライフサイクルにおける水使用量の削減を目指します。	• 24%削減(2017年比)
S(社会) 最重要課題 ② 健康な生活習慣づくり 	すべての人が必要な時に、いつでも、オーラルヘルスケアを行える機会を提供し、誰もが健康でいられるよう、オーラルヘルスケアの習慣化を目指します。	健康な生活習慣づくりに貢献する製品・サービス、および情報を提供した人数 ⇒オーラルヘルスケア 4.0億人* *実態調査より算出
	日常生活のあらゆるシーンの中で、菌・ウイルスの体内侵入を防ぎ、誰もが健康でいられるよう、清潔・衛生行動の習慣化を目指します。	健康な生活習慣づくりに貢献する製品・サービス、および情報を提供した人数 ⇒清潔・衛生3.2億人* *2024年実績より、アジアの事業状況をふまえて身体・食の安全等に活動領域を広げた新たな方法で算出
S(社会) ③ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進 * 	多様な価値観、思考、属性を持つ人材を登用することで、新たな価値創出を可能とする組織づくりを目指します。	• 管理職に占める女性の割合⇒28.3%

重要課題	目標(2030年)	指標の進捗 (2025年実績)
S(社会) ④ > ワークライフエンリッチメントの推進 ＊ 	従業員一人ひとりが、ワークとライフの相乗作用により、人生のWILLを実現できる環境を目指します。	「ライフスタイルに合わせて自律的に働く場所や時間を選んでいる」と思う従業員の割合 「職場はお互いの仕事以外の生活を尊重する雰囲気がある」と思う従業員の割合⇒2設問平均72.5%(国内)
S(社会) ⑤ > 人材開発 ＊ 	経営戦略の実現へ一人ひとりが貢献するために、従業員の課題解決力の向上を目指します。	- 多面行動能力測定における4つのコンピテンシー(課題設定、解決意向、疑う力、論理的思考)に関するスコア*の平均値⇒管理職 73、非管理職 63(国内) *外部企業が提供する上司・部下・同僚による多面評価手法を用いた0～100で示される発揮能力スコア
S(社会) ⑥ > 従業員の健康増進 ＊ 	従業員の心と身体のヘルスケアを支えることで、人材力の強化につなげ、持続可能な企業成長を目指します。	- 国内: 歯科健診の受診率⇒94% - 海外: 各社予防歯科施策への参加率⇒47.6% - アブセンティズム⇒1.4%
S(社会) ⑦ > 労働安全管理体制の充実 	労働安全衛生に関する法令遵守及び安全意識の向上が徹底され、従業員及び事業所内で働く外部パートナーが、安全、安心に働けることを目指します。	- 研修受講⇒計画に対して100%実施 - 重大事故・災害件数⇒ゼロ
S(社会) ⑧ > 人権の尊重 	「ライオン人権方針」に沿って、事業活動によって影響を受けるすべてのステークホルダーの人権を尊重します。	人権デューディリジェンス対応実施率 ライオングループ: 100% サプライヤー : 95%

重要課題	目標(2030年)	指標の進捗 (2025年実績)
S(社会) ⑨ > 責任あるサプライチェーン マネジメントの構築 	「持続可能な原材料調達方針」や「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン」に沿って、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	- 認証品調達率 国内: 認証紙・パルプ:88%(アイテム比率) 認証パーム油・パーム核油誘導体:99%(主要原料ベース) ライオングループ: 認証紙・パルプ:58%(アイテム比率) 認証パーム油・パーム核油誘導体:59%(主要原料ベース) - 森林破壊ゼロ支持サプライヤー率 国内:55% ライオングループ:47%
S(社会) ⑩ > 顧客の満足と信頼の追求 	製品・サービスの価値向上や顧客対応品質の向上を通じて、生活者視点に立った事業活動の推進を強化します。	- ISO10002内部監査実施(6月) - お客様からいただいた声を集積、分析し、価値ある情報にするため相談対応システム更新(3月) - お客様や応対者にタイムリーに情報を提供するためQ&A管理ツール更新(12月)
G(ガバナンス) ⑪ > リスクマネジメントの 推進 	リスクの特定ならびに迅速かつ適切に対処する網羅的・総括的なリスクマネジメント体制を構築し、企業の持続的な成長を目指します。	1回開示
G(ガバナンス) ⑫ > コンプライアンスの強化 	コンプライアンス意識定着に向けた実効性のある活動を強化し、社会から信頼される企業を目指します。	- 研修受講⇒計画に対して100%実施 - 重大なコンプライアンス違反件数⇒ゼロ
G(ガバナンス) ⑬ > ガバナンスの強化 	健全、公正、かつ透明で実効性の高いガバナンス体制を構築し、持続的な企業価値向上を目指します。	1回開示 2024年と同等以上、評価向上に向けて活動継続

* 人的資本に関する4項目は、2025年実績より目標・指標を見直して推進しています。

主要非財務データ

サステナビリティ・重要課題と2030年目標・指標 / 2025年実績・施策
 (2025年サステナビリティ重要課題(※)について、本報告書掲載の2025年実績を掲載しました。*号も、さらなる取組を進めています。)

重要課題	2025年実績	2025年目標	2025年指標	2025年施策
環境	CO2排出量(Scope 1+2) 1,000トン(前年比-10%)	1,000トン	1,000トン	CO2削減目標を設定し、削減活動を実施しています。
社会	ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進*	ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進*	ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進*	ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進*
ガバナンス	コンプライアンスの強化	コンプライアンスの強化	コンプライアンスの強化	コンプライアンスの強化

サステナビリティ重要課題と2030年目標・
 指標 / 2025年実績・施策 PDF (1.2MB)

SDGsに貢献するライオンのサステナビリティ重要課題

	サステナビリティ重要課題	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
E	サステナブルな地球環境への取組み推進			●				●		●			●	●				●
	健康な生活習慣づくり			●	●			●				●						●
	ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進*					●				●								
	ワークライフエンリッチメントの推進*			●					●									
	人材開発*					●				●		●						
S	従業員の健康増進*			●					●									●
	労働安全管理体制の充実			●					●									
	人権の尊重					●			●		●						●	●
	責任あるサプライチェーンマネジメントの構築					●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●
	顧客の満足と信頼の追求			●							●							
	リスクマネジメントの推進								●				●					
G	コンプライアンスの強化					●					●							●
	ガバナンスの強化																	●

* 人的資本に関する4項目は、2025年実績より目標・指標を見直して推進しています。

持続可能な開発目標(SDGs)への貢献

SDGsは2030年までに持続可能な世界を実現するために国連によって定められた国際社会共通の目標です。ライオングループは、商品・サービスを通じて、主にSDGsの目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」の達成に貢献していくとともに、中長期経営戦略フレーム「Vision2030」の実現に向けた取り組みを通じて、SDGsが目指す持続可能な社会の実現に貢献していきます。



・オーラルケア習慣の普及活動
 ・清潔衛生習慣の普及活動 等

＞ ライオンのSDGsへの取り組み紹介



重要課題特定のプロセス/歴史/イニシアチブ・外部評価



重要課題(マテリアリティ)特定のプロセス



イニシアチブ・外部評価



ステークホルダー・エンゲージメント



ライオンの歴史(サステナビリティ)



ESGデータ・第三者検証



社会貢献活動

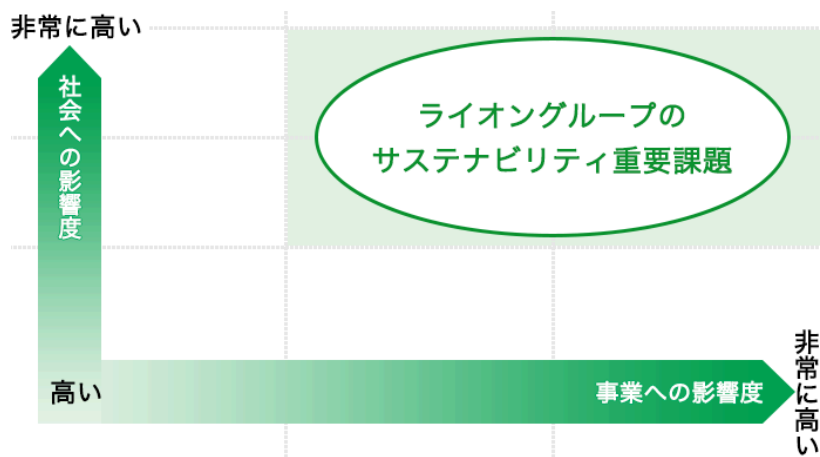


重要課題(マテリアリティ)特定のプロセス

重要課題の特定

当社は2020年に、経営ビジョンの実現やSDGsへの貢献等、2030年時点の社会像からバックキャストして2030年までに取り組むべき「サステナビリティ重要課題」を、以下のステップを通じて再確認しました。ライオングループ サステナビリティ重要課題は、広く、事業や地球環境、社会のサステナビリティを考慮して「人と地球の健やかな未来」の実現に資する、当社事業と社会の双方に重要な課題です。特定にあたっては、バリューチェーン全体およびステークホルダーを網羅的に勘案し、リスクと機会の両面でとらえています。その中で特に「健康な生活習慣づくり」と「サステナブルな地球環境への取組み推進」は、経営資源を投下して競争優位を確保する課題であり、最重要課題として取り組むものと位置づけています。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大など外部環境の変化を踏まえ、2021年及び2025年に指標・目標の見直しを行っています。

サステナビリティ重要課題の考え方



サステナビリティ重要課題の特定ステップ



Step 3

重要課題の妥当性を検討

第三者機関の視点をふまえながら各項目の妥当性を検討し、見直しを図りました。

Step 4

執行役員会・取締役会にて承認

特定したサステナビリティ重要課題は、執行役員会・取締役会にて承認されました。

バリューチェーンにおけるサステナビリティ重要課題のリスクと機会

バリューチェーン全体及びステークホルダーを網羅的に勘案し、リスクと機会に重要課題を層別しました。

バリューチェーン段階		原材料調達 	当社での活動 	消費者による使用 	消費者による廃棄 
主なステークホルダー		取引先		お客様	
		従業員			
		株主・投資家			
		地域社会			
サステナビリティ重要課題	機会	● 健康な生活習慣づくり			
		● ダイバーシティ、エクイティ & インクルージョンの推進			
		● ワークライフエンリッチメントの推進			
	リスク	● 顧客の満足と信頼の追求			
		● サステナブルな地球環境への取り組み推進			
		● 労働安全管理体制の充実			
		● 人権の尊重			
		● 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築			
		● リスクマネジメントの推進			
		● コンプライアンスの強化			
		● ガバナンスの強化			

＞ サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）の2030年目標および進捗状況は、こちらからご確認いただけます。

サステナブルな地球環境への取り組み推進

- ✓ 基本的な考え方
- ✓ ライオンの環境への想い
- ✓ 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」
- ✓ 環境負荷低減に向けた取り組み

基本的な考え方

石けんとハミガキから始まったライオンは、「事業を通じて社会に貢献する」という創業の精神を受け継ぎ、人々の心と身体のヘルスケアに加え、環境保全においても「より良い習慣づくり」を進めてきました。当社グループは、生活者の健康や暮らしを支える地球環境を守ることを重要な使命ととらえ、環境方針および長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」を定めるとともに、2030年のサステナビリティ最重要課題「サステナブルな地球環境への取り組み推進」にて、「脱炭素社会」「資源循環型社会」の実現に取り組んでいます。

ライオンの環境への想い

企業スローガン「今日を愛する。」の考えに沿って、「一人ひとりの今日という一日」に事業活動だけでなく、製品を通じて、環境負荷低減を目指すというライオンの姿勢を「環境への想い」に込めています。

ライオンの環境への想い

心地よく暮らすことが、いつのまにか、エコにつながっている。
暮らしのひとつひとつをエコにすることが、地球のエコにつながっている。
それが、ライオンの考えるエコの在り方。
だから私たちは、暮らしにとけこむエコ製品をつくりつづけています。

たとえば、CO₂を抑える再生可能な植物由来のモノづくり。
たとえば、水環境を守り、水の使用量を抑えるモノづくり。

小さなエコが一日一日積みかさなって、あなたの明日がエコになっていく。
毎日つづけられるエコを。
ライオンは、あなたに、地球に、約束します。

> 「暮らし、まいにち、エコ。」パンフレット  (PDF:5.28MB)

長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」

当社グループは、パリ協定やSDGs等の世界目標の達成に事業を通じて貢献すべく、2019年に長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」を策定し、脱炭素、プラスチックと水資源に関する課題解決に取り組んでいます。2022年には日本を含む世界各国が目標引き上げに動く中、当社グループも2050年カーボンニュートラルの実現に貢献するため目標を更新しました。生活者とともに作る「エコの習慣化」の推進、すなわち『地球にやさしいライフスタイル』を提供し、暮らしをムリなくサステナブルにしていくことで、「脱炭素社会」「資源循環型社会」の実現に貢献します。

LION Eco Challenge 2050

「人と地球の健やかな未来に向けて」

脱炭素社会の実現に向けて

CO₂ チャレンジ

2050年までに事業所活動における
CO₂排出量ゼロを目指します。

指標(2030年目標): **55%削減**
(2017年比、絶対量)

2050年までにライフサイクルにおける
CO₂排出量半減を目指します。

指標(2030年目標): **30%削減**
(2017年比、絶対量)

2050年までに
カーボンネガティブを目指します。

指標(2030年目標): **自社の排出量を上回る
CO₂削減貢献(国内)**

資源循環型社会の実現に向けて

プラスチック チャレンジ

2050年までに循環し続ける
プラスチックの利用を目指します。

指標(2030年目標):
3R(Reduce(削減)、Reuse(再利用)、Recycle
(再資源化))、およびRenewable(持続可能な
資源の活用)の推進

石化由来の
プラスチック使用率 **70%以下**

ウォーター チャレンジ

2050年までに
持続可能な水使用を目指します。
ライフサイクルにおける水使用量

指標(2030年目標): **30%削減**
(2017年比、売上高原単位)

～地球にやさしいライフスタイルの実現～

事業活動のカーボンゼロ (Scope1、2)

省エネ

- ・インターナルカーボンプライシングによる環境設備投資の拡大

再エネ

- ・全工場・オフィス再エネ100%
(国内2024年、海外2030年)

物流

- ・協働スマート物流
- ・ロジスティクスEDI

資源循環

- ・3R+Renewableの推進
- ・リサイクル社会実装への貢献
- ・詰め替え習慣づくり
- ・捨てない習慣づくり

循環し続ける
プラスチック利用
(Scope3)

生活者とともに
「エコの習慣化」

社会の環境負荷低減・
カーボンネガティブ
(Scope4)

エコで豊かな暮らしの提案

- ・サステナブルファッション(衣類長持ち)
- ・スマートハウス(快適なお家時間)
- ・脱炭素交通(エコカー普及)

社会共創

- ・生活者行動変容／習慣化の啓発
(産・官・民連携エコシステム)
- ・森林吸収／植林

製品ライフサイクルの
カーボンニュートラル
(Scope3)

調達

- ・サプライヤー
エンゲージメント
- ・認証品の拡大
- ・カーボンリサイクル

エシカル製品

- ・環境配慮設計
- ・節水・節電の
習慣づくり

DX

- ・LCA／Scope3高度化
- ・ユーザビリティ

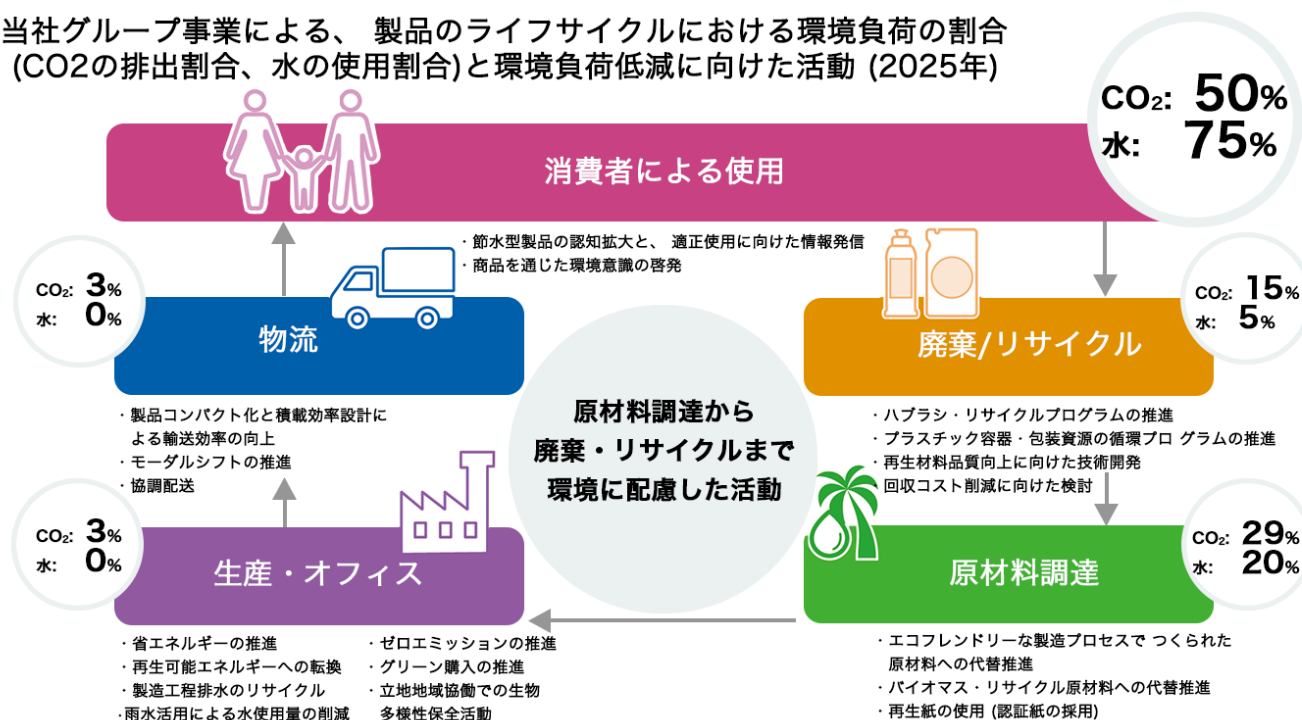
2030年に向けては、脱炭素、プラスチック、水のそれぞれに目標・指標を設定し、取り組みを推進することで、「脱炭素社会」「資源循環型社会」の実現に貢献します。

環境負荷低減に向けた取り組み

当社グループは、生産者責任の一環として、製品の「原材料調達」から「消費者による使用」「廃棄／リサイクル」までのライフサイクルの各ステージで、脱炭素、プラスチックと水循環に関する問題解決にチャレンジしています。

特に、「消費者の使用」のステージでは、家庭での洗濯などには、電力や水が使用されるため、当社製品の使用によるCO₂排出量と水使用量の割合が最も高くなっています。これからも、環境フレンドリー製品・サービスの提供と「エコの習慣化」の促進により、ご家庭の使用場面での環境負荷削減を推進します。

当社グループ事業による、製品のライフサイクルにおける環境負荷の割合
(CO₂の排出割合、水の使用割合)と環境負荷低減に向けた活動 (2025年)



環境方針／マネジメント

- ✓ 環境方針
- ✓ 環境マネジメントシステム
- ✓ 環境管理体制
- ✓ 法規制の遵守

環境方針

当社グループは、「経済発展と環境保全が両立する持続可能な社会を創造していくため、自主的、積極的に行動する」という「**ライオン企業行動憲章**」の精神に基づいた「**環境方針**」を定めています。

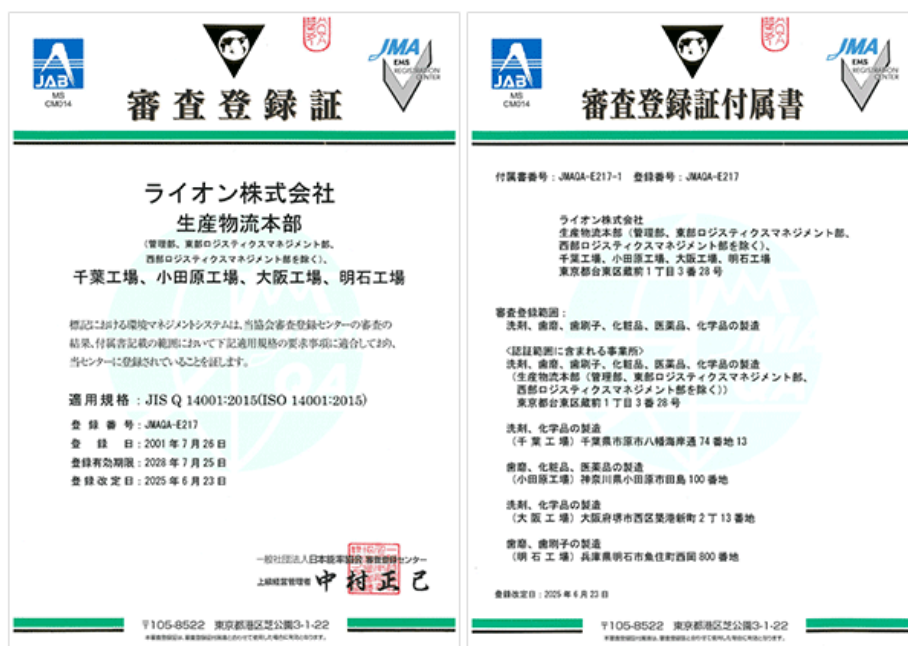
環境マネジメントシステム

当社グループの環境マネジメントシステムは、事業活動、製品やサービスが環境におよぼす影響を把握、評価、是正するとともに、環境保全活動を継続的に改善することを目的としています。また、環境マネジメント及び活動報告については、グローバルな環境対応を目指して体制の充実を図っており、当社グループの環境データをホームページにて公開しています。

> 環境データ

ISO14001認証取得状況

当社の生産系事業所は、2001年7月に一括でISO14001*の認証を取得しました。それ以降、認証を継続取得しています。国内及び海外の生産系グループ会社も含めて、ISO14001に準じた運用を実践し、管理システムと環境保全活動を継続的に進めています。



ISO14001登録証

* ISO14001 環境マネジメントシステムに関する国際規格

> ISO14001認証取得一覧 [PDF](#)

環境管理体制

地球環境への負荷を低減しながら、事業を成長させるため、サステナビリティ推進担当役員が議長を務める「サステナビリティ推進協議会」傘下に設置したE分科会の責任者（執行役員）を執行の責任者として、関係部門で構成されるメンバーで、環境問題への対応等の方針の審議を行い、推進状況のモニタリングを実施しています。

経営層によるトップ環境監査

当社及び国内グループ会社の生産系事業所に対し、1999年から役員による環境監査を行っています。2009年からは工場の特性に応じた監査計画を策定し、3年に1回定期的に監査を実施しています。2025年は、サステナビリティ担当役員が、ライオンケミカル（株）オレオケミカル事業所及び小田原工場でトップ環境監査を実施しました。

トップ環境監査の様子



オレオケミカル事業所



小田原工場

内部環境監査

内部環境監査員の教育を受けた内部環境監査員が、定期的にISO14001の要求事項の適合性を確認する「内部環境監査」を実施し、指摘された箇所を当該部所が責任を持って改善しています。また事業所長や工場長による「マネジメントレビュー」を実施し、組織のマネジメントシステムの適切性、妥当性及び有効性が継続的に改善されていることを確認しています。

法規制の遵守

当社は、環境に関わる法令・条例等の規制の遵守はもちろん、独自の管理基準を定め、管理を徹底しています。

廃棄物の適正処理

廃棄物は、事業所の廃棄物排出責任者が当社の「廃棄物管理規程」に定めた委託先選定基準に適合する廃棄物処理業者に委託し、処理しています。さらに、廃棄物処理委託先の現地確認を定期的を実施し、委託先としての継続適格性を判断しています。

PCB廃棄物の適正な保管と処理

ポリ塩化ビフェニル（PCB）は、燃えにくく電気絶縁性に優れていたため、電気機器の絶縁油として広く使われていましたが、現在は製造・輸入ともに禁止されています。当社は、PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法に基づき、保有していたPCB含有機器について、処理を委託するまでの間は厳重に保管し順次処理を進め、2022年に処理を完了しました。

排水の管理

日常的な排水の管理は、排水設備の安定化と工程管理の維持強化及び緊急時の対応訓練等、法令・条例で定められた水質基準だけでなく、市町村との個別協定の締結や自主基準の設定を各事業所で行い、排水管理を徹底しています。

フロン類の適正管理

フロン排出抑制法への対応は、法律に基づき対象設備の把握、簡易点検や定期点検、記録の作成、漏洩量の算定などを実施しています。2025年度は、届出を要するフロン類の漏洩に該当する事業所はありませんでした。今後も漏洩防止に努めるとともに、設備更新時にノンフロンや低GWP（地球温暖化係数）設備の導入を進めます。

環境に関わる法規制の改正に伴う対応

省エネ法^{*1}及び温対法^{*2}、化管法^{*3}、化審法^{*4}、廃掃法^{*5}、フロン排出抑制法^{*6}、土壤汚染対策法等の環境関連の法規制の改正への対応については、行政や工業会等から提供される情報を収集し、関連する部門に周知・徹底して対応を推進しています。なお、2025年においても罰金、科料等を処せられるような違反はありませんでした。

*1 省エネ法「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律」の略称

*2 温対法「地球温暖化対策の推進に関する法律」の略称

*3 化管法「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の略称

*4 化審法「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」の略称

*5 廃掃法「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の略称

*6 フロン排出抑制法「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」の略称

脱炭素社会の実現

考え方

産業革命以降、CO₂等の温室効果ガス排出量が増加し、地球温暖化が進行しています。地球温暖化に伴う気候変動により、集中豪雨や洪水などの自然災害の増加、食糧や水資源の減少、猛暑や感染症の発生等、人々の生活や生態系におよぼす悪影響が増大していくことが懸念されています。ライオングループでは、アブラヤシや紙・パルプ等の天然資源を用いた事業を行っているため、地球温暖化は大きなリスクと認識しています。

気候変動の進行の緩和や低炭素社会への移行に向け、2016年にパリ協定が発効し、世界共通の長期目標として地球の平均気温の上昇を2℃より十分下方に抑えること(2℃目標)と、さらに1.5℃までに抑えるよう努力することが掲げられています。当社はこのパリ協定を支持し、2019年6月に事業所活動におけるCO₂排出削減長期目標「2030年度までに2017年度比30%削減」、「2050年に排出量実質ゼロ」を設定しました。そして、2020年にSBT (Science Based Targets) 認定 (Well Below 2℃目標) を取得しました。

また、2019年5月に気候関連財務情報開示タスクフォース (Task Force on Climate-related Financial Disclosures:TCFD)」の提言への賛同も表明しています。

当社グループでは、2021年5月、日本政府による2030年温室効果ガス排出削減目標の26%削減から46%削減(対2013年)への引き上げ等の社会動向を鑑み、産業革命前からの気温上昇を1.5℃以内に抑える世界共通目標の実現に向け、LION Eco Challenge2050の事業所活動における2030年CO₂削減目標を30%削減(2017年比)から55%削減(2017年比)へと引き上げました。

また、本目標の達成を加速すべく、当社グループの購入電力すべてを2030年までに再生可能エネルギー由来の電力へと切り替えることを決定しました。さらに、脱炭素に向けた設備投資を加速するため、CO₂の排出量を自社の基準で仮想的に費用換算し、環境投資判断の参考とするインターナルカーボンプライシング(ICP)制度を導入しました。

当社グループでは、環境方針および LION Eco Challenge2050 に基づき、事業活動における温室効果ガスの削減に積極的に努めるとともに、環境配慮型商品・サービスの提供及び生活者と共につくる「エコの習慣化」を推進することにより、社会の温室効果ガス削減を通じて、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

＞ 戦略的投資とガバナンスの強化、ICP価格の引き上げによる、低炭素投資と意思決定を加速【統合レポート2026 p33】 

＞ 生活者とともにつくる「エコの習慣化」の推進【統合レポート2026 p34】 

全体像

当社グループは、原材料調達から消費者による廃棄までのすべての段階で、温室効果ガスの削減を進めています。今後も脱炭素社会の実現に向けて取り組みを推進していきます。

脱炭素社会の実現に向けた活動

	原材料調達 	当社での活動 	消費者による使用 	消費者による廃棄 
脱炭素社会の実現に向けた活動 	植物由来原料及び容器材料の使用による石油資源の代替促進 ➡ 関連情報	工場 - 生産プロセスの見直し、設備更新時における省エネ機器導入、商品のコンパクト化等によるエネルギー効率の向上、再生可能エネルギーの活用 ➡ 関連情報 オフィス・事務所 - 事務・営業部門、研究・技術開発部門等、全社による省エネ活動 ➡ 関連情報 - 購入電力の再エネ化 ➡ 関連情報 出荷後の流通 - 商品輸送時のモーダルシフト化率向上 ➡ 関連情報 - 積載率向上等による物流効率の向上 ➡ 関連情報	- 商品を通じた環境意識の啓発（エコ基準を達成した商品に環境ラベルを付与） ➡ 関連情報 - 節電型商品による商品使用時の電力使用量の削減（洗濯時のすすぎ回数の削減） ➡ 関連情報	- 植物原料の使用による石油資源の代替推進 3Rの推進（つめかえ、内容物の濃縮コンパクト化、再生PET・薄肉化等の容器の開発） ➡ 関連情報

取り組み



事業所活動におけるCO₂排出量削減



事業所活動におけるCO₂排出量削減

✓ 省エネルギー活動の推進 ✓ 再生可能エネルギーの活用 ✓ カーボンオフセット

省エネルギー活動の推進

2021年、ライオングループは、事業所活動におけるCO₂排出量を2030年までに30%削減（2017年比）から55%削減（2017年比）へと目標を引き上げました。

まずは国内外の工場、オフィス等の様々な事業所で徹底的な省エネルギー活動によって、エネルギー効率の向上を図り、CO₂削減に取り組んでいます。

特にエネルギー使用量の大きい生産部門においては、生産量原単位で毎年1%以上削減することを目標とし、生産効率化、高効率機器の導入、蒸気やエア等のユーティリティのロス削減、熱回収等の省エネ活動を通じて、CO₂削減を推進しています。オフィスにおいても、各地のオフィスで「節電プロジェクト」を結成し、省エネ活動に取り組んでいます。

工場や厚生棟等の建屋を新設する場合にも、エネルギー効率を向上させる設備仕様とすることで、エネルギー使用量の削減に努めています。将来的には全工場のエネルギー消費状況を可視化、把握することにより、省エネ余地を見出し、さらなる省エネにつなげます。今後も、さらなるCO₂排出量削減に向けて、施策を推進していきます。



ライオンケミカル（株）
オレオケミカル事業所（坂出）の新生棟



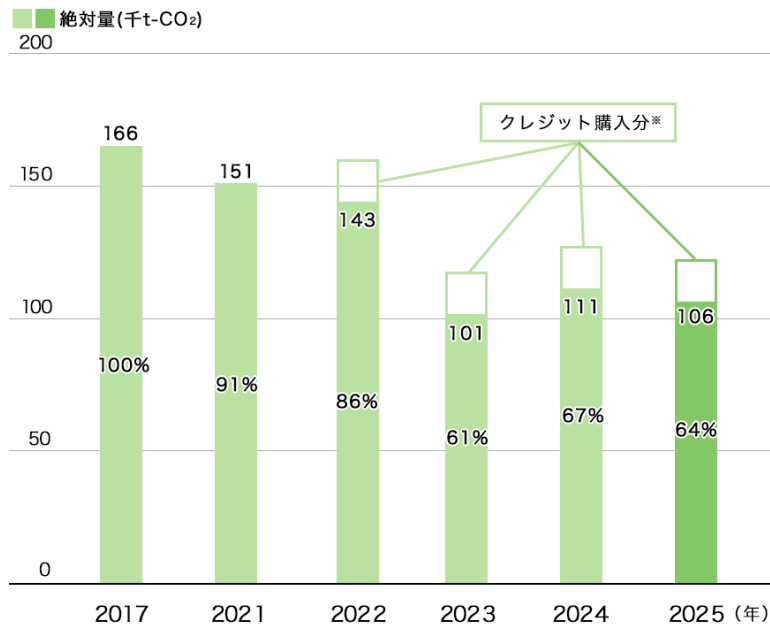
LCCOC新厚生棟の
省エネルギー性能表示

インターナルカーボンプライシング(ICP)制度の導入

当社グループは、CO₂排出量削減を促進するため、2022年からICP制度を国内で導入^{*}しています。当初、ICPの炭素価格は、6,100円/t-CO₂としていましたが、2025年5月に外部炭素価格を考慮して、設備投資に適用する価格を13,300円/t-CO₂へ引き上げました。これにより、省エネルギーやCO₂排出量が少ない設備導入を加速していきます。

^{*} ライオンニュースリリース:「インターナルカーボンプライシング制度」を導入

事業所活動におけるCO₂排出量の推移（国内+海外）



※カーボンクレジット購入分を控除した数値。
 控除しない場合は2022年：159千トン、96%、2023年：117千トン、71%、
 2024年：126千トン、76%、2025年：121千トン、73%

＜ ESGデータはこちら

再生可能エネルギーの活用

当社グループでは、CO₂削減目標達成のために徹底的な省エネ活動を進めた上で、CO₂削減量の不足分については、自家消費用太陽光発電設備の導入や購入電力の再生可能エネルギー化が必要と考えています。

自家消費用太陽光発電設備の導入

自家消費用太陽光発電設備については、平井事業所に加え2021年には新たにライオンケミカル(株)に新規導入しました。
 また、海外では2021年からタイライオンにて増設された新乾燥塔の建屋に太陽光発電設備を新設して以降、太陽光発電設備を増設しています。2024年には ライオンコリアおよびサザンライオン(マレーシア)においても新たに太陽光発電設備を設置しました。
 今後も、再エネ電力の調達量増加に向け、太陽光発電量の増加に取り組んでいきます。



平井事業所の太陽光発電設備



ライオンケミカル(株)の太陽光発電設備



タイライオン新乾燥塔建屋の外観



サザンライオン倉庫の外観

購入電力の再生可能エネルギー化

当社は、電力会社との電力契約を再生可能エネルギー100%の電力メニュー（再エネメニュー）に切り替えることにより、国内の全工場は2023年1月から、本社（台東区蔵前）は同年4月から使用する電力を再生可能エネルギー化しています（一部、Jクレジットを活用）。また、国内各地のオフィスについては、再エネメニュー又はグリーン電力証書を順次活用し、2023年5月に全オフィスで使用する電力の再生可能エネルギー化を達成しています。

海外の事業所においても、順次再生可能エネルギー由来電力への切り替えを推進し、2030年には事業所の購入電力の再エネ化比率100%を目指します。具体的には、サザンライオン（マレーシア）では再エネ電力証書 m-REC (Malaysia Renewable Energy Certificate)、青島ライオン（中国）では再エネ電力証書 GEC (Green Electricity Certificate) を活用し、再生可能エネルギーの導入を進めています。

カーボンオフセット

タイライオンは、カーボンオフセットクレジットであるT-VER^{*}（バイオマス発電由来）を購入し、2024年に続き2025年もタイライオンの購入電力量に相当する分のCO₂をオフセットしました。

^{*} T-VER はタイの公的機関が運営するクレジット制度です。

製品のライフサイクルにおけるCO₂排出量削減

- ✓ 製品のライフサイクルにおけるCO₂排出量
- ✓ CO₂排出量削減に向けた取り組み

製品のライフサイクルにおけるCO₂排出量

ライオングループは、持続可能な地球環境の実現を目指し、2019年に策定した長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」のもと、製品のライフサイクルにおけるCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

2013年より、サプライチェーン全体のCO₂排出量の算出を開始し、原材料調達から、生産、輸送、消費者による使用、消費者による廃棄までの製品のライフサイクルにおけるCO₂排出量を把握しています。2025年のCO₂排出量は3,789トンCO₂でした。

製品のライフサイクルにおけるCO₂排出量の割合*



* 対象範囲：ライオン及び国内外連結子会社

対象期間：2025年1月～2025年12月

CO₂排出量削減に向けた取り組み

消費者による製品使用時のCO₂排出量削減

CO₂排出量において、最も割合が高いのは消費者による使用段階で、製品のライフサイクルにおける割合は50%でした。これは、お湯を使う時、電気・ガス・灯油などのエネルギーを使い、このエネルギーを作る際にCO₂が排出されること、また、水を使う時にも、取水・浄水処理・ポンプによる送水・下水の処理のため電力が使われることに起因します。

当社グループは、節水型の様々な環境フレンドリー製品・サービスの提供と「エコの習慣化」促進により、消費者の方々とともに製品のライフサイクルにおけるCO₂排出量の削減にチャレンジしていきます。

＞ 消費者による製品使用時の水使用量削減

輸送における取り組み

当社は、以下の取り組みを通して、CO₂排出量・エネルギー消費原単位の削減に取り組んでいます。

- 輸送用トラックの大型化
- 積載率向上等の物流効率化
- 工場直送の拡大を通じた輸配送距離の短縮
- トラック輸送から鉄道や船舶輸送に変更するモーダルシフト

当社の2025年のモーダルシフト化率は、社内輸送において9.6%（2024年：9.2%）と0.4%増加しました。また、輸送用トラックの大型化等の物流効率化の取り組みにより、物流におけるCO₂排出量は17,046トンで前年比10.2%減少しました。エネルギー消費量原単位では前年比9.3%減少、5年平均で5.3%減少し、目標である「年平均1%以上削減」を達成しました。今後も、年平均1%以上削減を目標に、継続して取り組みを推進します。

エコレールマークの認定

「**エコレールマーク制度**」は、製品輸送時に貨物鉄道を一定以上の割合で利用している企業または製品が認定を受けられる、国土交通省により設けられた仕組みです。お客様にとって見えにくい流通過程において、企業や製品が地球に優しい交通手段を使用したことを識別しやすくするために「エコレールマーク」が付けられます。当社は2025年にエコレールマークの認定を更新し、公益社団法人鉄道貨物協会が発行するエコレールマークパンフレットや国土交通省のホームページで紹介されています。

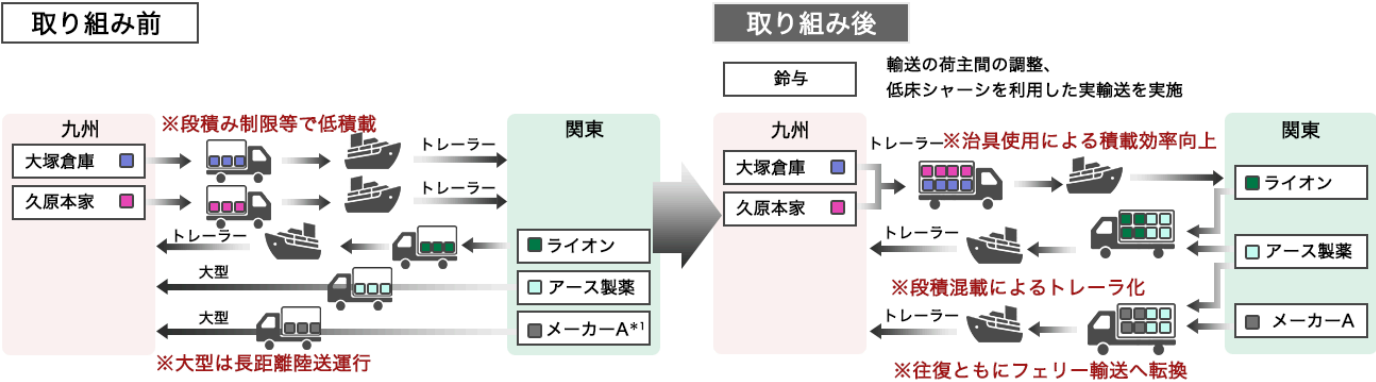


また、以下の4商品が認定されています（2026年6月時点）。

- 1. ビトイーンライオン
- 2. クリニカアドバンテージ ハブラシ
- 3. クリニカPRO ハミガキ
- 4. NONIO ハブラシ

輸送モジュールの標準化を通じた複数荷主混載輸送の拡大

物流2024年問題やサステナビリティなど社会的課題への対応として、輸送モジュールの標準化を通じ、船舶トレーラーを活用した複数荷主混載輸送のモデルケースを構築。従前の各社単独輸送による非効率に対し、各社がスケジュールや荷量を調整し、業界を超えた複数荷主による共同混載ラウンド輸送を実現しました。本取組による全体効果としてCO₂削減：年間31.2トン（19.0%削減）、ドライバー拘束時間削減：年間250時間（15.4%削減）、車両台数削減：年間39台（28.9%削減）に繋がりました。この先駆的な取組みが評価され、令和6年グリーン物流パートナーシップ会議にて国土交通大臣賞を3年連続で共同受賞しました。



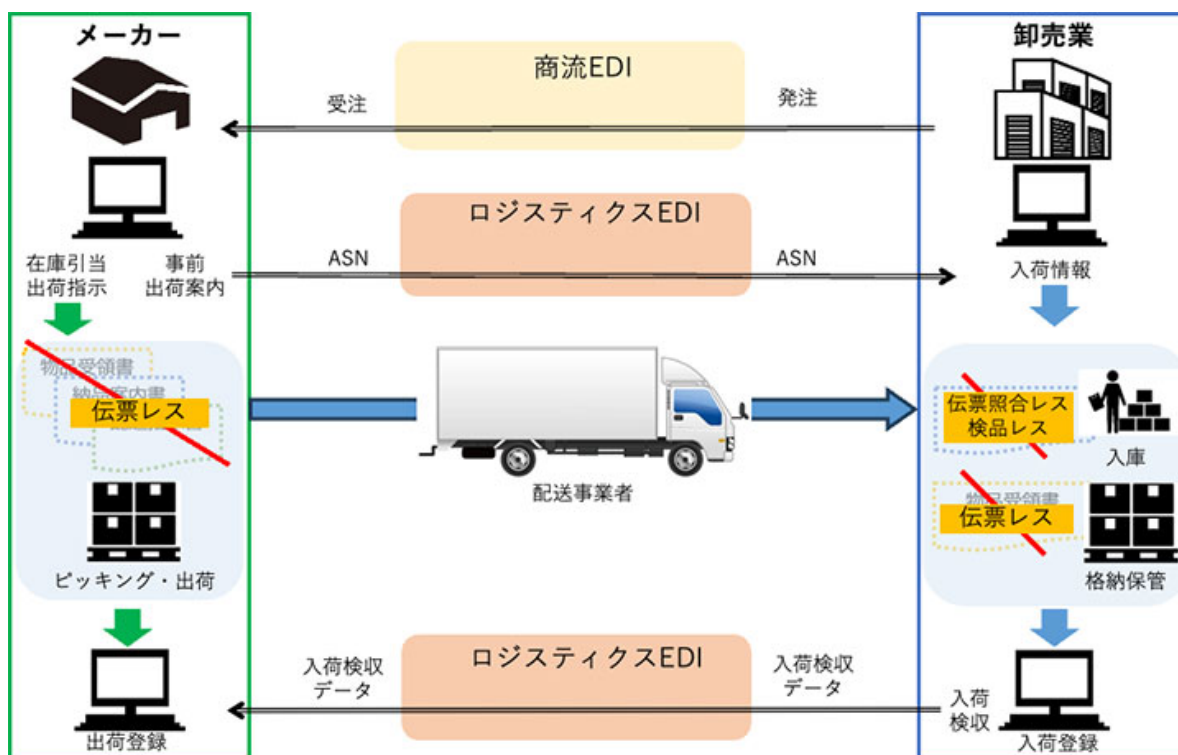
業界物流情報基盤（ロジスティクスEDI*）を活用した日用品業界の物流改革

物流2024年問題の対処に向けて、個社対応では限界があるため、日用品業界全体の物流効率化が必要です。事前出荷情報（ASN）を活用した入出庫作業の効率化、ペーパーレス、検品レスの実装に向け、当社は日用品物流標準化ワーキンググループ内において構想提案、実証実験参画を通じた実装モデルブラッシュアップ等により業界全体を牽引する役割を果たしています。また、大手卸店と連携強化することで、ASN送信及び出荷伝票レスの先行導入を行い、出庫事務作業工数30%削減、入庫現場作業工数50%削減効果を確認し業界全体のサプライチェーン最適化に向け、労働環境改善、SDGs観点における業界先駆モデルの事例となりました。そのことから経済産業省と製・配・販連携協議会が主催の「サプライチェーンイノベーション大賞2024」で大賞を受賞しました。



* Electronic Data Interchangeの略。「電子データ交換」の意味。

＞ 事業所活動におけるCO₂排出量削減



資源循環型社会の実現

考え方

ライオングループは、プラスチック問題や水資源不足問題などの地球規模の環境課題を事業の持続的な成長に影響を及ぼす重要なリスクとして認識しています。これらの課題に対し、資源循環型社会の実現に貢献する取り組みを戦略的に推進し、環境負荷の低減と中長期的な企業価値向上の両立を目指しています。

プラスチック問題への取り組み

プラスチックは便利で多用途な素材である一方、過剰な使用や不適切な廃棄により、ライフサイクル全体で発生するCO₂排出を通じた地球温暖化への寄与や、海洋プラスチックごみによる生態系への影響など、様々な環境問題と密接に関連しています。

当社グループは、プラスチックを素材とした製品を製造・販売する企業として、果たすべき責任は大きいと認識しています。この問題に対し、「**ライオングループ プラスチック環境宣言**」を制定し、国内外で資源循環型社会の実現に向けた目標を設定しています。これらに基づき、プラスチックの削減・再利用・リサイクル・再資源化に継続的に取り組んでいます。

水資源の保全に向けた取り組み

水は生命を支える最も重要な資源の一つです。日本においても、地球温暖化に伴う渇水リスクの高まりや上下水インフラの老朽化による水供給リスクが懸念されています*。

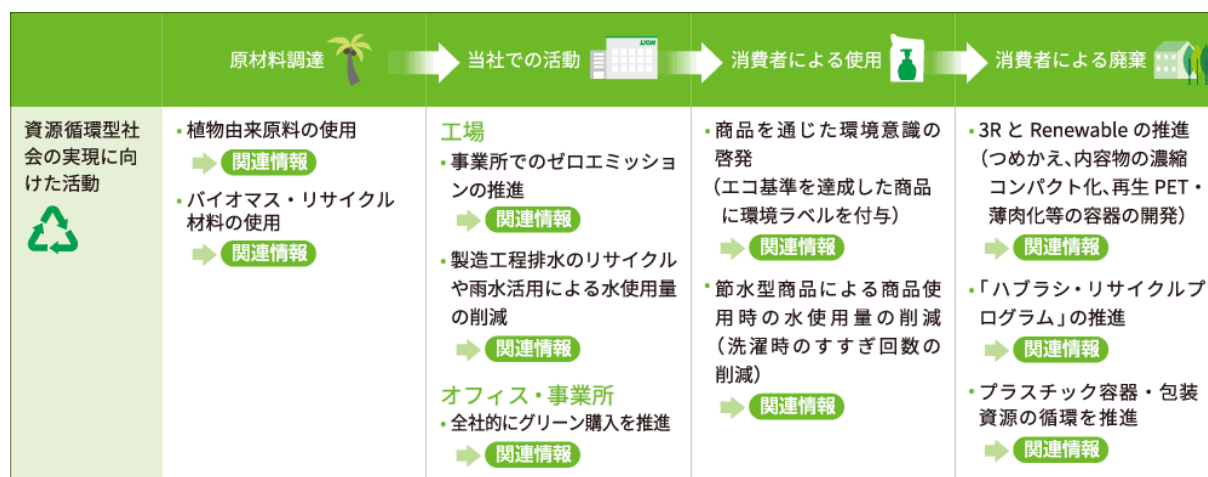
当社グループは、こうした状況を踏まえ、製品のライフサイクル全体での水使用量削減を重視した取り組みを推進しています。事業活動における水使用量の削減に加え、消費者の水使用量削減に貢献できる製品を、新しい生活習慣とともに提案・提供することで、企業としての責任を果たしていきたいと考えています。当社は、泡切れがよく、すすぎ1回でも使用できる洗濯用液体高濃度洗剤『トップ NANOX（現・NANOX one（ナノックス ワン）、トップ スーパー NANOX 自動投入洗濯機専用）』を2010年より継続して販売してきました。2020年からは、当社の洗濯用液体洗剤すべてをすすぎ1回でご使用いただけるようにしました。さらに2023年2月には、すすぎ0回で使用できる洗濯用液体洗剤「アクロン smart care」を発売し、水使用量のさらなる削減に取り組んでいます。今後も当社グループは、水資源の保全に資する取り組みを継続し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

* 出典：内閣官房水循環政策本部事務局「令和6年度版 水循環白書」

全体像

当社グループは、原材料調達から消費者による廃棄までのすべての段階で、プラスチックや水の循環利用・有効活用を進めています。今後も資源循環型社会の実現に向けた取り組みを推進していきます。

資源循環型社会の実現に向けての活動



取り組み



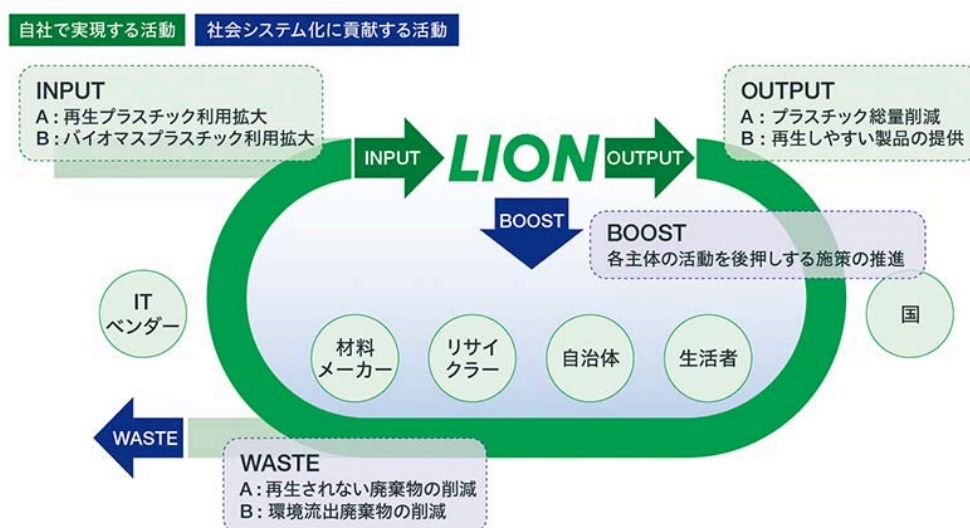
持続可能なプラスチック資源の活用

- ✓ 資源循環型社会の実現に向けて
- ✓ 当社グループ事業で使用する材料に係ること (INPUT)
- ✓ 当社グループ事業で産みだす製品・排出物に係ること (OUTPUT)
- ✓ 廃棄物・環境流出物削減に係ること (WASTE)
- ✓ 各主体の活動を後押しする施策の推進 (BOOST)
- ✓ 廃棄物の削減

資源循環型社会の実現に向けて

当社グループは、資源循環を「素材→製品→使用後→協働」の一連の流れとして捉え、ステークホルダーとつながる仕組みを構築しています。製品づくりでは再生プラスチック・バイオマスプラスチック素材の活用や、濃縮・軽量化・つめかえなどによる資源の使用量削減・再利用を実現しています。使用後は生活者・自治体・企業・リサイクラー・材料メーカーと連携し、つめかえパックやハブラシの回収・再資源化を推進しています。

資源循環型社会の実現に向けては、当社が果たすべき役割を自社事業で直接貢献する活動 (INPUT/OUTPUT)、社会の一員としてステークホルダーとともに目指す活動 (WASTE/BOOST) の4項目に整理し、項目ごとに施策を策定し、推進しています。



当社グループ事業で使用する材料に係ること (INPUT)

再生プラスチックの使用拡大

当社の製品・容器包装には再生プラスチックを積極的に採用し、石化由来材料の削減を推進しています。液体製品の本体容器やハブラシのブリスター包装には、飲料用PETボトルなどからの再生材料を活用しています。



再生材料を使用した容器包装(国内)

材質	分野	製品名	使用部分
ポリエチレンテレフタレート (PET) PCR*	衣料用洗剤	NANOX one	本体ボトル
		トップ クリアリキッド 香りつづくトップ Sweet Harmony	つめかえパック
	ヘアケア	MEGAMIS シャンプー MEGAMIS トリートメント	つめかえパック
ポリエチレン (PE) PCR*1	柔軟仕上げ剤	ソフラン アロマリッチ ソフラン プレミアム消臭	本体ボトル

*1 Post-Consumer Recycling: 消費者が使用した後のプラスチック製品を回収・再加工して新しい製品に再利用すること

*2 一部採用

海外グループ会社での再生材使用状況

海外グループ会社においても、製品・容器包装に再生プラスチックの使用を拡大しています。Lion Corporation (Korea) (以下、「ライオン코리아」という。)では、『Ai-Kekute(アイケクテ)*』の本体ボトルに使用しています。

*『Ai-Kekute(アイケクテ)』は、ライオン코리아が販売するハンドソープのブランド名です。韓国語で「あら!キレイ」という意味です。



再生材料を使用した容器包装(海外)

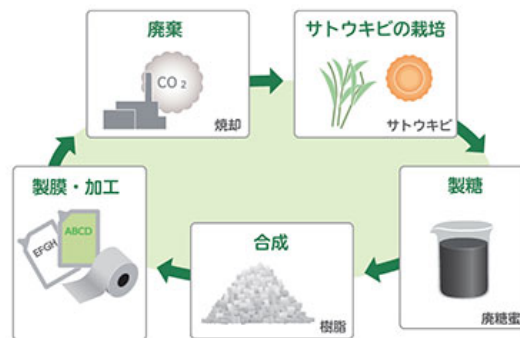
国	材質	分野	製品名	使用部分
韓国	ポリエチレン (PE) PCR*1	ハンドソープ	Ai-Kekute(アイケクテ)*2	本体ボトル
タイ	ポリエチレンテレフタレート (PET) PCR*1	ハブラシ	SYSTEMA*2 SALZ*2 KODOMO*2	ブリストードーム

*1 Post-Consumer Recycling: 消費者が使用した後のプラスチック製品を回収・再加工して新しい製品に再利用すること

*2 一部採用

バイオマスプラスチック(植物由来材料)の使用拡大

当社グループは、製品・容器包装に植物由来材料の使用を進めています。再生可能な資源の利用により、石化由来材料への依存を低減し、持続可能な社会の実現に貢献します。さらに、使用後のバイオマスプラスチックをエネルギー源として再利用することで、廃棄物の削減や地域経済の活性化を促進し、カーボンニュートラルの実現にも貢献します。



使ってもまた育つ植物を使用！
CO₂排出量の削減に貢献！

バイオマスプラスチックを活用した製品

植物由来材料を使用した容器包装

材質	分野	製品名	使用部分
ポリエチレンテレフタレート (PET)	衣料用洗剤	NANOX one	本体ボトル
	ボディソープ	hadakara ボディソープ(液体)	
	デンタルリンス	NONIO マウスウォッシュ NONIO プラスホワイトニング デンタルリンス クリニカクイックウォッシュ クリニカアドバンテージ デンタルリンス クリニカKid's デンタルリンス クリニカJr. デンタルリンス クリニカ フッ素メディカルコート システム EXデンタルリンス システム ハグキプラス プレミアム デンタルリンス システム ハグキプラス デンタルリンス OCH-TUNEマウスウォッシュ	
ポリエチレン (PE)	衣料用洗剤	NANOX 自動投入洗濯機専用	つめかえパック
	ハンドソープ	キレイキレイ薬用ハンドコンディショニングソープ*	外装袋
		キレイキレイ薬用泡ハンドソープ携帯用	
	手指消毒剤	キレイキレイ薬用手指の消毒ジェルプラス	
	制汗デオドラント剤	Ban 汗ブロック ロールオン、スティック	

* 一部採用

なお、一般社団法人日本有機資源協会の認定要件を満たした商品については、バイオマスマークを掲示しています。詳しくは、[一般社団法人日本有機資源協会のホームページ](#)をご覧ください。

[ライオンのバイオマス認定商品一覧\(一般社団法人日本有機資源協会\)](#)

当社グループ事業で生み出す製品・排出物に係ること(OUTPUT)

プラスチック使用量の削減

Reuse 再利用する

当社グループの製品に使用している本体容器は、内容物を詰め替えることで繰り返し使用できます。また、詰めかえ用フィルム容器は、本体容器に比べて使用材料が少ないため、その利用を推奨しています。

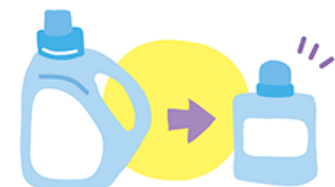
液体衣料用洗剤などの洗濯製品分野では、詰めかえ品と本体品の使用量の比率は4:1以上*に達しています。さらに、詰めかえ用フィルムは使用後の容積が小さく、家庭から出るごみの削減にも貢献しています。近年では、洗口液類などの分野にも詰めかえ製品の展開を広げています。こうした取り組みを通じて、プラスチック使用量の削減に貢献しています。

* 日本石鹼洗剤工業会調べ



Reduce 使用量を削減

当社の製品・容器包装の環境への影響は、ライフサイクルアセスメントの視点から設定した当社独自の基準「**ライオンエコ基準**」に評価項目を定めています。衣料用洗剤、柔軟仕上げ剤、台所用洗剤など「濃縮による容器のコンパクト化」、設計技術の高度化による「軽量化設計」を推進し、プラスチックの使用量を削減しています。



＞ 当社グループの容器・包装材料使用量の推移はこちら

リサイクルしやすい製品の提供

当社グループでは、製品・容器包装のリサイクル性を高めることで、リサイクルのコストの削減や、質の高いリサイクル材料の創出につながると考えています。このような考えから、リサイクルしやすい製品・包装容器の技術開発を進めています。

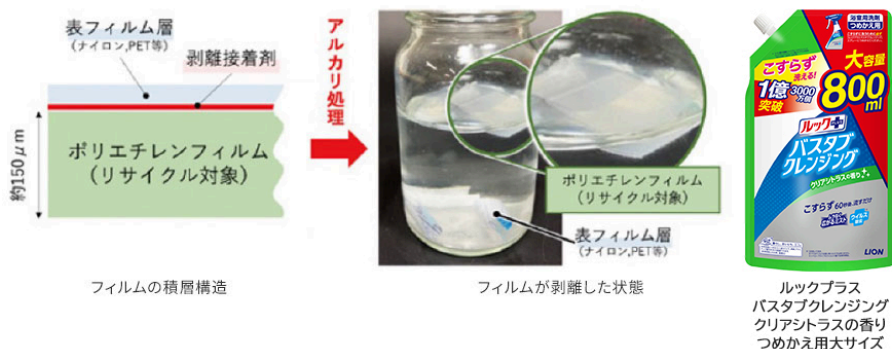
リサイクル性を向上させた詰めかえ用フィルム容器の製品化

洗剤などの詰めかえ製品に幅広く用いられている詰めかえ包装の多くは、複数素材のプラスチックフィルムを貼り合わされた複合素材で構成されているため、リサイクルが難しく、その多くが焼却処分されています。

こうした課題を踏まえ、当社は東洋インキ株式会社と共同で、洗剤などの詰めかえ用フィルムのリサイクル性を向上させる「剥離リサイクル技術」の確立に取り組みました。

その成果として、同技術を採用した製品『**ルックプラス バスタブクレンジング クリアシトラスの香り** 詰めかえ用大サイズ』を、2024年11月に数量限定で発売しました。

複合素材を分離し、高純度な単一素材として回収できるようになることで、リサイクルの促進が期待できます。



複合フィルム構造であるナイロン/PETの層間接着剤をアルカリ処理した後、単一素材フィルムとして回収し、再生材として活用

廃棄物・環境流出物削減に係ること(WASTE)

当社グループが提供する商品については、使用後に適切な方法でリサイクルされるよう取り組むとともに、高度なリサイクル社会システムの構築に向けたさまざまな活動を進めています。

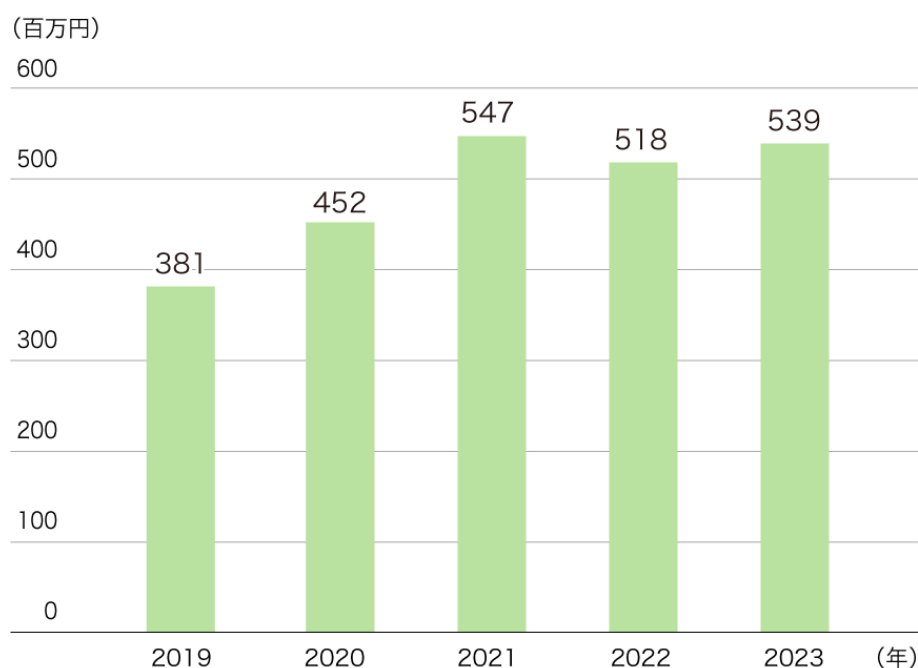
Recycle リサイクルする

当社グループは、容器包装リサイクル制度に基づき、特定事業者として再商品化委託費用を拠出しています。2023年度の再商品化委託費用は、539百万円でした。

同制度に関する詳細は、公益社団法人日本容器包装リサイクル協会のホームページを参照ください。

[公益社団法人日本容器包装リサイクル協会](#)

包装容器リサイクル協会への拠出金額（精算後）



*ライオン株式会社、ライオンペット株式会社、ライオン歯科材株式会社の合計。
委託費用は契約年度の翌々年に精算し確定するため、2年遅れでの公表となる。

高度なリサイクルに向けた取り組み

当社は、既存の社会インフラに依存したリサイクルにとどまらず、より高品質なリサイクルの実現を目指し、日用品メーカー、リサイクラー、小売業、自治体と協働して、使用済み製品および容器・包装材料のリサイクル実証活動に取り組んでいます。

推進している主なリサイクル活動

リサイクル対象物	活動名	実施地域等	主要な協働先
ハブラシ	 ハブラシ・リサイクルプログラム	全国1600ヶ所以上	テラサイクルジャパン合同会社
	 自治体共同ハブラシリサイクル	墨田区、板橋区、台東区、明石市	株式会社タカロク
	教育現場連動ハブラシリサイクル	埼玉県内私立幼稚園（一部）	全埼玉私立幼稚園連合会 株式会社コミュニティネット 株式会社タカロク
つめかえ品	協働リサイクリーション	イトーヨーカドー曳舟店 ウエルシア薬局（東京都、埼玉県の一部地域）	花王株式会社 株式会社イトーヨーカ堂 ウエルシア薬局株式会社 ハマキョウレックス株式会社
	 神戸プラスチックネクスト みんなでつなげよう。つめかえパックリサイクル	神戸市内116ヶ所	神戸市 NPO法人 日用品メーカー 流通企業 リサイクル関連企業 計17者
ボトル	 みんなでボトルリサイクルプロジェクト	東京都	ユニリーバ・ジャパン株式会社 花王株式会社 ヴェオリア・ジャパン合同会社 株式会社digglue

2026年3月27日時点

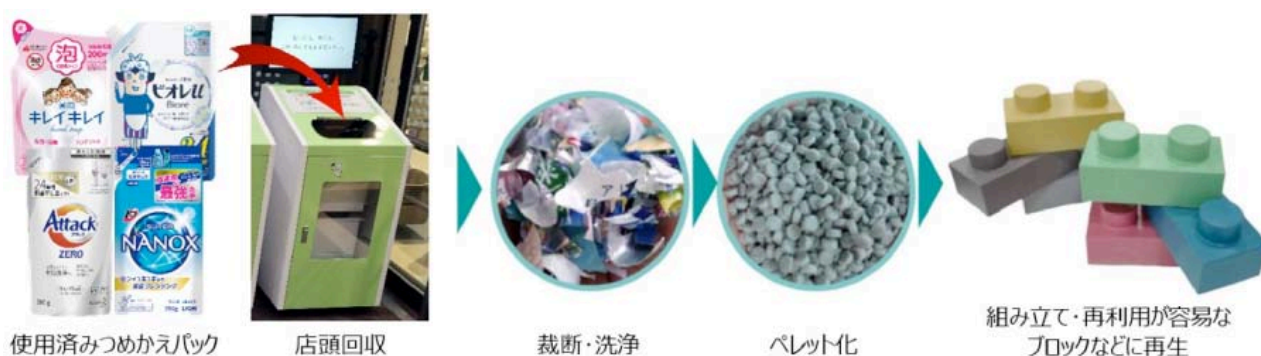
パートナーシップでプラスチック容器・包装資源の循環を推進

花王株式会社とライオンは資源循環型社会の実現を目指し、プラスチック製のつめかえ用フィルム容器（以下、フィルム容器）のリサイクルに企業の枠を超えて取り組んでいます。

リサイクルを加速させるためには、回収の基盤となる仕組みの構築とリサイクル技術の開発が不可欠です。同時に、商品使用後のプラスチック容器の分別など、消費者を含めたステークホルダーとともに社会の意識を変えていくことも必要です。

本活動においては、回収の仕組み・リサイクル材料・容器の品質設計・再生したリサイクル材料の活用方法・消費者への協力に向けた啓発活動を協働して進めています。具体的には、イトーヨーカドー曳舟店（東京都墨田区）・ウエルシア薬局（東京都区部・埼玉県の一部地域）に回収ボックスを設置し、使用済みつめかえパックを回収しています。なお、回収に参加いただく場合は回収ルールに則って協力をお願いいたします。

使用済みつめかえパック 洗い方動画



「リサイクリエーション活動」における使用済みつめかえパックが再生されるまでの仕組み

このリサイクリエーション活動は、関係各社とともに以下の表彰を頂いています。

＜ ニュースリリース：花王とライオン、消費者志向経営優良事例表彰において新設の『選考委員長表彰』を受賞  [PDF](#) ＞

＜ ニュースリリース：ライオン、花王、イトーヨーカ堂、ウエルシア薬局、ハマキョウレックス第6回日本オープンイノベーション大賞の「環境大臣賞」を受賞  [PDF](#) ＞

つめかえパックの水平リサイクル実証

2020年に当社は花王株式会社とプラスチック包装容器資源循環型社会の実現に向けた連携を発表し、協働で使用済みつめかえパックの回収を一部進めてきました。

2023年5月、回収した使用済みのつめかえパックを再生した材料を、一部に使用したつめかえパックを初めて衣料用液体高濃度洗剤「トップ スーパー NANOXニオイ専用 つめかえ用超特大」のつめかえパックとして製品化しました。(現在は販売していません)

このパッケージでは、工場廃棄物由来の再生材料を9%、生活者の皆さまからの回収品由来の再生材料1%を使用しました。現在は、継続的な採用に向けた課題の解決を進めています。

なお、本つめかえパックは関係各社とともに以下の表彰を頂いています。

🏆 2023日本パッケージングコンテスト 日本包装技術協会会長賞

🏆 第48回(2024年度)日本包装技術協会 木下賞・研究開発部門

🏆 2024ワールドパッケージングオーガニゼーション ワールドスター賞



「ハブラシリサイクル」とは

当社はハブラシ製造事業者として、使用済みハブラシの回収とリサイクルを推進するため、以下の取り組みを実施しています。

- テラサイクルジャパン合同会社と連携した「ハブラシ・リサイクルプログラム」
- 自治体と協働して進めるハブラシリサイクル
- 回収と環境教育・オーラルヘルスケア教育を一体的に進めるハブラシリサイクル

これらの取り組みを通じて、回収量の拡大を図るとともに、使用済みハブラシが有用資源として再利用可能であることへの社会的理解の促進を目指しています。

➤ ハブラシリサイクル

各主体の活動を後押しする施策の推進（BOOST）

当社グループは、自社だけでは実現が難しい資源循環型社会の構築に向け、様々な枠組みに参画しながら取り組みを進めています。

資源循環型社会の実現に向け参画している主な団体・活動・イニシアチブ

団体・組織名	略称等	主な活動目的
 クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス	CLOMA	海洋プラスチックごみの問題解決
 サーキュラーパートナーズ	CPs	サーキュラーエコノミーに向けた産官学の連携促進
 プラスチック容器包装リサイクル推進協議会	プラ推進協	プラスチック容器包装のリサイクル推進と市民・自治体との連携
 一般社団法人エコシステム社会機構	ESA	自治体と企業の連携による社会的価値の創出

「ブラっとサーチ」で環境配慮設計事例を公開

当社は、プラスチック容器包装リサイクル協議会が運営する環境配慮パッケージ事例検索システム「ブラっとサーチ」に、開発事例を掲載・公表しています。

 環境配慮パッケージ事例検索システム「ブラっとサーチ」

 「ブラっとサーチ」2025年度の当社掲載事例

廃棄物の削減

事業所でのゼロエミッション（国内）

当社国内の4工場はすべて、2002年にゼロエミッション^{*1}を達成し、2017年には研究、オフィス含む国内全事業所^{*2}でのゼロエミッションを達成しました。

また、当社より排出される廃棄物はすべて国内にて処理しており、廃棄物の海外輸出はありません。

^{*1} 当社ゼロエミッションの定義：廃棄物総発生量の再資源化率を99％以上とする。ただし、再資源化の残さは含まない。

^{*2} 千葉工場、小田原工場、大阪工場、明石工場、平井事業所、札幌オフィス、仙台オフィス、本社、名古屋オフィス、大阪オフィス、福岡オフィス、ライオンケミカル（株）ファインケミカル事業所、ライオンケミカル（株）オレオケミカル事業所、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ（株）四日市事業所、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ（株）小野事業所

＞ ESGデータ 環境（廃棄物）

廃棄物量の推移（海外）

再資源化に向けた取り組みを海外のライオングループ企業でも進めています。

＞ ESGデータ 環境（廃棄物）

産業廃棄物処理施設の維持管理の状況に関する情報

廃棄物の処理及び清掃に関する法律（第十五条の二の三第二項）に基づく維持管理情報を公表しています。

千葉工場の維持管理状況はこちら

製品のライフサイクルにおける水使用量削減

- ✓ 製品のライフサイクルにおける水使用量
- ✓ 水使用量削減に向けた取り組み

製品のライフサイクルにおける水使用量

ライオングループは、持続可能な地球環境の実現を目指し、2019年に策定した長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」のもと、水使用量の削減に取り組んでいます。2019年より、サプライチェーン全体の水使用量の算出を開始し、原材料調達から、生産、輸送、消費者による使用、消費者による廃棄までの製品のライフサイクルにおける水使用量を把握しています。2025年のライフサイクルにおける水の総使用量は約20億m³でした。

製品のライフサイクルにおける水使用量の割合*



* 対象範囲：ライオン及び国内外連結子会社

対象期間：2025年1月～2025年12月

水使用量削減に向けた取り組み

消費者による製品使用時の水使用量削減

当社グループは、製品のライフサイクルを通じての水使用量削減に取り組んでいます。ライフサイクルのなかでも最も割合が高いのは消費者による使用段階で、ライフサイクルにおける割合は75%でした。これは、当社グループが、洗濯等、水で洗う製品を多く販売しているためです。水使用量を削減するため、節水に役立つ製品の提供を進めています。例えば、2020年より当社の洗濯用液体洗剤はすべてすすぎ1回でご使用いただけます。また、2025年4月にはすすぎ0回で洗濯できる衣料用洗剤「アクロンやさしさプレミアム」を発売しました。

当社グループは、2030年目標として「製品のライフサイクルにおける水使用量の30%削減（対2017年、売上高原単位）」を定めています。2025年におけるライフサイクルの水使用量は、売上高原単位で2017年比24%削減となりました。

今後も製品使用時の水使用量削減に寄与する製品の普及・開発を進めるとともに「エコの習慣化」を促進し、家庭での環境負荷の低減に取り組んでいきます。

[🔗 アクロンやさしさプレミアム ブランドサイト](#)

＞ 製品のライフサイクルにおける水使用量の割合

節水に役立つ製品

『NANOX one』

衣類用の洗剤です。泡切れがよく洗濯成分が残りにくいので、すすぎ1回でご使用いただけます。



『アクロン やさしさ プレミアム』

柔軟成分入りおしゃれ着洗剤です。独自技術の特殊ポリマーが洗浄成分の働きをサポート。少ない洗浄成分でも汚れやニオイをスッカリ落とし、すすぎ0回でご使用いただけます。

(皮膚科医監修の下、肌テスト済み)



『CHARMY Magica 速乾+（プラス）カラッと除菌』

油汚れがサラサラ落とせ、すすぎも手早く片づく台所用洗剤です。節水になります。



『おふろのルック』

浴室用の洗剤です。「すすぎクイック成分」を配合し、汚れをスッカリ落とし、泡ざれも速いので、すすぎの水も時間も節約できます。



『ルックプラス おふろの防カビくん煙剤』

「銀イオン」の煙で浴室全体の黒カビ原因菌（カビ孢子）を除菌してカビ発生を防ぐ、おふろの防カビくん煙剤です。浴室のカビ発生を防ぐことで、カビ掃除後に洗い流す水を節約できます。



『ソフトインワン シャンプー』

1本で洗髪&コンディショナー効果も得られる「コンディショナーinシャンプー」。シャンプーとコンディショナーが一緒になっているので、シャンプー後のコンディショナーとそのすすぎがいりません。



『ルックプラス まめピカ トイレのふき取りクリーナー』

水なしでトイレ周りのお掃除ができます。



＜ [ライオンのエコ・パンフレット](#)  (5.28MB)

＜ [ライオンのエコ製品\(環境配慮型製品\)](#)

海外における節水製品

Lion Corporation (Singapore) Pte Ltd・獅王日用化工(青島)有限公司・獅王(香港)有限公司・獅王家品股份有限公司にて『NANOX one』や『CHARMY Magica』を販売し、節水に貢献しています。



Lion Corporation (Singapore) Pte Ltd
『TOP NANOX one』



獅王(香港)有限公司
『NANOX one PRO』



獅王(香港)有限公司
『奇即爽特濃洗潔精』



獅王日用化工(青島)有限公司
『NANOX one PRO』



獅王家品股份有限公司
『獅王 CHARMY Magica 速乾洗潔精』



獅王家品股份有限公司
『NANOX one』

事業活動における水使用量削減

当社グループは、事業活動での水使用量(取水量)と排水量を継続的に把握し、環境負荷低減と循環使用による水使用量の削減に努めています。工程洗浄水の削減施策に継続的に取り組み、千葉工場の製造工程排水リサイクル設備は2016年から稼働しています。

＜水ストレス地域の特定と評価＞

当社グループは、すべての事業拠点における水ストレス評価を、世界資源研究所(World Resources Institute)が開発・発表したAquaductを使用して確認しています。Aquaductで設定されている指標のうち、Baseline Water Stressが極めて高い(Extremely High)事業拠点を水ストレス地域と位置付けています。当社グループにおける水ストレス地域は4拠点で、総取水量に対する取水率は2%でした。

＞事業所における水使用量(取水量)の推移

＞事業所における水源別水使用量(取水量)の推移

＞事業所における排水量の推移

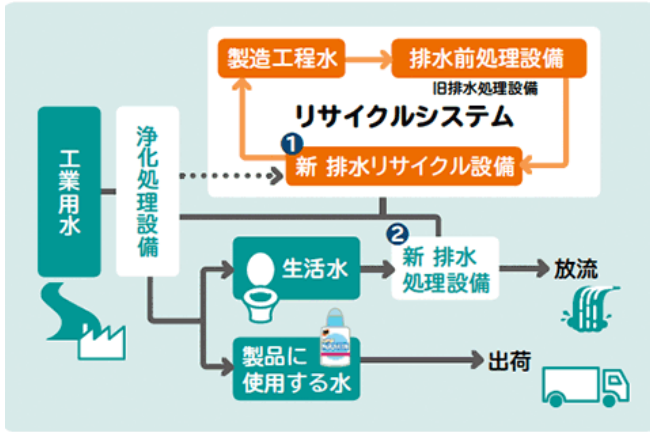
＞事業所における放流先別排水量

千葉工場の排水リサイクル設備

当社グループは、水と深く関わる製品を製造し、販売しています。工場においては製造工程の設備洗浄や加熱・冷却設備等に多くの水を使用しています。使用後の排水をリサイクルして使用できれば節水効果が大きいことから、当社工場の中で水使用量が最も多い千葉工場において「排水リサイクルシステム」を2016年に導入し、継続して利用しています。最大の特徴は、「新排水リサイクル設備」(①)の導入です。これにより、今まで自然に戻っていた製造工程で発生する排水を放流せず、リサイクルするようにしました。

また、「新排水処理設備」(②)を導入し、生活排水や浄化処理設備の排水を、今まで以上に浄化することが可能となり、海の富栄養化の原因である窒素をさらに取り除くことができました。

千葉工場の排水リサイクルシステム



排水のリサイクルは国内の日用品工場では例がなく、2017年に、日本水環境学会「技術奨励賞」*1と日本化学工業協会「第11回レスポンスブル・ケア優秀賞」*2を受賞しました。

*1 水環境保全に関する国内最大の学会である(公社)日本水環境学会において、千葉工場の排水リサイクルシステムの開発が評価され、技術奨励賞を2017年6月に受賞しました。この賞は社会貢献の側面から、水環境に関する調査研究または水環境技術が独創的であり将来を期待される個人または団体に授与されます。

(公社)日本水環境学会 技術奨励賞

*2 水環境保全と地域貢献に向けた取り組みに対して、千葉工場が2017年5月に第11回日本化学工業協会RC(レスポンスブル・ケア)優秀賞を受賞しました。

千葉工場は操業開始以来、水環境保全活動を継続実施しています。

> ライオンのレスポンスブル・ケア活動

自然との共生（生物多様性）

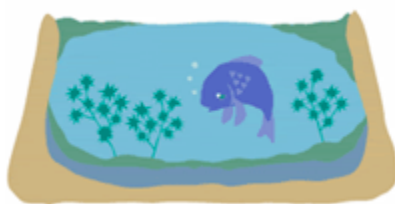
考え方

洗剤の使用と関係のある河川の発泡や富栄養化等の水環境問題に、古くから率先して対応してきたライオンは、原材料調達から消費者による廃棄までのすべての段階で生物多様性に配慮してきました。しかし、将来にわたり生物多様性の恵みを享受するためには、地域社会等と連携して生物多様性の保全に取り組み、その恵みを使い果たすことのないよう、持続可能な利用を進める必要があります。また、生物多様性に配慮した製品を通して生活者のライフスタイルの変化を促し、自然共生社会の実現に向けて貢献することが重要です。

そこで当社は、バリューチェーンに沿って、事業活動で利用している天然資源や事業の生物多様性への影響を把握し、リスクの低減と機会の拡大につながる生物多様性保全活動を行うことで、事業を通じて持続可能な社会の発展に貢献します。また、環境教育の一環として、従業員一人ひとりが生物多様性保全活動に参画することで、生物多様性保全に対する意識を全事業所に浸透させることにも注力しています。



1960年代 河川の発泡問題
当時の合成洗剤は分解されにくかったため、河川等が泡で被われる状況となりました。当社は洗剤原料を分解されやすいものに転換しました。



1970年代 富栄養化問題
富栄養化による赤潮等が発生し、問題となりました。原因の1つであるリンは、当時の洗剤に配合されており、当社は洗剤の無リン化を他社に先駆けて推進しました。



1980年代以降 地球環境問題
地球規模での環境問題がクローズアップされ、資源や環境負荷に対する配慮が求められるようになりました。当社は洗剤の洗浄力を高性能化して使用量を低減したり、節水につながる製品開発をしたり、植物原料の活用を積極的に進めています。

生物多様性方針

当社グループは、「環境方針」の下に「生物多様性方針」を定めています。昆明・モンリオール生物多様性枠組の合意等、国際的な生物多様性保全に向けた動向を踏まえ、バリューチェーン全体での生物多様性に係るリスク、生物多様性への依存や影響を把握・開示すること、生物多様性の損失を止め、回復させるために取り組むこと等を定めています。

取り組み



生物多様性保全活動



生物多様性保全活動

- ▼ 事業所での活動 ▼ 界面活性剤の環境影響調査

ライオンは、事業を行うすべての事業所で生物多様性保全活動を行っています。特に工場においては、敷地が広く、取り扱う原材料が多く、周辺の自然環境や地域社会に影響を及ぼす可能性があると考えられるため、工場の操業にともなう影響を低減するとともに、工場が立地する周辺流域の生物多様性を保全し、その恵みを地域社会全体で持続的に享受できるよう、地域のNPO法人、団体の皆様と一緒に生物多様性保全活動を積極的に行っています。



生物多様性保全への取り組み

事業所での活動

事業所では、生物多様性方針に基づき、各事業所で生物多様性保全活動に取り組んでいます。

各事業所での取り組み

事業所	活動	連携団体
千葉工場(千葉県市原市)	里山ビオトープ整備活動「レオトープ」	一般社団法人グループ2000(環境に学ぶ)
小田原工場(神奈川県小田原市)	酒匂川水系のメダカ里親制度参加、ホタルの育成	小田原市
大阪工場(大阪府堺市)	アカウミガメ保護活動参加	NPO法人日本ウミガメ協議会 みなべウミガメ研究班
明石工場(兵庫県明石市)	エノキビオトープ整備活動 (在来種国蝶オオムラサキ等の育成)	丹波の森公苑
ライオンケミカル(株)ファインケミカル事業所(茨城県神栖市)	鹿島灘沿岸の松林の再生活動参加 (白砂青松プロジェクト)	神栖市農林課 美化運動推進連絡協議会
ライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所(香川県坂出市)	トンボ池(ビオトープ)整備活動 (絶滅危惧Ⅱ類マイコアカネの繁殖)	王越とんぼランド:坂出市 公益社団法人トンボと自然を考える会: 四万十市
札幌オフィス(北海道札幌市)	豊平川サケ個体群の野生味向上の活動 支援 (札幌ワイルドサーモンプロジェクト)	札幌市豊平川さけ科学館
本社(東京都台東区)	生物多様性保全ワークショップ開催	台東区立環境ふれあい館
平井研究所(東京都江戸川区)	江戸川下流や東京湾の環境整備活動参加	認定NPO法人 えどがわエコセンター
大阪オフィス(大阪府大阪市)	のだふじ育成活動支援	大阪福島ライオンズクラブ のだふじの会
福岡オフィス(福岡県福岡市)	博多湾自然環境保護活動支援 (ラブアース活動、和白干潟を守る会)	和白干潟を守る会

界面活性剤の環境影響調査

当社の商品のほとんどは、使用後に河川等に排出されるため、開発段階で環境中での安全性を評価・確認しています。さらに、[日本石鹼洗剤工業会](#)が1998年から実施している東京および大阪近郊の河川水域中の4種類の界面活性剤の濃度調査～生態系リスク評価(2回実施)に参加し、環境に影響がないかどうかを調べています。これまでの調査では、水生生物に影響がないと考えられる濃度よりも低いので、洗剤による環境影響が少ないことがわかっています。

安全性の評価・確認は当社だけの課題ではありません。国内外における最新の技術情報を収集・活用するとともに、当社からも情報を発信し、安全性評価技術の向上に貢献しています。



河川水の試料採取地点

ライオンのエコ製品（環境配慮型製品）

✓ ライオンのエコ製品（環境配慮型製品）とは ✓ 暮らしの中のエコ製品 ✓ ライオンのこだわり

ライオンのエコ製品（環境配慮型製品）とは

ライオンのエコ製品とは、当社独自の「ライオン エコ基準」をクリアした環境配慮型製品です。ライオンは、生活者の皆様が心地よく暮らすことがいつの間にかエコにつながる製品を提供するとともに、生活者の皆さまと双方向のコミュニケーションを行い、「エコの習慣化」を推進してまいります。



暮らし、まいにち、エコ。

ライオンエコ基準とは



暮らしの中のエコ製品



当社では、さまざまな生活シーンにおいてエコ習慣につながる製品を取り揃えております。

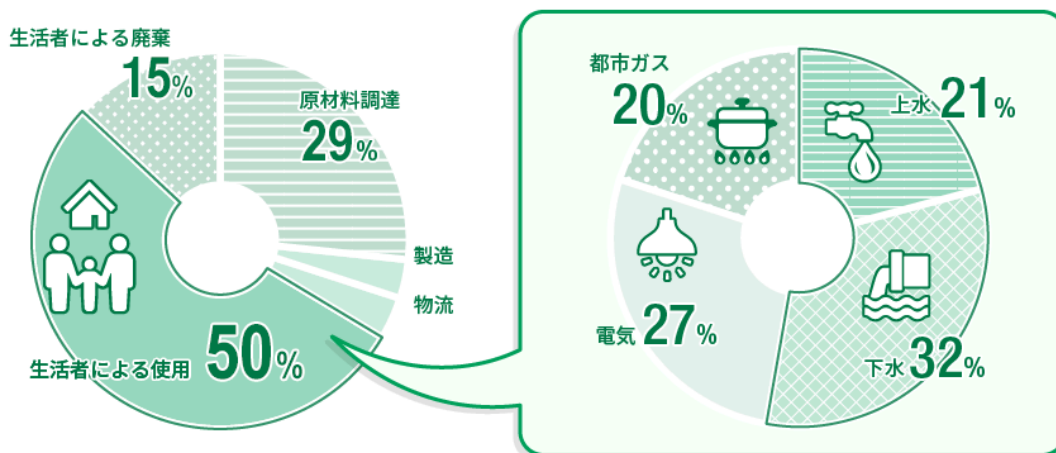
> 「暮らし、まいにち、エコ。」マーク表示製品一覧

> ライオンのエコ・パンフレット  (PDF: 5.28MB)

ライオンのこだわり

節水型製品

水の使用とCO₂排出の関係



当社グループのライフサイクルにおける

CO₂ 排出割合 (2025 年)

(参考) 2025 年 CO₂ 排出量 当社グループ 約 3,789 千トン/年

生活者による使用段階での

CO₂ 排出量の内訳

(ライオン算定データ)

当社グループ事業による、製品のライフサイクルにおけるCO₂排出割合において、「生活者による使用」の場面でのCO₂排出量の割合が最も高くなっています。(左グラフ)

そのCO₂排出量の内訳では、「上下水の利用」が半分以上を占めるため(右グラフ)、節水をすることはCO₂排出をおさえ、地球温暖化防止につながるエコな行動であるといえます。

節水に繋がるすすぎ1回洗濯は、自分にも環境にも良いこと

すすぎ
1回



洗濯機のすすぎ回数の設定を変える



ゆとり時間の
増加



光熱費の
減少



水使用量の
削減



CO₂ 排出量の
削減

すすぎ1回洗濯による節水効果

一人ひとりのアクション



たとえるならば...

お風呂で浴槽にためる量の**約2か月分^{※2}**になります！



※1 既婚世帯の平均洗濯回数(約310回/年)及び主要4社縦型洗濯機における衣類3Kg・標準コースで洗濯した場合の平均水量(すすぎ2回約123L/回、すすぎ1回約87L/回)より算出。(ライオン調べ)

※2 浴槽での使用水量を200ℓとし毎日溜めた場合として算出。

みんなでアクション



たとえるならば...

黒部ダム**約2.6個分^{※4}**になります！



※3 全世帯の総洗濯回数(約146億8千万回/年)及び主要4社縦型洗濯機における衣類3Kg・標準コースで洗濯した場合の平均水量(すすぎ2回約123L/回、すすぎ1回約87L/回)より算出。(ライオン調べ)

※4 黒部ダムの総貯水容量(約2億m³)から算出。

NANOX oneなら節水＋衣類長持ち！



すすぎ1回でお洗濯

節水・節電のお洗濯で、
地球にも家計にもやさしいエコ習慣を。



洗淨力

新たに「高性能界面活性剤」と「高性能な酵素」を配合し、頑固な汚れにも高い洗淨力を実現！

消臭力

部屋干し臭を防ぐ！
嫌なニオイの発生を抑える“新消臭成分[※]”を採用
※ニオイ専用・PROに搭載

色変化防止力

衣類同士の摩擦を防止し、色あせを抑制！さらに、洗濯槽内での再汚染(汚れ戻り)を防止



黄ばみを防ぐ



黒ずみ・くすみを防ぐ



色あせ・色落ちを防ぐ

🔗 NANOX one ブランドサイト

🔗 Lidea【マンガ】お洗濯マイクロファンタジー!超高性能洗剤「NANOX one」の洗浄成分たちの世界

🔗 Lidea お洗濯の「洗剤選び」で毎日が変わる?!4人のハッピーストーリーをご紹介

ライオンでは、様々な製品カテゴリーにおいて、独自の節水技術を活用した節水に役立つ製品開発にも取り組んでいます。

> ニュースリリース:『NANOX』史上初!すすぎ0回で洗濯が15分で完了 衣料用洗剤『NANOX one(ナノックス ワン) 抗菌×時短』新発売

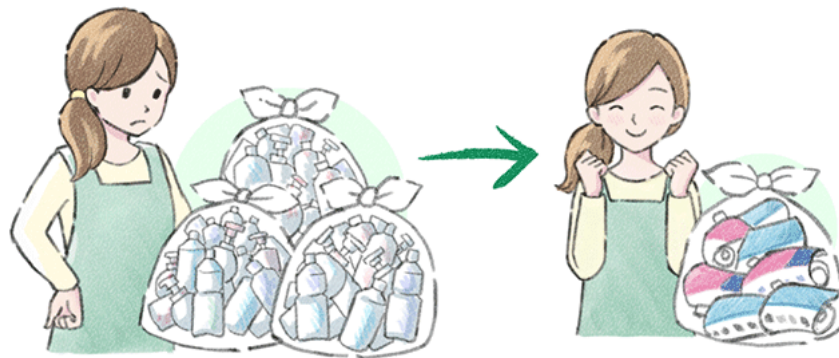
> 消費者による製品使用時の水使用量削減

つめかえ製品

つめかえ製品のメリット

つめかえ製品を使うことで、家庭内のプラスチックごみを減らすことができます。

プラスチックごみの量を減らすことは、廃棄の際に生じるCO₂の排出量削減など、環境貢献につながります。



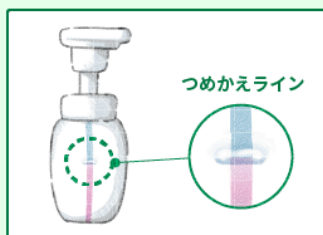
キレイキレイ薬用泡ハンドソープの工夫

キレイキレイ薬用泡ハンドソープの本体ボトルは、つめかえやすいように下記のような工夫をしています。



1 つめかえるときに、こぼれにくい

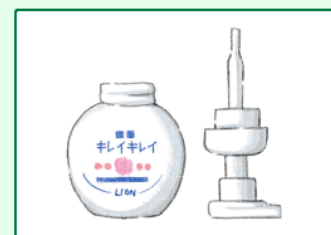
つめかえパウチよりも、ボトルの口の方が大きく、つめかえやすい



2 つめかえた量がわかりやすい

● ボトルの一部が透明⇒どこまで入れたか、分かりやすい

● つめかえライン付き⇒入れすぎることなく、つめかえられる



3 清潔につめかえられるポンプ

ボトルのポンプは、逆さに置いても安定し液ダレしづらい

■ つめかえ製品の 카테고리 拡大

ライオンは、これまでつめかえ製品のなかった※1オーラルヘルスケア製品にも、つめかえ製品を拡大しています。つめかえ製品は本体ボトルと比較して重さも軽くプラスチック使用量を大幅に削減できます。



※1 当社内

※2 本体600mlボトルとの比較。重量比。

ライオンではリサイクルしやすいつめかえ製品の開発やリサイクルの研究開発にも積極的に取り組んでいます。

＞ ニュースリリース：プラスチックリサイクル促進に向けて ライオン、リサイクル性を向上させたつめかえパックを初の製品化

＞ ニュースリリース：ライオン、artienceと共同で「つめかえパックからつめかえパックへの水平リサイクル」実現 製造過程で発生した材料を『アクロン』のつめかえパックとして再生 [PDF](#)

☑ Lidea：プラスチックごみの削減やリサイクルなど、問題解決のためにできることは？

ライオンエコ基準とは

- ✓ ライオンエコ基準とは
- ✓ ライオンの環境活動のシンボル「暮らし、まいにち、エコ。」マーク

ライオンエコ基準とは

製品の原材料調達から廃棄までの各段階における環境負荷を定量的に評価する、ライフサイクルアセスメント(LCA)の視点に基づく「ライオン エコ基準」を設定しています。各項目の評価基準をひとつ以上クリアしたものを「エコ製品」と規定しています。2025年は、ライオンの家庭品^{*1}の売上のうち、82%が「ライオンエコ基準」をクリアしたエコ製品でした。

エコ製品売上比率の推移(国内)

2017年*2	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
76%	82%	81%	82%	79%	82%

*1 オーラルヘルスケア、ビューティケア、ファブリックケア、リビングケア分野

*2 2017年:「Eco Challenge 2050」の目標基準年

ライオンエコ基準の評価項目と評価基準

ライフサイクル ステージ	評価項目	評価基準
①原料調達	植物原料の使用 持続可能な原料の使用	- 内容物(有機成分)中の植物原料比率が50%以上 - 植物由来原料のなかで生物多様性に配慮した原料を50%以上使用
②材料調達	リサイクル材料の使用 植物由来材料の使用	- 再生材料の使用率が10%以上 - 板紙の場合は、古紙または間伐材、認証林パルプの使用率が94%以上 - 植物由来樹脂の使用率が20%以上
③製造	省エネ 水使用量の削減 化学物質使用量の削減 廃棄物量の削減	- 製造段階の温室効果ガスを基準製品*より20%以上削減 - 製造段階の水使用量を基準製品*より20%以上削減 - 製造段階の原料以外の化学物質使用量を基準製品*より20%以上削減 - 製造段階の廃棄物量を基準製品*より20%以上削減
④物流	濃縮化、コンパクト化	基準製品*より20%以上内容物を濃縮化あるいは容器をコンパクト化
⑤使用	使用時の省エネ 使用後の温室効果ガス排出量削減 水使用量の削減(節水)	- 製品使用に伴うエネルギーを基準製品*より20%以上削減 - 使用後に排出される温室効果ガスを基準製品*より20%以上削減 - 使用時の水使用量を基準製品*より20%以上削減
⑥廃棄	包材削減 詰め替え	- 本体容器包材量を基準製品*より15%以上削減 - 詰め替え容器包材量を本体包材量の50%以上削減

* 基準製品:「Eco Challenge 2050」の目標基準年である、2017年発売の製品とする

ライオンの環境活動のシンボル「暮らし、まいにち、エコ。」マーク



「暮らし、まいにち、エコ。」マークは、企業スローガン「今日を愛する。」の考え方に則った環境メッセージ「ライオンの環境への想い」を端的に表した環境スローガン「暮らし、まいにち、エコ。」と環境マークを合わせて表現した、当社の環境活動のシンボルです。お客様が環境に配慮した製品を選べるよう、当社独自の「ライオン エコ基準」をクリアした製品に、シンボルマークとしてエコな理由とともに表示しています。

> 「暮らし、まいにち、エコ。」マーク表示製品一覧



< つめかえ製品への表示例 >

その他「暮らし、まいにち、エコ。」マーク表示製品の例



『NANOX one PRO』本体



『CHARMY Magica』本体

「暮らし、まいにち、エコ。」マーク表示製品一覧

「暮らし、まいにち、エコ。」マークとは



「暮らし、まいにち、エコ。」マークは、企業スローガン「今日を愛する。」の考え方に則った環境メッセージ「ライオンの環境への想い」を端的に表した環境スローガン「暮らし、まいにち、エコ。」と環境マークを合わせて表現した、当社の環境活動のシンボルです。お客様が環境に配慮した商品を選ぶよう、当社独自の「**ライオン エコ基準**」をクリアした商品に、シンボルマークとしてエコな理由とともに表示しています。

製品カテゴリー別マーク表示製品一覧

対象製品カテゴリー

- ▼ 歯とお口のケア
- ▼ カラダのケア
- ▼ 衣類のケア
- ▼ 住まいのケア
- ▼ キッチンのケア

マーク表示製品

歯とお口のケア

NONIOマウスウォッシュ

- NONIOマウスウォッシュ つめかえ用950ml

NONIOプラスホワイトニング デンタルリンス

- NONIOプラスホワイトニング デンタルリンス つめかえ用 950ml

カラダのケア

MEGAMIS モイストシャンプー

- MEGAMIS モイストシャンプー つめかえ用360ml

MEGAMIS ダメージケアヘアセラム

- MEGAMIS ダメージケアヘアセラム つめかえ用155ml

MEGAMIS モイストトリートメント

- MEGAMIS モイストトリートメント つめかえ用360ml

ソフトインワンシャンプー サラサラタイプ

- ソフトインワンシャンプーサラサラタイプ つめかえ用380ml

ソフトインワンシャンプー スッキリデオドラントタイプ

- ソフトインワンシャンプースクッキリデオドラントタイプ つめかえ用370ml

｜ キレイキレイ薬用泡ハンドソープ

- ・ キレイキレイ薬用泡ハンドソープ つめかえ用200ml(シトラスフルーティの香り)
- ・ キレイキレイ薬用泡ハンドソープ つめかえ用大型サイズ450ml
- ・ キレイキレイ薬用泡ハンドソープ つめかえ用特大サイズ800ml

｜ キレイキレイ薬用液体ハンドソープ

- ・ キレイキレイ薬用液体ハンドソープ つめかえ用200ml / つめかえ用大型サイズ450ml
- ・ キレイキレイ薬用液体ハンドソープ つめかえ用特大サイズ800ml

｜ キレイキレイ薬用ハンドコンディショニングソープ

- ・ キレイキレイ薬用ハンドコンディショニングソープ つめかえ用400ml
- ・ キレイキレイ薬用ハンドコンディショニングソープ つめかえ用大型サイズ700ml

｜ キレイキレイ薬用キッチン泡ハンドソープ

- ・ キレイキレイ薬用キッチン泡ハンドソープ つめかえ用180ml

｜ キレイキレイ薬用手指の消毒ジェルプラス

- ・ キレイキレイ薬用手指の消毒ジェルプラス つめかえ用200mL

｜ hadakara モイストボディケアソープ 泡タイプ

- ・ hadakara モイストボディケアソープ 泡タイプ つめかえ用440ml
- ・ hadakara モイストボディケアソープ 泡タイプ つめかえ用大型サイズ750ml

｜ hadakara モイストボディケアソープ 液体タイプ

- ・ hadakara モイストボディケアソープ 液体タイプ つめかえ用360ml
- ・ hadakara モイストボディケアソープ 液体タイプ つめかえ用大型サイズ750ml

｜ hadakara 美肌プレミアム モイストボディケアソープ 泡タイプ

- ・ hadakara 美肌プレミアム モイストボディケアソープ 泡タイプ つめかえ用360ml

｜ hadakara 美肌プレミアム モイストボディケアソープ 液体タイプ

- ・ hadakara 美肌プレミアム モイストボディケアソープ 液体タイプ つめかえ用360ml

｜ hadakara 薬用デオドラント モイストボディケアソープ

- ・ hadakara 薬用デオドラント モイストボディケアソープ つめかえ用440ml

｜ hadakara 薬用ピュアマイルド モイストボディケアソープ

- ・ hadakara 薬用ピュアマイルド モイストボディケアソープ つめかえ用440ml

衣類のケア

｜ 部屋干しトップ 除菌EX

- ・ 部屋干しトップ 除菌EX つめかえ用810g

｜ NANOX one 洗浄プラス

- ・ NANOX one 洗浄プラス 本体大600g
- ・ NANOX one 洗浄プラス つめかえ用特大 765g
- ・ NANOX one 洗浄プラス つめかえ用超特大 1080g
- ・ NANOX one 洗浄プラス つめかえ用ウルトラジャンボ 1,530g

■ NANOX one ニオイ専用

- NANOX one ニオイ専用 本体大600g
- NANOX one ニオイ専用 つめかえ用特大765g
- NANOX one ニオイ専用 つめかえ用超特大1,080g
- NANOX one ニオイ専用 つめかえ用ウルトラジャンボ1,530g

■ NANOX one PRO

- NANOX one PRO 本体大600g / ワンパック10g×6袋
- NANOX one PRO つめかえ用特大740g
- NANOX one PRO つめかえ用超特大1,010g
- NANOX one PRO つめかえ用ウルトラジャンボ1,400g

■ NANOX one 抗菌×時短(企業限定品)

- NANOX one 抗菌×時短(企業限定品) 本体大580g
- NANOX one 抗菌×時短(企業限定品) つめかえ用超特大 970g

■ NANOX 自動投入洗濯機専用

- NANOX 自動投入洗濯機専用

■ トップ クリアリキッド抗菌

- トップ クリアリキッド抗菌 本体840g
- トップ クリアリキッド抗菌 つめかえ用900g
- トップ クリアリキッド抗菌 つめかえ用1,420g

■ トップ クリアリキッド

- トップ クリアリキッド 本体900g
- トップ クリアリキッド つめかえ用500g
- トップ クリアリキッド つめかえ用超特大900g

■ 香りつづくトップ 抗菌plus Shiny Rose

- 香りつづくトップ 抗菌plus Shiny Rose 本体850g
- 香りつづくトップ 抗菌plus Shiny Rose つめかえ用500g

■ 香りつづくトップ Sweet Harmony

- 香りつづくトップ Sweet Harmony 本体850g
- 香りつづくトップ Sweet Harmony つめかえ用500g

■ アクロン

- アクロン つめかえ用380ml
- アクロン つめかえ用大850ml

■ アクロンやさしさプレミアム

- アクロンやさしさプレミアム つめかえ用650ml

■ NANOX エリそで用

- NANOX エリそで用 つめかえ用230g
- NANOX エリそで用 つめかえ用大650g

｜ NANOX ドロ用

- NANOX ドロ用 つめかえ用200g

｜ ブライトSTRONG

- ブライトSTRONG つめかえ用650ml
- ブライトSTRONG つめかえ用900ml

｜ ソフラン プレミアム消臭

- ソフラン プレミアム消臭 つめかえ用750ml
- ソフラン プレミアム消臭 つめかえ用1,300ml

｜ ソフラン プレミアム消臭 汗臭ブロック

- ソフラン プレミアム消臭 汗臭ブロック つめかえ用730ml
- ソフラン プレミアム消臭 汗臭ブロック つめかえ用1,250ml

｜ ソフラン プレミアム消臭 ウルトラゼロ

- ソフラン プレミアム消臭 ウルトラゼロ つめかえ用1,200ml

｜ ソフラン アロマリッチ

- ソフラン アロマリッチ つめかえ用750ml (Juliette / Layla / Diana / Claire / Ellie)
- ソフラン アロマリッチ つめかえ用1,300ml (Juliette / Layla / Diana / Claire / Ellie)

｜ ソフラン アロマリッチ(香り企画品)

- ソフラン アロマリッチ(香り企画品) つめかえ用 750ml(金木犀の香り)

｜ ふんわりソフラン

- ふんわりソフラン つめかえ用750ml

｜ お洋服のスタイルガード しわもニオイもすっきりスプレー

- お洋服のスタイルガード しわもニオイもすっきりスプレー つめかえ用250ml

｜ NANOX 衣類・布製品の除菌・消臭スプレー

- NANOX 衣類・布製品の除菌・消臭スプレー つめかえ用320ml

住まいのケア

｜ ルックプラス バスタブクレンジングHARD洗浄

- ルックプラス バスタブクレンジングHARD洗浄 つめかえ用大700ml
- ルックプラス バスタブクレンジングHARD洗浄 つめかえ用特大1,000ml

｜ ルックプラス バスタブクレンジング銀イオンプラス

- ルックプラス バスタブクレンジング銀イオンプラス つめかえ用大サイズ700ml
- ルックプラス バスタブクレンジング銀イオンプラス つめかえ用特大サイズ1,000ml

｜ おふろのルック

- おふろのルック つめかえ用350ml

｜ ルックプラス トイレクレンジング

- ルックプラス トイレクレンジング つめかえ用640ml

｜ ルックプラス まめピカ トイレのふき取りクリーナー

- ルックプラス まめピカ トイレのふき取りクリーナー つめかえ用190ml

｜ ルックプラス まめピカ 抗菌プラス トイレのふき取りクリーナー

- ルックプラス まめピカ 抗菌プラス トイレのふき取りクリーナー つめかえ用190ml

キッチンのケア

｜ CHARMY Magica 速乾＋（プラス）カラッと除菌

- CHARMY Magica 速乾＋（プラス）カラッと除菌 本体220ml
- CHARMY Magica 速乾＋（プラス）カラッと除菌 つめかえ用680ml
- CHARMY Magica 速乾＋（プラス）カラッと除菌 つめかえ用 1,000ml

｜ CHARMY Magica 酵素＋（プラス）

- CHARMY Magica 酵素＋（プラス） 本体220ml
- CHARMY Magica 酵素＋（プラス） つめかえ用 680ml
- CHARMY Magica 酵素＋（プラス） つめかえ用 1,000ml

｜ CHARMY Magica 手肌＋（プラス）除菌

- CHARMY Magica 手肌＋（プラス）除菌 本体220ml
- CHARMY Magica 手肌＋（プラス）除菌 つめかえ用 650ml
- CHARMY Magica 手肌＋（プラス）除菌 つめかえ用 950ml

｜ CHARMY Magica 一発洗浄スプレー

- CHARMY Magica 一発洗浄スプレー つめかえ用 250ml

｜ CHARMY クリスタ クリアEXジェル

- CHARMY クリスタ クリアEXジェル つめかえ用660g
- CHARMY クリスタ クリアEXジェル つめかえ用1,155g

｜ CHARMY クリスタ 消臭EXジェル

- CHARMY クリスタ 消臭EXジェル つめかえ用660g
- CHARMY クリスタ 消臭EXジェル つめかえ用1,155g

化学物質管理

- ✓ 考え方
- ✓ 化学物質管理方針
- ✓ 推進体制
- ✓ 化学物質管理の各段階における取り組み
- ✓ 懸念化学物質の削減・廃止への取り組み

考え方

化学物質は、生活を便利で快適にする上で欠かせないものですが、適切な管理を怠ったり事故が起きた場合、人々の健康や生態系に大きな影響を与えるおそれがあります。ライオングループでは、関連法規の遵守はもちろん、独自の基準に基づき、製品の開発から使用・廃棄までの各段階で、化学物質の安全管理を推進しています。

化学物質管理方針

当社グループは、「[ライオン企業行動憲章](#)」の精神に基づき「[化学物質管理方針](#)」を定めています。国際的化学物質管理の趨勢を踏まえた方針として、Global Framework on Chemicals^{*1}(GFC)及び Strategic Approach to International Chemicals Management^{*2}(SAICM)の考え方に沿い、化学物質のライフサイクル全体にわたる健全な管理と、環境と人間の健康への著しい悪影響を最小限に抑え、コミュニケーションの推進に努めることを定めています。GFCは、化学物質や廃棄物による有害な影響のない世界の実現を目指し、国際的な化学物質管理を強化するために2023年に採択された新たな国際枠組みです。化学物質のライフサイクル全体を対象とし、環境と人の健康を保護するための5つの戦略目的と28のターゲットを掲げ、各国政府、産業界、市民社会など多様な主体が協働して持続可能な化学物質管理を進めることを特徴としています。

＜ [当社グループのGFCへの取り組み](#)  (PDF:148KB) ＞

*1 化学物質に関するグローバル枠組み(SAICM後継として2023年採択)

*2 国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ(2006年～2020年)

推進体制

当社は、化学物質管理の取り組みに関して、担当役員を委員長、副委員長とし、研究部門、生産物流部門、海外事業部門、本社スタッフ部門等から構成される化学物質管理委員会を2023年に設置し、当社グループの化学物質管理方針に沿った活動を推進しています。

化学物質管理委員会

委員長：担当役員 化学品事業全般

副委員長：担当役員 信頼性保証部

委員会メンバー長：研究技術部門、SCM戦略部門、コーポレート部門の部所長

化学物質管理の各段階における取り組み

当社は、製品開発、生産、輸送、使用・廃棄の各段階において化学物質管理を徹底しています。

当社の化学物質管理



①製品開発

製品に使用する化学物質の選定

製品に使用する化学物質の種類と量は、製品開発の段階で選定を行い、性能の追求だけではなく安全性と環境への影響にも配慮しています。

＜原料および材料の安全性

②化学物質の登録申請・届出

日本：化審法^{*1}への対応

当社は化審法に基づき、製造・輸入量が年間1トン以上などの規定に従って、すべての一般化学物質、優先評価化学物質について、用途分類とともに製造・輸入量を届出しています。今後も製造・輸入量、用途情報等を把握し、適正な届出を継続します。

^{*1} 化審法「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」の略称

韓国：化評法^{*2}への対応

韓国ライオンにおいて予備的登録手続きである「事前申告」および本登録を実施しています。

^{*2} 化評法：化学物質の登録および評価に関する法律

③生産

今後ますます化学物質の適切な管理および強化が求められるなか、当社は、化管法^{*1}、揮発性有機化合物 (VOC) 規制および水質汚濁防止法に基づく適正な届出と排出量管理、ならびに安衛法に基づく製造時の安全確保を、継続的に強化していくことを目標としています。

PRTR制度対象物質総排出量の管理

PRTR (Pollutant Release and Transfer Register: 化学物質排出移動量届出制度) とは、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

当社のPRTR制度対象物質総排出量は2020年以降、2～9tで推移しています。

＞「2025年度PRTR対象物質の排出量（国内グループ）」（PDF：360KB）

＞PRTR制度対象物質総排出量の推移

＊1 化管法

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の略称

大気に配慮した生産活動

当社は窒素酸化物（NOx）、硫黄酸化物（SOx）、ばいじん、揮発性有機化合物（VOC）等、大気汚染につながる化学物質の排出削減に取り組んでいます。大気汚染防止法により、物質の種類ごと、排出施設の種類・規模ごとに排出基準が決められ、さらに地方自治体の条例による規制があります。当社は法令や条例を遵守するだけでなく、より厳しい市町村との個別協定の締結や自主基準の設定を各事業所で行い、汚染の予防に努めています。さらに生産工程の効率化、脱窒・脱硫等の環境対応設備の稼働等を実施し、排出量の削減に取り組んでいます。

＞窒素酸化物（NOx）・硫黄酸化物（SOx）・ばいじん排出量の推移

＞VOC排出量の推移

水質に配慮した生産活動

COD^{*2}は、水質汚濁防止法に基づき全国一律排水基準として許容限度（160mg/L（日間平均 120mg/L））が定められています。また、公共下水道へ排出する場合には下水道法による規制もありますが、当社はこれらの法規制を遵守しています。さらに、各地方自治体と当社事業所間で一律排水基準を上回る基準での協定を締結している場合もあります。当社はこれらを遵守し、さらに排水処理設備の安定化や定期的な保全、処理方法の改善を通じてCODの低減に努めるなど、より高い水準での排水管理を推進しています。

＞事業所におけるCODの推移

＊2 COD（Chemical Oxygen Demand：化学的酸素要求量）：水の汚れを表す指標のひとつで、水中の有機物を酸化して分解するために消費される酸素量。

SDS^{*3}の活用

当社が使用している全原料について、原料供給メーカーからSDSを入手・整備するとともに、データベース化して活用を図っています。また、事業者に商品を提供しているライオンハイジーン株式会社では、現場労働者がより安全に作業できるようにSDSを作成してお取引先に配布し、GHS^{*4}に基づいて製品表示しています。

＊3 SDS

Safety Data Sheetの略。化学物質による事故を未然に防ぐ目的で、化学製品の環境に対する影響や安全性、取り扱い方法等を記載したもの。

＊4 GHS

Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals（化学品の分類と表示に関する世界調和システム）の略。国連で採択された、化学物質の危険性や有害性を分類する世界共通のルールに基づいた表示。

生産活動における化学物質管理

ライオングループ「化学物質管理方針」に基づき、労働安全を確保することを目的に、当社内で取扱っている原料・生産品に対してSDSデータベースより、事業所内でのGHS表示の徹底と化学物質取扱教育の実施と適切な保護具着用の推進を図っています。

④ 輸送

輸送時の安全性情報の提供

原料や中間製品等を輸送する場合は、万一の事故に備えて、運送者や輸送品に対し「イエローカード*」や「容器イエローカード*」を配布・添付して、緊急処置方法等の情報を提供しています。

* イエローカード、容器イエローカード

輸送中に化学物質の漏洩等が発生した場合に備え、その物質の性質や緊急処置方法を記載した、黄色の緊急連絡カード。前者は運送者が常時携帯するもの、後者は化学物質を入れた容器につけるもの。多くの化学工業会社で決めた自主基準をもとに作成している。

⑤ 使用・廃棄

環境への影響調査

洗剤等に含まれる界面活性剤は使用された後、環境中に排出されます。当社は、日本石鹼洗剤工業会が実施している東京および大阪近郊の河川水域中の4種類の界面活性剤の濃度調査～生態系リスク評価(年2回実施)に参加し、生態系への影響が小さいことを確認しています。

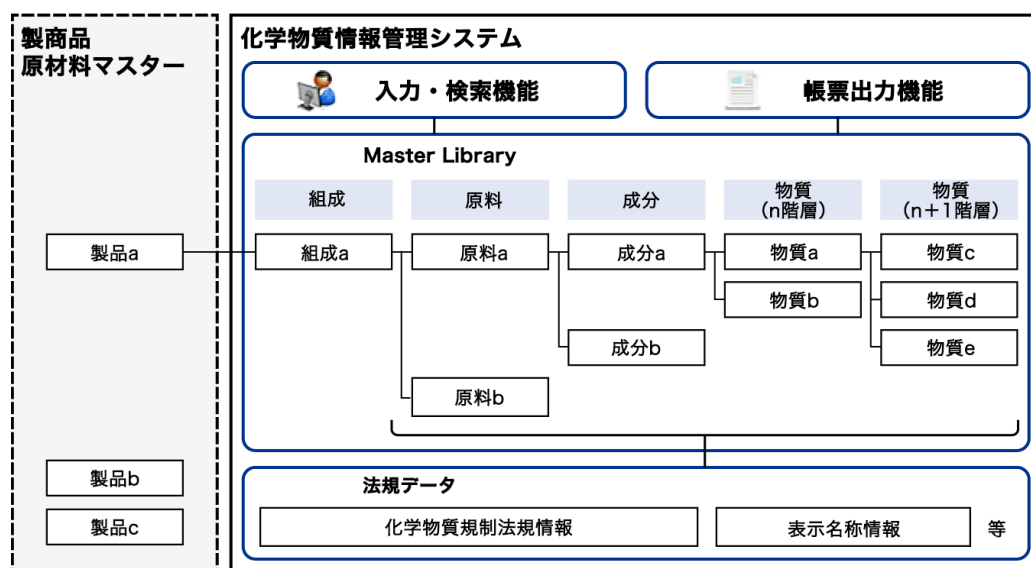
＞ 界面活性剤の環境影響調査

⑥ 上市後

製品含有化学物質管理

当社は化学物質の適正使用を強化するために、「化学物質情報管理システム」を国内関係会社も含めた研究開発部門と購買部門に2018年1月より順次導入し、原料及び製品含有化学物質の管理に取り組んでいます。

本システムは、「原料、製品組成に関するデータ」「法令情報データ」のデータベースと「製品組成開発支援機能」で構成されています。導入により、全事業分野での自社製品開発において、使用する化学物質に関する法令遵守体制を強化するとともに、蓄積される組成データから上市後の製品に含まれる化学物質を即時検索することが可能となりました。これにより情報管理レベル向上とトレーサビリティの確保、コンプライアンス対応力の強化を実現していきます。



「化学物質情報管理システム」のイメージ

懸念化学物質の削減・廃止への取り組み

ノニルフェノールエトキシレート(NPE)への対応

NPEは2021年にEU REACH*¹によりEU域内での使用が制限されました。さらに、日本では2025年4月より化審法*²の第二種特定化学物質に指定されました。当社では既にNPEの使用を廃止し、より環境負荷の低い物質への代替を完了しています。

*1 REACH(Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals):EUにおける化学物質の登録・評価・認可および制限に関する規制

*2 化審法:「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」の略称

日本化学工業会への参画

当社は、日本化学工業協会に参画し、化学物質の開発から廃棄までのすべてのライフサイクルにわたり、環境・安全面の継続的な改善を図っています。



 日本化学工業協会

日本化学工業協会LRI活動への協力

当社は、化学物質の安全性や、その評価法に関する研究を助成する日本化学工業協会主催のLRI活動(日化協LRI)の趣旨に賛同し、2011年より当該事業に出資しています。

> 日本化学工業会LRI活動への協力

千葉・大阪工場でのレスポンスブル・ケア*活動

当社は日本化学工業協会レスポンスブル・ケア委員会の会員企業として、地域対話を積極的に行っています。各工場はそれぞれの地域の特性に合った対話の場を設け、地域関係者とのコミュニケーションを図っています。



第14回レスポンスブル・ケア 堺・泉北地区地域対話集会の様子 (2024年2月)

2024年2月に新型コロナウイルスの規制緩和を受け、「第14回レスポンシブル・ケア 堺・泉北地区地域対話」を、町内会、自治連合協議会、行政等の関係者にご参加いただき、4年ぶりに対面開催の形式で実施しました。当日は環境管理責任者より当社及び大阪工場の環境への取り組みを報告しました。また、アンケート等で皆様に頂戴したご意見については、今後の取り組みの継続改善に反映していきます。

また、2025年1月には「第15回レスポンシブル・ケア 千葉地区地域対話」を、町内会、自治連合協議会、行政等関係者に参加頂き6年ぶりとなる対面の形式で実施しました。当社の千葉工場は、企画段階から会議に参加し協力しました。集会の発表資料や加盟各社の活動内容を閲覧できる2次元バーコード等を記載した冊子を配布し、同封のアンケートで皆様のご意見を集めました。いただいたご意見は今後の活動に活かします。

さらに、水環境保全と地域貢献に向けた取り組みに対して、千葉工場が2017年5月に第11回日本化学工業協会RC(レスポンシブル・ケア)優秀賞を受賞しました。日本化学工業協会RC(レスポンシブル・ケア)は、化学物質を取り扱う事業者が、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費、廃棄、リサイクルの全過程において「環境・安全・健康」を確保するとともに、活動の成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う自主的な管理活動です。千葉工場は操業開始以来、水リスクに備えた水環境保全活動を継続実施しています。工水の浄化による使用水の製造、工程排水リサイクル、法令基準より厳しい排水管理等を推進し、水使用量と排水量の削減、及び水質保全の成果に繋げています。また、地域の子どもたちや見学者等に対し、水の大切さの啓発も行っている点が高く評価されました。



第11回日本化学工業協会 RC優秀賞 盾

環境に関する外部イニシアチブへの参画

- ✓ 気候変動に対する取り組み
- ✓ 生物多様性に対する取り組み
- ✓ エコ・ファーストの約束
- ✓ 環境に関する外部イニシアチブへの参画

気候変動に対する取り組み

近年、気候変動は喫緊の社会課題であり、企業経営においても将来の重大なリスクであると同時に、企業活動の新たな機会創出の可能性もあると認識しています。当社グループは中長期経営戦略フレーム「Vision2030」において、サステナビリティ重要課題への取り組み強化を経営戦略に掲げており、特に「健康な生活習慣づくり」と「サステナブルな地球環境への取り組み推進」を最重要課題と位置付け、CO₂削減等リスク低減策の実施とともに、生活者と共につくる「エコの習慣化」など、気候変動のもたらすリスクと機会に対する様々な取り組みを進めています。環境方針に基づき、TCFD提言のフレームワークに則り、当社グループの気候変動に対するリスクと機会を分析し、これらを管理するため、2030年までに取り組むべきサステナビリティ最重要課題と目標を設定しています。これらの分析結果や取り組み内容は、「ライオングループのTCFDへの対応」として開示しています。



温室効果ガス削減目標がSBTイニシアチブの1.5°C目標認定を取得

当社は2020年に「2°Cを十分に下回る目標 (Well-below 2°C)」としてSBT (Science Based Targets) イニシアチブ*1より認定を取得しました。2023年3月に「1.5°Cには抑える目標」のSBT認定を取得しています。



Science Based Targets

■今回認定されたGHG (温室効果ガス) 削減目標 (2030年目標)

- ・ スコープ1*2 + 2*3 のGHG排出量 (絶対量) *4を55%削減 (基準年2018年)
- ・ スコープ3*5のGHG排出量 (絶対量) を30%削減 (基準年2018年)
- ・ 再生可能電力の年間調達を100%に増加 (2018年0%)

*1 SBTイニシアチブは、CDP、国連グローバル・コンパクト、WRI (世界資源研究所)、WWF (世界自然保護基金) によって2015年に設立された国際的な共同イニシアチブで、「産業革命前からの気温上昇を1.5°Cに抑える」というパリ協定の目標に向けて、企業が設定する温室効果ガス削減目標が、科学的根拠に基づいたものになっているかどうかの検証・認定を行っています。

*2 スコープ1: 自社での燃料使用による直接排出量

*3 スコープ2: 自社が購入した電力、熱の使用による間接排出量

*4 当社のGHG排出量に占めるCO₂排出量は、99.8% (2022年) です。

*5 スコープ3: 自社のバリューチェーンで排出される間接排出量 (スコープ1、スコープ2を除く) のうち、購入商品・サービス (カテゴリ1) および販売した製品の廃棄 (カテゴリ12)

➤ ニュースリリース: ライオンの温室効果ガス削減目標がSBTイニシアチブの認定を取得

生物多様性に対する取り組み

当社グループは原材料調達等において生物多様性に依存しながら事業を営んでいる一方、バリューチェーンの各段階で生物多様性に影響を与えており、生物多様性と密接に関わっています。生物多様性方針に基づき、TNFD提言のフレームワークに則り、当社グループの自然への依存、影響、自然関連のリスク、機会を分析し、これらを管理するため、2030年までに取り組むべきサステナビリティ重要課題と目標を設定し、責任あるサプライチェーンマネジメントの構築、人権の尊重、サステナブルな地球環境への取り組みを進めています。これらの分析結果や取り組み内容は、「ライオングループのTNFDへの対応」として、開示しています。



TNFD提言に基づく情報開示



エコ・ファーストの約束

「エコ・ファースト制度」とは、企業が環境大臣に対し、地球温暖化対策、廃棄物削減・リサイクル推進等、自らの環境保全に関する取り組みを約束「[エコ・ファーストの約束 PDF](#)」(PDF:339KB)し、環境の分野において「先進的、独自的にかつ業界をリードする事業活動」を行っている企業(業界における環境先進企業)であることを、環境大臣が認定する制度です。

当社は、2008年に製造業として初めてエコ・ファースト企業に認定され、その後も長期環境目標の設定に合わせて「エコ・ファーストの約束」を更新してきました。現在の「エコ・ファーストの約束」は、2024年に生物多様性方針策定を踏まえ更新しました。

エコ・ファースト推進協議会

「[エコ・ファースト推進協議会](#)」とは環境行政およびエコ・ファースト企業間の連携を強化し、制度の認知度向上を図るとともに地球環境問題に対する取り組みをさらに充実させることを目的に、2009年12月に設立された組織です。

当社も設立当初から幹事企業の一社として積極的に参加して、2012年度～2013年度は議長会社を務めました。また、2023年度まで幹事会社として協議会運営に関り、現在は一般会員として協議会に参加しています。

環境に関する外部イニシアチブへの参画



[TCFD](#)



[CLOMA クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス](#)



[TNFD](#)



[気候変動イニシアチブ \(Japan Climate Initiative\)](#)



[エコファースト推進協議会](#)



[プラスチックスマート \(Plastics Smart\)](#)



[GX League](#)



[環境省30 by 30アライアンス](#)

TCFD提言に基づく情報開示

▼ ライオングループのTCFDへの対応 ▼ シナリオ分析の概要 ▼ シナリオ分析結果まとめ

ライオングループのTCFDへの対応

近年、気候変動は喫緊の社会課題であり、企業経営においても将来の重大なリスクであると同時に、企業活動の新たな機会創出の可能性もあると認識しています。

当社グループでは、金融安定理事会（FSB）により設置されたTCFD提言への賛同を2019年5月に表明しました。また、同年10月～2020年1月にかけて環境省「TCFDに沿った気候リスク・機会のシナリオ分析支援事業」に参画し、気候関連のリスクと機会が当社事業におよぼす財務的影響の評価に取り組みました。2022年には、事業・地域・製品群・サプライチェーンの面で分析範囲を拡大し、本格的なシナリオ分析を実施しています。こうした分析結果を踏まえ、TCFDのフレームワークに基づき気候関連情報を開示しています。



TCFD各項目の取り組み状況と今後の対応方針

TCFD推奨の 気候変動関連開示項目		ライオングループの取り組み状況
ガバナンス	気候関連のリスク及び機会に係る組織のガバナンス	- 気候変動リスク・機会は、サステナビリティ推進協議会傘下のE分科会より、同協議会（年2回開催）に報告され、必要に応じ、経営執行会議・執行役員会・取締役会にも報告される体制となっています。 - また、気候変動による人々を取り巻く世界観の変化を事業機会とすべく、同協議会直下にワーキンググループを設置して機動的な検討を行っています。
戦略	気候関連のリスク及び機会が組織の事業・戦略・財務計画に及ぼす実際の影響及び潜在的な影響	- TCFDの提言に基づき、2030年・2050年において気候変動影響を受ける可能性が高い一般消費財事業及び海外事業の一部の国について、4℃・1.5℃の2つのシナリオを用いて、シナリオ分析を実施しました。 - 短・中・長期の気候変動リスク・機会を現在～2050年まで特定・評価し、事業・戦略・財務計画検討時に考慮しています。
リスク管理	気候関連のリスクについて組織が特定・評価・管理する手法	事業に大きな影響を及ぼす気候変動関連のリスクと対応策に関しては、全社共通で管理する「共通リスク」に位置付けており、その取りまとめを行う経営企画部とE分科会が連携して、識別・評価・管理を実施しています。 ＜ リスクと対応策はこちら PDF
指標と目標	気候関連のリスク及び機会を評価・管理する際に使用する指標と目標	- 当社及び国内外連結子会社のCO₂排出量（Scope1、2、3）について、Webサイトで開示しています。また、長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」における、2050年に向けた取り組み「脱炭素社会と資源循環型社会の実現」の方向性と、2030年時点のCO₂排出量、石化由来のプラスチック使用率、水資源使用量を指標とした目標と実績 PDF を開示しています。温室効果ガス削減目標は、SBTイニシアチブの1.5℃認定を取得しています。 ＜ ニュースリリース：ライオンの温室効果ガス削減目標が SBTイニシアチブの認定を取得

シナリオ分析の概要

- 2030年、2050年における一般用消費財事業（オーラルヘルスケア、ビューティケア、ファブリックケア、リビングケア、薬品の各分野）、海外事業（中国・タイ）について、産業革命比で2100年までに世界の平均気温が4℃・1.5℃上昇することを想定したシナリオを用いて、シナリオ分析を実施しました。なお、使用したシナリオのうち代表的なものは以下のとおりです。
 - 移行リスク・機会の分析に使用した主要シナリオ：IEAによるNZE、STEPS
 - 物理的リスク・機会の分析に使用した主要シナリオ：IPCCによるRCP1.9、8.5
- 分析の過程では各シナリオに対して、気候変動に関連するリスク・機会を洗い出し、事業への影響を定性的に検証後、定量的なインパクト額を試算し、大・中・小の3段階で評価しました。その結果、事業への影響が大きいリスクとして「炭素税の導入」「原料価格の上昇」、機会として「サステナブル商品の市場拡大」を特定しています。また、IPCC AR6等最新の文献を調査し、人々の生活を取り巻く世界観が気候変動に伴いどのように変化するかを想定することで、新たな事業機会検討の材料にしています。

【ライオングループの主要な気候変動リスク・機会】

リスク・機会項目			影響※1		
			概要	4℃	1.5℃
移行	炭素税の導入 (Scope1,2,3)		- 各国政府での排出権取引の本格的な導入や炭素税の適用により、工場の操業コストが増加 - Scope3も含め炭素税がかかることで、原材料調達コストが上昇する	小	大※2
	原料価格上昇	化石燃料由来	排出権取引の本格的な導入や炭素税の適用により価格上昇	大	中
		パーム油由来	パーム油規制強化や認証油使用増加によるコスト上昇	小	中
		植物由来（とうもろこし、ミント等）	収穫量の減少による価格高騰	小	小
	材料・包材価格上昇	プラスチック由来	プラスチック使用に関する規制により価格上昇	小	中
		アルミ由来	自動車の軽量化規制等により、鉄からアルミニウム等への代替が進み価格高騰	小	中
		森林資源由来	森林火災や森林保全・森林伐採規制による価格上昇	小	小
	サステナブル商品市場拡大		顧客のエシカル消費に対する意識向上にともない、節水・節電商品を含むサステナブルな商品の需要が拡大	小	大
物理的	平均気温の上昇		エネルギーコストや労働者への負担が増加することにより操業コスト・人件費が上昇	小	小
			気温上昇により洗濯関連製品、感染症増加により衛生関連製品・サービスの売上が増加	中	小
	降水・気象パターンの変化		洪水や水ストレスの増加により、自社及びサプライヤーの操業に影響が生じ対応コストが増大。また、安定供給が果たせない場合、信用力低下の可能性	中	小
	異常気象の激甚化		異常気象の激甚化により、自社物流の遅延やサプライチェーンの分断が発生し収益が減少。また、安定供給が果たせない場合信用力低下の可能性	小	小

※1 リスク：赤字、機会：青字
※2 環境目標「LION Eco Challenge 2050」を達成できずCO2削減が進まない場合

- 今回分析で使用した各シナリオへの対応はこれまでも進めていますが、変化へのレジリエンスを一層強化すべく経営努力を傾注していきます。
- 4°Cシナリオでは化石燃料由来の原料高騰が大きなリスクですが、既に植物由来原料への代替等、脱炭素化に向けた取り組みを推進しています。また、洪水や水ストレス等物理的リスクの増加についても、BCPの強化やサプライチェーンのデータ連携等の対応を進めています。一方、機会面では感染症予防や洗濯関連商品などの市場の拡大が想定されるため、関連する商品開発やサービスの強化等に向けた取り組みを進めています。
- 1.5°Cシナリオでは、プラスチック由来・アルミ由来・パーム油由来の原材料・包材価格の上昇が大きなリスクですが、石化由来のプラスチック使用量の削減や業界の垣根を超えたりサイクルシステムの構築、パーム油・パーム核油誘導体のRSPO認証品の調達等、リスク低減に向けた取り組みを進めています。一方、機会面では、環境配慮製品の大幅な需要拡大が見込まれ、洗濯のすすぎ回数が2回から1回・0回で可能な衣料用洗剤などのライオンエコ製品の拡充等による事業の拡大が期待されます。なお、この取り組みにより当社のScope3の過半を占める使用・廃棄段階でのCO₂削減にも寄与します。
- また、現時点で定量的影響額が小さくとも、当社にとって大きなリスクとなる可能性がある項目（品質の高いミントの調達等）については、社会動向等をモニタリングしながら対応策を検討していきます。

[illegible][illegible]

TNFD提言に基づく情報開示

- ✓ ライオングループのTNFDへの対応(概要版)
- ✓ TNFD推奨の開示項目に関する取り組み状況
- ✓ 自然への依存と影響
- ✓ シナリオ分析結果まとめ

ライオングループのTNFDへの対応(概要版)

ライオングループは**生物多様性方針**に基づき、TNFD提言のフレームワークに則り、当社グループの自然への依存、影響、自然関連のリスク、機会を分析しました。その結果をまとめた自然関連財務情報を開示します(本ページは概要版。全体版は[こちら](#)  (1.55MB))。優先的な分析対象は、次の通りです。

- 事業:オーラルヘルスケア事業、ファブリックケア事業(以下、あわせて「重要事業」という)のバリューチェーン全体
- 優先地域:ミント油、パーム油の調達先(米国、インドネシア、マレーシア)
- 期間:2030年まで及びそれ以降

TNFD推奨の開示項目に関する取り組み状況

TNFD推奨の 自然関連開示項目		ライオングループの取り組み状況
ガバナンス	自然関連の依存、影響、リスク、機会に対する組織のガバナンス	自然関連リスク・機会は、サステナビリティ推進協議会傘下のE分科会より、同協議会(年2回開催)に報告され、必要に応じ、経営執行会議・執行役員会・取締役会にも報告される体制となっています。 詳しくはこちら
戦略	自然関連の依存、影響、リスク、機会が、組織の事業、戦略、財務計画に与える実際及び潜在的な影響	TNFD提言に基づき、生物多様性への依存・影響が高い分野において、LEAPアプローチを用いて優先地域を特定し、リスクと機会の分析を行いました。また、戦略のレジリエンスを評価するために、重要事業についてシナリオ分析を実施しました。
リスク管理	組織が、自然関連の依存、影響、リスク、機会を特定し、評価し、優先順位をつけて監視するためのプロセス	事業に大きな影響を及ぼす自然関連のリスクと対応策に関しては、全社共通で管理する「共通リスク」に位置付けて、その取りまとめを行うE分科会と経営企画部が連携して、識別・評価・管理を実施しています。
指標と目標	自然関連の依存、影響、リスク、機会を評価し、管理するために使用される測定指標とターゲット	サステナビリティ重要課題と2030年目標を設定し、責任あるサプライチェーンマネジメントの構築、人権の尊重、サステナブルな地球環境への取り組み推進に関する目標を掲げています。

自然への依存と影響

重要事業である各事業のバリューチェーン上流、直接操業、下流における自然への依存と影響の度合いを、定性的・相対的に評価した結果を以下のヒートマップに示しています。(濃い緑:依存度高い⇨薄い緑:依存度低い、濃い青=影響度高い⇨薄い青=影響度低い)両事業ともに、上流で依存度、影響度が高くなっています。その理由は次の通りです。

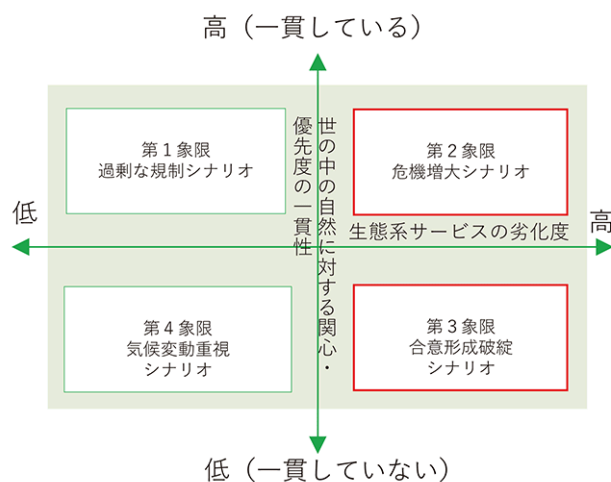
- オーラルヘルスケア事業:ミントの栽培には、大量の水の供給・水の供給を支える気候調整、育成に必要な健全な土壌の提供等で依存しています。水使用による周辺生態系への影響もあります。
- ファブリックケア事業:パーム油の原料となるアブラヤシの育成及び安定的な収穫のため、安定した気候や健全な土壌に依存しています。また、プランテーションによる土地利用変化(森林や泥炭地の破壊)が、野生動植物に大きな影響を与え、温室効果ガスの排出や大気汚染(ヘイズ)にもつながっています。

依存		供給サービス			調整サービス									
		バイオマス資源の供給	遺伝資源の供給	水の供給	花粉媒介	洪水・暴風雨の緩和	空気の浄化	気候調整	感染症の抑制	固形廃棄物の浄化	土壌と堆積物の保持	土壌の質の調整	水循環の調整	水質浄化
オーラルヘルスケア	上流(原料)													
	直接操業（製造）													
	下流（使用）													
ファブリックケア	上流(原料)													
	直接操業（製造）													
	下流（使用）													
影響		利用による変化		気候変動	資源利用	汚染と汚染除去				外来生物				
		淡水の利用領域	土地の利用領域	温室効果ガスの排出	水利用	騒音・光害	温室効果ガス以外の大気汚染物質の排出	水質汚濁・土壌汚染	固形廃棄物の排出	外来種の導入				
オーラルヘルスケア	上流(原料)													
	直接操業（製造）													
	下流（使用）													
ファブリックケア	上流(原料)													
	直接操業（製造）													
	下流（使用）													

シナリオ分析結果まとめ

重要事業について、2030年を想定し、TNFDが推奨している「生態系サービスの劣化度」と「世の中の自然に対する関心・優先度の一貫性」の2軸を掛け合わせてできる4つの象限のうち、第2象限及び第3象限*に絞ってシナリオ分析を実施しました。(WWFによれば、直近半世紀で70%以上の生物多様性が減少したことなどから、今後も生態系サービスの劣化が深刻化するシナリオが当社グループにとって優先度が高いと考えています)

分析は、調達や技術開発の担当者も含めたワークショップ形式で行い、事業環境の変化、そこから生じるリスクと機会、それらに対して取るべきアクションについて把握しました。シナリオ分析の結果概要は以下の通りです。(第3象限シナリオが現状に近いものと認識し、上段に記載しています)



* 第2象限：生物多様性の激しい劣化に対し、社会全体（国内外の政府・生活者）で、生物多様性保全の必要性が共通認識になっている。

第3象限：生物多様性が激しく劣化するも、生物多様性保全に対する考え方やルールは、国・地域、個人によって大きく異なる。

オーラルヘルスケア事業

	リスク	機会	レジリエンス強化のための既存の対策	更なるレジリエンス強化に向けた課題
第3象限シナリオ	異なる規制や考え方に対応していくためのコスト増加、対応スピード低下	第2象限シナリオほどコスト増とならない分、リソースを製品開発等に投入可能	- ミント油のサプライヤーと良好な関係を構築 - 認証ミント油の調達や天然ミント油にこだわった差別化	各国・地域の法規制や市場に詳しい人材の現地採用
第2象限シナリオ	- 認証ミント油の価格上昇、第三者認証コスト増加 - 自然関連目標の設定や法規制対応のためのオペレーションコスト増加 - 生物多様性保全のための新技術への投資コスト増加	サステナブルミントを生活者に訴求し、価値に見合った価格上昇が可能		特にインド（アメリカより生物多様性リスクと水リスクが高い）におけるトレーサビリティ強化、認証ミント油の購買を通じた持続可能な農法の支援

ファブリックケア事業

	リスク	機会	レジリエンス強化のための既存の対策	更なるレジリエンス強化に向けた課題
第3象限シナリオ	- 生物多様性の劣化とそれによる生産地拡大の制限、及び世界人口の増加による食品産業との競争激化によってパーム油の調達が困難 - 大手による独自基準での調達、パーム農園の囲い込みによって、低リスクで高品質なパーム油の調達が困難 - 認証パーム油へ高いコストを払い続けるが、価格調整ができず収益が悪化 - EU市場からトレーサビリティへの要求が高まる。当社グループの対応が要求に満たない場合、ステークホルダーからの評価が低下 - 技術開発がスピードダウン	- CO₂から生産された原料をパーム代替品として活用できれば、気候変動にも生物多様性にもメリットのある製品として訴求可能 - 水や油に頼らない、従来とは一線を画する技術・事業革新	- RSPO認証油への切り替え - パーム油調達先の位置情報（ミルレベル）の把握 - パーム代替原料を開発する企業への出資	- 高価格でも選ばれるコンセプトづくり、生活者とのコミュニケーション強化 - 生物多様性関連情報の収集と機動的な経営判断
第2象限シナリオ	- サステナビリティ対応コストに対応するための商品価格調整分を、調達及び内部コスト上昇分が上回り続け、収益が悪化 - 森林回復など、要求レベルの高まり。当社グループの対応が要求に満たない場合、ステークホルダーからの評価が低下 - パーム代替原料の開発競争激化。投資に係る迅速な経営判断が必要	サステナビリティ対応について、価値に見合った価格上昇が可能		

健康な生活習慣づくり

▼ 基本的な考え方 ▼ 推進方針 ▼ 2030年目標と進捗 ▼ 取り組み ▼ コンテンツ

基本的な考え方

石けんとハミガキから始まったライオンは、「事業を通じて社会に貢献する」という創業の精神を受け継ぎ、人々の心と身体のヘルスケアの実現に向けて、より良い習慣づくりを提案してきました。

生活必需品やサービスを提供するライオングループは、歯みがきや手洗いといった健康に直結する生活習慣の定着こそが、社会価値と経済価値の創出の基盤であると考えています。そのため、製品・サービスの提供にとどまらず、生活者の行動実態や科学的エビデンスに基づく情報発信・普及啓発活動を継続的にを行い、健康な生活習慣づくりを支援しています。

推進方針

当社グループのパーパス「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)」に基づき、事業展開エリアにおいて「健康な生活習慣づくり」に貢献する製品・サービス・情報を、2030年までにのべ10億人に提供することを目標としています(オーラルヘルスケア5億人／清潔・衛生5億人)。「オーラルヘルスケア習慣」と「清潔・衛生習慣」を通じ、「健康な生活習慣づくり」をのべ10億人に提供することで、より多くの人々の毎日に貢献します。

オーラルヘルスケア習慣

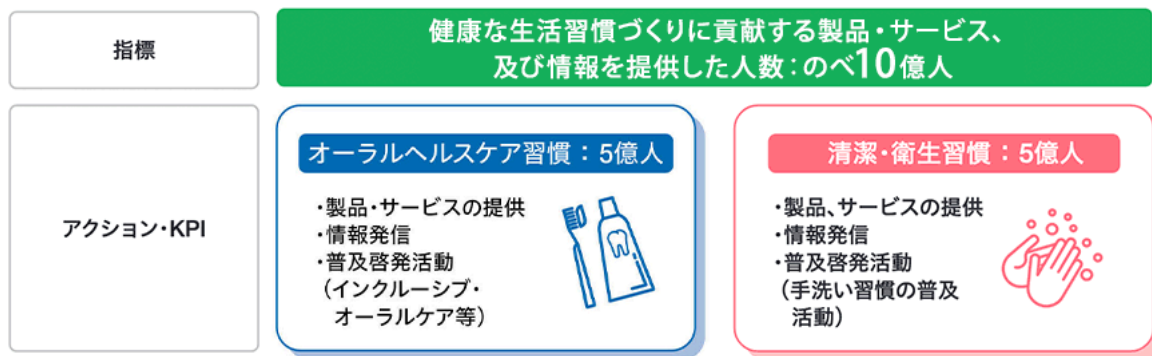
当社グループは、人々の健康寿命の延伸に不可欠な口腔の健康向上に向け、むし歯や歯周病を予防する「歯みがき習慣」の定着に取り組んできました。

2030年に向けては、デジタルテクノロジーを活用した製品・サービスの提供とオーラルヘルスケア機会の格差解消を進めることで、事業機会の拡大を図るとともに、一人ひとりのライフステージ・ライフスタイルや健康状態に応じた、前向きな予防歯科習慣づくりを目指していきます。

清潔・衛生習慣

当社グループは、さまざまなシーンで利用できるハンドソープや消毒剤の提供に加え、手指の清潔・衛生による感染予防の普及啓発活動を保育所・幼稚園・小学校等で実施してきました。

日本を含むアジア地域では、地域ごとの清潔・衛生課題に対応した製品提供と普及啓発活動を展開しています。特に、東南・南アジアにおいては、食の安全等、活動領域を広げています。



ライオングループの2030年までの取り組み

推進にあたっては、生活者の実態に寄り添いながら、行政・学校・企業・自治体等の多様なパートナーと連携し、日本のみならずアジアで取り組みを進めていきます。

2030年目標と進捗

目標（2030年）	指標（2030年）	指標の進捗（2025年実績）
すべての人が必要な時に、いつでも、オーラルヘルスケアを行える機会を提供し、誰もが健康でいられるよう、オーラルヘルスケアの習慣化を目指します。	● 健康な生活習慣づくりに貢献する製品・サービス、および情報を提供した人数⇒のべ10億人 〈オーラルヘルスケア 5億人、清潔・衛生 5億人〉	オーラルヘルスケア 4.0億人* ＊ 実態調査より算出
日常生活のあらゆるシーンの中で、菌・ウイルスの体内侵入を防ぎ、誰もが健康でいられるよう、清潔・衛生行動の習慣化を目指します。		清潔・衛生 3.2億人* ＊ 2024年実績より、アジアの事業状況をふまえて身体・食の安全等に活動領域を広げた新たな方法で算出

＜ サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標 / 2025年実績・施策 PDF (1.2MB) ＞

取り組み



コンテンツ



オーラルヘルスケア習慣の促進に役立つコンテンツ

- ＜ 楽しみながら実践できる予防歯科習慣づくり
- ＜ 中学生・高校生向けのオーラルヘルスケア
- ＜ 防災・災害時のオーラルヘルスケア
- ＜ オーラルヘルスケアに役立つ情報



清潔・衛生習慣の促進に役立つコンテンツ

- ＜ 楽しみながら実践できる正しい手洗い習慣づくり
- ＜ 災害時の清潔健康ケア
- ＜ プロの手指衛生管理
- ＜ 手洗い習慣の定着に役立つ情報

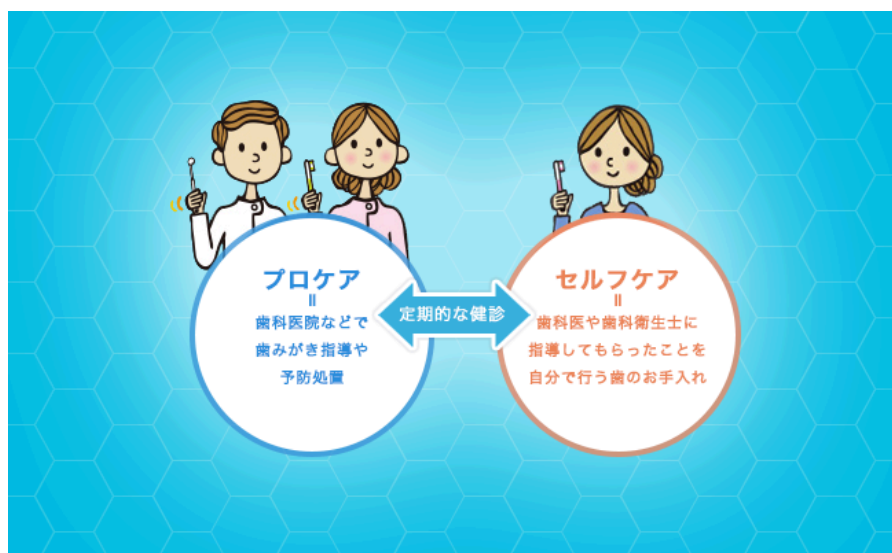
オーラルヘルスケア習慣の定着化に向けた取り組み

- ✓ 予防歯科
- ✓ ライフステージ別オーラルヘルス習慣の普及啓発活動
- ✓ インクルーシブ・オーラルケア
- ✓ オーラルヘルスケアリーダー養成
- ✓ 法人向けウェルビーイングサポートサービス
- ✓ 研究・学術

予防歯科

予防歯科の意義と目的

「予防歯科」とは、むし歯等になってからの治療ではなく、なる前の予防を大切に考える考え方です。歯とお口の健康を積極的に守るため、歯科医院などでの「プロケア（プロフェッショナルケア）」と、歯科医や歯科衛生士の指導に基づいた毎日の「セルフケア」の両方を習慣化させることが重要です。ライオングループでは、一人ひとりのライフスタイルや心身の健康状態に合わせて、前向きな「予防歯科習慣」の実践を後押しする商品・サービスを提供しています。さらに行政、歯科専門家、パートナー企業等と連携しながら、アジアすべての人たちに「予防歯科習慣」を広げる活動も行っております。誰もが生涯を通じて、必要な時に、いつでも予防歯科を行える機会を提供して、人々の健康増進へ貢献することを目指します。



セルフケア（自分で「予防歯科」）

自分ではきちんと歯みがきをしているつもりでも、みがき残しができてしまうものです。お口の健康を管理・維持するためには、「予防歯科」のポイントに合わせたセルフケアを毎日の習慣にすることが大切です。

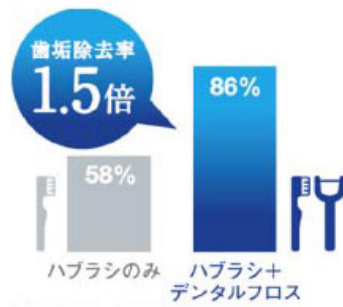
当社グループでは、お口の中に歯垢を残さないように歯みがきをすることや、自分のお口の状態を把握して「予防歯科」の意識を高める新習慣等の普及に向けて、様々な取り組みを実施しています。

デンタルフロスで歯垢除去

「予防歯科」の必要性や効果を伝えていく取り組みを行っています。セルフケアのポイントの一つに、「歯垢を残さず落とすこと」があります。歯と歯の間の歯垢は、ハブラシのみでは約6割しか落とせません。しかし、ハブラシとデンタルフロスを併用することで、歯垢除去率が1.5倍に向上します（図）。

当社は、ハブラシとデンタルフロスの併用を促進しています。小学生以上のお子様や初心者の方でも使いやすい商品を提供するとともに、デンタルフロスを使用する必要性をお伝えし、正しい使い方等の普及活動*も行っています。

図 歯垢除去率



出典：山本ほか：日歯周誌, 1975



初心者の方でも使いやすい商品
『クリニカアドバンテージ
なめらかスリムフロス』

＊ 小学生に対しては、毎年開催している「[全国小学生歯みがき大会](#)」にて、歯並びに合わせた歯のみがき方やデンタルフロスの使い方を、楽しく学べる機会を提供しています。

今後も生活習慣の改善により、健康は自分自身の行動と関連しているという意識を育て、望ましい習慣を継続することの大切さの理解浸透を図っていきます。

クリニカアドバンテージ デンタルフロス

Ⅰ 昼歯みがき促進(1日3回の歯みがき習慣)

1日3回の歯みがき習慣の定着を目指し、昼歯みがきの普及活動に取り組んでいます。国民の就業率(15歳以上人口に占める就業者の割合)は、約6割に達しています(平成30年度労働力調査 総務省統計局)。生活者の多くが職場で日中を過ごす中、オフィス等の職場で「昼食後に歯をみがいている」人は40%で、「昼も歯みがきをしたいが、できていない」人は22%いました(当社調べ)。

そこで、当社はオフィスでの使用を考慮して設計したコップ付き歯みがきセット『MIGACOT』を発売しました。一人でも多くの人が、昼歯みがきが当たり前となるよう、商品の提供とともに普及活動に取り組んでいきます。



オフィス用歯みがきセット

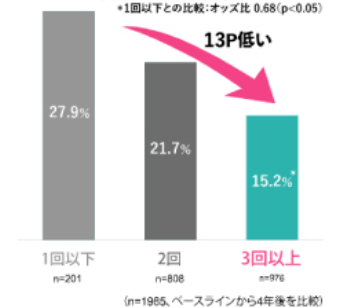
MIGACOT
ミガコット



歯みがきの回数が多い事のメリット

歯みがきの回数が多い人は、
歯周ポケット形成率が低い!

歯周ポケット形成率(%)
*1回以下との比較:オッズ比 0.68(p<0.05)



＜出典＞ 山崎洋治他:「職場成人における口腔清掃習慣と歯周ポケット形成との関連性 - 産業歯科健診情報を活用したコホート研究 -」, 口腔衛生会誌 68: 21-27, 2018.

■ ハブラシは月1回交換（毛先開きで除去力低下）

ハブラシは使い続けると毛先が開き、刷掃力が低下します。当社調べによると、ハブラシを毎月1回交換する生活者は約4割しかいません*。交換しない理由として、「まだ使える」「もったいない」や「刷掃力が低下することを知らない」等が挙げられます。

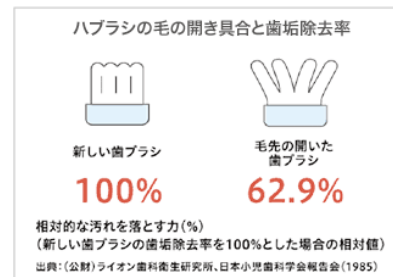
* 個人差はありますが、交換は月1回を目安とすることをおすすめしています。

2018年2月より毎月8日を「歯ブラシ交換デー*」とし、月1回の定期的なハブラシの交換を呼びかける活動を行なっています。

生活者に適切な交換時期を知っていただくため、お取引先様と連携し、店頭で毎月8日の「歯ブラシ交換デー」のPOP広告を掲示したり、歯科医院に定期的なハブラシの交換を推奨するポスターを掲示する等、月1回のハブラシ交換を推奨しています。

今後も、当社は月1回のハブラシ交換が習慣となるよう、お取引先様や歯科医院等とともに、活動を継続していきます。

* 2017年12月27日、一般社団法人日本記念日協会の認定を受け、新たな記念日として制定されています。



▶ ニュースリリース:新習慣!一人ひとりに合ったMyハミガキを始めよう毎月1日を「Myハミガキの日」と制定

使い終わったハブラシのリサイクルを推進しています。リサイクルを通じ、生活者の健康な習慣づくりと同時に、環境負荷低減にもつなげる仕組みに取り組んでいます。



ハブラシリサイクル

■ プロケア（歯科専門家による予防歯科）

歯並び等、お口の状態は一人ひとり異なります。歯の治療だけでなく、むし歯や歯周病等になる前の予防のために、歯科専門家である歯科医師や歯科衛生士に自分に合った歯みがき指導やフッ素塗布等、プロによる専門的なケアをしてもらうことが必要です。また、歯や歯ぐきの健康、お口の状態等、定期的なチェックのために、歯科医院等での健診を年に2～3回受けることが望ましく、当社では定期的なプロフェッショナルケアの受診を習慣化することを推進しています。

■ お口の健康状態の見える化（SMT）

多項目・短時間唾液検査システム「SMT(Salivary Multi Test)」は、3mLの蒸留水で洗口することで唾液を採取し、歯や歯ぐきの健康、口腔清潔度に関係する6つの項目（むし歯菌、酸性度、緩衝能、白血球、タンパク質、アンモニア）を5分間で測定することができる装置です。そのため、歯科健診等を行う際、歯科医師や歯科衛生士はその場で患者に結果をフィードバックできます。このシステムは、一定の歯科医療施設で採用され、『予防歯科』に取り組む機会を創出し、患者の予防に対する関心を高め、オーラルヘルスケア習慣の定着支援ツールとして主に活用されています。



軽く洗口し唾液を採取



試験紙と専用機器で測定



測定結果を共有

Ⅰ 歯科医院の「予防歯科」実践サポート(Lサポ)

ライオン歯科材TMにて、歯科医院向けの「予防歯科」実践をサポートする「Lサポ」を運営しています。

「Lサポ」とは、歯科医院の皆様が「予防歯科」に注力できるよう、日々の診療に役立つ情報やサービスを提供する医院登録制プログラムです。歯科医療従事者を対象とした専用サイトを設け、セミナーや動画コンテンツ等、歯科医院向けオーラルヘルスケア商品をはじめ「予防歯科」に関する知識やスキル向上を支援するコンテンツを多数提供しております。



「予防歯科」セミナーの様子



動画コンテンツ視聴の様子

ライフステージ別オーラルヘルスケア普及啓発活動

毎日のオーラルヘルスケアは、生涯の健康にもつながる大切な習慣であり、小さいころから身につけることが重要です。当社は、あらゆるライフステージにおいて、セルフケアを実践していくことが重要と考えています。生活者のライフステージに沿った普及定着のために、当社のみならず、行政・学校・病院・歯科医院等の社外団体との連携を通じて、活動を推進しています。また、当社はライオン歯科衛生研究所(LDH)*のオーラルヘルスケア普及活動を支援しています。

* LDH = The Lion Foundation for Dental Health

当社は、1964年に財団法人として設立、2010年に公益財団法人への移行認定を受けた(公財)ライオン歯科衛生研究所(LDH)のオーラルヘルスケア普及活動を、全面的に支援しています。LDHは、日本歯科医師会、大学、行政等と連携しながら3つの公益事業を通じ、生活者の歯とお口の健康を保持増進し、すべての人々の生活の質の向上に結びつけられるようオーラルヘルスケアの最前線で社会に貢献しています。

LDHの3つの公益事業(財団の概要)

Ⅰ 乳幼児

0才からの「予防歯科」の推進

当社は、「予防歯科」の習慣をできるだけ小さいころから身につけることを目指しています。

そのために、商品開発においては、0才からの「予防歯科」を実現する『クリニカ Kid's』シリーズを充実させています。1才半健診には『クリニカ Kid's ジェルハミガキ』のサンプリングを行っています。情報発信においては、親子の歯みがきの時間は「親子の絆を深める大切な時間」という考え方を広く浸透させるため、子どもの「予防歯科」を応援するWebサイト「[HA!HA!HA!パーク](#)TM」を通じて、情報を発信しています。

小学生

「全国小学生歯みがき大会」の開催

ライオングループでは、生涯にわたって人々の健康保持をサポートするため、子どもたちからの歯とお口の健康意識を育むことに重点を置いています。日本では、小学生に対して正しい歯みがき指導やオーラルヘルスケアを指導することを目的に「全国小学生歯みがき大会」を1932年から実施しています。現在では、活動の場をアジア中心に広げ、毎年「歯と口の健康週間」の時期（6月4日～10日）に合わせて開催しています。

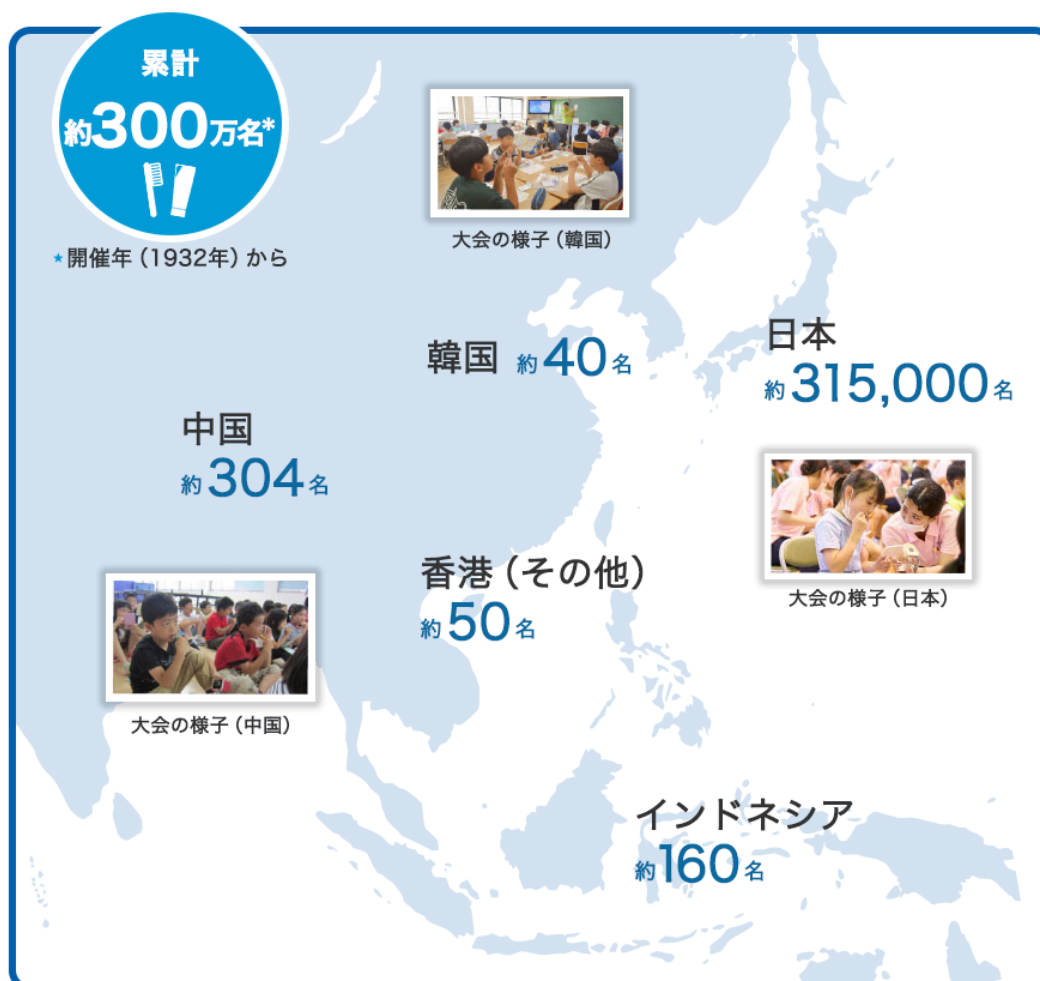
2025年に行われた第82回大会は、参加校が実施日を設定し、約40分間の大会動画（DVDまたはYou Tube）を視聴して参加する方式で実施されました。日本をはじめアジア各地の参加を合わせ、総数5,738校、約315千名の小学生が参加しました。第82回大会では「歯と自分をみがこう。」をテーマに、明海大学の安井利一先生監修のもと、「歯ぐき」を題材として、お口の状態に合わせたみがき方、デンタルフロスの使い方を学び、「予防歯科」の理解と浸透を図るとともに、生活習慣の中心にあるオーラルケアを通じて「継続する力」の大切さを学びました。

全国小学生歯みがき大会

参加人数累計：約300万名



2025年の参加人数





キッザニアでの職場体験

当社は、2006年に「キッザニア東京」、2009年に「キッザニア甲子園」、2022年に「キッザニア福岡」に、それぞれ「歯科医院」をテーマにしたパビリオンを出展しています。子どもたちの職業体験の場として、歯科医師や歯科衛生士の仕事の体験ができ、どちらも子どもたちに人気があります。

当パビリオンでは歯の大切さや、お口の健康を自分でケアすることを学び「歯科医師」「歯科衛生士」として口腔衛生等の研修を受けた後、診療台の上の患者（歯科大学での実習用フィギュア）に実際に現場で使用しているものと同じポリッシャーやバキューム等を使い、むし歯治療とフッ素塗布をして、キッザニア専用通貨の報酬を得ることができます。仕事を体験した子どもたちからは「治療するのはすごく大変だと思った。」「きちんと磨ける歯みがきの方法について学べた。」「歯垢を落として歯を守れたのが嬉しかった。」等の声も聞かれ、むし歯予防の大切さがしっかりと伝わっているようです。



キッザニア東京の
「歯科医院」パビリオン



患者にむし歯治療をする様子



キッザニア甲子園の
「歯科医院」パビリオン



研修を受ける子どもたち



キッザニア福岡の
「歯科医院」パビリオン様子



器具の持ち方・使い方を練習する様子

子どもたちへの取り組み

当社グループでは、全国小学生歯みがき大会以外にも、アジアを中心とする各国で、正しい歯みがき方法を楽しく子どもに伝えるため、幼稚園や保育園、中学校等の教育機関でオーラルヘルスケアに関する口腔保健活動を行っています。子どもたちは、歯みがき指導を通じて歯を磨くことの大切さを学んでいます。活動に当たっては、歯科医師や歯科衛生士、教職員に加え、国や行政、社外パートナーとも連携して推進しています。



日本



韓国



中国



タイ



マレーシア



インドネシア

大人への取り組み

当社グループでは、子どもたちだけでなく、行政、歯科専門家、パートナー企業等と連携しながら、妊娠期の母親や高齢者、オフィスで働く従業員や歯科医院の患者さん等、アジアのすべての人たちに「予防歯科習慣」を広げる活動も行っています。さらに、衛生上のリスクが高まる災害時のオーラルヘルスケアについても、各地の防災イベント等に参加し普及活動を行っています。日本では、普段からの備え等についてまとめた冊子を発行し、災害時の清潔・健康ケアに関する情報を提供するとともに、各地の防災イベント等に参加し普及活動を行っています。



中国



インドネシア



タイ



シンガポール



マレーシア

＞ 災害時の清潔衛生ケア

インクルーシブ・オーラルケア

歯みがき行動は、人が将来にわたって“健やかに生きる力”をひき出し、育むうえで非常に重要な習慣です。しかし、その人を取り巻く生活環境、身体、経済、教育、情報等の様々な状況により、オーラルヘルスケアに関わる知識や口腔内の健康維持には格差が生じており、十分なケアができない人がいます。当社は、この格差解消を重要な課題ととらえ、「インクルーシブ・オーラルケア」の取り組みにおいて、“おくちからだプロジェクト”を推進しています。

このプロジェクトでは、子どもの「むし歯罹患率の地域格差」「自己肯定感の低さ」に着目し、子どもたちに対する「オーラルヘルスケアの習慣の定着化」「自己肯定感の向上」を同時に実現することを目的として、インクルーシブ・オーラルケアの具体的な実践活動を進めています。

2021年からプロジェクトを開始し、「認定NPO法人 全国こども食堂センター・むすびえ」や地域のこども食堂や子どもの居場所を運営するステークホルダーと共同し、子どもたちに「歯とお口の健康」をテーマとした体験プログラムを企画・提供しています。

体験プログラムは、前向きな体験が習慣化のきっかけや自己肯定感を高められる要素となることから、楽しく遊ぶ体験・褒められる体験・他者とのコミュニケーション体験で構成し、この体験を通じて“生きる力”を育むことを目指しています。

2022年には、子どものむし歯罹患率および子どもの自己肯定感がいずれも課題とされる沖縄県において、産官学連携でプログラムの効果検証を実施しました。その結果、体験を通じて、オーラルヘルスケアの習慣化や自己肯定感の向上が促される兆しを確認しています。



「歯とお口の健康」に関する
プログラム



体験プログラム参加前後の歯垢の
付着状態の変化
＊染め出し部は歯垢の付着部分

2024年からは、食に関わる企業との連携による体験プログラムの提供や、ドラッグストアなどお客様との接点がある流通とも連携し、体験プログラム「デコ歯ブラシ作り」の工作体験を店頭イベントとして展開しています。異業種・流通など多様なステークホルダーの皆様と連携・共創して、子どもたちへの体験づくりや地域の生活者の健康な習慣づくりの接点拡大を進めています。

また本プロジェクトには、体験型サステナビリティ研修として役員・社員も参加しており、こども食堂での啓発活動などを通じて、社員一人ひとりのサステナビリティ教育にもつなげています。



食に関わる企業と協働での体験プログラムの様子



販売店と連携した活動展開



こども食堂での啓発活動を社員教育として実施

こうした取り組みを契機に、2026年には沖縄県と「こどもの多様な体験に関する連携協定」を締結しました。沖縄県が掲げる「こどもまんなか社会」の実現に向け、両者が創出する体験機会を通じて、子どもの“生きる力”と“良い習慣”の定着を目指し、「誰一人取り残さない」取り組みを推進しています。



協定締結式の様子
(右) 沖縄県 知事 玉城 デニー 氏
(左) ライオン株式会社 執行役員 竹生 昭彦



オーラルヘルスケアリーダー養成

当社は、生活者へ自分でできる「予防歯科」行動を浸透させたいと考えています。そこで、地域行政の方が主体となり「オーラルヘルスケアリーダー」として、地域住民の皆様へ全身健康につながる歯みがきに関する知識や実技についてお伝えしていただけるよう「オーラルヘルスケアリーダー養成」講習会を行っています。現在は、協定を結んでいる宮城県石巻市、香川県坂出市、東京都台東区にて活動をしています。

＞ 石巻市

＞ 坂出市



2026年1月16日
第6回台東区 歯と口の健康づくり指導者講習会「乳幼児期の歯科保健指導」実施
(対象：保育園等の職員)

法人向けウェルビーイングサポートサービス

企業の従業員様や自治体職員様に向け、「オーラルケアセミナー」や5分でお口の状態がわかる「唾液検査」等を提供しております。お口から始める健康習慣づくりのお手伝いを行い、オーラルヘルスケアの浸透に努めています。



研究・学術（「予防歯科」研究）

産学連携

少子高齢化・人口減少・資源の枯渇等、膨大化する社会課題やAI・IoTに象徴されるテクノロジーの劇的な進化等により、社会そして人々のくらしは日々大きく変化しています。当社は、これらの変化に対応し、人々のヘルスケアを支える企業になるため、「モノ」の提供のみに留まらず、お客様に新しい「価値」を提供していくことに重きを置いています。その実現のためには、行政・企業等の外部組織とのパートナーシップを強化し「オープンイノベーション」に取り組むことが鍵となります。

オーラルヘルス領域では、青森県黒石市及び国立大学法人弘前大学と、小学校を対象とした歯並びの実態を調査し、生活習慣との関係性を確認しています。また、株式会社日立製作所日立健康センターや日本アイ・ビー・エム健康保険組合とは、歯科健診の有用性を確認し、従業員の健康につながる有用なデータを取得しています。このような新たな情報を獲得し発信するとともに製品・サービス開発へ活用することで、より良い習慣づくりに向けた価値導出につなげています。

＞ ニュースリリース：ライオンが日本IBM健保の2万人の 歯科健診・健康診断・レセプトデータを解析 ～口腔ケアで従業員の生活習慣や口腔健康の改善に貢献～ [PDF](#)

＞ ニュースリリース：～歯科健診をより多くの人・企業に～日立とライオンが健康診断データを解析 歯科健診による従業員のオーラルケア行動変容が生産性向上に寄与する可能性を確認 [PDF](#)

＞ ニュースリリース：～歯科健診をより多くの人に～日立とライオンが健康診断データを解析 職域における歯科健診の導入が口腔及び全身の健康状態に寄与する可能性を確認 [PDF](#)

＞ ニュースリリース：ライオン×青森県黒石市×弘前大学の共同研究 歯並びの状態と日常の生活習慣や癖が関係する可能性を確認 [PDF](#)

ライオン学術賞

「予防歯科」の学会活動や若手研究者の育成を支援する目的で「ライオン学術賞」を2001年に創設しました。

本賞は、世界最大の歯科学会である「国際歯科研究学会（IADR）」やアジアの歯科学会である「アジア予防歯科学会（AAPD）」と国内の「日本小児歯科学会」「日本口腔衛生学会」「日本老年歯科医学会」「歯科基礎医学会」「日本歯周病学会」5歯科学会に学術賞として設置され、創造的な研究を行った研究者に対して盾と賞金を進呈しています。



ライオン学術賞



オーラルヘルスケア習慣の促進に役立つコンテンツ

- ✓ 楽しみながら実践できる予防歯科習慣づくり
- ✓ 中学生・高校生向けのオーラルヘルスケア
- ✓ 防災・災害時のオーラルヘルスケア
- ✓ オーラルヘルスケアに役立つ情報

楽しみながら実践できる予防歯科習慣づくり

子どもたちのセルフケアを育む「歯みがきソング・動画・ポスター」

小学生を中心とした子どもたちが、自分でお口の健康を守る「セルフケア」を楽しく身につけられるよう、歯みがきの順番を歌詞に取り入れたオリジナルの「歯みがきのうた」と動画、ポスターを制作しました。動画は、みがきかたやみがく順番を覚えるための「みがきかた編」と、正しいみがきかたが身についたあとも楽しく続けられる「アニメーション編」の2種類を用意しています。さらに、歯みがきの順番をひと目で理解できるポスターを併せて活用することで、子ども自身が毎日の歯みがきを自ら管理し、むし歯を予防する習慣づくりを支援しています。



え：山田義孝(吉田山田)



キャラクターデザイン：山田義孝(吉田山田)

動画(みがきかた編)

歯科衛生士が歌に合わせて、みがく順番やポイントをレクチャーします。みがきかたや順番を身につけるまで使用を推奨します。

歯みがきのうた

＜歌詞のダウンロード PDF＞

動画(アニメーション編)

楽しく見ながら歯みがきすることで習慣化につなげるアニメーションです。みがきかたが身についたら使用を推奨します。

歯みがき順番ポスター

歌詞に合った歯みがきの順番やポイントを確認できます。

ダウンロード

A1版 PDF

A3版 PDF

デジタル技術を活用した新たな予防歯科習慣づくり

子どもの成長見守りサービス『おくち育』

子どもの成長段階に合わせ、適切な歯みがき習慣づくりや、良い歯ならびの土台づくりを支援するオーラルケアプログラム『おくち育』を2023年4月より専用ECサイトにて提供しています。歯ならびの土台づくりが重要な生え変わり期の子どもの対象とした『おくち育 噛もっと!』では、『噛もっと!グミ』を毎日食べて楽しみながら噛む力を育み、月1回『噛もっと!ガム』で噛む力をチェックし、『おくち育会員サイト』で『歯ならびチェック』ができるAIアプリの3点がセットになっています。これらのコンテンツ提供を通じて、継続的な取り組みをサポートしています。



■ 歯ぐきチェックツール『HAGUKI CHECKER(ハグキチェッカー)』

「予防歯科」の意識向上を目指し、2019年より、歯ぐきチェックツール『HAGUKI CHECKER^{*1}』のサービスを開始しました。当サービスは、スマートフォンで歯と歯ぐきを含む口の中を撮影するだけで、AIが歯を1本ずつ識別し、歯1本ごとの歯ぐきの状態(下がり、くすみ、ハリ)を確認できるチェックツールです。サービスを開始後、のべ約81,110人^{*2}の方々に利用して頂いています。

口腔環境の可視化により、生活者が自分の歯ぐきの状態に関心を持つきっかけとなり、繰り返し使うことで歯ぐきの変化に早く気づく等、生活者のオーラルヘルスケア習慣を見直すきっかけを提供しています。

*1 当社が保有するデータや知見をもとに、Automagi(株)が保有するAIの画像解析技術と(株)エムティーアイのサービス開発技術を活用して開発しました。

*2 対象期間:2019年7月22日~2025年12月31日

～チェックの内容～

歯1本ごとの歯ぐきの状態について、次の3項目につき3段階での解析結果が表示されます。

- 歯ぐき下がり
- 歯ぐきのくすみ
- 歯ぐきのハリ

さらに、歯ぐきの状態の結果と合わせて、セルフケアに関する知識や方法、おすすめのオーラルヘルスケア製品を紹介します。

HAGUKI CHECKER



歯1本ごとの
歯ぐきのチェック結果

中学生・高校生向けのオーラルヘルスケア

オーラルヘルスケア習慣づくり学習コンテンツの提供と授業支援

当社は、中学生・高校生を対象に、学校の授業で先生が使用する教材として、オーラルヘルスケア習慣づくりに向けた授業コンテンツ「10代からはじめよう! お口の健康習慣 人生100年時代のオーラルケア」を作成いたしました。「むし歯(う歯)の人の割合^{*}」を年齢別にみると、小学生の頃は8歳が46.03%と最も高くなり、その後低下しますが、中学生の頃である13歳から再び増加し、17歳で44.52%になっています。中学校や高校へ進学し、勉強や部活等で忙しいなかでも、歯みがきや歯間清掃などのオーラルヘルスケアの習慣を継続的に身につけていて欲しい、という思いから本教材を用意しました。

本教材は、より多くの中学校・高校が、主体的に生徒の皆さんへオーラルヘルスケアの必要性や実践方法をお伝えいただける内容になっています。

* 出典:文部科学省「令和3年度 学校保健統計調査」



ダウンロードURL

<https://reg18.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=obnj-matekj-5d6245256e447f8f5718985ef0738b28>

冊子には授業で使える設問、オーラルケアの歴史、新習慣も紹介しています。主な対象は中学生から高校生です。先生向けの資料集、ワークシート、授業案等もありますので、あわせてご活用いただけます。資料は本教材・教職員向け資料集・歯みがきカレンダー・指導案・授業サポート資料(セリフ付き)の5つをご用意しており、無料で提供しています。上記ダウンロードURLをクリックして、手順に沿って資料を入手してください。

＊ お申し込みは学校関係者限定となります。

この教材を使用した授業の支援について、相談窓口を開設しております。教材の使い方や授業の実施方法などにお困りの先生、ぜひオーラルヘルスケア啓発窓口<oral-edu@lion.co.jp>までご連絡ください。

防災・災害時のオーラルヘルスケア

災害時は避難生活や水不足等、衛生上のリスクが高まるため、体を清潔に保ち、健康に気を付けることがとても重要になります。特に、お口の健康は全身の健康につながっており、お口のケアが不十分になると、むし歯や歯周病といったお口のトラブルだけでなく、感染症などの病気のリスクが高まります。特に高齢の方はお口の中の細菌が増えると、その細菌が原因で誤嚥性肺炎になる場合があるため、特に口のお口のケアに気を付ける必要があります。

こうした背景から、ライオンでは「防災・避難生活時の習慣づくり」を日々の生活や暮らしにおいて広めていくための普及啓発活動を行っています。

災害時で水が少ない時のお口のケア方法や、避難生活での注意事項などについてまとめた冊子「災害時のための清潔&健康ケアBOOK」を発行し、災害時の清潔・健康に関する情報を提供するとともに、各地の防災イベント等に参加し啓発活動を行っています。また、非常用持ち出し袋へ入れておく「災害時のための清潔健康セット」を配布し、もしもの時に備えてのハブラシの準備などを呼び掛けています。

> 災害時の清潔・健康ケア情報



冊子「災害時のための清潔&健康ケアBOOK」



防災イベント「台東区防災フェア」での啓発活動

オーラルヘルスケアに役立つ情報

[🔗 歯の健康基礎知識](#)

[🔗 実践しよう!予防歯科](#)

[🔗 歯とお口の健康\(Lidea\)](#)

[🔗 HA!HA!HA!パーク\(0才からの予防歯科\)](#)

[🔗 ママ、あのね。\(育児と乳歯の情報サイト\)](#)

[🔗 歯みがKids\(ずっと健康な歯へ 小学生歯みがき研究サイト\)](#)

[➤ 災害時の「お口の健康ケア」広告\(2021年3月11日読売新聞全国版朝刊に掲載\)](#)  (PDF:997KB)

清潔・衛生習慣の定着化に向けた取り組み

- ✓ 清潔・衛生 普及啓発活動
- ✓ キレイキレイ グローバルお絵描きマイボトルコンテスト
- ✓ 学生handwashingマイスター制度
- ✓ 清潔・衛生分野の「AI/IoT」に関する取り組み

清潔・衛生 普及啓発活動

ライオングループでは、様々なシーンで活用できるハンドソープや消毒剤の提供はもとより、「自分や家族」を感染症等から守るための日々の行動として、「家庭内での感染予防」を中心とした普及啓発活動を、日本を含むアジアの国や地域で展開しています。

活動にあたっては、『キレイキレイ』ブランドをもとに、生活者に寄り添って、それぞれの地域の行政や学校等、コミュニティの皆様とともにパートナーシップを取りながら、従業員が主体となってともに活動を推進しています。

幼稚園・学校などでの清潔・衛生習慣づくり

当社グループでは、清潔・衛生習慣づくりの取り組みの一環として、手洗い習慣を浸透・定着する活動を保育所・幼稚園・小学校等で行っています。手洗い体操やお話の読み聞かせ等を取り入れて、子どもたちが手洗いを習慣化する意味や手洗いの方法を楽しく学んでいます。



日本



韓国



台湾



タイ



マレーシア

食や災害時の清潔・衛生習慣づくり

当社グループでは、行政、自治体、パートナー企業等と連携しながら、公共施設や自宅外（飲食店やホテル等）での清潔・衛生に加え、衛生上のリスクが高まる妊娠期の女性や災害時の清潔・衛生等、アジアすべての人たちが健康な毎日を過ごすための清潔・衛生の基本的な習慣をしっかりと根づかせる活動も行っています。日本では、普段からの備え等についてまとめた冊子を発行し、災害時の清潔・健康ケアに関する情報を提供するとともに、各地の防災イベント等に参加し普及啓発活動を行っています。



日本



韓国



マレーシア

＞ 災害時の清潔衛生ケア

従業員参画による清潔・衛生習慣づくり

当社では、お取引先様と連携した活動や若手従業員の研修に幼稚園・保育所での手洗い習慣の普及啓発活動を組み入れ、従業員の意識向上にもつなげています。



保育園での手洗い習慣の普及啓発活動の様子（2024年）



小学校での衛生マイスターによる手洗い授業の様子（2024年）

2021年からは従業員による正しい手洗い習慣の普及啓発活動の対象を幼稚園、保育所の他、小学校にも拡大しました。授業では「自分と大切な人の健康を守る正しい手洗いを学ぼう」をテーマに「なぜ手洗いをしないといけないのか」、「ウイルスや細菌から身を守る方法はなにか」等について、参加した児童が講師とともに考えることで正しい手洗いについての理解と習慣の定着を図っています。コロナ禍では感染リスクを抑えるためにリアルとオンラインのハイブリッド型で授業を行っていましたが2022年以降はリアルでの開催にシフトしています。



出張授業（2022年）

2012～2025年の間に累計で約2,000名の従業員が手洗い習慣の普及啓発活動に参加しました。また同期間において、約50,800名の園児・生徒・教職員にこの活動に参加いただきました。

手洗い習慣普及活動 参加園児・生徒・教職員数

2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
約1,300名	約2,360名	約2,510名	約2,690名	約6,180名

地域・自治体との連携による清潔・衛生習慣づくり

当社は、東日本大震災を契機に始めた石巻市との取り組みをはじめ、全国の自治体と協働し、学校・公共施設などで清潔・衛生習慣の定着を支える活動を続けています。現地での授業やイベントを通じて、地域全体で“正しい衛生行動を身につける”環境づくりを推進しています。

全国の事業所所在地、東日本大震災の被災地であり創業者のゆかりの地でもある宮城県石巻市、『キレイキレイ』ハンドソープの生産拠点である香川県坂出市等を主な活動地域とし、幼稚園・保育所や小学校、公共施設等で手洗い習慣の普及啓発活動を行っています。特に石巻市では、2012年から東日本大震災の復興支援の一環として、市内の幼稚園・保育所で推進してきました。



坂出市における手洗い習慣の普及活動の様子



キレイキレイのまち坂出プロジェクト



東日本大震災におけるライオンの取り組み

防災イベントへの参加による普及啓発活動

各地の防災イベントや自治体主催の訓練に参加し、災害時の清潔ケアの重要性を伝える活動も行っています。避難所での衛生管理は、口腔ケアや手洗いだけでなく、感染症の拡大防止にもつながるため、現場での情報提供を通じて地域の防災力向上に貢献しています。



台東区防災フェア

キレイキレイ グローバルお絵描きマイボトルコンテスト

日本発の『キレイキレイ』は、北東・東南・南アジアで販売されています。『キレイキレイ』ハンドソープは、2005年より海外展開をはじめ、今ではLion Corporation (Singapore) Pte Ltd、Lion Corporation (Thailand) Ltd.、Southern Lion Sdn. Bhd.、Lion Corporation (Korea)、獅王日用化工(青島)有限公司、獅王(香港)有限公司、獅王家品股份有限公司で販売しています。当社グループでは、商品の提供とともに、人々の清潔・衛生意識の向上を目指し、清潔・衛生習慣の定着活動を行っています。『キレイキレイ』ブランドでは、「大切な誰かを想い、清潔・衛生行動をとる」ことで、人との触れ合いにあふれた社会を目指す」という趣旨で、毎日の手洗いがもっと楽しい習慣になるように、世界にたったひとつのオリジナルマイボトルの作製に取り組みました。2022年より、10月15日の「世界手洗いの日」*の考えに賛同し、家族で楽しみながら手洗いの習慣化につながる「キレイキレイ グローバルお絵描きマイボトルコンテスト」を実施しています。子どもたちは、自分で描いた絵を使って世界で1つのマイボトルをつくりました。アジア地域から、作品の応募をいただきました。



「キレイキレイ グローバルお絵描きマイボトルコンテスト」応募作品

2025年は7つの国と地域から、3,143件の応募がありました。これからも当社グループ丸となって、清潔・衛生習慣づくりに取り組んでいきます。

* 水と衛生の問題に取り組む国際機関や大学、企業等によって、国際衛生年の2008年に設定



『キレイキレイ』グローバルお絵描きマイボトルコンテスト



海外グループでの取り組みの様子

☑ 『キレイキレイ』グローバルお絵描きマイボトルコンテスト

☑ Kirei Kirei キレイキレイ supports Global Hand Washing Day : My Bottle Sticker Drawing Contest

学生handwashingマイスター制度

当社は、中・高・大学生を対象とした「学生 hand washing マイスター」制度を産官学連携でスタートし、若い世代が主体となって正しい衛生行動を社会へ広げる新たな仕組みづくりにも取り組んでいます。



石巻市で第1期学生 handwashing マイスター認定式(2025年)

清潔・衛生分野の「AI/IoT」に関する取り組み

☑ キレイキレイとチームラボの取り組み

☑ キレイキレイ×ソニー・エクスプローラサイエンスがワークショップを開催

☑ ライオン、博報堂アイ・スタジオとIoTデバイス「キレイキレイ“Push Connection”」を共同開発

清潔・衛生習慣の促進に役立つコンテンツ

- ✓ 楽しみながら実践できる正しい手洗い習慣づくり
- ✓ 災害時の清潔健康ケア
- ✓ プロの手指衛生管理
- ✓ 手洗い習慣の定着に役立つ情報

楽しみながら実践できる正しい手洗い習慣づくり

清潔・衛生習慣づくり(正しい手の洗い方)

ライオンは、1890年代から「洗う」文化の普及に取り組み、手洗い・消毒といった清潔・衛生習慣を社会に広げてきました。これらの習慣は、日常生活における感染症予防の基本であり、生活者の安心と健康を守るために欠かせない行動です。

正しい方法で手を洗うこと、清潔・衛生環境を整えることは、感染リスクを効果的に下げる上で重要です。当社は、教育現場や地域、職場におけるプログラム、可視化ツール、清潔・衛生管理支援などを通じて、子どもから大人まで幅広い世代に清潔・衛生習慣の定着を促しています。

また、災害時の衛生悪化による健康リスクに備え、清潔・健康ケアの情報提供や防災イベントでの普及啓発活動も行っています。さらに、学校・地域との連携や企業向けの衛生管理支援などを通じて、事業を通じた社会全体の衛生に関する理解向上への貢献に継続して取り組んでいます。

詳しくはこちらを

-  [正しい手洗い・うがい・消毒方法](#)
-  [バイ菌バリアのひみつ](#)
-  [バイ菌とたたかうプロジェクト](#)
-  [おててアラウータンたいそう](#)



災害時の清潔健康ケア

災害時は、避難所生活や水不足などにより衛生環境が悪化し、感染症や健康トラブルのリスクが高まります。当社は、こうした状況でもできる限り清潔を保ち、健康を守るための情報提供や支援活動を行っています。平常時から災害への備えを整え、いざという時にも困らない“衛生の知恵”を多くの方に届けることを目指しています。

災害時の衛生対策をまとめた冊子を配布・公開

災害時は、避難所生活や水不足等、衛生上のリスクが高まるため、体を清潔に保ち、健康に気を付けることがとても重要になります。特に、お口の健康は全身の健康につながっており、災害時にはお口の清潔・健康に留意することが大切です。

当社では、こうした災害時のお口や手の清潔・健康ケアや、普段からの備えについてまとめた冊子を発行し、災害時の清潔・健康に関する情報を提供するとともに、各地の防災イベント等に参加し普及活動を行っています。



「災害時の清潔・健康ケア」
パンフレット



「災害時のための清潔&健康ケアBOOK」

＞ 災害時の清潔・健康ケア情報のパンフレットやポスター集はこちらからダウンロードできます。

プロの手指衛生管理

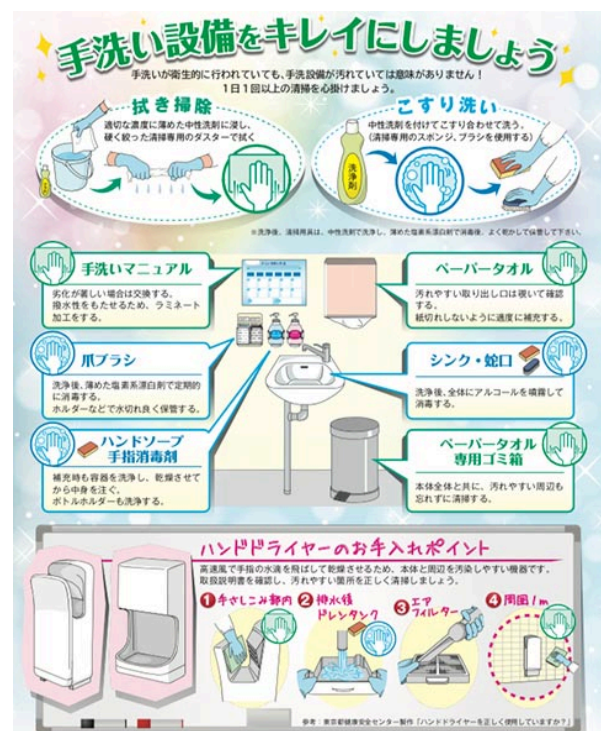
飲食店やホテル、食品工場等業種は異なっていますが、一人ひとりの生活者が安心して食事を楽しんだり、快適な時間を過ごしたりするために「お客様に最高のおもてなしで、最高の思い出を」と願う想いは、プロである飲食店やホテル等に従事する方々にとっても同じです。

ライオンハイジーンは、総合衛生管理企業として、そんなプロの想いを実現するため、科学的知見からプロユース製品や衛生診断等のサポートを通じて「清潔で安全・衛生的な環境づくり」に取り組んでいます。その中でも、食品を取り扱うプロが行う衛生管理の基本は手洗いの徹底にあります。サポートの一環として、年4回発行の「ハイジーンたより*」では手洗いの方法はもちろんのこと、手洗いのタイミングや手洗い設備の管理ポイント、その他プロが知っておくべき衛生管理情報を提供しています。

* 衛生管理情報を提供しているハイジーンたより(一例)



手洗いのタイミング
～食品取り扱い者編～



手洗い設備のチェックポイント



衛生的手洗いのポイント



感染症予防～トイレ編～

プロの手指衛生管理を支援(ライオンハイジーン)



手洗い習慣の定着に役立つ情報

- ＜ニュースリリース: 家族が感染症に罹った時、家庭内感染をしなかった家庭はより多くの感染対策を早い段階から実施していた!～「感染症の家庭内感染対策に関する生活者調査」結果概要～ [PDF](#)
- ＜ニュースリリース: 帰宅直後のウイルスの住居内感染リスクを可視化するシミュレーションモデルを開発 [PDF](#)
- ＜ニュースリリース: 自宅内で知らないうちに手に付着する菌の増殖を 石けん成分配合のハンドソープによる手洗いで抑制! [PDF](#)
- ＜ニュースリリース: 2021 年「新型コロナウイルス」に対する衛生行動意識調査と手洗い行動観察結果 「こまめな手洗い」は終息後も 6 割超が実施したいと回答 手洗い自体は不十分で洗い残しあり! [PDF](#)
- ＜ニュースリリース: 生活者の約 9 割が「帰宅後に手を洗う」と回答も、実際は手洗い前にウイルスを広げていることがシミュレーションで判明! [PDF](#)
- ＜ニュースリリース: 口腔状態の悪さと風邪の引きやすさは関連している! 20～69 歳男女 4491 名を対象とした調査研究で明らかに [PDF](#)
- ＜ニュースリリース: ～衛生習慣を“しなければいけない”から“したい”ものへ～ 街の玄関口で、外出する人の衛生行動を促す実証実験 新宿駅に「キレイの投票所」を期間限定で開所 [PDF](#)
- ＜ニュースリリース: コロナ禍での手洗い実態調査 [PDF](#)
- ＜ニュースリリース: オフィスでの感染が気になる方に! オフィスで気をつけたい場所・モノ、歯みがき時の対策をご紹介 [PDF](#)

🔗 Lidea (「手洗い・うがい・除菌等」)

人的資本・労働安全

- ✓ 基本的な考え方
- ✓ 全体像
- ✓ 従業員の健康は、人的資本を構成する重要な要素
- ✓ 2030年目標と進捗
- ✓ 取り組み

基本的な考え方

ライオングループが持続的な成長を遂げ、「Vision2030」および中期経営計画「2nd STAGE」を達成するためには、人的資本の価値向上が不可欠であり、個人の自律的な成長と組織のダイナミズムを融合させることで、企業価値の向上を目指しています。

全体像

当社は、人的資本価値の向上を重要な経営課題と位置付け、一人ひとりがいきいきと活躍できるよう、健康経営を基盤とした環境づくりに取り組んでいます。



当社は、人と組織の活力を高めることを通じた人的資本価値の向上を目指しています。その実現に向け、「ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進」、「ワークライフエンリッチメントの推進」、「人材開発」、「従業員の健康増進」、「労働安全管理体制の充実」、「労使関係」に取り組んでいます。また、これら6つの取り組み領域の共通基盤として健康経営を位置づけ、「健康管理の深化」、「健康行動の習慣化」、「ヘルスリテラシーの向上」に取り組んでいます。

従業員の健康は、人的資本を構成する重要な要素

ライオンは、「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)」というパーパス(存在意義)を掲げ、創業から今日に至るまで、口腔衛生や清潔・衛生の習慣を広めることで、人々の心と身体のヘルスケアに貢献し、事業を着実に発展させてきました。

人々に心身のヘルスケアをお届けすることを使命とする私たちにとって、それを実行する従業員の健康は不可欠かつ重要な経営基盤であり、企業価値を創出する重要な資本でもあります。

こうした考えに基づき、2012年に策定した「健康指針」では、従業員とその家族の健康を経営の重要課題ととらえるとともに、従業員一人ひとりが自己の健康管理に責任を持ち、健康行動を習慣化することを明確にしています。

その具体的な取り組みとして、「GENKI*アクション」により、従業員の健康増進を支える取り組みを推進しています。「健康管理の深化」、「健康行動の習慣化」、「ヘルスリテラシーの向上」の3つを重点投資分野と位置付け、各事業所や組織単位での施策を推進しています。具体的な成果目標として、ワークエンゲージメントの向上、アブセンティーズムの低減、予防歯科習慣の定着を掲げ、健康習慣づくりのための取り組みを展開しています。

私は健康経営推進責任者として、健康経営の推進にコミットし、従業員とその家族の健康づくりを通じた組織活力の向上に取り組んでまいります。

* Good life Enhancement for (K)今日を(1)愛する。

代表取締役 兼 副社長執行役員

健康経営推進責任者 福田 健吾



2030年目標と進捗

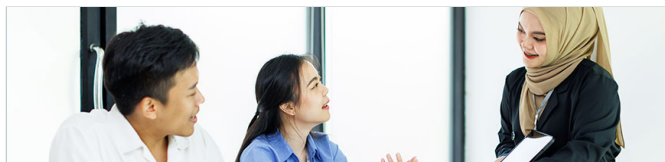
重要課題	目標（2030年）	指標（2030年）	指標の進捗（2025年実績）
ダイバーシティ、 エクイティ&イン クルージョンの 推進	多様な価値観、思考、属性を持つ 人材を登用することで、新たな価 値創出を可能とする組織づくり を目指します。	管理職に占める女性の割合⇒30% 以上	28.3%
ワークライフエ ンリッチメントの 推進	従業員一人ひとりが、ワークとラ イフの相乗作用により、人生の WILLを実現できる環境を目指し ます。	「ライフスタイルに合わせて自律的に 働く場所や時間を選んでいる」と思う 従業員の割合 「職場はお互いの仕事以外の生活を 尊重する雰囲気がある」と思う従業 員の割合⇒2設問平均80%以上	72.5%（国内）
人材開発	経営戦略の実現へ一人ひとりが 貢献するために、従業員の課題 解決力の向上を目指します。	- 多面行動能力測定における4つのコ ンピテンシー（課題設定、解決意向、 疑う力、論理的思考）に関するスコア ＊の平均値⇒管理職 76以上、非管理 職 68以上 ＊ 外部企業が提供する上司・部下・同僚に よる多面評価手法を用いた0～100で示 される発揮能力スコア	管理職 73、非管理職 63（国 内）
従業員の健康増 進	従業員の心と身体へのヘルスケア を支えることで、人材力の強化に つなげ、持続可能な企業成長を 目指します。	①国内：歯科健診の受診率⇒100% ②海外：各社予防歯科施策への参加 率⇒前年比向上 ③アブセンティーズム⇒2024年比改 善	①94% ②47.6% ③1.4%（2024年比微増）
労働安全管理体 制の充実	労働安全衛生に関する法令遵守 及び安全意識の向上が徹底さ れ、従業員及び事業所内で働く 外部パートナーが、安全、安心に 働けることを目指します。	- 安全に関する教育・研修の受講⇒事 業所・拠点における計画（100%）実 施 - 労働安全衛生に関する法令遵守 重大事故・災害件数⇒ゼロ	- 研修受講⇒計画に対して 100%実施 - 重大事故・災害件数⇒ゼロ

＊ 人的資本に関する4項目は、2025年実績より目標・指標を見直して推進しています。

[> サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標 / 2025年実績・施策
 !\[\]\(666e09182d4cd268646ea700ea60dcdf_img.jpg\)
 \(1.2MB\)](#)

[> 健康経営戦略マップ
 !\[\]\(c3d993ca47bfe2a953c700506ce31fa0_img.jpg\)
 \(304KB\)](#)

取り組み



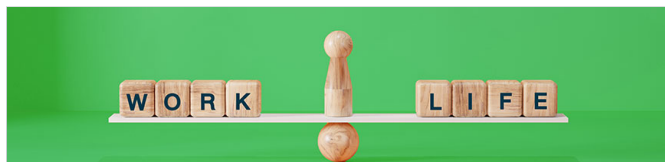
ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進



人材開発



労働安全管理体制の充実



ワークライフエンリッチメントの推進



従業員の健康増進



労使関係



ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進

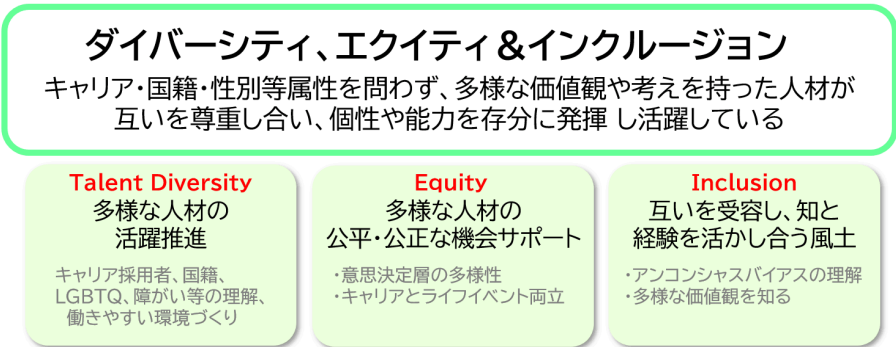
▼ 考え方 ▼ 全体像 ▼ 取り組み ▼ 人材関連データ

考え方

ライオングループでは創造的な事業活動を拡大するため、「ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進」に取り組んでいます。従業員の多様な知と経験を活かすことはパーパスの実践に直結し、人々のより良い習慣づくりに向けた新しい発想やイノベーションにつながると考えています。このため、意思決定層の多様性の向上や、国籍・性別など属性を問わず多様な価値観や考えを持った人材が、個性や能力を十分に発揮して活躍できる組織風土づくりを進めています。

全体像

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進にあたり、以下の3つを重点的に推進し、Vision2030 の実現につなげていきます。タレント・ダイバーシティは、国籍・性別・経験等から生まれる多様な価値観や考えを持った人材の採用と誰もが働きやすい環境づくりの推進、エクイティとして多様な人材の公平・公正な活躍・成長のための機会づくりをサポートしています。また、インクルージョンとしては、アンコンシャスバイアスの理解促進を通じたお互いの多様な知と経験を活かして尊重し合う風土の醸成に取り組んでいます。



より良い習慣づくりに、多様な知と経験を活かす

インクルージョンの醸成に向けては、業務や価値創造に互いを活かし合うためのスキルとしてアンコンシャスバイアスに関する研修を、社員から経営層まで各階層別に実施しています。また、ジェンダー・エクイティとして、女性を対象に、自分らしいリーダーシップを描きその実現に向けた育成研修を行い、ライフイベントとキャリアの両立に悩む層へのサポートを強化しています。

インクルージョン

互いを受容し、知と
経験を活かし合う風土

ジェンダー・エクイティ

性別の公平・公正な
機会サポート

経営	DE&I重要性、アンコンシャスバイアス勉強会	
部門長 部長	バイアスへの対応施策、 風土醸成の推進をサポート	女性リーダーズトーク 幹部候補 女性
管理職	アンコンシャスバイアス管理職研修	・社外メンタープログラム リーダー 育成対象 女性
社員・ 組織	・アンコンシャスバイアス理解 キャリア採用者オンボーディング研修 ・新入社員ファイバーシティゲーム	・エンパワーメントセミナー 社員
	キャリア・ライフ・健康の対話・相談の場	

インクルージョン浸透及びジェンダー・エクイティ実現に向けた取り組み

取り組み

女性活躍推進

企業価値向上のためには、女性の活躍が不可欠であると認識し、積極的に女性活躍推進施策に取り組んでいます。また男女間の報酬の格差縮小に向けて、家事・育児等のケアワークの責任、職務経験において、無意識の偏見が影響しないよう、従業員それぞれが学ぶ機会の提供や、公正な成長機会の提供、評価者の研修を行っています。

2020年3月より、役員における女性比率30%をめざす「30% Club Japan^{*1}」の活動趣旨に賛同し、参画しています。活動中での意見交換会等から得た他社における女性活躍施策や課題を参考に、当社の活動施策にも活かしています。その例として、2022年より女性リーダー育成や多様なキャリアアップをサポートするため、メンタープログラムやエンパワメントセミナーを実施しています。メンタープログラムは、課長職直前や課長職1年目の女性社員を対象に、社外専門家によるメンタリングを通じて自身の強みやありたい姿を明確にし、自分らしいリーダーシップの発揮とキャリアへの不安解消を支援する取り組みであり、参加者からは「自分の価値観やキャリア設計と真剣に向き合う良い機会になった」といった声が寄せられています。エンパワメントセミナーは、ライフとキャリアの両立期に直面している、またはこれからライフステージの変化を迎える女性社員に向け、キャリア構築のモチベーション維持に必要なマインドセットの醸成を目的とした研修です。自身のキャリアにおけるありたい姿を明確化し、上長とのキャリアビジョンに関する対話を促進しています。2025年度は修了者の94%が自身のキャリア構築に前向きになったと回答しました。様々な取り組みにより、ライオングループの管理職に占める女性の割合^{*2}は28.3%（2025年末）となりました。2030年に向けては、グループ全体で女性の育成・登用を推進し、管理職に占める女性労働者の割合30%以上を目指していきます。日本における、「女性活躍推進法」に基づく当社の行動計画と女性の活躍推進宣言は、厚生労働省委託事業「女性の活躍・両立支援 総合サイト」に掲載されています。



女性リーダー育成「エンパワメントセミナー」の様子

[女性活躍推進企業データベース（厚生労働省ホームページ）](#)

[女性活躍推進に関するデータ](#)

*1 2010年にイギリスで設立された「取締役会を含む重要意思決定機関に占める女性割合」を30%まで向上することを目的とした世界的キャンペーン組織の、日本支部

*2 管理的地位を担う人材で、役職的には課長以上に相当する

[その他のダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進に関する取り組みの詳細はこちら](#)  (362KB)

人材関連データ



ワークライフエンリッチメントの推進

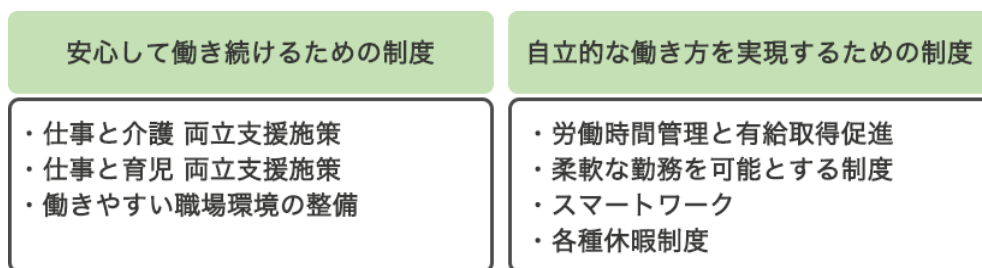
▼ 考え方 ▼ 全体像 ▼ 取り組み ▼ 人材関連データ

考え方

“ワーク”と“ライフ”が相互に作用し、双方の質を高め合う「ワークライフエンリッチメント」の考えに基づき、従業員の自律的で柔軟な働き方を支援しています。育児・介護支援やマネープラン教育など、安心して働き続けられる環境整備を通じて、生活全体の充実が仕事のパフォーマンス向上につながる好循環を創出します。

全体像

従業員一人ひとりが描く中長期的なライフプランの実現と、従業員一人ひとりが求める日々のライフスタイルの実現に向けた取り組みを行っています。



取り組み

従業員一人ひとりが安心して長期的に働き続けるには、介護・育児など人生への影響が大きいイベントに対して、人生設計の選択肢の幅を広げること、自律的な働き方の実現が必要です。

1. 仕事と介護 両立支援施策

従業員が安心して働き続けることのできる環境整備のひとつとして、介護に関わる従業員への支援を強化しています。通常の年次有給休暇のほか、介護休業365日、介護短時間勤務（ショートタイムフレックス制度）、介護休暇、医療介護積立休暇（年次有給休暇失効分の積み立て）等、介護に関する制度を整備しています。同時に、介護支援Webサイトを導入し、管理職向け、本人向けの介護セミナー動画を配信するなど、介護に関する情報提供の充実を図っています。

仕事と介護 両立支援制度

介護	介護休業365日	・ 要介護状態の対象家族1人につき、1日単位で365日まで分割取得可能（分割は法令に従い3回まで）
	介護短時間勤務（ショートタイムフレックス制度）	・ 要介護状態の場合、必要な期間、1日2時間までの短時間勤務取得可能 ・ フレックス制度の併用可能
	介護休暇	・ 要介護状態の家族が、1人の場合は年5日、2人以上の場合は年10日、時間単位で介護を目的として取得可能
	積立休暇 〔近親者の介護〕	・ 失効した年次有給休暇の積立分（上限60日）を「近親者の介護」目的で取得可能 ＊ 積立休暇はほかに「本人の医療」「ボランティア」目的で取得可能

2. 仕事と育児 両立支援施策

次世代育成支援対策推進法（次世代法）と女性活躍推進法に基づく行動計画に沿った育児関連制度の拡充と、従業員への意識啓発の結果、ライオン単体における2025年の女性従業員の育児休業取得率は97.3%＊となっています（育児介護休業法による・正社員のみ・常勤嘱託除く）。また、男性従業員についても90.2%＊と、幅広い部所で取得者が増加しています。

育児期は、モチベーションの低下やキャリア形成に迷いが生じることが懸念されます。そのため、復職後のキャリアや、復職してから育児と仕事の両立に困った時などキャリアコンサルタントに相談ができる窓口を設置しています。また、制度を正確に理解するための、上長同席の個別育児制度説明会や、スムーズに復職し、継続したキャリア形成を支援するための「復職前セミナー」および「復職前後面談」を実施しています。

さらに、育児者の活躍推進として、短時間勤務とフレックスタイム勤務を融合した新しい働き方（ショートタイムフレックス制度）も整備しています。（フレックスタイム勤務は、工場の一部の職場を除いたすべての従業員に適用しています。）

＊ 育児介護休業法による育児休業等の取得割合で算出

仕事と育児 両立支援制度

出産	産前・産後休暇	• 産前6週間、産後8週間[有給]
	特別休暇 妻の出産	• 2日間[有給(賞与支給)]
育児	出生時育児休業	• 出産予定日または出産日の遅い方から8週間以内に取得 • 最大28日 • 2回分割可能 • 初回休業*の2週間まで有給、賞与は控除
	育児休業	• 子が2歳に達するまで取得 • 1歳まで2回分割可能 • 1歳～1歳6ヵ月で1回、1歳6ヵ月～2歳で1回、夫婦で交代可能 • 初回休業*の2週間まで有給、賞与は控除
	育児短時間勤務 (ショートタイムフレックス制度)	• 子が小学校1年の年度末まで、1日2時間まで短縮可能 • フレックス制度の併用可能
	所定外労働の免除	• 小学校就学前の子を持つ社員が申請する場合、所定外労働を免除
	子の看護休暇	• 小学校3年の年度末までの子のケガや病気の看護、感染症に伴う学級閉鎖等になった場合や入園(入学)式、卒園式への参加のため時間単位で取得可能[有給] • 就学前の子が1人の場合は年5日、2人以上の場合は年10日

＊ 出生時育児休業もしくは育児休業のどちらか最初に取得する休業

 よくあるご質問: 福利厚生について

働きやすい職場環境の整備

2023年に移転した新本社では、子育て中の従業員が安心して働けるように、子供連れで仕事ができる「親子ルーム」と「マザーズルーム」を設置しています。



親子ルーム



マザーズルーム

仕事と育児の両立者の声

私は2回育児休業を取得しました。第一子の時から会社の各種サポート制度は充実していましたが、第二子の時はさらに強化されて、ママにとってとても働きやすい環境になっていると感じています。

育児休業から復職した際は、一人目の時はもちろん、二人目の時も仕事をしながら二人育児をする生活が想像できなかったもので、職場に戻ることに大きな不安がありました。しかし、そんな中で参加した復職前セミナーでは、先輩ママの体験談を聞いて両立のイメージが持てるようになったり、同じタイミングで復職するママと話すことで共に頑張ってみようと思えたり、会社の制度もどんどん整備され、復職を前向きに捉えられるようになっていました。

また、私は社内婚ですが、第二子の時はパパも育児休業を取得しました。男性も女性も関係なく会社全体が育児に対して協力的なので、気兼ねなく子育てを楽しむことができてありがたかったです。

現在はショートタイムフレックス制度、フルフレックス制度、テレワーク制度を活用していますが、それに加えて上長・同僚の理解も大きいので、臨機応変な働き方ができてとても助かっています。改めて、育児をしながら仕事をする環境として本当に恵まれていると思います。



3. 自律的な働き方を実現する支援

従業員一人ひとりが求める日々のライフスタイルを実現するためには、残業・長時間労働の削減、休暇制度を利用しやすい環境や、働く時間や場所の柔軟性を高める必要があります。

労働時間管理と有給休暇取得促進

継続的に長時間労働の削減と有給休暇の取得促進に取り組んでいます。労働時間管理に関するコンプライアンス研修（e-ラーニング）を通じて理解促進を図るとともに、有給休暇取得率80%の達成に向けた取り組みを実施しています。

場所や時間など選択できるスマートワークの推進

2015年より、働く場所を職場に限定しない在宅勤務を制度化し、柔軟な働き方を推進、従業員の多様性に対応した自律的な働き方や生産性向上を図っています。

2021年1月には、テレワーク制度・フルフレックス制度（コアタイムの撤廃・中抜け制度の新設）を制度化し、働く時間や場所の裁量を拡大、多様性に対応した自律的な働き方へシフトしました。現在、テレワーク制度の利用率は50%前後で推移しており、個人に合った最良の働き方の定着が見られ、働きがいの向上にも寄与しています。また、勤務時間を自己裁量とすることが難しい生産現場の従業員は、育児、介護のみならず家族等の送迎や通院時、学校行事など短時間の所用に対し利用可能なお助け休暇制度（時間単位で特別休暇が取得出来る制度）を活用することで、生活との両立を図りやすくし、モチベーションの向上につなげています。

テレワーク、フルフレックス時の半休と中抜けを利用したスケジュール例



スマートワーク

多様で自律的な働き方の推進とともにオフィス環境も大きく見直しました。固定席中心で日々同じメンバーでの業務推進からフリーアドレスの執務スペースや、社内外の方との打ち合わせやイベントも可能な共創エリア、ハイブリット（リアルとオンライン）に対応した会議室などにアップデートし、多様なメンバーと柔軟に繋がりながら社員のワークスタイルにあった最適な場所での勤務が可能です。



新オフィス内の様子

従業員意識行動調査

従業員一人ひとりが働きがいを持って働いている状態を目指し、従業員の意識と行動の変化を確認するため、2013年より国内グループ従業員を対象に「従業員意識行動調査」を年に一度実施しています。調査結果は、全社的な職場環境の課題の把握と改善に活用しています。一例として、役員と従業員が直接対話するオープンフォーラムや社長懇談会を実施し、風通しの良い環境づくりを推進しています。

[結果はこちら](#)

人材関連データ



人材開発

- ✓ 考え方
- ✓ 全体像
- ✓ 代表的な取り組み
- ✓ 全社共通の学びとキャリア自立を支える取り組み
- ✓ 人材関連データ

考え方

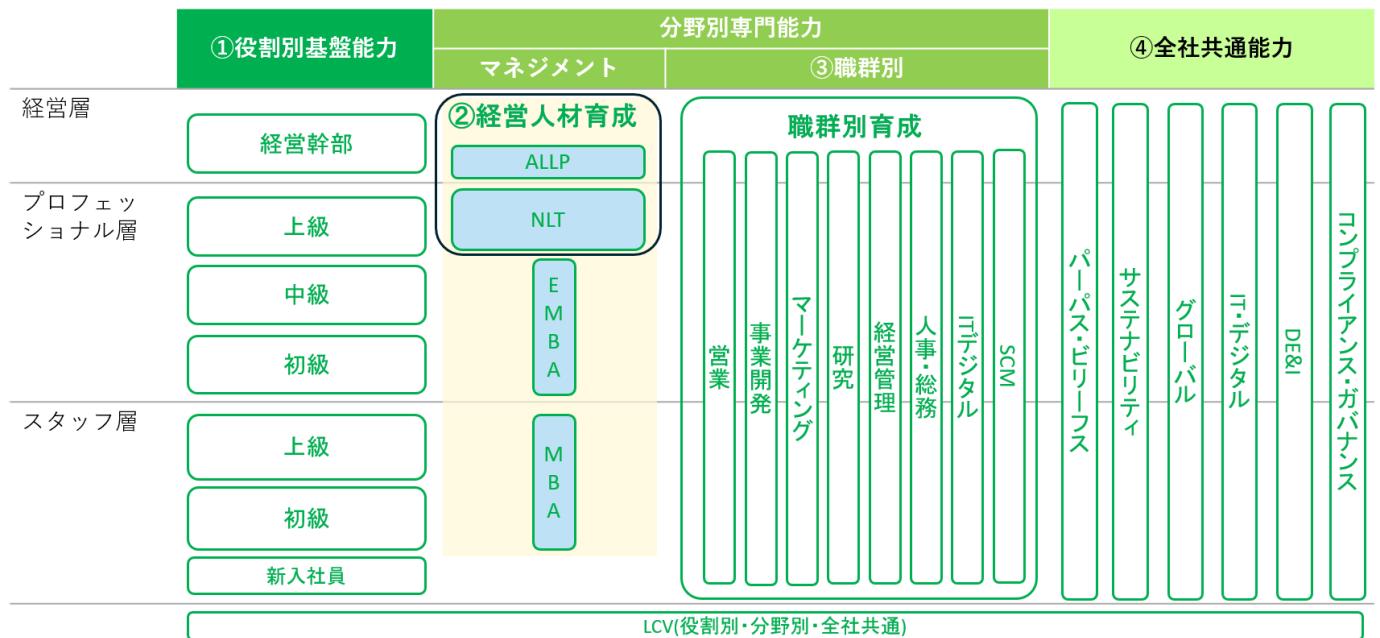
ライオングループは経営ビジョンの実現へ一人ひとりが貢献するために、従業員の知識、能力を高める多彩な学習機会を提供しています。個人の能力やキャリアの開発にとどまらず、組織全体として成果を生むためのマネジメント能力の強化や、次世代経営人材の育成に取り組み、個人と組織の両方の能力向上に取り組んでいます。あわせて、グローバルな競争環境で持続的に価値を創出するため、高い専門性を備えたプロフェッショナル人材の育成にも注力しています。

全体像

組織の中での役割に応じた成果創出力を高める「役割別基盤能力」と、個々人の専門分野ごとの知識・スキルを強化する「分野別専門能力」、ライオン社員全員に求める「全社共通能力」の3つの柱で能力開発を行っていきます。



能力開発に向けた3つの柱の関係



能力開発に向けた取り組み概要

代表的な取り組み

① 役割別基盤能力

—従業員の課題解決力の向上—

組織目標達成のために自らが担う役割を理解し、主体的に考え行動する能力開発に向け、「役割別基盤能力育成プログラム」を全社的に導入しています。管理職から非管理職まで、各層に求められる水準に合わせて成果を生み出す行動として4つのコンピテンシー「課題設定」「解決意向」「疑う力」「論理的思考」を高めるためのプログラムを展開しています。

② 経営人材育成

—Vision2030を牽引する次世代の経営人材育成—

長期視点でライオングループの未来を描き、組織全体の活力を引き出せる次世代のリーダーを選抜・育成するプログラムです。国内のみならず、海外グループ会社から集まった人材が、海外のビジネススクールでの短期研修による経営リテラシー及び経営戦略の遂行力の強化や、ライオングループの歴史の理解を深め、役員に対し経営ビジョン実現のための変革提案を行う実践的なカリキュラムにより、経営ビジョンの実現をリードする人材を育成しています。事業構想力、戦略策定・実行力、リーダーシップを重視した人材要件を定義し、2つの階層別プログラムを導入し、次世代経営人材の選抜と育成を図っています。

Vision2030、そしてその先を牽引する
国内外のリーダー人材



③ 職群別

—一人ひとりの専門性の獲得と向上—

グローバルな競争環境で価値を生み出せる、高い専門性を持ったプロフェッショナル人材の育成を目的として、職種・職能領域を束ねた「職群」ごとに組織横断的な人材育成、キャリア開発にも取り組んでいます。職群は、専門分野別に分かれ、各領域のプロフェッショナルとしての知識、スキルを高めるプログラムを展開しています。

全社共通の学びとキャリア自立を支える取り組み

内容	取り組みの詳細
ライオン・キャリアビレッジ(LCV)	動画を中心としたe-ラーニングと職群別の教授陣によるケース講義・少人数討議に分かれており、社内や社外の知見を学ぶことができる、約600コンテンツを提供しています。
キャリアデザイン・サポート	従業員一人ひとりが自身のキャリアを自らの意思と行動で創り上げていく「キャリア自律」を支援するために、「キャリアデザイン・サポート」を設置し、キャリアについての相談や社内外の情報提供、キャリアの設計や自己可能性の再発見を支援しています。また、年代別キャリアセミナーやキャリアテーマ別講演会も定期的に開催しています。
副業制度	副業申告制度により個々の従業員の社外での仕事を認めており、2020の制度開始以来、のべ350件が申告されています。社外での経験を積むことで、新たな自分を発見し、キャリアの幅を広げる選択肢を増やす機会を認めるとともに、副業で得る外部知見や人脈等を活用し、新たな価値創造にもつなげることを目指しています。

人材関連データ

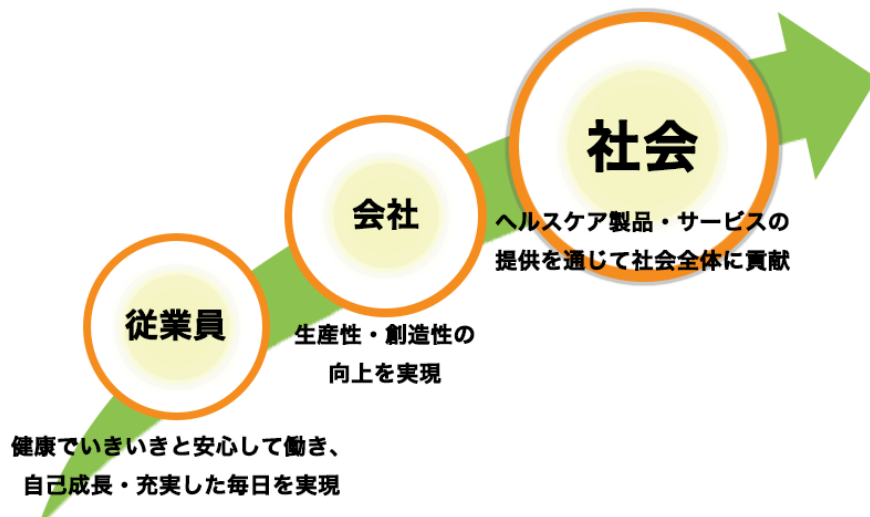


従業員の健康増進

▼ 考え方 ▼ 全体像 ▼ 推進体制 ▼ 取り組み ▼ 人材関連データ

考え方

健康な生活習慣づくりに取り組む当社において、従業員の心身の健康は欠かすことのできない大切な経営基盤の一つであるという考え方のもと、一人ひとりの「心と身体のヘルスケア」を実現するために、「健康指針」を柱に、会社・従業員・健康保険組合が一体となり、健康行動の習慣化へのサポートを行っています。



従業員の健康増進の考え方

全体像

従業員が多彩な能力を発揮できるよう、健康において自律した力を養う健康サポート“GENKI*”アクション活動を行っています。

「健康管理の深化」、「健康行動の習慣化」、「ヘルスリテラシーの向上」を3つの柱とし、予防歯科習慣の浸透、がん対策、健康管理システムの活用による生活習慣の見える化に仕組み、従業員一人ひとりの働きがいや志、モチベーションを高めることで生産性を向上し、健康経営の基盤強化を推進しています。



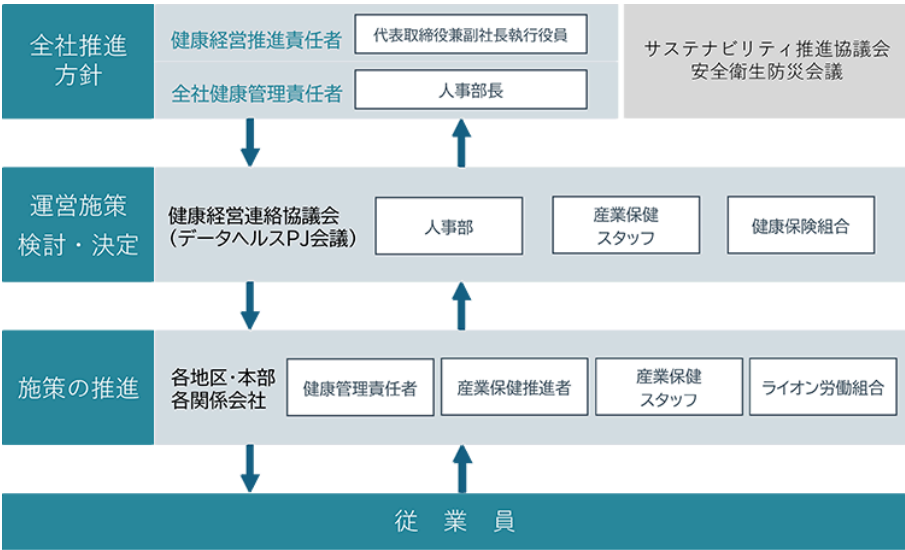
* Good life Enhancement for (K)今日を(I)愛する。



GENKIアクションの全体像

推進体制

全社健康管理責任者を中心に健康サポート室とライオン健康保険組合と連携し、健康管理を推進しています。健康サポート室は全11地区に設置され、産業医や看護職が業務を行います。各地区の健康サポート室は本社と連携し、健康保持増進施策を運営・推進します。本社健康サポート室は全社方針や計画の策定、統計の取りまとめを担当します。当社は従業員の健康管理を組織的にを行い、活力ある会社を目指しています。



取り組み

健康サポート“GENKI”アクション活動として、健康管理システム“GENKINABI”の活用や進化、予防歯科習慣の浸透、がん対策及び禁煙への取り組み強化を重点施策と位置づけ、生活習慣の見える化や情報発信に注力しています。これら施策に対する投資額は1,200万円でした。(2025年度)

1. 健康管理システム“GENKINABI”の活用

健康管理システム“GENKINABI”は、「見える化」、「セルフチェック」、「楽しい健康づくり」をコンセプトに開発され、PCやスマートフォンからアクセス可能です。従業員の「健康行動の習慣化」と「ヘルスリテラシーの向上」を目指し、2022年4月18日からは、健診データを元に「将来の健康リスク」見える化する機能を追加しました。この機能により、保健指導で生活習慣の振り返りや行動変容の動機づけできるように設計されています。



2. 予防歯科*習慣の浸透

次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーとして、従業員が予防歯科習慣を身につける取り組みに注力しています。下記に示す取り組みによって、2025年の従業員の歯科健診受診率は94%に達し、予防歯科習慣が着実に浸透しています。

* むし歯等になってから治療するのではなく、なる前の「予防」を大切にする考え方。歯科医院等でのプロケアの実施と毎日のセルフケアの両方を継続して実践すること

セルフケアの質の向上 (ALOHA活動)

当社では、1970年代から継続して予防歯科の活動を実施してきました。2002年からは健康保険組合とライオン歯科衛生研究所(LDH)と連携し、従業員の口腔保健管理を中心に行う「ALOHA」活動を開始しています。現在はPDCAを回しながら「ALOHA VIII」として長期に渡って継続しています。従業員の昼食後の歯みがき実施者率は、2002年には53%でしたが、2025年には78%へと増加し、4mm以上の歯周ポケットがある歯周病の有病者は、33%から27%へ減少するなど、セルフケア習慣の質が向上しています。

ALOHA VIII
(All Lion Oral Health Activity)

口腔保健管理

- ・歯科健診時、チェアサイドでの保健指導
- ・反復嚥下テスト(RSST)実施による口腔機能の把握
- ・口腔状態ハイリスク者への受診勧奨

自己管理能力の向上

- ・歯間清掃用具利用促進(グッズ配布と動画の配信)
- ・社内施策に合わせた情報発信
- ・従業員へのオーラルケア教育(動画の配信)

ALOHA VIIIの概要

プロケア受診の促進

従業員が予防歯科を実践しやすくするため、プロケア受診の奨励金キャンペーンを定期的に期間限定で展開しています。プロケアの重要性を伝えつつ、参加者にはリモート背景画像を配布しています。これらの取り組みにより、「受診したくなる」環境づくりを目指しています。その結果、2002年のプロケア受診率は10%でしたが、2025年には70%へと受診率が増加しています。

3. がん対策の強化

2021年より精度の高いがん検診の費用補助制度を導入し、従業員のがんリテラシー向上セミナーを開催しています。2024年からは、40歳以降の節目年齢での、健康保険組合による受診費用補助制度も開始しています。これらの取り組みにより、当社は令和4年度から3年連続でがん対策推進優良企業として表彰されました。

	40歳	41歳~49歳	50歳	51歳~59歳	60歳	61歳~
①B・C型肝炎検査	●					
②胃がんリスク検査	●					
③胃内視鏡検査			●		●	
④大腸内視鏡検査	●		●		●	
⑤肺CT検査			●		●	
⑥二次検診費用補助 対象：肺・胃・大腸・子宮・乳・前立腺 (県境保険組合)	→					

がん対策に向けた取り組み

4. 禁煙への取り組み強化

職場における受動喫煙防止策として、喫煙者へ禁煙支援と環境整備を推進しました。環境整備では、2020年1月より就業時間内の禁煙、同年4月より建屋内の禁煙をルール化しました。また、2022年より健康保険組合は、禁煙外来受診費用の補助制度を開始するなど禁煙への取り組みを継続して行っています。

5. その他の取り組み

＞ その他の従業員の健康増進に関する取り組みの詳細はこちら  (396KB)

法人向けウェルビーイングサポートサービス

企業の従業員様や自治体職員様に向け、「オーラルケアセミナー」や5分でお口の状態がわかる「唾液検査」等を提供しております。お口から始める健康習慣づくりのお手伝いを行い、オーラルヘルスケアの浸透に努めています。



人材関連データ



労働安全管理体制の充実

- ✓ 基本理念と方針 ✓ マネジメントシステム ✓ 推進体制 ✓ 災害・事故発生実績
- ✓ 災害・事故防止への取り組み ✓ 自然災害防災(緊急事態への対応) ✓ 教育・啓発活動
- ✓ グローバルでの取り組み

基本理念と方針

ライオングループは、働くすべての人の安全と健康を確保し、快適で働きやすい職場環境を確立するというグループ全体の取り組み姿勢を明確にするため、「安全は何事にも優先する」という共有の基本理念のもと「AL(オールライオン)安全衛生防災方針」を制定し、安全衛生防災活動を推進しています。



マネジメントシステム

当社グループでは、労働安全衛生管理体制の強化に取り組んでいます。国内グループ(当社および国内関係会社)では、厚生労働省の指針に基づく「労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)*」に「防災」を付加したシステムのもと、危険性および有害性の低減、作業環境の維持・改善を進め、安全・安心な職場環境と体制づくりに取り組んでいます。

* Occupational Safety and Health Management System の頭文字。安全衛生活動を組織的かつ体系的に運用管理するための仕組み。

推進体制

当社グループでは、グループ全体のリスク管理体制のもと、取締役執行役員を議長とする「安全衛生防災会議」を設置しています。同会議において、労働環境の整備、健康障害の防止、メンタルヘルスの維持・促進を含む労働安全、設備安全および防災の確保等についての施策立案と審議を行い、全社の安全水準・衛生水準・防災水準の強化を図っています。加えて、安全衛生防災に関する管理機能を担う専任部署を設置し、組織横断的な推進体制を強化することで、リスクの低減に向けた取り組みを継続的に推進しています。

国内グループにおいては、労働安全衛生法に基づき組織された「安全衛生防災委員会」が主体となり、各事業所内で働くすべての従業員の意見を反映させ、事業所特有の問題を含めたリスク把握と改善に取り組んでいます。

海外グループに対しても、当社から「AL(オールライオン)安全理念」の共有をはじめ、安全衛生防災活動の支援を積極的に行うことで、グローバルで一貫した安全文化の醸成と水準の向上に取り組んでいます。

災害・事故発生実績

2025年におけるグループ全体の業務上災害および設備事故に起因する重大労働災害*1は発生しませんでした。

グループ全体の業務上災害や設備事故による重大労働災害*1(人)

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
グループ全体	0名	0名	0名	0名	0名
日本	0名	0名	0名	0名	0名
海外	—	—	—	—	0名*2

*1 重大労働災害(重大災害)とは、死亡、高度障害(労災保険法の障害等級表に基づく7等級以上)、1事故3人以上の死傷病災害

*2 2025年より労働災害集計対象範囲に海外関係会社(Employees、Contractors)を追加し、グループ全体に拡大

2025年におけるグループ全体の業務上災害による休業度数率は1.02*2となりました。
国内グループにおいては、休業度数率0.23、全災害度数率2.25、強度率0.00となり、いずれも前年から改善しました。
海外グループにおいては、休業度数率1.39、全災害度数率1.82、強度率0.01となりました。傾向としては、Contractorsの被災率が高い結果となりました。

グループ全体の業務上災害発生状況*2

項目	指標	対象	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
			実績	実績	実績	実績	実績
労働災害	休業度数率*3	グループ全体(社員+派遣社員)	—	—	—	—	1.02*2
		内訳					
		国内(社員+派遣社員)	—	—	—	0.66	0.23
		オフィス	—	—	—	0.00	0.00
		研究所	0.00	0.00	0.67	0.67	0.00
		工場	0.92	0.96	0.66	1.69	0.71
		海外(Employees+Contractors)	—	—	—	—	1.39*2
		Employees	—	—	—	—	0.62*2
		Contractors	—	—	—	—	3.09*2
	参考：厚生労働省労働災害動向調査 化学工業		1.07	1.16	1.04	1.23	算出中
	全災害度数率*4	グループ全体(社員+派遣社員)	—	—	—	—	1.96*2
		内訳					
		国内(社員+派遣社員)	—	—	—	3.20	2.25
		オフィス	—	—	—	1.95	0.89
		研究所	1.54	0.00	2.69	2.02	2.60
		工場	3.07	3.52	6.15	5.73	4.24
		海外(Employees+Contractors)	—	—	—	—	1.82*2
		Employees	—	—	—	—	0.93*2
		Contractors	—	—	—	—	3.78*2
	強度率*5	グループ全体(社員+派遣社員)	—	—	—	—	0.01*2
		内訳					
		国内(社員+派遣社員)	—	—	—	0.01	0.00
		オフィス	—	—	—	0.00	0.00
		研究所	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00
		工場	0.01	0.06	0.02	0.02	0.00
		海外(Employees+Contractors)	—	—	—	—	0.01*2
		Employees	—	—	—	—	0.01*2
		Contractors	—	—	—	—	0.02*2
	参考：厚生労働省労働災害動向調査 化学工業		0.02	0.06	0.03	0.04	算出中
営業車両事故	人身事故(件)	日本	0	0	1	2	0

*3 休業度数率＝休業災害(死亡、休業災害1日以上及び身体の一部又は機能を失った被災者数)／延労働時間数×百万時間

*4 全災害度数率＝全災害(不休災害を含むすべての被災者数)／延労働時間数×百万時間

*5 強度率＝損失日数／延労働時間数×千時間

2025年における国内グループ生産工場の設備事故(異常現象^{*6})の発生件数は、0件でした。

設備事故(異常現象^{*6})発生状況(件)

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
ライオン	1	0	1	0	0
国内関係会社	0	1	2	0	0

^{*6} 火災、爆発、漏洩など設備、機械が主たる原因で、行政(消防、労基署、警察等)が関与し、当該行政機関に事故に関する下記の内容に該当する文書を提出し、かつ行政処分命令(操業を停止しなければならない場合)等

災害・事故防止への取り組み

トップ安全監査

国内グループ生産工場に対しては、安全衛生防災会議議長を責任者とする安全監査を計画的に実施しています。現地において、安全衛生防災活動の運用状況や安全管理体制、安全衛生防災水準が適切に維持・向上されているかどうかを、客観的な立場から検証し、工場における事故・災害リスクの低減を図っています。2025年には、3工場^{*}を対象に「トップ安全監査」を実施しました。

^{*} 千葉工場、小田原工場、明石工場



安全衛生防災会議議長による千葉工場「トップ安全監査」の様子(2025年)

労働安全

国内グループで発生した労働災害は、「安全衛生防災会議事務局」から災害速報として全従業員へ発信しています。これにより、各事業所で類似災害の発生リスクを再確認するとともに、従業員一人ひとりへの注意喚起を徹底し、労働災害の未然防止につなげています。

近年、毎年「転倒」災害が最も多く発生している傾向が見られることから、国内グループ全体で「転倒」災害防止施策(オールライオン転倒災害防止アクション)を推進しました。この施策の一環として、「正興ITソリューション株式会社」および当社ラグビー部「ファンクス」と共同で取り組んだ、身体機能評価アプリ「KOKEN」を活用した「革新的アプローチで挑む転倒リスク低減策」が、厚生労働省主催の2025年度SAFEコンソーシアムアワードの「企業等間連携部門」において評価され、ブロンズ賞を受賞しました。



各事業所の転倒災害防止アクション施策の様子（2025年）

今日を愛する。
LION

革新的アプローチで挑む転倒リスク低減策
ライオン×ラグビー部ファンクス×正興ITソリューション連携施策

事業名	ライオン株式会社
業種・業態	製造業
従業員数	7,654名(連結)
地域	全国

背景（課題・ニーズ）

昨年、業務上災害と通勤災害を合わせると転倒災害が9人と最多となり、**労働災害全体の2.6%**を占めました。特徴としては、昨年の転倒災害では、9人中5人**(56%)の方が休業災害**となっており、重症化しやすい災害となっていることを受け、転倒災害防止アクション施策のKOKENアプリの体力測定を通して、現在の**個人の身体機能を把握し、運動の推進などによる身体機能の改善**に繋げていくことを目指しています。

取り組んだプロジェクト内容

1) 身体機能評価アプリ(KOKEN)アプリを普及
●アプリは出勤検閲に導入
●集団や個人、好きな場所やタイミングで測定可能であることを周知
●測定結果を、すぐに自身のアプリで確認可能
●管理画面で**要注意リスク者を抽出**し、改善指導のアプローチが可能
●個人や組織の**測定結果を集計し、傾向を把握**することができる

2) 測定結果の改善に有効なGENKIトレーニング動画の作成と配信
●6種類のトレーニングを選手が**実演**
●毎日15分間のメニューを2つに絞り、**リスク者へ取組みを推奨**した

やってみての効果

700人以上が登録し、測定したところ、**転倒リスクのある従業員が約8割に上ることが判明した。**従業員の意識向上と高リスク者の状況を把握することで、改善策の強化とその効果検証が重要な課題であると再認識した。

今後の目標や展望

より多くの従業員に測定を実施してもらい、全社の状況把握を推進するとともに、前に進んだ高リスク者へのトレーニング実施機会を充実し、**効果検証を繰り返し、高リスク者の低減**につなげていきたい。

厚生労働省主催SAFEコンソーシアムアワード受賞施策（2025年）

厚生労働省主催SAFEコンソーシアムアワード受賞施策（2025年）

設備安全

国内グループの生産工場では、設備事故発生時の調査結果に基づき、類似設備・類似箇所に対する改善を計画的に実施しています。近年の設備漏洩事故の教訓を踏まえ、全生産工場において、危険物屋外タンクおよび防油堤の点検を実施するとともに、設備保全計画の見直しを行いました。さらに、設備老朽化による漏洩リスクを早期に把握するため、新たに非破壊検査方法(中性子水分計を用いた保温材被覆配管点検)を導入し、配管腐食の早期発見に努めています。今後も変更管理*プロセスの運用を一層強化し、中長期的な視点で設備安全技術力の向上および事故リスクの低減に継続して取り組んでいきます。

* 設備面及び運転条件などの変更にとまなうリスクを防止するマネジメント活動

保安防災

国内グループ生産工場では、大規模災害の発生を想定した防災訓練を、各地域の公設消防隊との合同で実施しています。これにより、有事の際の初動対応力の向上に加え、地域の防災関係機関との連携強化を図り、地域社会と一体となった防災体制の構築に積極的に取り組んでいます。



千葉工場公設消防合同防災訓練の様子（2025年）

自然災害防災（緊急事態への対応）

国内グループでは、想定される緊急事態を類型化し、それぞれに対応するマニュアルを整備することで、万一の事態に備えています。特に「大規模地震」や「線状降水帯による大雨」など激甚化する各種自然災害をコーポレートリスクと位置づけ、災害の規模・被害状況に応じた対応内容・行動基準を詳細に定めた事業所ごとの防災訓練に加え、全社合同による防災訓練を実施し、リスク低減に向けた活動を推進しています。

また、多様化する働き方に対応するため、リアルとリモートを融合させた災害対策体制を構築し、大規模自然災害への備えを強化しています。今後も、自然災害の多発化・激甚化や働き方・就業スタイルのさらなる多様化を見据え、災害対応体制の一層の高度化を図るとともに、安否確認訓練や救命講習の受講などを通じて、従業員一人ひとりの緊急事態対応力の向上と、地域貢献につながる防災活動の強化を継続していきます。



防災訓練（蔵前本社）

教育・啓発活動

安全教育

労働災害発生防止のためには、安全管理体制及び労働安全意識の強化が重要です。国内グループは、「安全e-ラーニング」を活用した安全意識教育と事業所ごとの安全教育を計画的に実施しています。2025年は、各部所での安全教育、研修の実施率は100％であり、受講率は98.3％となりました。

安全e-ラーニング受講結果

	2024年	2025年
対象者	4,256名	4,134名
受講率	97.3%	98.3%

安全啓発活動（ライオン安全の日）

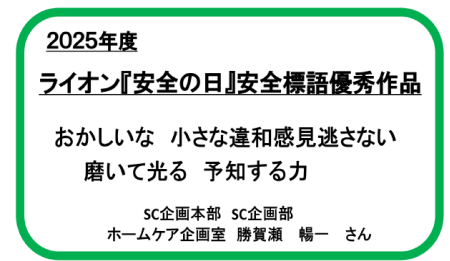
国内グループでは、毎年6月26日を「ライオン『安全の日』」と定め、34年間にわたり全社的な安全啓発活動を継続しています。当日は、社長および安全衛生防災会議議長が生産工場に赴き、全社朝礼において社長による安全メッセージおよび議長による安全講話をライブ配信し、全従業員が安全の重要性を再認識する機会としています。また、「ライオン『安全の日』」に合わせて、従業員を対象とした「安全標語」「安全意識調査」など、様々な安全意識向上施策を展開し、安全文化の浸透と定着を図っています。



社長からの『ライオン「安全の日」』
メッセージライブ配信（2025年）



『ライオン「安全の日」』安全祈願（2025年）



2025年度ライオン「安全の日」安全標語

グローバルでの取り組み

当社は、海外グループに対して状況に応じた支援を継続的に行い、安全・衛生・防災体制の強化に努めています。2025年は、Lion Corporation (Thailand) Ltd.（タイ）の生産工場を対象に、厚生労働省助成対象事業である「アジア安全衛生SAKURAプロジェクト」の制度を活用し、外部機関による安全指導の実施を支援しました。



Lion Corporation (Thailand) Ltd.（タイ）でのSAKURAプロジェクトの様子（2025年）

労使関係

- ✓ 良好な労使関係のために
- ✓ 労働組合
- ✓ 労使関係データ

良好な労使関係のために

考え方

ライオンは、相互の理解と信頼に基づく健全な労使関係の推進と、会社ならびに労働組合の社会的使命と責任の自覚のもとで、**ライオン企業行動憲章**を遵守し、相協力して社業の発展と組合員の労働条件の維持向上を図ることを目的として、労働組合と労働協約を締結しています。

その中で、会社は組合員の正当な組合活動の自由を認め、これを理由として不利益な取り扱いをしないことや、会社と組合は、対等な立場で協議するために、労使協議会を設け、定期開催することを定めています。

当社ではユニオン・ショップ制*を採用し、労使協議会での経営状況の報告や職場環境についての意見交換等労使で積極的に活動し、健全な労使関係の維持・向上に努めています。また、海外グループ会社においても、労使協議会等を通じて、よりよい職場環境の実現に向けて従業員と経営のコミュニケーションを積極的に図り、健全な労使関係の構築・維持に努めています。

* 労働者が会社に雇用された際に、特定の労働組合の組合員になることが条件である労働協約。

労働組合

考え方

当社の労働組合は、組合員の幸せを追求することを使命とし、労働環境と生活の質の維持・改善や安心できる未来のために一人ひとりの自律的成長に貢献したいと考えています。また、当組合の活動を通じて、組合員の働きがい向上をさせることで、会社の発展と成長にも貢献していきたいと考えています。使命と活動理念の実現に向けて、労働組合中期VISIONを掲げて取り組んでいます。



推進体制

労働組合、会社ともに目指す目標は同じく、「従業員の幸せ実現」と「社業の発展」です。互いの目標を実現させるべく、協力や議論を行っています。(図1)

労働組合は、中央執行委員で構成される本部、11支部の組合員により構成されています。(図2)

本部では中央執行委員会を年間で約20回、中央労使協議会を隔月実施し、また各支部においても支部執行委員会、地区労使協議会を毎月実施する等、雇用賃金労働条件等の労使交渉だけでなく、組合員の幸せを追求するため、労使協調して、よりよい会社をつくるべく活動を行っています。

また、労働組合としての最高決議機関である組合大会では、代議員制ではなく、組合員全員投票制を敷いています。労働組合の総意として審議を行い、組合員の声を会社に届けています。



図1 労使協調

発足	1980年8月～ 法人登記は、81年3月3日	組合員 2,072名 (26年1月1日現在)
組合員数	2,072名 (26年 1月 1日現在)	支部 職場委員 約180名
支部数	全国11支部	支部執行委員 約80名
最高決議機関	中央組合大会 (全員投票制)	本部 中央執行委員 21名 (専従者含む)
最高執行機関	中央執行委員会	

図2 労働組合組織体制

取り組み

2025年8月より、労働組合が『目指す幸せのカタチ』として組合VISIONを刷新しました。個人が自らの意思で生き方を描く時代へと変化する中で、組合員一人ひとりの主体性を引き出す新たな目指す姿として、組合 VISION2030「自分らしく、彩り豊かな人生を」を策定しました。これは、組合員が自らの幸福に目を向け、生き方を自律的に描きながら前向きに生きることを目指す組織の羅針盤となります。

【自分らしく】

組合員一人ひとりが、自己理解を深め、それぞれの好きや興味を追い求め、誰かと比べるのではなく、内発的な動機付けで主体的に活動している状態

【彩り豊かな】

多様な価値観を承認し合い、一人ひとりが尊重される環境の中で、仕事だけでなく、家族、趣味など多様な時間の使い方や選択肢を持っている状態

【人生を】

日々の浮き沈みに左右されることなく、価値観に根ざした持続的な幸福で満たされている状態

“一人ひとりが、自分らしい「幸せの形」を思い描けるように”との思いを込めました。

それを実現するアクションとして3つのCを設定しました。

『Cross』

出会いや対話、情報の伝播を通じて新たな気付きや変化を生み出す

『Cultivate』

組合員一人ひとりが自分を知り、目指す姿に一步步近づいていく

『Condition』

変化する環境や役割の中で健やかに暮らしていくためのベースを整える

これらの組合員一人ひとりの活動を組合執行部として促進支援しています。



労使関係データ

指標	対象	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
労働組合、労使協議会等、従業員と経営が協議する仕組みがある法人割合(%)	ライオングループ全体	86.4%	86.4%	86.4%	86.4%	86.4%
上記加入従業員比率(%)	単体＋出向者	77.9%	65.9%	62.6%	60.6%	59.9%
	ライオングループ全体	75.1%	72.9%	71.3%	70.5%	80.6%

今後もより良い労使関係構築に向けて、取り組みを進めます。

人権の尊重

▼ 基本的な考え方 ▼ ライオン人権方針 ▼ 推進体制 ▼ 2030年目標と進捗 ▼ 取り組み

基本的な考え方

ライオングループは、パーパス「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)」に基づき様々な施策を実施しています。その一つとして、「[ライオン企業行動憲章](#)」において、「人権の尊重、全ての法律、国際ルール及びその精神の遵守」を定め、「[行動指針](#)」においては、児童労働や強制労働を認めないこと、機会均等な雇用と就業者に対する公正な処遇を行うことや、購入先における人権についても示しています。

また、世界の全ての人々の基本的人権について規定した「国際人権章典」(世界人権宣言、経済的・社会的及び文化的権利に関する国際規約、市民的及び政治的権利に関する国際規約)、「国連グローバル・コンパクトの10原則」、「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」、「子どもの権利とビジネス原則」をはじめとする人権に関する国際規範を支持し尊重することを表明しています。

人権は、人が生き、幸福と生活の向上を追求する上で欠くことのできないものです。当社グループは、人種、宗教、性別、性的指向、年齢、国籍、障がい等の多様性を認め、あらゆる人権を尊重することが企業の責任であり、事業基盤を強めると認識しています。

ライオン人権方針

2019年に人権侵害に対する当社グループの姿勢やグローバルでの取り組み姿勢等をより明確にするため、「[ビジネスと人権に関する指導原則](#)」に基づき、「[ライオン人権方針](#)」を制定し、その後も人権の取り組みを強化するため人権方針の定期的な見直しを行っています。

2023年にはビジネスと人権を取り巻く社会情勢や当社グループの人権デューディリジェンス*推進状況等を踏まえ、人権方針に必要な要素を精査し、取締役会での承認を経て人権方針を改定しました。

改定内容は、人権の尊重のマネジメントシステム(人権デューディリジェンス)、救済(内部通報制度)等に関してより詳細に明記しており、事業を展開する国や地域の言語に翻訳し、当社及び各関係会社のホームページ等を通して当社グループの事業活動に関わるステークホルダーへ開示しています。

人権方針は、当社グループのすべての役員と従業員に適用されるとともに、当社グループのビジネスパートナー及びサプライヤーに対しても、本方針が支持・尊重されるように求めています。また、国際的に認められた人権と各国や地域の法令の間に矛盾がある場合は、国際的に認められた人権の原則を尊重するための方法を追求することを示しています。

* 企業が人権を侵害するのを避け、侵害による被害者を救済するためにとるべき手段のこと

推進体制

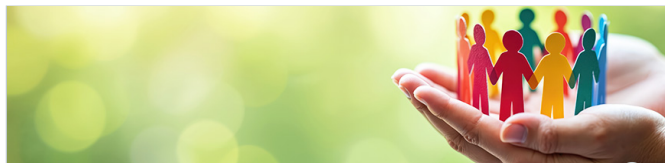
人権の取り組みに関しては、関連する部門の責任者で構成される人権に係る検討会にて議論し、必要に応じて執行役員会への報告、経営執行会議・取締役会に付議・上程して推進しています。

2030年目標と進捗

目標(2030年)	指標(2030年)	指標の進捗(2025年実績)
「ライオン人権方針」に沿って、事業活動によって影響を受けるすべてのステークホルダーの人権を尊重します。	• 重要な人権問題に対する人権デューディリジェンスの対応実施率 ⇒100%	• 人権デューディリジェンス対応実施率 ライオングループ:100% サプライヤー:95%

＞ サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標 / 2025年実績・施策  (1.2MB)

取り組み



人権デューディリジェンスの推進



バリューチェーン上における人権侵害防止の取り組み



人権デューディリジェンスの推進

- ✓ 人権デューディリジェンス ✓ 人権に対する影響評価 ✓ 防止・軽減、是正策の実施
- ✓ モニタリングの実施 ✓ コミュニケーション ✓ 海外グループ会社における取り組み

人権デューディリジェンス

ライオングループは、事業活動を通じて引き起こす、または助長する、あるいは製品やサービスと直接結びつく人権への負の影響を特定、防止・軽減し、どのように対処するかということに責任を持つために、部所横断的組織である人権に係る検討会を主体として、自社従業員、派遣社員、ビジネスパートナー、サプライヤー、コミュニティ、消費者・生活者、人権に関連する外部有識者や団体等自社の事業に関わるステークホルダーとの対話を行いながら、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき、以下のプロセスで人権デューディリジェンス*を推進しています。

当社グループの事業活動や社会情勢、人権を取り巻く環境の変化に伴い、人権リスクが変わりうることを認識し、人権に対する影響評価を含めた人権デューディリジェンスのPDCAを実践しながら、取り組みの高度化を図っています。



* 企業が人権を侵害するのを避け、侵害による被害者を救済するためにとるべき手段のこと

人権に対する影響評価

当社グループの事業活動で想定される人権リスクの概要

当社グループは、日用品の開発、製造、販売を主な事業としています。日用品の中でも、特に衣類用洗剤等、洗浄に関わる製品を多く扱っています。これらの洗浄成分である界面活性剤は、植物原料であるパーム油・パーム核油の誘導体を素原料として使用しています。不適切な農園経営による、健康や安全への配慮が乏しい劣悪な労働環境や、低賃金、移民労働者の不当な扱い、児童労働等、社会的公正を欠くさまざまな人権・労働問題があることを、人権に関する国際的な組織やSedexが提供するデータ等から人権リスクに特定しています。

また、日用品の個装及び移送のための段ボール等には包装材料として多くの紙・パルプを使用しており、不十分な森林管理等に起因する環境に関連する人権リスクが想定されます。

製造プロセスにおいては、多くの原材料メーカーや生産委託先の協力を得ています。人権を含めた持続的な調達に関する取り組みが十分ではないサプライヤーとの取引による人権リスクが顕在化した場合には、製品供給や当社グループのレピュテーションリスクにつながる可能性があります。

また、企画、調達、研究、生産、販売、管理等、自社のバリューチェーンでも従業員や派遣社員、ビジネスパートナー等の過重・長時間労働や、人種や性別による差別やハラスメントの人権リスクを引き起こす、または助長することも起こり得ます。製品販売だけでなくサービス等へ事業を拡張する際には、生活者・消費者との接点が拡大することから、個人情報の管理等プライバシーの権利に対してより一層の注意を払う必要があります*。

* 「国際労働組合総連合 (ITUC) Global Rights Index」等を参照

当社グループの事業活動で想定される人権課題の抽出

当社グループが事業展開している国や地域におけるバリューチェーン上で起こりうる顕在的・潜在的な人権リスクをより明確にするために「国際人権章典」「国連グローバル・コンパクトの10原則」「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」「子どもの権利とビジネス原則」をはじめとする人権に関する国際的な規範から、当社グループの事業活動で想定される人権課題を25項目抽出しました。

人権課題の抽出にあたっては、ビジネスと人権を取り巻く社会的な情勢や国連環境計画金融イニシアチブ (UNEP FI)、日本経済団体連合会が策定した人権に関するガイドライン及び外部有識者からの助言を参考にしています。

抽出した人権課題

強制労働	労働組合を組織する権利・参加する権利	母性及び児童の保護	適正な報酬・生活賃金の支払い	プライバシーの権利
住居及び移転の自由	同一労働同一賃金	ハラスメント	労働の自由・雇用保険	地域住民の生活に及ぼす影響
児童労働	採用における差別	思想・宗教の自由	安全かつ健康的な作業条件を享受する権利	水資源へのアクセス
教育を受ける権利	雇用条件・待遇における差別	過重労働・長時間労働	生活水準及び健康の享受に関する権利	環境マネジメント
若年労働者の権利	機会・評価における差別	休息・余暇を持つ権利	社会保障を受け取る権利	消費者の安全と健康

人権に対する影響評価と自社にとっての優先課題（顕著な人権課題）の特定

抽出した当社グループの事業活動で想定される人権課題について、ステークホルダーである自社従業員、派遣社員、請負を含むビジネスパートナー、サプライヤー、先住民を含むコミュニティ、消費者・生活者における顕在的・潜在的な影響評価を毎年実施しています。

「国連指導原則報告フレームワーク」等の人権に関するガイドラインを参考に、人権侵害の規模、人権侵害が及ぼす範囲、発生可能性及び救済可能性を評価項目としています。人権に対する影響評価に際しては、各ステークホルダーの人権課題に紐づく部門の責任者が「人権課題チェックシート」にて行った結果を基にリスクマップを作成し、人権に係る検討会で事業や社会の変化、外部有識者を含めたステークホルダーの意見等から総合的に判断し、自社にとっての優先課題（顕著な人権課題）を特定しています。

防止・軽減、是正策の実施

人権に対する影響評価により特定した自社にとっての優先課題（顕著な人権課題）に対しては、各人権課題への負の影響を防止・軽減、または是正するために以下を実施しています。

自社にとっての優先課題 （顕著な人権課題）	自社にとっての優先課題に対する負の防止・軽減策	2025年進捗状況
サプライヤーにおける強制労働、児童労働、若年労働者の権利、過重労働・長時間労働、安全かつ健康的な作業条件を享受する権利、住居及び移転の自由、教育を受ける権利、労働の自由・雇用保障	特に人権リスクが懸念されるパーム油・パーム核油、紙・パルプについてはRSPO、FSC認証品等第三者認証を受けた原材料の調達を促進しています。	- 認証パーム油・パーム核油誘導体：当社グループ59%（主要原料ベース） - 認証紙・パルプ：当社グループ58%（アイテム比率）
	「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」セルフチェック及びSedexを活用し、サプライヤーにおけるリスクアセスメント実施を促進しています。	サプライヤーにおけるリスクアセスメント実施率：当社グループ95%
	「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」に関する覚書に「ライオン人権方針」、「国際人権章典」、「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」を追加し、サプライヤーにおいても人権方針が支持・尊重するように求めています。	国内主要企業90社のうち47社と人権に係る覚書を締結済み
サプライヤー周辺のコミュニティにおける水資源へのアクセス、地域住民の生活に及ぼす影響、環境マネジメント	サプライヤー周辺の近隣住民を含めたコミュニティにおける水資源へのアクセス等の負の影響を防止・軽減、是正するために、「ライオングループCSRガイドライン」セルフチェックに環境マネジメントに関する質問事項にてコミュニティに対する具体的な取り組み状況を把握しています。	「ライオングループCSRガイドライン」セルフチェックに環境マネジメントに関する質問事項でのモニタリングを実施済み
ビジネスパートナーにおける過重労働・長時間労働、ハラスメント	ビジネスパートナーにおける過重労働・長時間労働等の負の影響を引き起こす、助長する、直接結びつくことを防止・軽減、是正するために、自社従業員に対してe-ラーニングや研修を通して「ライオン企業行動憲章」「ライオン人権方針」の浸透・定着を図るとともに、「コンプライアンス意識調査アンケート」にて当該課題の自社従業員の理解や業務での行動評価を定量的に把握しています。	人権に関する研修を当社、国内関係会社7社、海外関係会社7社にて実施済み

自社にとっての優先課題 (顕著な人権課題)	自社にとっての優先課題に対する負の防 止・軽減策	2025年進捗状況
消費者・生活者におけるプライバシーの 権利	消費者・生活者のプライバシーの権利として個人情報の漏洩リスクを防止・軽減するために、「個人情報保護法」に準拠した「個人情報管理規程」及び「情報取扱に関する基本方針」「情報管理規程」「情報セキュリティ規程」等の方針・規程類を整備し、個人情報保護と情報セキュリティの徹底を図っています。また、自社の従業員への教育として、情報セキュリティ、情報管理体制に関するe-ラーニングを毎年実施するとともに、海外関係会社においても法令に基づき個人情報保護等、情報セキュリティ対策の推進を強化しています。	- 国内自社従業員にe-ラーニングを通じた個人情報管理規程の遵守に関する研修を実施済み - 自社が医療情報を取り扱うサービスの情報マネジメントシステムに係る認証を維持

救済へのアクセス(苦情処理メカニズムの設置)

当社グループは、人権を含む企業倫理に反する問題に適切に対応するため、苦情処理メカニズムとして、社内外の通報制度「AL(オールライオン)心のホットライン」を設置しています。

本システムでは、通報者として自社従業員だけではなくビジネスパートナー等社外ステークホルダーも含んでおり、通報者、被通報者のプライバシーは保護され、調査内容の秘密の厳守が保証されます。また、すべての案件は匿名の通報等を除き、すべての通報者へフィードバックを行っています。

2025年は「AL(オールライオン)心のホットライン」にハラスメントを含む人権に関する通報がありましたが、重篤性が高いと判断される事案はなく、適切に対応しています。

本制度の仕組み、相談・通報内容等の詳細は当社ホームページの下記よりご参照いただけます。

＞ 社内外通報制度「AL心のホットライン」の設置

モニタリングの実施

それぞれの負の影響の防止・軽減策は質的または量的な指標を設定し、人権に係る検討会で年2回モニタリングしています。

コミュニケーション

外部への情報開示

人権の取り組み状況等については、随時自社ホームページ等で開示しています。

教育、対話

当社は、「ライオン企業行動憲章」「ライオン人権方針」の浸透と定着を図るため毎年国内の全従業員（パート社員を含む）を対象にe-ラーニングを通じた人権についての研修を行っています。

また、毎年国内全従業員（パート社員を含む）を対象に「コンプライアンス意識調査アンケート」を行い、人権を含むコンプライアンスに関する意識や業務における行動について定量的・定性的に把握するとともに、結果を部門毎にフィードバックすることで、従業員の意識向上やより良い環境づくりにつなげています。また、人権デューデリジェンスを推進するにあたり、取締役・監査役・執行役員、人権に係る所管部門の責任者等と外部有識者を含め、ビジネスと人権についての勉強会及び意見交換を行い、経営層の理解を深めています。

人権に関する外部イニシアチブへの参画

「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）」においてはヒューマンライツ・デューデリジェンス分科会のワークショップやサプライチェーン分科会の啓発ツール制作のワーキンググループ等、外部イニシアチブにも参画し、人権を取り巻く社会情勢の理解や啓発を図っています。「日本化粧品工業会」においては、「サステナビリティ指針」の策定や、「バリューチェーンにおける人権・労働リスク対応の手引き」の制作に参画しています。企業における人権を含めた社会の持続可能な発展への取り組み実現に積極的に働きかけています。

海外グループ会社における取り組み

当社グループにおけるリスクアセスメント

サステナビリティ重要課題について事業を展開する国や地域で配慮すべき事項を外部有識者と抽出した「サステナビリティ状況共有シート」を活用し、海外グループ会社の人権に対する影響評価で特定された自社にとっての優先課題に関する事項を含めたヒアリングを行い、防止・軽減、是正策や対応状況を把握するとともに、進捗をモニタリングしています。

サプライヤーにおけるリスクアセスメント

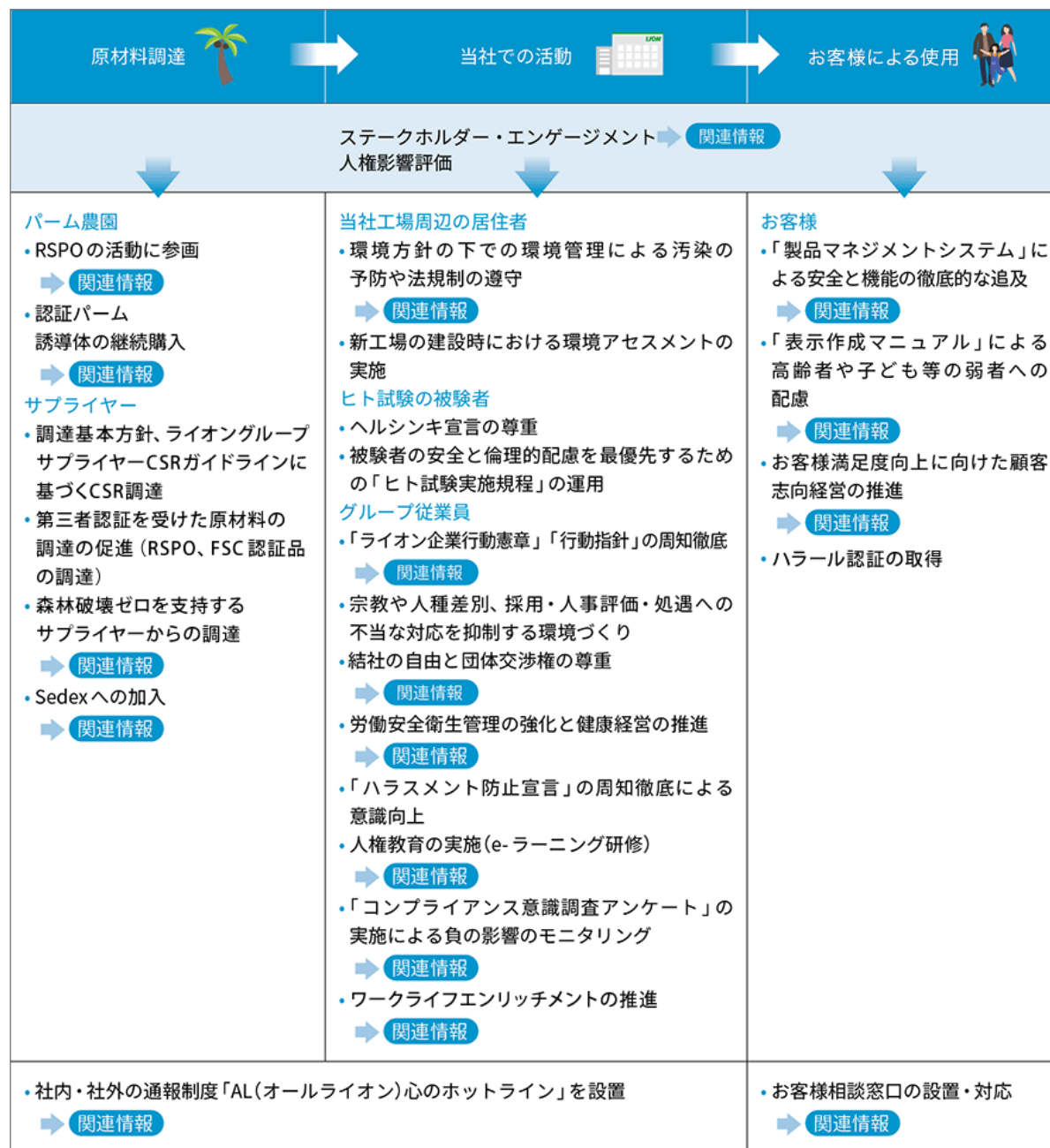
海外グループ会社と取引のあるサプライヤーについては、人権・労働を含めた当社グループの調達方針に関わる事項について「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」セルフチェック及びSedexを活用し、サプライヤーによる影響評価を実施しています。

バリューチェーン上における人権侵害防止の取り組み

- ✓ 当社のバリューチェーン上における人権侵害防止の取り組みの全体像
- ✓ 原材料調達における取り組み
- ✓ お客様の使用における取り組み

当社のバリューチェーン上における人権侵害防止の取り組みの全体像

当社グループは、「原材料調達」「当社での活動」「お客様による使用」のそれぞれのバリューチェーン上で起こり得る潜在的な人権リスクを低減する取り組みを以下の通り行っています。



原材料調達における取り組み

当社グループは、原材料調達における人権侵害防止の取り組みとして、「調達基本方針」にて法令遵守、環境保全、人権尊重等サステナビリティに関する当社グループの姿勢を明確にし、お取引先と取り組みを進化させています。

また、当社グループの主要な植物原料であるパーム油、パーム核油において、持続可能な調達を推進することが重要であると認識し、取り組みを進めています。

(1) 原材料調達

予防・軽減策	目標(2030年)・進捗(2025年)
第三者認証を受けた原材料の調達 →RSPO、FSC認証品の調達	- 目標 RSPO認証品全量調達 - 進捗:主要原料ベースのRSPO認証化率は99%(対象:日本国内で販売している消費者向け商品)
	- 目標 FSC認証品全量調達 - 進捗:FSC認証化率は88%(日本国内で販売している商品のアイテム比率)、コピー用紙等オフィス用品に使われている紙についても、FSC・PEFC認証紙や再生紙の活用を推進中
サプライチェーン上で社会・環境問題が発生した際に、解決能力のあるサプライヤーとの取引推進→森林破壊ゼロを支持するサプライヤー	- 目標 森林破壊ゼロを支持するサプライヤーからの調達:全サプライヤー - 進捗:55%(対象:日本国内のライオングループが調達している原材料サプライヤー)

(2) サプライヤー

予防・軽減策	進捗(2025年)
サプライヤーのサステナビリティ活動に関する定期的なリスク評価の実施	当社を含む国内グループ会社及び青島ライオン、ライオンコリア、タイライオン、サザンライオンのサプライヤーに対して、「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン」に基づくセルフチェック及びSedexを活用し、サプライヤーにおけるサステナビリティに関するリスク評価を実施
高リスクサプライヤーの特定	「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」に基づくセルフチェック及びSedexにおいて、高リスクサプライヤーの基準を設定
高リスクサプライヤーに対する監査の実施と改善計画の策定	高リスクサプライヤーなし

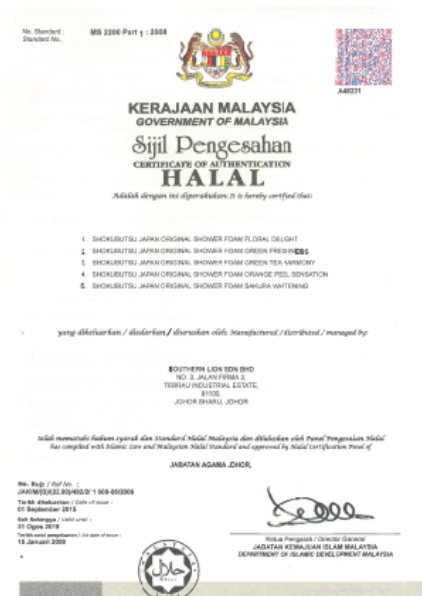
お客様の使用における取り組み

当社グループは、お客様に製品を安心・安全にご使用いただくための取り組みとして、製品開発の各段階での業務プロセスや品質保証を定めた規程である「製品マネジメントシステム」を整備しています。また、医薬品医療機器等法、景品表示法、健康増進法等の関連法規遵守はもちろんのこと、「表示作成マニュアル」を定め、お客様の視点を考慮し誤解や不快感を起こさない、正確で節度ある広告・宣伝を行っています。

マレーシアやインドネシア等多くのイスラム教徒が住む国や地域においては、イスラム教徒の人々が安心して製品を使用できるようにハラール認証*の取得に取り組んでいます。

* ハラール認証の基準をクリアし、ハラールであると認められた製品等にマークを付与する制度。販売の際は、各国のハラール認証機関から正式に承認を受けた認証団体が発行したハラール認証書が必要

ハラル認証商品例



マレーシアのハラル認証

マレーシアで販売するShokubuthu Complete Moisture ボディソープ



インドネシアのハラル認証



インドネシアで販売するSystemaハミガキ

責任あるサプライチェーンマネジメントの構築

- ✓ 基本的な考え方
- ✓ 全体像及び推進体制
- ✓ 2030年目標と進捗
- ✓ 取り組み

基本的な考え方

ライオングループは、サプライチェーンにおける取り組みにおいて、原材料メーカーや生産委託先との連携を強化し、責任あるサプライチェーンマネジメントを構築することが重要な課題であると考えています。

事業活動の環境や社会に対するマイナスの影響を低減させ、お互いの事業を持続的に発展させるため、「調達基本方針」に基づき、取引先と当社とがサステナビリティの取り組みを深化させることが必要です。本方針では、法令遵守、環境保全、人権尊重等からも取引先を選定する姿勢を明確化しています。

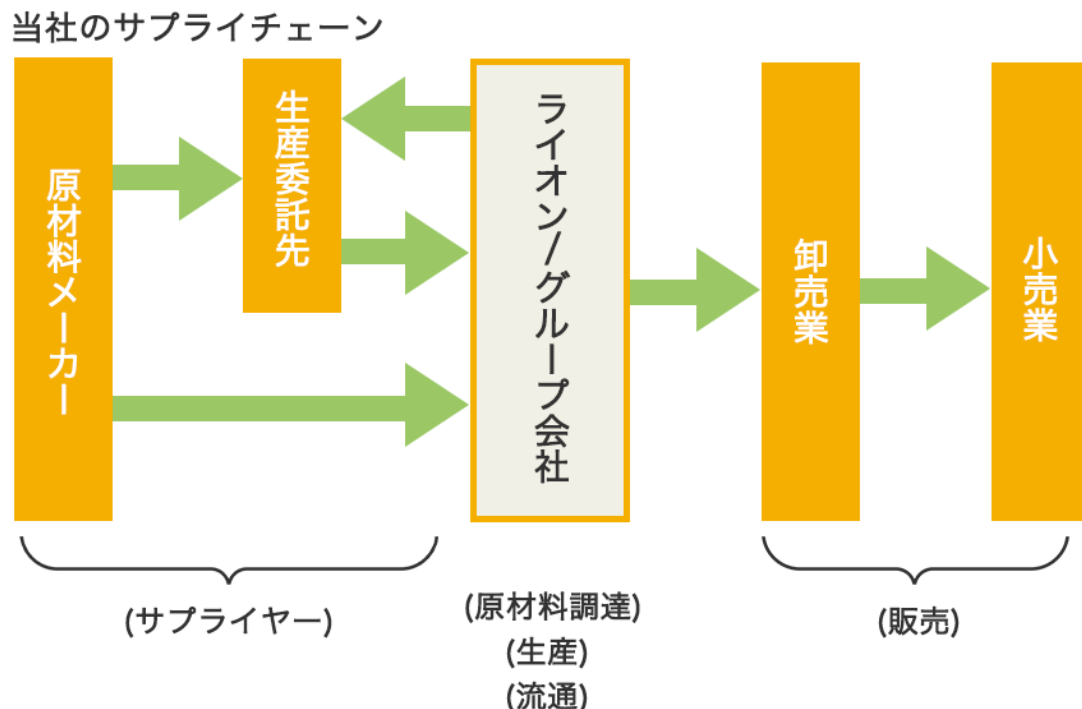
また、当社の主要な植物原料であるパーム油において、持続可能な調達を推進することが重要であると認識し、取り組みを進めています。

贈収賄防止指針の制定

当社グループは、世界各国での贈収賄・腐敗行為に対する法規制強化の流れに鑑み、2019年に「ライオン贈収賄防止指針」を制定し、贈収賄等の腐敗の防止への姿勢を明確にしました。

今後も、事業を展開する国及び地域の法令等を遵守した事業活動を徹底します。

全体像及び推進体制

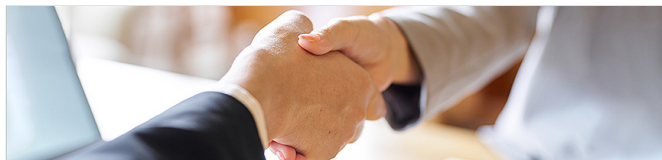


2030年目標と進捗

目標 (2030年)	指標 (2030年)	指標の進捗 (2025年実績)
「持続可能な原材料調達方針」や「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン」に沿って、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	- 認証紙・パルプ (FSC、PEFC等)、認証パーム油・パーム核油及びそれらの誘導体 (RSPO等) を調達する ⇒全量 - 認証紙・パルプ (FSC、PEFC等)、認証パーム油・パーム核油及びそれらの誘導体 (RSPO等) は、森林破壊ゼロを支持するサプライヤーから調達する ⇒全社	- 認証品調達率 国内: 認証紙・パルプ:88% (アイテム比率) 認証パーム油・パーム核油誘導体:99% (主要原料ベース) ライオングループ: 認証紙・パルプ:58% (アイテム比率) 認証パーム油・パーム核油誘導体:59% (主要原料ベース) - 森林破壊ゼロ支持サプライヤー率 国内:55% ライオングループ:47%

[> サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標 / 2025年実績・施策](#)
[PDF](#) (1.2MB)

取り組み



原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進



持続可能な原材料調達に向けて



原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進

- ✓ ガイドラインに基づくセルフチェック
- ✓ サプライヤーエンカル情報共有プラットフォームへの加入
- ✓ 持続可能な調達に向けた従業員研修

「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン^{*1}」に基づくセルフチェック

ライオングループは、責任ある調達活動を推進するため、原材料メーカーや生産委託先（サプライヤー）へ「[ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン](#) 

2014年よりセルフチェックをすべてWeb上で実施できるようオンライン化し、より効率的にサプライヤーが回答できるようにしました。また、結果のフィードバックを回答いただいたサプライヤーに送り、継続的にCSR調達を推進できる体制を確立し、毎年、100%の回答率を目指しています。

2025年は海外グループ会社である Lion Corporation (Korea) のサプライヤー91社（回答率：86%）、獅王日用化工（青島）有限公司（中国）のサプライヤー52社（回答率：90%）、Southern Lion Sdn. Bhd.のサプライヤー53社（回答率：98%）、Lion Corporation (Thailand) Ltd. のサプライヤー61社（回答率：93%）に対してセルフチェックを実施しました。

また、国内グループ会社であるライオンエンジニアリング株式会社（建設業）のサプライヤー66社に対してもセルフチェック^{*2}を実施しました（回答率：85%）。

今後も当社グループの全生産拠点を有する国で、サプライヤーとともにサステナビリティの取組みを推進します。

^{*1} 5 主題（人権・労働、環境、公正な事業慣行、消費者課題、コンプライアンス）、21項目のガイドライン

＜ [ライオングループ サプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説（日本語）](#) 

＜ [ライオングループ サプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説（日本語）（LE版）](#) 

＜ [ライオングループ サプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説（英語）](#) 

＜ [ライオングループ サプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説（中国語）](#) 

＜ [ライオングループ サプライヤーCSRガイドラインおよび用語解説（韓国語）](#) 

^{*2} 従来のセルフチェック21項目に対して、「反社会的勢力との対決：反社会的勢力・団体との関係を遮断し、不当な要求は一切拒絶する」を追加

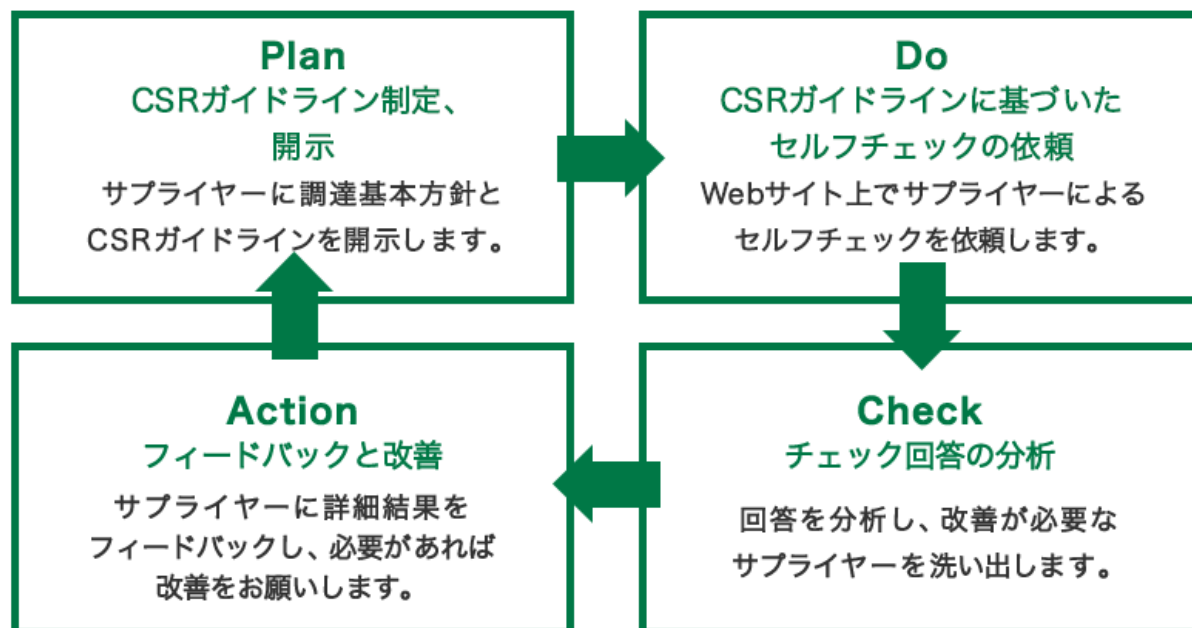
CSR調達の取り組み年表

2005年	「購買に関する基本方針」を制定し、原材料や製品の適正な調達を実施
2008年	社会面、環境面への配慮をより明確にした「 調達基本方針 」を制定。国内外の原材料メーカーや生産委託先にコンプライアンス、製品サービスの品質・安全性、環境配慮、労働・人権、公正な取引に関する企業活動のアンケートを実施
2013年	「 調達基本方針 」を改訂し、法令遵守、環境保全、人権尊重等からもサプライヤーを選定する姿勢を明確化。原材料メーカーや生産委託先に期待するサステナビリティの取り組みを示した「 ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン 
2014年	セルフチェックをすべてWeb上で実施できるようオンライン化
2018年	海外グループ会社であるLion Corporation (Korea) のサプライヤーに対してセルフチェックを実施し、セルフチェックの対象国を拡大

2019年	- サステナブルで責任ある調達へ取り組みの姿勢を明確にするため、「ライオン人権方針」「ライオン贈収賄防止指針」を制定 - 当社の主要な原材料であるパーム油誘導体や紙・パルプにおいて、持続可能な調達の取り組みを進めるため、「持続可能な原材料調達方針」を制定 - 購買活動における社会・環境リスクのさらなる低減を目的に、イギリスに本部を置くサプライヤーエシカル情報共有プラットフォーム(Sedex)に加入
2020年	海外グループ会社である獅王日用化工(青島)有限公司のサプライヤーに対してセルフチェックを実施
2021年	国内グループ会社であるライオンエンジニアリング株式会社の取引先に対してセルフチェックを実施
2022年	海外グループ会社であるSouthern Lion Sdn. Bhd.のサプライヤーに対してセルフチェックを実施
2023年	海外グループ会社であるLion Corporation (Thailand) Ltd.のサプライヤーに対してセルフチェックを実施
2024年	フィードバック時にCSR活動の改善に資する参考資料をサプライヤーに提供 <参考資料例> - 仕事の未来の中心にある安全と健康(SAFETY AND HEALTH AT THE HEART OF THE FUTURE OF WORK) - グローバル経済のためのルール 国際労働基準の手引き(Rules of the Game: An introduction to the standards-related work of the International Labour Organization) - 国連グローバル・コンパクト 4分野10原則の解説(The Ten Principles of the UN Global Compact) - GCNJ CSR調達入門書-サプライチェーンへのCSR浸透(GCNJ An Introduction to Sustainable Procurement-Promoting CSR in the Supply Chain)

当社グループでは「**ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン** 」に基づいたセルフチェックにお応えいただいたサプライヤーとのお取引を行います。

セルフチェックにおけるPDCAサイクル

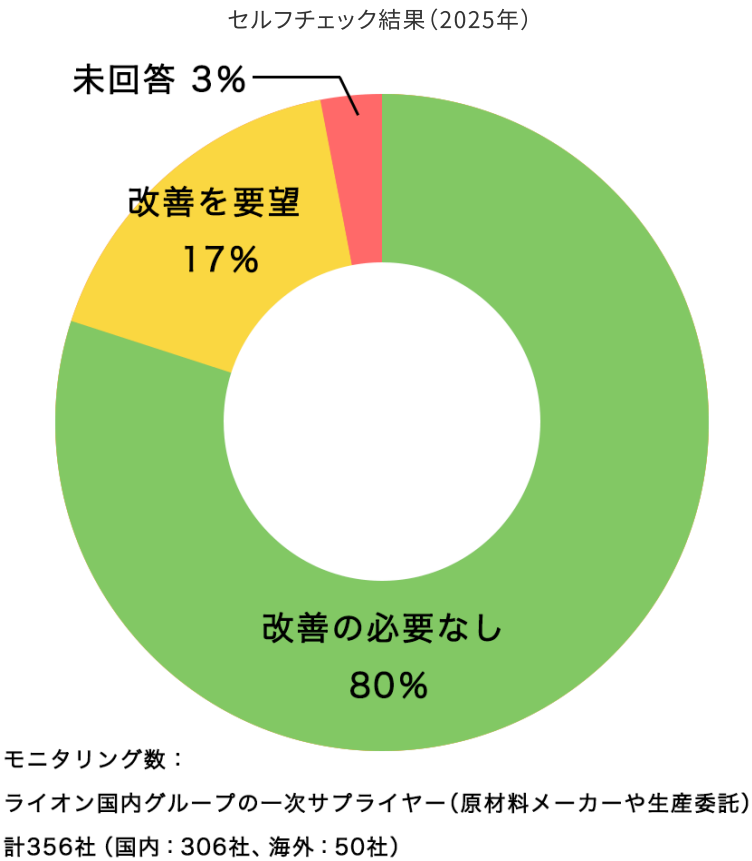


サステナビリティに取り組む重要性をサプライヤーに理解していただくため、セルフチェックの依頼文書において、サステナビリティを取りまく情勢の説明を記載する等工夫をしています。セルフチェックは取り組みの程度に応じた3段階のチェック基準と用語解説を設けています。

過去5年間にセルフチェックを依頼した一次サプライヤー数と回答率(目標値:毎年100%)推移

	一次サプライヤー数	回答率
2021年	502社	100%
2022年	474社	96%
2023年	436社	96%
2024年	392社	97%
2025年	356社	97%

結果概要



- 2025年の回答率は97%、平均点は1～3点の3段階で2.83点と、サプライチェーン全体でサステナビリティに取り組んでいることが確認できました。
- セルフチェックに回答した一次サプライヤー数は347社でした。

重要なサプライヤー

当社グループは、購買金額が大きく、原材料の代替が出来ないサプライヤーを重要なサプライヤーとして位置づけており、サステナビリティへの取り組みのモニタリングを継続しています。(定義：購買部3部門(原料室、材料室、製品室)の各購買金額上位30社、計90社(グループ会社5社を含む))

重要なサプライヤーの状況

	重要なサプライヤー数	重要なサプライヤーの割合 (全一次サプライヤーのうち占める割合)	重要サプライヤーの購買金額比 (全一次サプライヤーのうち占める割合)
2021年	90社	17.9%	89%
2022年	90社	17.9%	89%
2023年	90社	19.3%	89%
2024年	90社	25.6%	92%
2025年	90社	29.8%	95%

高リスクサプライヤー

セルフチェックにおいては、当社グループが定めるサステナビリティの重要項目において、設定基準を満たしているかを確認しており、取り組み点数が低いサプライヤーを高リスクと定めています。2025年、高リスクサプライヤーはゼロでした。

新規サプライヤーの選定

当社は、すべての新規サプライヤーに対して、取引を行う前に「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン」に基づいたセルフチェックを実施していただいています。当社が定めるサステナビリティの重要項目において、設定基準を満たしているか確認しています。

サプライヤーエシカル情報共有プラットフォーム(Sedex*)への加入

Sedex(本部：イギリス)は、グローバルサプライチェーンにおけるエシカルで責任あるビジネス慣行の実現を目指し、エシカルなサプライチェーンデータを管理・共有する世界最大のプラットフォームを提供する非営利団体です。当社グループはこれまで、独自の自己評価アンケート方式によるサプライヤーのモニタリングを実施してきましたが、2019年末、購買活動における社会・環境リスクの低減を目的にA・B会員として加入しました。サプライヤーの作業負担軽減の観点から加入を促進し、Sedexが提供するプラットフォーム上での回答を毎年依頼しています。重要サプライヤー90社中、46社に関してはSedexで管理しています(2026年3月末時点)。また、2024年末より、高リスクサプライヤー対応を開始し、2025年、マネジメントコントロールスコアおよびSMETA監査の改善対応が当社基準を満たしていないサプライヤー10社に是正措置の対応を要請した結果、全社、SAQ更新やSMETA監査での指摘事項の改善が見られ、当社基準をクリアしています。今後もサプライヤー管理を強化し、リスクマネジメントの強靱化を図っていきます。



* Supplier Ethical Data Exchangeの略称

持続可能な調達に向けた従業員研修

当社は、購買部のバイヤー担当全員を対象に、持続可能な調達に向けた研修を行っています。一般社団法人日本能率協会（JMA）による調達資格認証制度（CPP）*の資格取得に向け、学習会を実施しています。バイヤー業務におけるマネジメントや実践的な知識のみならず、環境、倫理、安全・衛生、人権等に配慮した調達の重要性や、サプライヤー対応についても学習しています。

また、サプライヤーの選定、取引条件や価格の設定等は、関係者と公平性・透明性のある協議を行い、合意のうえ決定しています。製造委託等に係る中小受託事業者に対する代金の支払の遅延等の防止に関する法律（取適法）については、購買部の社員に研修を行い、遵守を徹底しています。

CSR調達への要請の高まりを受け、今後も購買・調達に関するセミナーに社員を積極的に派遣する等、人材育成を進めます。

* CPP (Certified Procurement Professional): 企業において購買・調達業務に従事する方を対象にしており、購買・調達分野における専門知識を身につけていることを証明する資格 CPP資格

 [CPP資格 公式サイト](#)

持続可能な原材料調達に向けて

- ✓ 考え方
- ✓ 持続可能なパーム油の調達を目指して
- ✓ 持続可能な紙・パルプの調達を目指して

考え方

ライオングループは、世界共通の2030年目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成への貢献を目指しています。しかし、当社グループの商品の主要原材料であるパーム油誘導体や紙・パルプには、人権・労働問題や環境問題等の持続可能な原材料調達に関するリスクがあります。そこで「**持続可能な原材料調達方針**」を制定し、当社グループの主要な原材料であるパーム油誘導体や紙・パルプにおいて、持続可能な調達の取り組みを進めています。

持続可能なパーム油の調達を目指して

当社グループは、枯渇することがなく、カーボンニュートラルな原料である植物原料の活用を積極的に進めており、その植物原料のひとつとして、世界で最も生産量の多い植物油脂であるパーム油の誘導体を使用しています。パーム油は主にマレーシアやインドネシアで生産されています。



パーム油の原料：アブラヤシ

パーム油の原料であるアブラヤシは生産性が高く年間を通じて収穫できることから生産量は年々増加していますが、生産地においては急激な生産拡大にともない、新規農園開発のための熱帯雨林の伐採やそれにとまう野生生物の生息地の縮小等の問題が生じています。また不適切な農園経営による、健康や安全への配慮が乏しい劣悪な労働環境や、低賃金、移民労働者の不当な扱い、児童労働等、社会的公正を欠くさまざまな人権・労働問題も指摘されています。

このような問題の解決に向けた「**持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO^{*1})**」に、当社は2006年から参画しています。2012年には、当社の国内関係会社でパーム油をマレーシアやインドネシアで調達しているライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所が、RSPO認証パーム油の取り扱いができる工場としてサプライチェーン認証システム^{*2}審査に合格し、認定を受けました。これに基づいて当社グループは2012年からRSPOの認証が得られたパーム油の調達を開始しました。また、2020年3月にはライオンケミカル(株)ファインケミカル事業所、同年8月には本社および全ての自社工場(千葉工場、小田原工場、大阪工場、明石工場)でRSPOサプライチェーン認証を取得しました。

当社グループは2030年末までに、使用するパーム油誘導体をすべて認証油に切り替えることを目標に掲げ、2022年12月末、国内は主要原料ベースで99%をRSPO認証品に切り替え、2025年も継続しています。

さらに、消費者向け商品に使用するパーム油誘導体は、持続可能性に配慮した搾油所(ミル)まで追跡可能なものの購入を目指し、トレーサビリティ(追跡可能)の確保を目的に、当社と取引のある一次サプライヤーが調達する主要原料のミルリストを公開しています。

＜ミルリスト 

今後も持続可能なパーム油の調達に向けて取り組みます。

＊1 Roundtable on Sustainable Palm Oil(持続可能なパーム油のための円卓会議)📄

RSPO(Roundtable on Sustainable Palm Oil)が考える持続可能なパーム油の生産には、関連する法制度に違反していないだけでなく、経済的に持続可能であること、環境的に適切かつ社会的に有益であることが求められます。それらの要件を具体的に示したのが、「RSPOの原則と基準(The RSPO Principles and Criteria, P&C)」です。7つの原則の下に40項目の基準が定められ、これを満たして生産されるパーム油のみをRSPO認証パーム油としています。

＊2 RSPOサプライチェーン認証

RSPO認証原料が全てのサプライチェーンで確実な受け渡しシステムが構築されていることを、外部審査員の監査を経て認証される制度です。



ライオンケミカル（株）オレオケミカル事業所、
ファインケミカル事業所の
RSPOサプライチェーン認定証

本社および全ての自社工場の
RSPOサプライチェーン認定証

持続可能な紙・パルプの調達を目指して

当社グループは、商品の包装や、冊子・パンフレット類、コピー用品等のオフィス用品に紙・パルプを使用しています。これらの資源調達において生物多様性の保全に配慮するため、「持続可能な原材料調達方針」のもと、第三者認証紙の調達を進めています。（2025年12月末時点：主要商品における国内原紙メーカーからの第三者認証紙の調達比率約98% <重量>、主要商品ごとの包装材料の第三者認証紙の調達比率約88% <アイテム比率>）また、商品の包装に使用されている木材チップおよび木材パルプは伐採国の行政区画（州や県等）まで100%追跡済みです。

<FSC®認証(FSC® N003248)＊ラベルが付いた商品パッケージの取り扱い>

当社グループは、「持続可能な原材料調達方針」や「ライオングループ サプライヤーCSRガイドライン」に沿って、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。FSCラベルが付いた商品パッケージにすることで、生活者が環境配慮型商品を選びやすくします。

＊ FSC®認証(www.fsc.org)

FSCとは責任ある森林管理を世界に普及させるために活動することを目的とする国際的な非営利団体です。FSCラベルが付いている製品を選ぶことは、森と森と共に生きる人々を大切にすることにつながります。



システム ハグキプラス プレミアム ハミガキ



ルックプラス おふろの防カビくん煙剤



デントヘルス薬用ハミガキ DXマルチ機能 in



ルックプラス

清潔リセットキッチン用排水口クリーナー



デントヘルス薬用ハミガキ しみるブロック



オクトserapie(セラピエ)

薬用スキンケアシャンプー



Lightee ハミガキ ホワイトシトラスミント



サプライチェーンに関する外部イニシアチブへの参画

当社は、2006年から国際的なイニシアチブである「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)」[\[7\]](#)に参加しています。



[\[7\]](#) 持続可能なパーム油のための
円卓会議



> 持続可能なパーム油プラットフォーム
「Japan Sustainable Palm Oil
Network(JaSPON)」[PDF](#)

「グローバル購買担当者会議」の開催

当社グループは、グループ全体でのコスト削減や、人的交流による各社購買担当者間のコミュニケーションを強化することを目的に、「グローバル購買担当者会議」を毎年開催しています。

2025年は11月に実地とオンラインのハイブリッドで実施し、日本を含め7ヶ国が参加しました。今回で15回目となる当会議では、各国が原材料・包装材料・物流における最適化の推進により、どのように継続的なコスト削減を達成できるかを議論しました。

また、データを可視化するツールの活用により、グループ横断での共同調達の推進にも取り組んでいます。ESGの取り組みとしては、日本から、包装材料における再生プラスチックやバイオ素材への切り替えをコスト抑制と両立させながら推進している状況について報告し、情報共有を図りました。

今後も、グループ全体での購買力強化に向けて、各社の購買活動をサポートしていきます。

参加した海外グループ会社

- Lion Corporation (Thailand) Ltd.
- Southern Lion Sdn. Bhd.
- Lion Corporation (Korea)
- 獅王日用化工(青島)有限公司
- Lion Kallol Limited
- Merap Lion Holding Corporation

グリーン購入

当社は、[調達基本方針](#)の第2項に記載の内容、「品質・コスト・納期などの視点に加えて、法令遵守や環境保全及び人権尊重なども含めて合理的に取引先を選定することにより、お客様への責任を果たすとともに、持続可能で健やかな社会の実現を目指していきます」に則り、全社的に環境に配慮したグリーン購入を推進しています。

従業員が使用する事務用品については、環境対応品の使用を徹底し、再生紙やFSC認証紙を使用したノート、社用封筒等、グリーン購入に努めています。また、新本社への移転を機に、従来の複数部所での購入からコンシェルジュ窓口での一括購入へシフトし、事務用品のトータル在庫量の削減にも貢献しています。

商品包装に使用しているインキのバイオマスインキへの変更

海洋プラスチックごみ汚染や地球温暖化等の環境問題を最小化していくために、環境負荷を低減した製品が求められています。その取り組みの一環として、商品包装(パウチ、シュリンクフィルム、アテンションシール、ラベル等)に使用しているカラーインキの一部に植物由来原料を使用したバイオマスインキ*の採用を進めています。

* インキ中に含まれる樹脂の一部にバイオマス由来の原料を用い、乾燥後のインキ塗膜中に10%以上の植物由来成分を含有する設計のインキ

顧客の満足と信頼の追求

✓ 基本的な考え方 ✓ 全体像 ✓ 2030年目標と進捗 ✓ 取り組み

基本的な考え方

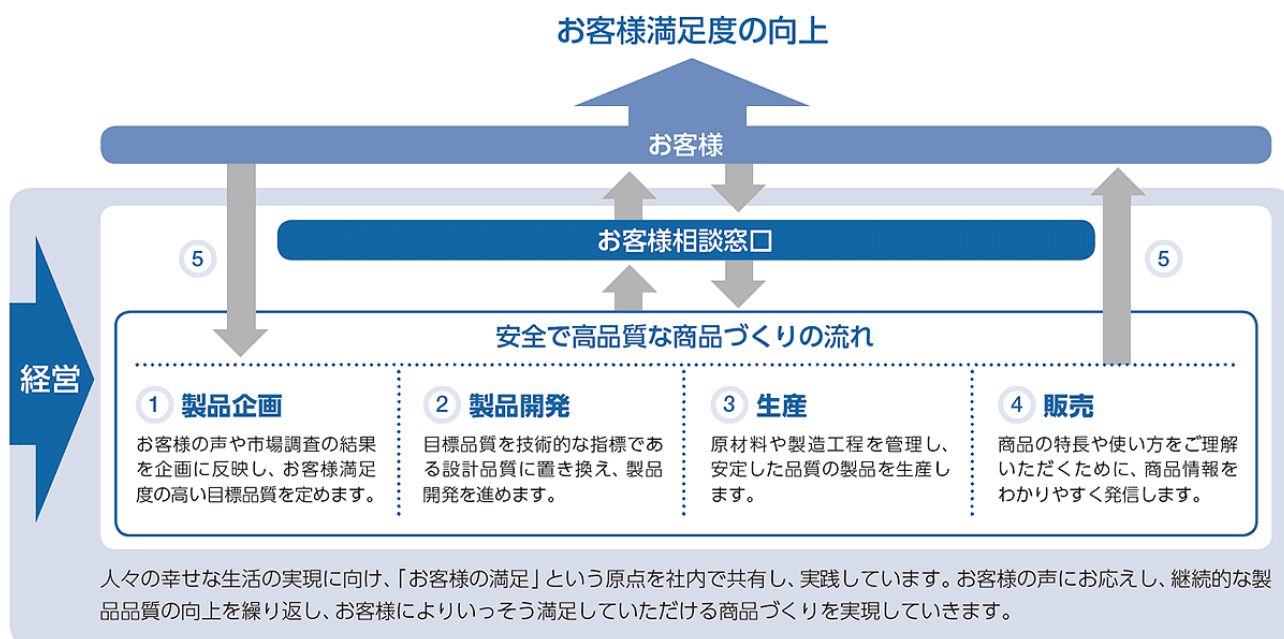
ライオンは、ものづくりのはじめから、お客様が商品を使い終わるまでのすべての段階で品質保証活動を推進し、お客様に満足していただける商品をお届けします。具体的には、①製品企画②製品開発③生産④販売⑤お客様対応という企業活動のすべての段階においてポイントを定め、お客様満足追求しています。

お客様からいただいた貴重なご意見等をもとに、ニーズをしっかりと把握して製品を企画し、製品開発段階では、機能・性能等の7つの指標で品質を検証するとともに、お客様にとって「読みやすい」「わかりやすい」表示を検討しています。生産段階では各工程で品質管理を徹底し、検査に合格したものを出荷します。出荷の際にはロット管理を徹底し、販売後の管理にも役立てています。さらに卸店・販売店への商品説明や試供品の配布等を通じて、様々な情報を発信しています。

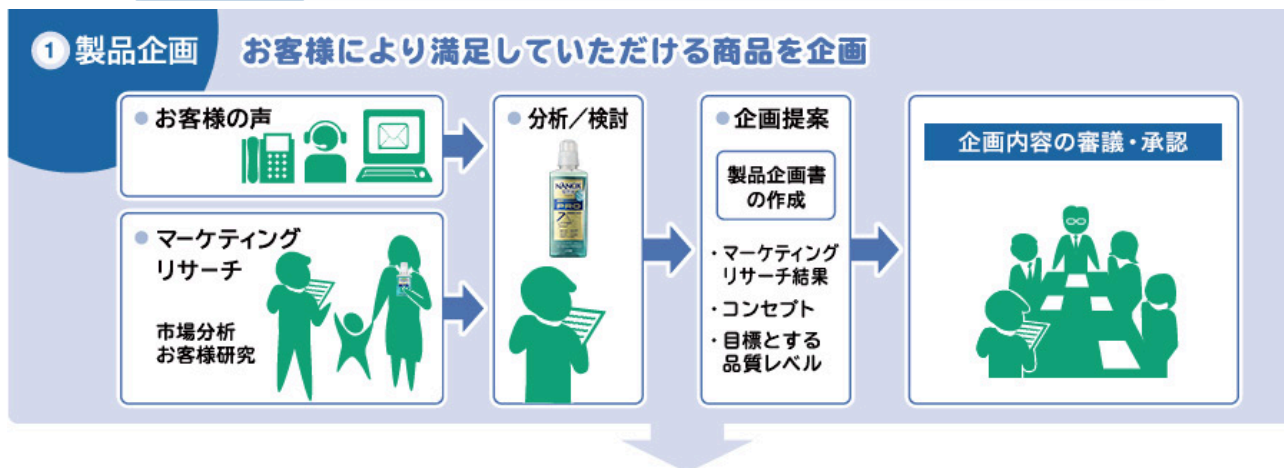
※ このページでは、卸店に出荷する前のものを「製品」、出荷後のものを「商品」と使い分けて、記載しています。

全体像

お客様の声による商品づくり



安全で高品質な商品づくり



② 製品開発 品質・安全に留意した製品の具現化*

● 内容物・容器の検討 品質の検証

7つの指標

- ①機能・性能
- ②使用性
- ③安全性
- ④安定性
- ⑤環境適合性
- ⑥外観（デザインを含む）
- ⑦法令・自主基準の遵守



● 表示の検討・確認



開発結果の審議・承認

- ・生産技術会議
- ・製品企画会議

商品化の決定



品質確認検討会

開発着手時、目標品質の妥当性や、開発終了時、開発品の開発の検討に必要な事項を確認します。妥当性を確認します。

プロセス安全検討会

製造工程の安全確保を確認します。

③ 生産 量産体制での品質確認

● 生産導入準備



原材料の品質を確認します。



試験生産での品質を評価します。
市場の受け入れ性を調査します。

● 本生産



各工程での品質管理を実施します。

● 保管(出荷)



製品の鮮度を管理します。

④ 販売 商品品質の情報提供



お客様に商品の特長や
使い方をご理解いただく
ために、卸店・販売店に
情報を提供しています。



店頭での商品情報の掲示や
試供品の配布、新聞・テレビ、
Webサイト等を通じて
情報発信を行っています。

* 「研究開発」については、[こちら](#)をご覧ください。

2030年目標と進捗

目標(2030年)	指標(2030年)	指標の進捗(2025年実績)
製品・サービスの価値向上や顧客対応品質の向上を通じて、生活者視点に立った事業活動の推進を強化します。	顧客に選ばれ続けるために、すべての製品・サービスに生活者の意見が活かされている。	- ISO10002内部監査実施(6月) - お客様からいただいた声を集積、分析し、価値ある情報にするため相談対応システム更新(3月) - お客様や応対者にタイムリーに情報を提供するためQ&A管理ツール更新(12月)

[> サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標 / 2025年実績・施策
 !\[\]\(c507f772dba2b921f86777f01218e570_img.jpg\) \(1.2MB\)](#)

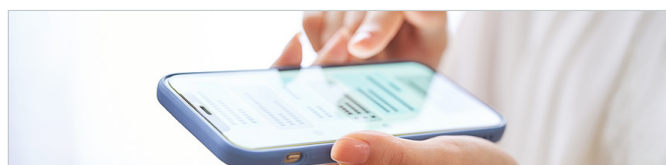
取り組み



品質保証、安心・安全への取り組み



お客様の声にお応えする取り組み



お客様への情報提供の強化



品質保証、安心・安全への取り組み

- ✓ 考え方 ✓ 品質方針 ✓ ライオングループの信頼性保証体制 ✓ 品質保証への取り組み
- ✓ 安心・安全への取り組み ✓ 責任ある表示・広告の取り組み
- ✓ 医薬品安全性に関する外部イニシアチブへの参画 ✓ 動物実験に対する方針

※ このページでは、卸店に出荷する前のものを「製品」、出荷後のものを「商品」と使い分けて、記載しています。

考え方

より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する優良な製品・サービスを提供し、お客様の満足と信頼を獲得することはライオンの使命であると考えています。

品質方針

当社は「品質方針」に基づき、お客様のご要望に応える安全で高品質な商品づくりを推進しています。

ライオングループの信頼性保証体制

2018年、サプライチェーン全体を対象に「製品マネジメントシステム」を軸としたさらなる品質保証強化を目的に「信頼性保証部」を設置しています。

品質保証活動を全社で推進するために、この「信頼性保証部」を事務局とし、「企画開発部門」「生産部門」「研究技術部門」「お客様相談部門」「コーポレート部門」から構成される「CS／PL*委員会」を設置しています。本委員会は当社の品質保証活動を統括するもので、法令の遵守、自主的な基準・目標の設定、優良製品の開発に関して、信頼性保証の観点から全社的な推進と課題への対応状況の把握等を行っています。当社は日用雑貨から医薬品まで製造・販売していることから、品質保証体制もその基準に則ったものとなっています。また、万が一当社製品に重大な問題が発生した場合に備え、事故および被害に遭われた方への対応、行政およびお客様への情報開示、製品回収、再発防止策の策定等の一連の対応を迅速に行う体制を構築しています。



* CS Customer Satisfaction (お客様満足)
PL Product Liability (製造物責任)

品質保証への取り組み

「製品マネジメントシステム」の整備・運用

当社は、「品質方針」に基づいて「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する優良製品」を着実にかつ合理的に開発するために、製品開発の各段階での業務プロセスや品質保証を定めた規程である「製品マネジメントシステム」を整備しています。

このシステムは、品質マネジメントシステム(QMS:Quality Management System)の国際規格であるISO9001(JISQ9001)に準拠し、製品の開発ステップ(戦略～企画～開発～生産～販売～改良・廃止)に関わる品質保証プロセスの流れや仕組み、果たすべき事項を規定し、運用しています。なお当社は、本社、札幌オフィス、仙台オフィス、名古屋オフィス、大阪オフィス、福岡オフィス、研究所(平井研究所、小田原研究所)、工場(千葉工場、小田原工場、大阪工場、明石工場))に加え、国内関係会社5社(ライオンケミカル株式会社、ライオンハイジーン株式会社、ライオンペット株式会社、ライオンエンジニアリング株式会社、ライオン歯科材料株式会社)を含めた、ISO9001マルチサイト統一認証を取得しています。

品質監査

監査責任者および監査メンバーにより、自社および委託先の品質監査を定期的を実施し、必要に応じた改善指導を行っています。調査対象となる自社および委託先の中から、前回調査の実施時期、評価内容等を考慮して実地調査を行います。

海外グループ会社間の品質管理ネットワークの強化

ライオングループは、「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する優良な製品・サービスの提供」をアジアで展開しています。近年は、当社海外グループ会社間の輸出入ビジネスが拡大する一方で、国際的潮流として規制強化の動きも活発になり、これまで以上に各国の品質管理担当者の連携が重要になっています。

そこで2018年から、海外グループ各社の輸出入、品質管理担当者が一同に会する「アジアQA(Quality Assurance:品質保証)会議」を毎年開催しています。2025年はタイライオンにて対面会議形式で開催し、また、同工場において生産現場確認を行いました。ライオングループの品質保証体制強化を目的に、現地での業務における現状や課題、今後の連携体制の構築等を中心に意見交換を行っています。

今後もこのような取り組みを重ね、各国のお客様によりよい製品・サービスをお届けできるよう、努めていきます。



「アジアQA会議」の様子(2025年)

安心・安全への取り組み

お客様に安心してお使いいただけるよう、原料および材料、商品使用時の安全性について評価しています。

原料および材料の安全性

原料については、まず既知のデータ・情報をもとに、その原料がどのような物理化学的な特徴をもっているか、有害な性質等がないか（有害性評価）、開発予定の製品の原料として安全に使いこなせるのか（リスク評価）を確認します。当社製品をお使いいただいている幅広い層のお客様のことを考えながら、国際機関の安全性レポート、国内外の規格基準等も参考に配合の可否を判断しています。また健康面の確認だけでなく、商品が家庭で使用された後の環境に対する影響についても、同様に、最新の科学的評価に基づいて検討しています。総合的に注意を要すると判断した物質については、リスト化し管理を徹底しています。

既知のデータだけでは判断が難しい場合には、公定法等の客観的な評価法を用いて安全性試験を行います。試験を行うときには製品としての使い方も考えて、その原料が安全に使える範囲を見極めるようにします。最終的に使用可能と判断できた原料については医薬品・医薬部外品・化粧品、食品、雑貨等の用途に応じた規格を定めて、この規格に適合する原料を生産に用いるようにしています。

製品の内容物を格納する容器・包装や成形品等の材料についても、原料と同様に、適切な規格に適合するものを採用しています。

製品を上市した後も、使用している原料および材料に関する研究情報を解析し、継続使用に問題がないことを確認しています。

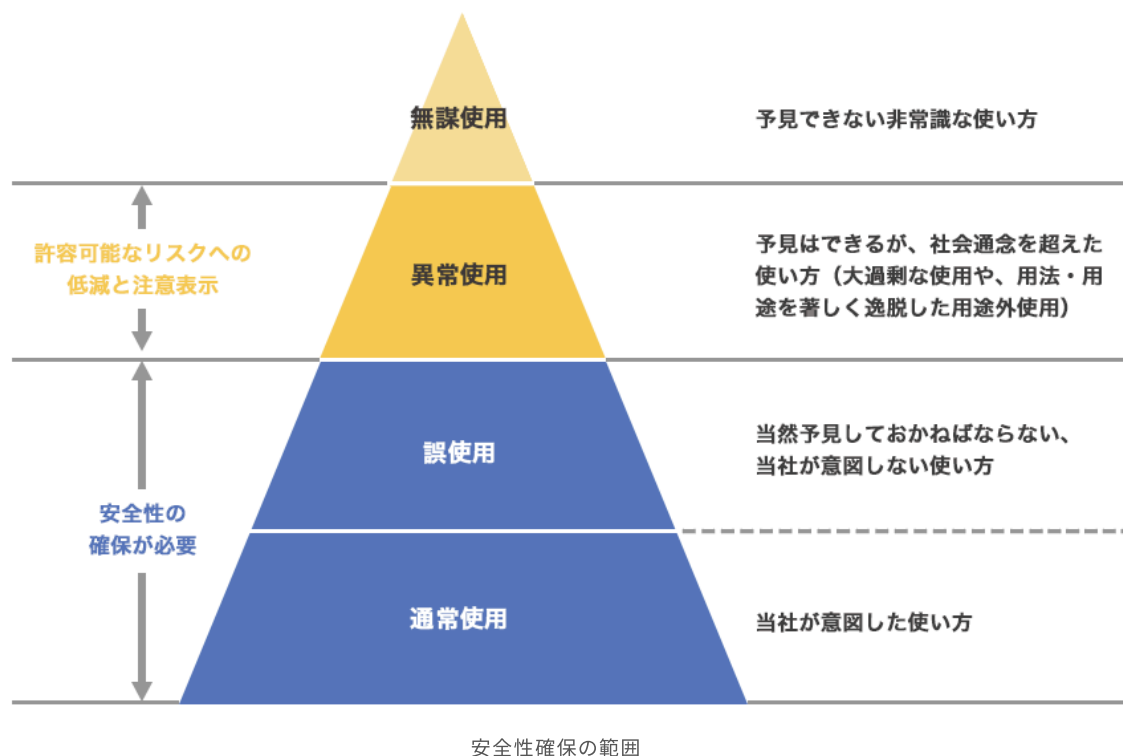
また、原料に由来したり、製造プロセスで生じる微量の不純物が、製品に含まれることがあります。健康上の懸念がない場合であっても、当社は合理的に達成可能な限り不純物を低減できるよう、原料購入段階や生産段階での品質管理を進めています。一例として、2012年に国から「非意図的にポリ塩化ビフェニル（PCB）を含有する可能性がある有機顔料」に関する発表が行われた際の対応を挙げます。この時も当社では遅滞なく製品の安全性に何ら問題のないことを確認しました。その後も国の指導方針に従い、「利用可能な最良の技術」（BAT）が適用された原料を購入・使用しております。このように、当社製品に含有され得る不純物の量は、お客様と環境に安全なものとなっています。

＜ 香りに関する方針

商品使用時の安全性

お客様の様々な商品の使い方や社会的弱者の方々に配慮し、製品設計の段階でリスクを回避するという考えのもと、製品の安全性評価を実施しています。

評価はチェックシートを用い、「通常使用」～「誤使用」までの安全性が製品設計の段階で確保できているかを確認します。「異常使用」の場合であっても、リスクの低減が可能かどうか、リスクは許容できるかどうかを評価し、必要に応じて注意表示を十分に行う等製品の安全性確保へ反映させています。



また、関連する部門から構成される「品質確認検討会」において、商品の使用に関わる被害の防止、安全性を確認すべき項目の抜け防止を目的に、お客様の使用場面を想定した視点からのチェックを実施しています。

万が一の製品トラブルが生じた場合に備え、製品リコール等が迅速にできるよう社内体制を整備しています。

身体トラブル情報の一元管理体制

事業者には、お客様からの身体トラブル情報をいち早く収集して集中的に管理し、適切な対応を迅速にとることが求められています。当社の商品を使用されたお客様からの身体トラブル情報は、お客様相談部門に集約し一元管理をしています。いただいた内容は複数の専門部所と共有し、経営トップへの報告も含めて、すぐに適切な対応を実施できる体制となっています。

今後も情報の一元管理の重要性を対応者に教育し、情報の収集と管理を継続します。

責任ある表示・広告の取り組み

基本的な考え方

当社は、「ライオン企業行動憲章」「行動指針」に則り、医薬品医療機器等法、景品表示法、健康増進法等の関連法規遵守はもちろんのこと、お客様の視点を考慮し誤解や不快感を起こさない、正確で節度ある広告・宣伝を行っています。

販売するすべての製品（食品・医薬品等含む）の表示・広告の品質向上に向けて、基本的な考え方を明確にし、「製品マネジメントシステム」の製品開発の各ステップにおいて、的確かつ適切な表示作成を行うためのガイドラインである「表示作成マニュアル」を定めています。このガイドラインは、当社がお客様を対象に販売する製品（試供品を含む）のパッケージ、形状の他、取扱説明書、パンフレット、セールスハンドブック、広告宣伝等の表現のすべてに適用されます。

当社製品の表示・広告はこのガイドラインに従い、表示・広告確認専任スタッフによる厳しいチェックや適宜外部専門家（弁護士等）による確認を行う等、徹底した管理体制によりお客様にとってわかりやすく認識しやすい表示の推進をしています。

表示・広告確認専任スタッフは、行政主催の講習会や各種外部セミナーへの参加や適宜外部専門家へのヒアリングや行政相談を実施することで、最新の法解釈、行政動向や社会動向の変化を的確にとらえた表示品質の判断及び助言ができるよう、専門能力の向上維持に努めています。

また当社は、製品の成分情報を、製品分野ごとの規制法令や業界団体自主基準に適合させ、製品パッケージや製品情報サイトに公開しております。

OTC医薬品*事業における表示・広告

医薬品に表示すべき内容は医薬品医療機器等法に定められています(法定表示)。一方、OTC医薬品広告の適正化については、法的規制として、医薬品医療機器等法、医薬品等適正広告基準が、また、業界の自主規制として日本一般用医薬品連合会による「OTC医薬品等の適正広告ガイドライン」があります。

人の生命と健康を守る医薬品の広告は、マーケティングとしての情報だけでなく、お客様に医薬品の適正使用を促すための情報であって、誤用を招いたり、安易な使用による乱用・連用を促すようなものであってはならないと考えます。

当社では、医薬品の法定表示については、「医薬品原稿シート」を、広告については、医薬品等適正広告基準に基づいて策定した「広告チェックシート」を制作部門、表示・広告確認部門で共有しています。医薬品医療機器等法に定められた表示や広告規制の共通理解に基づく作成と管理により、効率的かつ的確な適正表示の推進に取り組んでいます。

日本一般用医薬品連合会では広告の適正化を目指して「広告審査会」を設置し、医薬品広告の事後審査を行っています。「広告審査会」は、第三者委員とOTC医薬品メーカーから選出された委員にて構成され、OTC医薬品の広告表現を適正化し、その信頼性を一層高めることを目的に活動を行っています。当社は企業側の委員として参加し、OTC医薬品の広告の適正化に貢献しています。

* OTC医薬品：薬局・薬店・ドラッグストア等で処方せん無しに購入できる医薬品
(出典：日本OTC医薬品協会)

販売地域の言語での表示

お客様が商品の特長等を正確に理解できるよう、販売地域の法令に従い、使用方法、成分等を現地の言語で表示しています。

『キレイキレイ ハンドソープ』の表示例



タイ語



韓国語



中国語

従業員の教育・研修

製品の表示・広告に関わる関連法規(医薬品医療機器等法、景品表示法等)に関するコンプライアンスの徹底を図るため、全従業員へe-ラーニング研修を、そして関連する部門へ学術研修を法規教育の一環として実施しています。

2015年9月15日から11月27日までの間に日刊新聞紙に掲載した、当社特定保健用食品『トマト酢生活 トマト酢飲料』において一般消費者の誤認を引き起こす広告を掲載したとして、消費者庁より健康増進法にもとづく勧告を受けました。当社は、この勧告を真摯に受け止め、広告出稿時の管理体制をより一層強化し、今後も再発防止策を着実に推進していきます。

OTC医薬品

当社では、安全性情報の取扱いや適正使用の知識習得のため、GVP省令(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器及び再生医療等製品の製造販売後安全管理の基準に関する省令)に基づき、毎年、医薬品等の企画・販売に従事する従業員へ安全性に関する教育を行っています。この際、定められた広告・宣伝に係る教育手順により、適正なプロモーション活動のための教育を実施しています。本教育の中で、関連法規及び適切な表示・広告に関する教育を実施しています。

医薬品安全性に関する外部イニシアチブへの参画

医薬品の安全性に関する活動

日本では医薬品や医薬部外品等を製造販売するには、医薬品医療機器等法により、製造販売業許可を取得していることが必要となります。法律では、医薬品等の品質保証と製造販売後安全管理に関して、これらを適正に運営する体制を整備し、「総括製造販売責任者」、「品質保証責任者」、「安全管理責任者」を設置し、管理監督を行うことが義務化されています。

当社では、医薬品、医薬部外品及び化粧品の製造販売業者として法令を遵守して適正な製造販売体制を運営しております。安全管理業務は、GVP省令を遵守するよう手順書を制定してこれに従って業務を行い、「安全管理責任者」がこれら安全管理業務を管理しています。また、安全管理責任者は、安全管理部門の運営を行い、更に「総括製造販売責任者」が適正な運用を監督しながら、製造販売後安全管理を実施しています。安全管理部門は、当社が販売している製品の市販後安全対策を実施し、医薬品等の安全性情報の集積とその評価、それに伴い必要に応じて安全対策を取る等社内の業務手順書に従って業務を実施しています。

安全管理実施部門へは、安全管理部門が教育研修を実施し、医薬品等の適正な使用の推進に向けて対応しています。

関連する業界団体への参画

当社は、販売する医薬品のさらなる安全性向上のため、1978年より日本OTC医薬品協会に加盟しており、当社は副会長会社として同協会の活動に参画しています。日本OTC医薬品協会では、OTC医薬品の正しい使い方の広報活動、薬の添付文書の読みやすくわかりやすい表現方法の研究など、OTC医薬品についてのあらゆる問題を取り上げ、検討しています。当社の「安全管理責任者」などが定期的に委員会に参加し、医薬品医療機器等法やOTC医薬品の安全性に関する最新情報を収集し、安全管理業務や法令遵守に役立てています。

当社では、日本OTC医薬品協会の他、医薬品では東京医薬品工業協会の会員会社として、医薬部外品や化粧品では日本歯磨工業会、日本化粧品工業会に参画して活動し、医薬品等の製造及び品質管理並びに製造販売後安全管理・適正使用の推進に向け、規制等に関する調査や施策の提案、お客様への適正使用の啓発活動を行っています。

動物実験に対する方針

ライオングループは、動物実験における国際的な3R (Replacement, Reduction, Refinement) の原則^{*}を遵守するとともに動物福祉の理念に賛同しております。

多様な製品・サービスをお客様にお使いいただくために、私どもは安全性の徹底追求と機能性向上に積極的に取り組んでいます。化粧品(薬用化粧品含む)の製品開発に際しては、安全上の課題や法規制対応の必要がある場合を除き、動物実験を実施しないこととしています。その他の分野においても、根拠となる科学的データの精度や再現性に影響がない限り、代替法を活用しております。代替法がなく止むを得ず動物実験を行わなければならない場合は、3Rの原則ならびに各国法に従った適正な実施に努めています。

ライオン株式会社では一般社団法人日本化学工業協会Long-range Research Initiativeや日本動物実験代替法学会等への参画を通じて関連研究にも注力して参りました。今後も動物実験代替法の開発に積極的に取り組み、皆さまの健康増進と動物福祉向上の双方に資する事業活動を推進いたします。

> 日本化学工業会LRI活動への協力

^{*} 3Rの原則: ①Replacement(代替法の活用)、②Reduction(動物数の削減)、③Refinement(苦痛の軽減)

お客様の声にお応えする取り組み

- ✓ 考え方
- ✓ 全体像
- ✓ 消費者志向自主宣言
- ✓ 相談概要
- ✓ お客様の声を活かした情報の発信
- ✓ 従業員の積極的活動

考え方

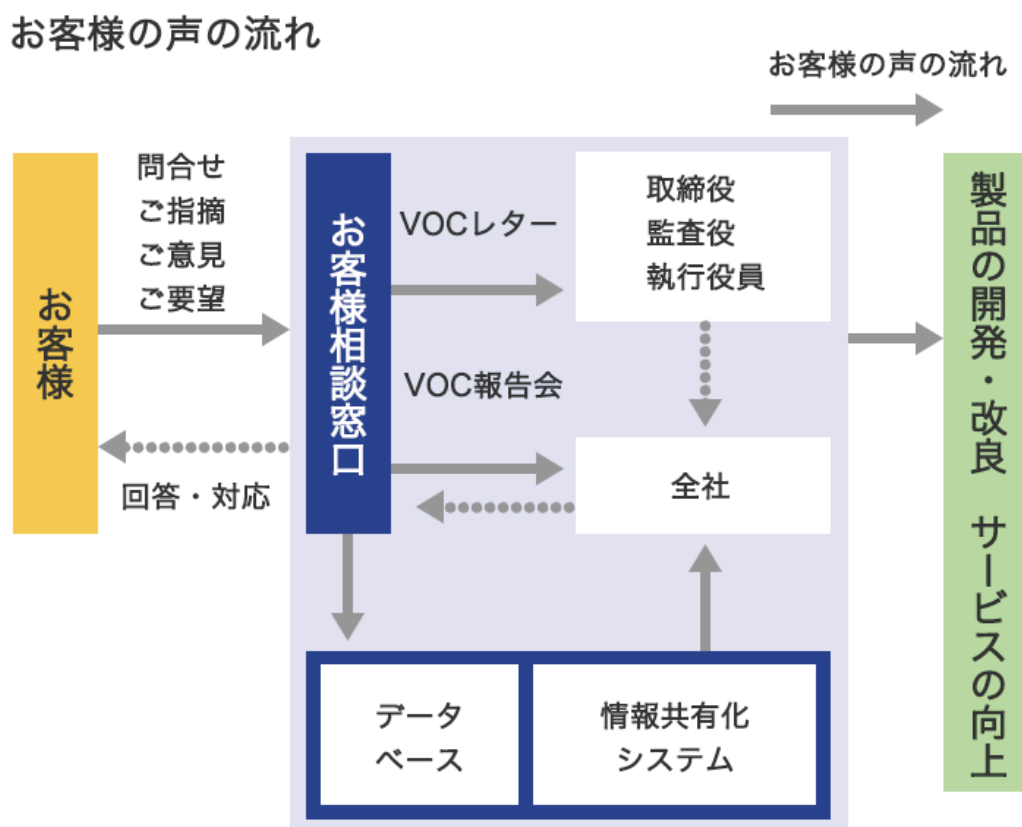
ライオンでは、お客様からいただいたご相談は、製品の改良や新しい製品の開発、サービスの向上に活かすために、厳重な個人情報管理体制の下でデータベースに登録した後、個人情報を除いて情報共有化システムにて全社で共有しています。

中でもお客様満足に影響を与えると思われるものや、商品を直接ご利用いただくお客様の声からの気づきをVOC^{*1}レターとして経営層や製品の開発関連部門に日々共有し、お客様視点の把握や改善策の早期検討・早期対応による品質向上に努めています。また、電話やメール等で寄せられるお客様の声だけでなく、SNS^{*2}等の生活者の声を幅広く把握し、解析し、製品開発に活かしています。さらに、お客様視点に立って事業活動を推進していくため、専任組織がお客様の声を解析し、製品開発に活かしています。

*1 [VOC] Voice of Customer (お客様の声)

*2 [SNS] Social Networking Service (X (旧Twitter)、Instagram等)

全体像



「お客さまの声をかたちに」については、[こちら](#)をご覧ください。

消費者志向自主宣言

当社は、お客様満足を最優先とする製品の開発・改良／サービスの提供に取り組むとともに、環境保全活動の推進やコーポレートガバナンス体制のさらなる充実を図り、すべてのステークホルダーからの期待に応えられる信頼性の高い企業を目指しています。現在、行政機関、消費者団体、事業者団体が一体となり、企業の消費者志向経営の取り組みを促進していますが、当社においても、2017年1月、消費者志向経営への積極的な取り組みを自主宣言し、その進捗をホームページで公開するとともに消費者庁に報告しています。2024年7月には、お客様対応基本方針を再制定し、全社のお客様対応を重視する姿勢を表明するとともに、当社のお客様対応の取り組みが、ISO10002に適合することを自主宣言しました。引き続き、全社での迅速・適切なお客様対応活動を推進します。

「消費者志向自主宣言」については、[こちら](#)をご覧ください。

「ISO10002自己適合宣言」については、[こちら](#)をご覧ください。

『消費者志向経営優良事例表彰』を2年続けて受賞

当社は、消費者庁が主催する「消費者志向経営優良事例表彰」において、令和2年度は「内閣府特命担当大臣表彰」を、令和3年度は花王(株)とともに「選考委員長表彰」を受賞しました。この賞は、「消費者志向自主宣言」を公表し、宣言に基づいて優れた取り組みを行っている企業を表彰するものです。

この受賞を励みとし、今後も消費者志向経営を推進し、持続可能な社会への貢献を果たしていきます。



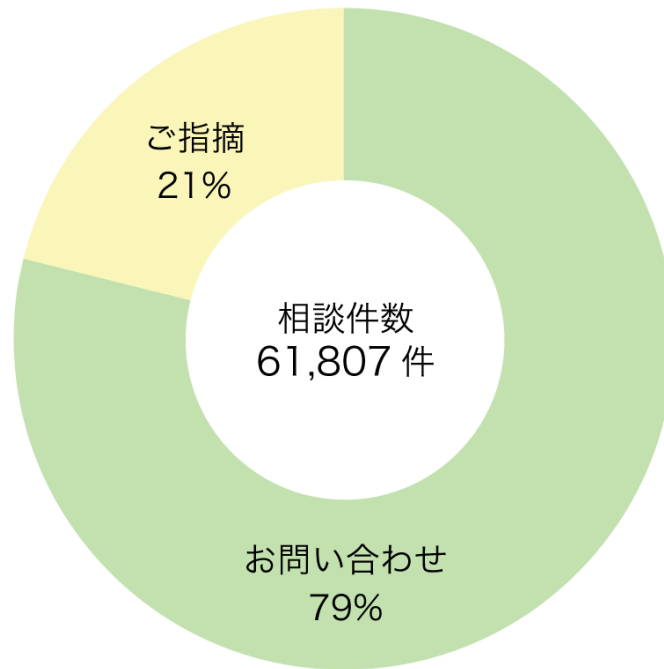
＞ ニュースリリース：『消費者志向経営優良事例 内閣府特命担当大臣表彰』を受賞 [PDF](#)

＞ ニュースリリース：花王とライオン、消費者志向経営優良事例表彰において新設の『選考委員長表彰』を受賞 [PDF](#)

相談概要

当社には、毎年多くのお客様からの声が寄せられます。2025年は、約6万件の相談があり、前年比88%でした。相談内訳は、製品の使用方法、取扱販売店、品質や安全性等に関するお問い合わせが全体の8割弱を占め、製品使用時のご不満や、トラブル等のご指摘が約2割でした。今後もお客様が相談しやすい環境づくりを目指すとともに、相談には誠意をもって迅速に対応します。お電話やメールでのお問い合わせ先は「[お問い合わせ先*](#)」にも記載しています。

* 各種お問い合わせ内容については、[こちら](#)をご覧ください。



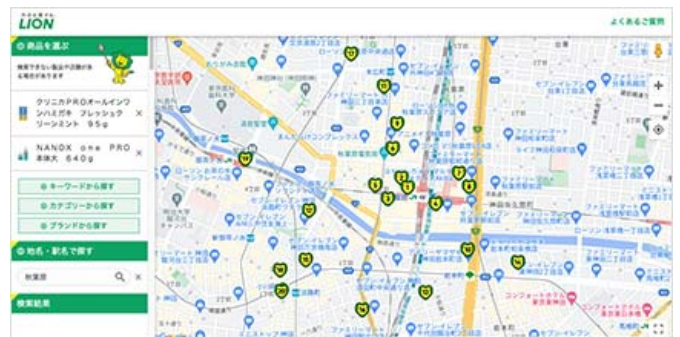
お客様の声を活かした情報の発信

24時間365日、いつでもどこでもお客様のお悩みを解決できるよう、ホームページの「製品Q&A」では、よくいただくご質問への回答やトラブルの解決方法、お客様の声を受けて改善した事例等を掲載し、多くのお客様にご覧いただいています。また、製品取扱店舗検索サービスやチャットボットも導入しています。

今後もお客様のお役に立つ情報を発信していきます。



🔗 ホームページの「製品Q&A」



🔗 「製品取扱店舗検索サービス」

お客様の声を反映した製品の開発・改良事例については、[こちら](#)をご覧ください。

従業員の積極的活動

当社は、お客様にとってより革新的で価値の高い製品・サービスを創造するため、必要な人材を採用・育成し、社員ひとり一人が主体的に意見を発言できる企業風土を醸成します。

お客様の声を活かす風土の醸成

すべての従業員がお客様視点で考え、行動する風土の醸成に取り組んでいます。新入社員や製品開発者等を対象に、対応の音声記録を聴く「お客様の声を聴く体験会」を行っています。対応接点の重要度を理解するとともに、お客様視点で業務を考える機会にしています。さらに、企画・開発部門や関連部門との定例報告会や事業所（営業、工場）にも相談状況報告会を定期的の実施し、情報の共有を図っています。

今後もお客様視点に立った製品・サービスを提供できるよう、さらなる従業員の意識改革に努めていきます。



従業員によるお客様の声を聴く体験

顧客視点の理解を行動変革に

お客様の立場になって考え、行動する「顧客視点風土醸成」を目的に、超高齢社会への対応として、当社では、「高齢者疑似体験セット」を常備しています。実際に高齢のお客様からのお申し出の声を聴くことと、疑似体験セットを装着した上で、製品の表示を見たり、容器を持ったりすることで、お客様への理解を深め、「心遣い」や「相互理解」の気持ちを育み、高齢者に優しい人材を育成し、「製品開発」や「お客様対応」「情報発信」等に活かしています。

製品開発担当者だけでなく、電話対応のコミュニケーターや情報発信を担う「暮らしのマイスター」、新入社員等にも対象を広げていきます。



「暮らしのマイスター」による高齢者疑似体験の様子

お客様にご満足いただける対応を目指した取り組み

電話対応のコミュニケーターが相談をいただいたお客様のお困りの状態を伺い、迅速かつ的確にお応えできるスキルと、製品や付随する幅広い知識の習得を目的とし、電話対応研修を実施しています。様々な事例について対応者が議論し、お互いのスキルを高める研修や、製品の背景となる健康やくらしに関する勉強会、お客様とのコミュニケーション力向上のために聞き取りやすい発声や言葉使いのトレーニングを実施しています。こうした活動の成果は第三者評価で確認し、お客様により満足していただける対応ができるように努めています。

更なる製品・サービスの品質改善およびお客様満足の向上を目指して

当社は、リサーチ会社を通じて、企業ブランドの浸透状況を把握しています。以下の調査において「企業の製品・サービスを利用したの推奨意向、自分必要度や共感度等」（当社製品のユーザー：16歳以上の一般生活者男女）の結果を定点でみています。これからもお客様からの評価を客観的に把握することで、質の高い製品・サービスの提供につなげていきます。

	2020年*1	2021年	2022年	2023年	2024年
アンケート全体回答者数(人)	783	773	783	796	760
うち現ユーザー回答者数(人)	664	628	640	649	593
回答率(%)*2	84.8	81.2	81.7	81.5	78.0
推奨意向(%)*3	47.6	40.0	44.7	43.6	42.3

日経リサーチ「ブランド戦略サーベイ」調べ

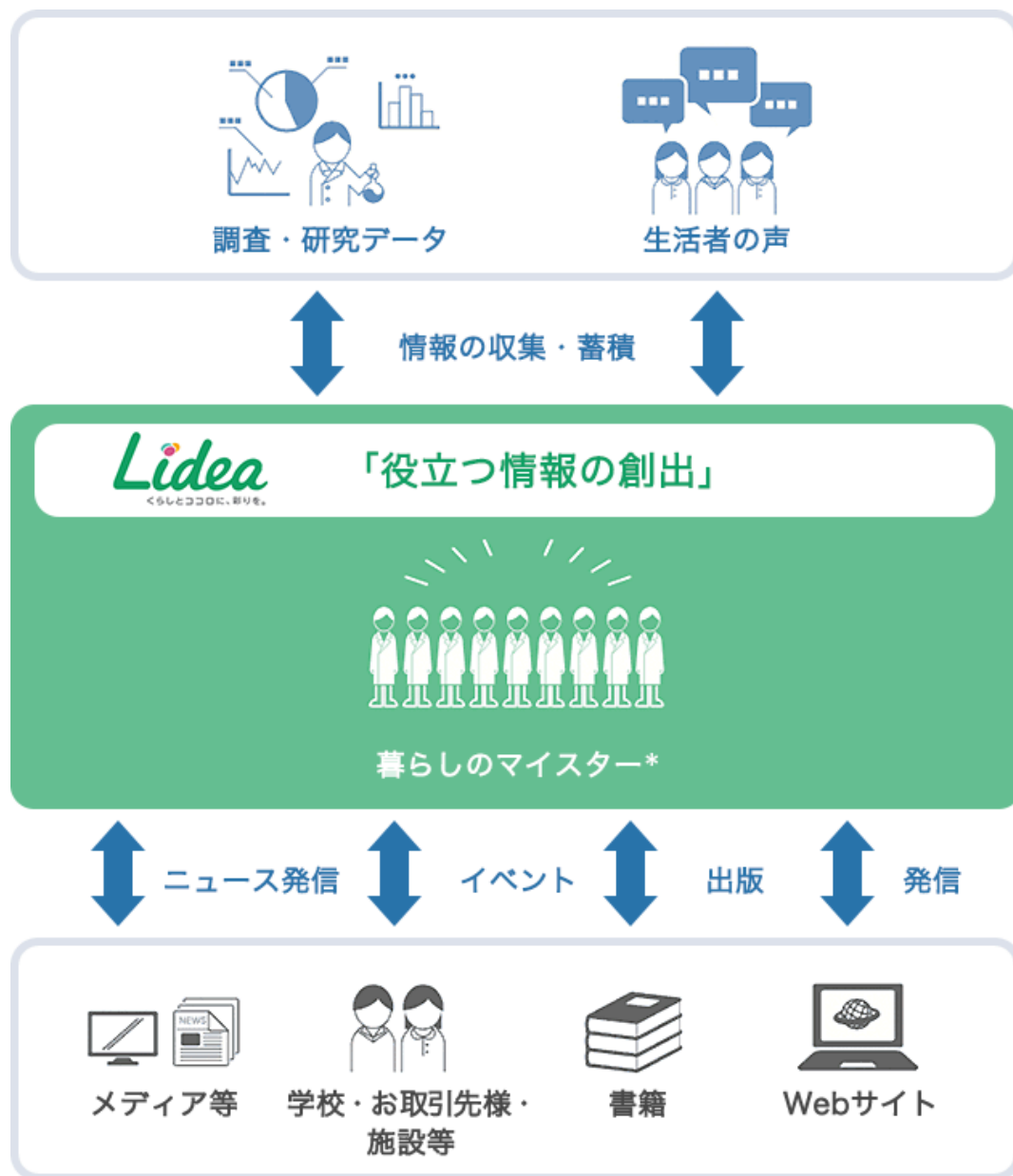
*1 コロナ禍の影響により、衛生用品提供企業は全体的にスコアが上昇
*2 アンケート全体回答者のうち、現ユーザーであると回答した人数の割合
*3 現ユーザーの中で推奨意向があると回答した人の割合

お客様への情報提供の強化

※ このページでは、卸店に出荷する前のものを「製品」、出荷後のものを「商品」と使い分けて、記載しています。

くらしに役立つ生活情報の発信と啓発活動

ライオンでは健康で快適な生活に寄与する生活情報づくりと発信の拡大を目指し、生活者の皆様と積極的にコミュニケーションを図っています。

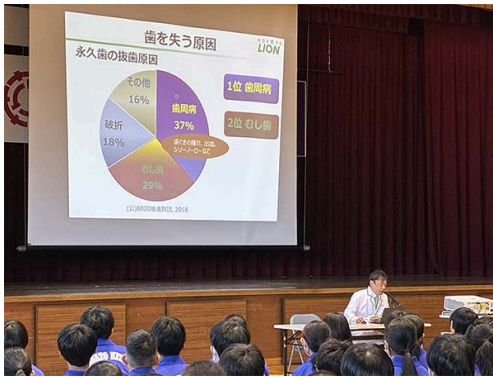


* 快適で健康な生活を送るための情報を研究・発信するスペシャリスト

「暮らしのマイスター」の活動紹介

当社には「オーラルヘルスケア（歯とお口の健康について）」「ヘルスケア（からだの健康、美容について）」「衛生」「お洗濯」「リビングケア（すまいの清潔について）」の分野で、研究キャリアと専門知識を持つ暮らしのマイスターが活動しています。暮らしのマイスターは、毎日を健やかで快適にするために役立つ生活情報を研究しており、さまざまなメディアやイベントを通じて、くらしを彩るアイデアを発信しています。

講習会を通じたお客様とのコミュニケーション



中学校でのオーラルヘルスケア講演（2025年）



小学校での手洗い衛生授業（2025年）



Kaji×Kajiハッピーシェア
明石市・ライオン共催 家事シェアセミナー（2025年）



くらしの部活動（「学ぶ」「話す」「体験する」
リアルイベント）家事部（2025年）

生活情報メディア「Lidea（リディア）」を活用したお客様とのコミュニケーション

「Lidea」は、ライオンの製品やそこに詰まった技術、生活への考え方を通して、くらしへの好奇心や、毎日を慈しむ気持ちをプラスしていく生活情報メディアです。専門知識を持つ生活情報のスペシャリスト「暮らしのマイスター」が中心となって、皆様のくらしに寄り添った確かな情報を提供しています。

当社はLideaを通じてくらしに役立つ生活情報をお伝えするとともに、「Lidea」に蓄積された情報を活用して、様々な形でお客様とのコミュニケーションを深めていきます。

Lidea
くらしとココロに、彩りを。

 [Lidea]

コミュニケーション冊子「数字で見る 暮らしのたいせつ」の発行

当社は生活者の皆様に、ライオンのサステナビリティへの取り組みを楽しく、簡単に理解してもらうことを目的にコミュニケーション冊子「数字で見る 暮らしのたいせつ」を制作しています。皆様のくらしに密接に関係のある様々な社会課題を、数字を使って示すとともに、ライオンが商品づくり・啓発活動・情報発信を通じてその解決に取り組んでいることを紹介しています。生活者の皆様との接点がある、健康、清潔・衛生、エコ（地球環境）に関する様々なイベントで配付しています。



視覚障がい者対応の取り組み

視覚障がい者の方にも各種の情報を提供してきました。

＞ 詳細はこちら

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ重要課題 2030年目標と進捗

重要課題	目標(2030年)	指標(2030年)	指標の進捗(2025年実績)
リスクマネジメントの推進	リスクの特定ならびに迅速かつ適切に対処する網羅的・総合的なリスクマネジメント体制を構築し、企業の持続的な成長を目指します。	事業における重要なリスクのモニタリング状況及びその低減に向けた対応策の推進状況の開示⇒年1回以上	1回開示
コンプライアンスの強化	コンプライアンス意識定着に向けた実効性のある活動を強化し、社会から信頼される企業を目指します。	- コンプライアンスに関する教育・研修の受講⇒事業所・拠点における計画(100%)実施 - 重大なコンプライアンス違反件数⇒ゼロ	- 研修受講⇒計画に対して100%実施 - 重大なコンプライアンス違反件数⇒ゼロ
ガバナンスの強化	健全、公正、かつ透明で実効性の高いガバナンス体制を構築し、持続的な企業価値向上を目指します。	- 内部統制システムの整備・運用状況の開示⇒年1回以上 - 外部評価機関の評価向上⇒2020年起点での継続向上	1回開示 2024年と同等以上、評価向上に向けて活動継続

サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標 / 2025年実績・施策 PDF (1.2MB)

コーポレート・ガバナンスの考え方と体制

コーポレート・ガバナンス体制の強化・充実に推進しています。

>

役員報酬

役員の報酬体系、業績連動報酬に係る指標等について掲載しています。

>

内部統制

継続的に内部統制システムの改善を図り、適正かつ効率的な体制の構築を徹底しています。

>

リスクマネジメント

グループ全体のリスクを網羅的・総合的に管理しています。

>

コンプライアンス

コンプライアンスの徹底、強化を図っています。

>

情報管理

各種方針や規程を定め、情報セキュリティ対策を推進しています。

>

知的財産



無形資産としての知的財産の創造、適正な保護、積極的な活用に努めています。

方針・宣言



コーポレート・ガバナンス基本方針等の各種方針を掲載しています。

ESGデータ・第三者検証

ESGデータ

環境

- ＞ 事業活動による環境負荷の全体像
- ＞ 温室効果ガス(CO₂)、エネルギー
- ＞ 水
- ＞ 容器・包装材料 / 廃棄物
- ＞ 化学物質
- ＞ 環境会計
- ＞ 環境効率
- ＞ 生産系事業所環境データ



社会

- ＞ 人材関連データ
- ＞ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン
- ＞ ワークライフエンリッチメント
- ＞ 人材開発
- ＞ 従業員の健康増進
- ＞ 生産性と働きがい
- ＞ 持続可能な原材料調達



ガバナンス

- ＞ コンプライアンス受講率
- ＞ 「AL心のホットライン」社内認知率、相談・通報内容
- ＞ 社告を伴う消費者・流通からの製品回収
(リコール状況)



第三者検証

- ＞ 環境

ESGデータ・第三者検証

環境

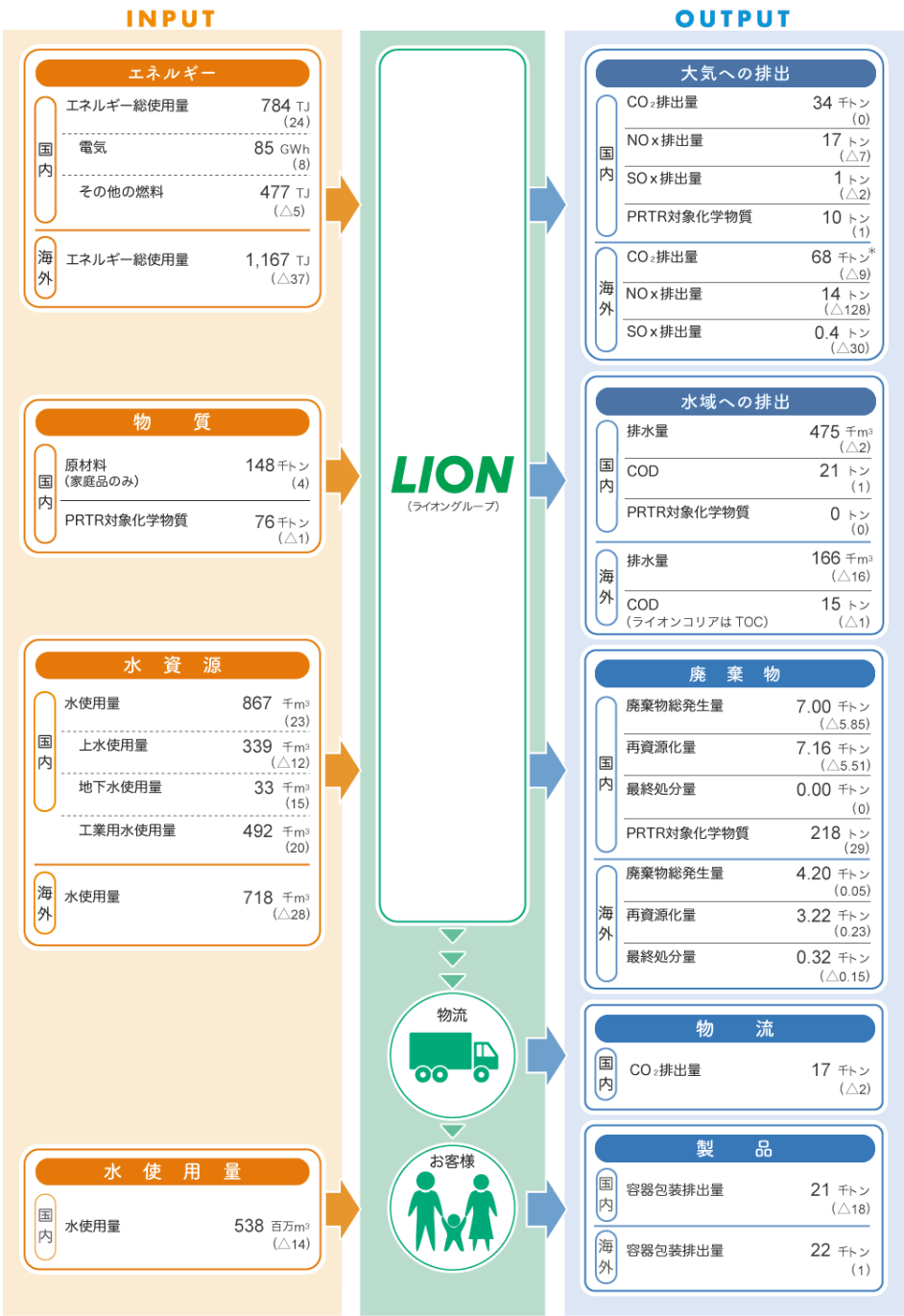
社会

ガバナンス

第三者検証

環境

事業活動による環境負荷の全体像



<データの対象範囲> ライオンおよび国内外連結子会社

<データの対象期間> 2025年1月～2025年12月：ただし、PRTR対象化学物質については2025年4月～2026年3月

事業所におけるCO₂排出量と削減率の推移(スコープ1,2)

【単位】排出量：千t-CO₂e、削減率：％

	地域	2017年*1	2022年	2023年	2024年	2025年
スコープ1・2合計排出量	国内	77	73	35	34	34
	海外	89	70*2	66*2	77*2	72*2
	合計(国内・海外)	166	143*3	101*3	111*3	106*3
スコープ1・2排出量の2017年比削減率	国内	—	5	54	56	56
	海外	—	21	26	14	19
	合計(国内・海外)	—	14	39	33	36

*1 基準年

*2 カーボンプレジット購入分を控除した数値。控除しない場合は2022年：85千トン、2023年：82千トン、2024年：92千トン、2025年：87千トン

*3 カーボンプレジット購入分を控除した数値。控除しない場合は2022年：159千トン、4％削減、2023年：117千トン、29％削減、2024年：126千トン、24％削減、2025年：121千トン、27％削減

＜ 取り組み内容はこちら

事業所におけるCO₂排出量の推移(スコープ1・スコープ2、ロケーション基準・マーケット基準)

【単位】 排出量：千t-CO₂e

	地域	2017年*	2022年	2023年	2024年	2025年
スコープ1排出量	国内	22	21	20	19	19
	海外	45	49	43	54	52
	合計(国内・海外)	67	70	63	73	71
スコープ2排出量(ロケーション基準)	国内	55	52	50	49	52
	海外	43	38	41	42	40
	合計(国内・海外)	98	90	90	91	93
スコープ2排出量(マーケット基準)	国内	55	52	15	15	15
	海外	43	36	38	38	35
	合計(国内・海外)	98	89	54	54	50
カーボンプレジット購入量	国内	0	0	0	0	0
	海外	0	16	16	16	15
	合計(国内・海外)	0	16	16	16	15

* 基準年

サプライチェーンにおけるCO₂排出量(スコープ1・2・3)割合の推移

【地域】国内・海外

【単位】割合：％、排出量：万t-CO₂e

		2017年*	2022年	2023年	2024年	2025年
スコープ1		1.5	1.4	1.3	1.5	1.7
スコープ2		2.1	1.4	1.1	1.1	1.2
スコープ3	購入した製品サービス	21.8	24.8	25.9	28.7	29.1
	資本財	0.8	1.2	1.4	0.8	0.7
	スコープ1、2以外のエネルギー等	0.4	0.6	0.6	0.7	0.8
	輸送・配送(上流)	3.4	4.2	2.6	2.8	3.0
	事業から出る廃棄物	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1
	出張	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	雇用者通勤	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1
	輸送配送(下流)	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2
	販売した製品の加工	5.3	2.1	2.3	2.1	0.8
	製品の使用	54.3	53.2	51.2	49.0	47.9
	製品の廃棄	9.6	10.3	12.8	12.4	13.9
	投資	0.4	0.5	0.5	0.4	0.5
排出量合計		461	527	489	486	419

* 基準年

＜ 取り組み内容はこちら

事業所におけるエネルギー総使用量の推移

【単位】使用量：TJ

	地域	2022年	2023年	2024年	2025年
エネルギー総使用量	国内	839	810	760	784
	海外	1,143	1,053	1,204	1,167
	合計	1,982	1,862	1,965	1,951

＜ 取り組み内容はこちら

事業所における再生可能エネルギー使用量と比率の推移

【単位】使用量：GWh、比率：％

	地域	2022年	2023年	2024年	2025年
再生可能エネルギー総使用量	国内	0.45	80	77	85
	海外	1	1	3	4
	合計(国内・海外)	1.8	81	79	89
非再生可能エネルギー総使用量	国内	232	145	134	133
	海外	316	291	332	320
	合計(国内・海外)	549	436	466	453
再生可能エネルギー比率(再生可能エネルギー／エネルギー総使用量)	合計(国内・海外)	0.33	15.7	14.6	16.5

製品のライフサイクルにおけるCO₂排出量の推移

【地域】国内・海外

【単位】排出量：千t-CO₂e

	2022年	2023年	2024年	2025年
製品のライフサイクルにおけるCO ₂ 排出量	4,780	4,427	4,164	3,786

製品のライフサイクルにおけるCO₂排出量割合の推移

【地域】国内・海外

【単位】割合：％

	2022年	2023年	2024年	2025年
原材料調達	25	26	27	29
生産	3	3	3	3
輸送	4	3	3	3
消費者による使用	57	55	54	50
消費者による廃棄	11	13	13	15

＞ 取り組み内容はこちら

事業所における水使用量(取水量)の推移

【単位】千m³

	地域	2022年	2023年	2024年	2025年
水使用量(取水量)	国内	940	932	844	867
	海外	683	716	746	718
	合計(国内・海外)	1,623	1,647	1,590	1,584

[> 取り組み内容はこちら](#)

事業所における水源別水使用量(取水量)の推移

【単位】千m³

	地域	2022年	2023年	2024年	2025年
上水	国内	365	388	351	339
	海外	655	482	413	340
	合計(国内・海外)	1,020	870	764	679
工水	国内	529	518	472	492
	海外	28	233	333	365
	合計(国内・海外)	557	752	805	857
地下水	国内	44	24	18	33
	海外	0	0	0	13
	合計(国内・海外)	44	24	18	47
雨水	国内	2	2	2	0
	海外	0	0	0	0
	合計(国内・海外)	2	2	2	0

事業所における排水量の推移

【単位】千m³

	地域	2022年	2023年	2024年	2025年
排水量	国内	512	493	477	475
	海外	180	189	182	166
	合計(国内・海外)	692	682	659	641

事業所における放流先別排水量の推移

【単位】千m³

	地域	2022年	2023年	2024年	2025年
下水道	国内	322	302	276	280
	海外	74	85	85	75
	合計(国内・海外)	396	387	361	356
海	国内	130	135	154	146
	海外	0	0	0	0
	合計(国内・海外)	130	135	154	146
河川	国内	60	56	46	49
	海外	5	6	8	12
	合計(国内・海外)	65	62	54	62
その他(工業団地処理施設)	国内	0	0	0	0
	海外	101	99	89	78
	合計(国内・海外)	101	99	89	78

製品のライフサイクルにおける水使用量の推移

【地域】国内・海外

【単位】使用量：百万m³、売上高原単位：千m³/百万円、削減率：%

	2022年	2023年	2024年	2025年
水使用量	2,303	2,228	2,057	2,039
売上高原単位	5.91	5.53	4.98	4.83
売上高原単位 2017年比 削減率	7	13	22	24

製品のライフサイクルにおける水使用量割合の推移

【地域】国内・海外

【単位】割合：%

	2022年	2023年	2024年	2025年
原材料調達	19.8	21.0	20.1	20.1
生産	0.1	0.1	0.1	0.1
輸送	0.0	0.0	0.0	0
消費者による使用	75.8	74.0	74.9	75.2
消費者による廃棄	4.3	4.9	4.9	4.7

＜ 取り組み内容はこちら

容器・包装材料 / 廃棄物

容器・包装材料使用量の推移

【単位】千トン

	地域	2022年	2023年	2024年	2025年
容器・包装材料使用量*	国内	56	55	48	41
	海外	49	51	53	55
	合計(国内・海外)	105	106	101	97

* 家庭品におけるプラスチック、段ボール、板紙、ガラス、金属の合計

材質別 容器・包装材料使用量*の推移

【単位】千トン

	地域	2022年	2023年	2024年	2025年
プラスチック	国内	18	18	16	15
	海外	18	18	19	19
	合計(国内・海外)	36	36	35	34
段ボール	国内	27	27	24	22
	海外	29	30	32	33
	合計(国内・海外)	56	57	56	55
板紙	国内	5	5	4	3
	海外	2	2	3	3
	合計(国内・海外)	7	7	7	7
ガラス	国内	6	6	3	0
	海外	0	0	0	0.1
	合計(国内・海外)	6	6	3	0.1
金属	国内	0.1	0.1	0.1	0
	海外	0	0	0	0.1
	合計(国内・海外)	0.1	0.1	0.1	0.1

* 家庭品における使用量

＜ 取り組み内容はこちら

廃棄物総発生量・廃棄物最終処分量・有価物総量の推移

【単位】千トン

	地域	2022年	2023年	2024年	2025年
廃棄物総発生量	国内	11.22	8.77	12.85	7.16
	海外	4.19	4.26	4.15	4.2
	合計(国内・海外)	15.41	13.03	17.00	11.36
廃棄物最終処分量	国内	0.00	0.00	0.00	0
	海外	0.38	0.50	0.47	0.32
	合計(国内・海外)	0.38	0.50	0.47	0.33
有価物総量	国内	3.22	3.02	3.02	2.61
	海外	3.15	3.11	3.13	3.11
	合計(国内・海外)	6.37	6.13	6.13	5.72

＞ 取り組み内容はこちら

廃棄物処理方法別廃棄量の推移

【地域】国内・海外

【単位】千トン

	2022年	2023年	2024年	2025年
リサイクルまたは再利用された量	17.56	13.86	17.65	12.8
埋立量	0.38	0.50	0.47	0.32
焼却処理量 (エネルギー回収有)	3.20	3.86	4.14	3.13
焼却処理量 (エネルギー回収無)	0.44	0.76	0.69	0.76
廃棄方法不明量	0.00	0.00	0.00	0.00

産業廃棄物処理施設の維持管理の状況に関する情報

千葉工場

＞ 2024年度維持管理状況(2024/06/20更新)  (PDF:84KB)

＞ 2023年度維持管理状況(2024/05/08更新)  (PDF:86KB)

＞ 2022年度維持管理状況(2023/05/19更新)  (PDF:88KB)

＊ 2024年に汚泥焼却炉施設を廃止したため、2024年6月以降、更新なし。

PRTR対象物質総排出量の推移

【地域】国内
【単位】トン

	2022年	2023年	2024年	2025年
PRTR対象物質総排出量	2	3	9	10

PRTR対象物質の排出量

> 「2025年度PRTR対象物質の排出量(国内グループ)」PDF (132KB)

VOC排出量の推移

【地域】国内
【単位】トン

	2022年	2023年	2024年	2025年
揮発性有機化合物(VOC)総排出量	57	53	54	56

窒素酸化物(NO_x)・硫黄酸化物(SO_x)・ばいじん排出量の推移

【単位】トン

	地域	2022年	2023年	2024年	2025年
窒素酸化物(NO _x)排出量	国内	26	25	24	17
	海外	3	38	142	14
	合計(国内・海外)	56	62	167	31
硫黄酸化物(SO _x)排出量	国内	3	4	3	1
	海外	3	1	30	0
	合計(国内・海外)	6	5	33	1
ばいじん	国内	1	0	0	0
	海外	26	26	58	35
	合計(国内・海外)	28	26	58	35

事業所におけるCODの推移

【単位】トン

	地域	2022年	2023年	2024年	2025年
COD	国内	28	21	20	21
	海外	18	15	16	15
	合計(国内・海外)	47	36	36	37

* ライオンコリアについてはTOCの値

> 取り組み内容はこちら

環境会計

環境省のガイドラインに基づき、当社国内グループ全体の環境保全コストと環境保全対策にともなう経済効果(実質効果)について毎年集計し、その内容を開示しています。

(集計期間:2025年1月～12月)

2025年の環境保全コストは、設備投資が約2.5億円減少し、費用額が約2.4億円減少しました。

環境保全コスト

(百万円)

分類	主な取り組み	2025年1月～12月	
		投資額	費用額
事業エリア内コスト	公害防止	55	238
	地球環境保全	466	3,744
	資源循環	34	248
	環境配慮製品	3,313	3,017
上・下流コスト	容器・包装リサイクル	—	674
管理活動コスト	ISO14001登録、環境教育	0	524
研究開発コスト	環境配慮製品の研究開発 等	35	850
社会活動コスト	環境改善対策、団体寄付	0	15
環境損傷コスト	汚染負荷量賦課金 等	0	1
国内グループ計		3,904	9,311
	前年増減	-252	-235

環境保全対策にともなう経済効果(実質効果)

(百万円)

効果の内容	前年比削減額
省エネルギーによる費用削減額	-174.0
省資源による費用削減額	197.0
上下水使用料削減額	-3.7
廃棄物処理削減額*	94.4

* 有価売却費を含む

環境効率

企業活動が環境負荷の側面からどれだけ効率的に行われているかを評価するために、毎年、下記の計算式により環境効率を算出し、その向上に努めています。

環境効率 =
$$\frac{\text{事業活動の成果(売上高)}}{\text{環境影響* (LIMEにより算出した環境負荷金額)}}$$

* 環境影響はLIME(Life-cycle Impact assessment Method based on Endpoint modeling:日本版被害算定型環境影響評価手法)を用いて、環境への影響(被害)を環境負荷金額として算出。

環境効率と環境負荷金額(2005年比)の推移

	単位	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
環境負荷金額(2005年比)	%	84	90	78	87	46
環境効率		344	326	373	330	627

生産系事業所環境データ

＜ライオンおよび国内連結子会社 PDF (PDF:48KB)

＜海外連結子会社 PDF (PDF:40KB)

ESGデータ・第三者検証

環境

社会

ガバナンス

第三者検証

社会

✓ 人材関連データ ✓ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン ✓ ワークライフエンリッチメント

✓ 人材開発 ✓ 従業員の健康増進 ✓ 生産性と働きがい ✓ 持続可能な原材料調達

人材関連データ

対象範囲：ライオン株式会社所属の従業員（以下、単体）と、ライオン株式会社に在籍のまま関係会社・関係団体等に勤務する従業員（以下、出向者）

- * 委任契約ではない執行役員は含む
- * 臨時従業員、パートタイマー、派遣社員は含まない

ライオングループ全体：単体+出向者に加えて、国内外関係会社※所属の従業員

※ 算出対象とした国内外関係会社（16社）
ライオンケミカル（株）、ライオンエキスパートビジネス（株）、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ（株）、ライオンハイジーン（株）、ライオンペット（株）、ライオンエンジニアリング（株）、ライオンともに（株）、ライオン歯科材（株）、獅王日用化工（青島）有限公司、獅王家品股份有限公司、Merap Lion Holding LLC、Lion Corporation (Korea)、Lion Corporation (Singapore) Pte Ltd、獅王（香港）有限公司、Lion Corporation (Thailand) Ltd.、Southern Lion Sdn. Bhd.
ご参考：連結子会社24社
各年12月31日現在

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン

従業員構成

		対 象	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	
従業員数	男性	単体+出向者	2,347名	2,317名	2,253名	2,197名	2,163名	
		ライオングループ全体	4,454名	4,425名	4,306名	4,256名	4,612名	
	女性	単体+出向者	1,238名	1,270名	1,292名	1,290名	1,312名	
		ライオングループ全体	2,944名	2,979名	2,976名	2,949名	3,281名	
女性比率		単体+出向者	34.5%	35.4%	36.6%	37.0%	37.8%	
		ライオングループ全体	39.8%	40.2%	40.9%	41.4%	41.6%	
年代別従業員比率		30歳未満	単体+出向者	16.0%	16.0%	14.9%	13.8%	13.7%
			ライオングループ全体	20.0%	19.0%	18.0%	17.1%	16.7%
		30-50歳	単体+出向者	46.0%	46.0%	46.2%	45.9%	45.7%
			ライオングループ全体	53.0%	53.0%	52.7%	52.6%	54.7%
		50歳超	単体+出向者	38.0%	38.0%	38.9%	40.2%	40.6%
			ライオングループ全体	27.0%	28.0%	29.2%	30.2%	28.5%

採用

		対象	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
新入社員数(新卒)	男性	単体+出向者	54名	46名	35名	37名	37名
	女性	単体+出向者	33名	38名	30名	37名	37名
新入社員数(中途)	男性	単体+出向者	20名	7名	17名	31名	29名
	女性	単体+出向者	13名	14名	8名	22名	33名
	管理職	単体+出向者	—	5名	5名	7名	14名
	非管理職	単体+出向者	—	14名	20名	46名	48名
地域限定社員	登用者数		0名	8名	9名	0名	0名
定年退職者再雇用	人数	単体+出向者	293名	343名	462名	475名	518名
	率	単体+出向者	8.2%	9.6%	12.8%	13.6%	14.9%
臨時雇用者数		単体+出向者	130名	104名	78名	60名	43名
障がい者雇用	人数	単体+出向者	77名	79名	85名	79名	41名
		ライオングループ全体	127名	131名	135名	94名	101名
	率	単体+出向者	2.7%*1	2.8%*1	2.9%*1	2.8%*1	2.4%*1
		ライオングループ全体	1.7%	1.8%	1.9%	1.3%	1.3%

退職

		対象	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
合計退職率*2		単体+出向者	2.8%	3.3%	3.1%	3.8%	4.1%
自己都合退職率		単体+出向者	2.3%	1.6%	2.0%	2.2%	1.8%
		ライオングループ全体	4.9%	5.5%	5.8%	4.4%	4.5%
入社3年後までの退職	人数	単体+出向者	4名	6名	11名	12名	12名
	率	単体+出向者	1.6%	2.4%	4.4%	3.5%	4.7%

勤続年数

		対象	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
平均勤続年数(再雇用者除く)	男性	単体+出向者	19.5年	19.6年	18.3年	16.9年	17.7年
	女性	単体+出向者	14.1年	14.2年	13.1年	13.1年	13.8年

労使関係

		対象	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
労働組合、労使協議会等、従業員と経営が協議する仕組みがある法人割合		ライオングループ全体	86.4%	86.4%	86.4%	86.4%	86.4%
上記加入従業員比率		単体+出向者	77.9%	65.9%	62.6%	60.6%	59.9%
		ライオングループ全体	75.1%	72.9%	71.3%	70.5%	80.6%

管理職に占める女性比率

		対象	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
管理職に占める女性の割合*3	人数	単体+出向者	93名	98名	127名	133名	157名
		ライオングループ全体	289名	267名	334名	339名	425名
	率	単体+出向者	10.3%	11.1%	14.2%	14.5%	17.3%
		ライオングループ全体	20.4%	19.6%	23.5%	24.4%	27.7%
管理職に占める女性の割合(上級管理職)	人数	単体+出向者	2名	2名	3名	1名	0名
		ライオングループ全体	47名	44名	44名	42名	67名
	率	単体+出向者	12.5%	9.1%	12.5%	4.5%	0.0%
		ライオングループ全体	40.2%	38.9%	39.3%	38.2%	43.8%
管理職に占める女性の割合(中級・初級管理職)	人数	単体+出向者	91名	96名	124名	132名	157名
		ライオングループ全体	242名	223名	290名	315名	358名
	率	単体+出向者	10.3%	11.2%	14.2%	14.5%	17.6%
		ライオングループ全体	18.6%	17.8%	22.1%	23.2%	26.0%
準管理職に占める女性の割合*4	人数	単体+出向者	163名	180名	160名	154名	148名
		ライオングループ全体	232名	231名	233名	227名	250名
	率	単体+出向者	27.8%	31.4%	32.0%	33.3%	32.7%
		ライオングループ全体	28.1%	30.2%	26.3%	31.7%	33.6%
管理職に占める女性の割合(収益部門)	人数	単体+出向者	36名	37名	42名	37名	39名
		ライオングループ全体	154名	147名	155名	155名	179名
	率	単体+出向者	9.9%	10.5%	12.8%	12.3%	13.3%
		ライオングループ全体	24.0%	23.1%	25.2%	26.0%	28.1%
管理職に占める女性の割合(STEM部門)	人数	単体+出向者	19名	19名	32名	22名	30名
		ライオングループ全体	39名	40名	58名	45名	58名
	率	単体+出向者	11.8%	12.3%	14.7%	13.4%	16.5%
		ライオングループ全体	16.8%	16.3%	18.8%	18.3%	20.7%

男女の平均報酬比率

		対象	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
男性に対する女性平均報酬比率(取締役)	男性	単体+出向者	100%	100%	100%	100%	100%
	女性	単体+出向者	—	—	—	—	—
男性に対する女性平均報酬比率(社外取締役)	男性	単体+出向者	100%	100%	100%	100%	100%
	女性	単体+出向者	100%	100%	100%	100%	100%
男性に対する女性平均報酬比率(管理職)	男性	単体+出向者	100%	100%	100%	100%	100%
		ライオングループ全体	100%	100%	100%	100%	100%
	女性	単体+出向者	89%	93%*5	92%*5	89%	90%
		ライオングループ全体	93%	97%	91%	91%	98%
男性に対する女性平均報酬比率(非管理職)	男性	単体+出向者	100%	100%	100%	100%	100%
		ライオングループ全体	100%	100%	100%	100%	100%
	女性	単体+出向者	79%	79%*5	81%*5	82%	81%
		ライオングループ全体	91%	89%	92%	91%	97%

*1 国内雇用率算出基準を利用

*2 自己都合退職率と自己都合以外(定年退職、期間満了、死亡)の退職率の合計

*3 上級管理職(CEOや取締役を除く本部長・副本部長相当)、中級・初級管理職(部長、課長相当)の合計

*4 係長相当など管理職の補佐的役割を担うもの

*5 第三者保証を受けています

＜ 取り組み内容はこちら

ワークライフエンリッチメント

働き方・労働時間・休暇

		対象	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
育児休業取得者	男性	単体+出向者	54名	55名	57名	55名	63名
	女性	単体+出向者	84名	77名	89名	84名	93名
育児短時間勤務	男性	単体+出向者	0名	0名	0名	1名	1名
	女性	単体+出向者	78名	65名	74名	87名	73名
月平均所定外労働時間		単体+出向者	12.5時間	13.8時間	12.4時間	12.3時間	12.7時間
年次有給休暇取得率		単体+出向者	65.9%	69.2%	74.8%	78.8%	76.4%
ボランティア休暇取得者数	のべ取得者数	単体+出向者	0名	0名	0名	2名	2名
	のべ取得日数	単体+出向者	—	—	—	7日	8日

エンゲージメント・従業員意識調査

対象：単体+出向者

		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
従業員意識行動調査 「誇りを持って働いている従業員率」	回答率全体	84.3%	89.5%	93.5%	94.5%	92.8%
	全体	80.5%	77.1%	74.5%	76.9%	81.8%
	男性	84.3%	78.2%	76.4%	78.9%	84.1%
	女性	77.0%	78.1%	75.4%	78.4%	82.7%
	10～20代	74.9%	71.9%	75.2%	77.7%	85.2%
	30代～	78.9%	76.9%	70.6%	69.6%	78.5%
	40代～	79.0%	75.9%	72.8%	76.1%	81.3%
	50代～	84.6%	79.5%	76.7%	79.2%	80.5%
	60代～	85.4%	82.1%	78.4%	85.2%	87.0%
	管理職（役員含む）	89.6%	85.1%	82.1%	81.5%	83.6%
	非管理職	77.5%	74.9%	72.1%	77.1%	85.5%

＞ 取り組み内容はこちら

人材開発

FTEあたり平均研修時間・研修費用詳細

		対象	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
FTEあたり平均研修時間		単体+出向者	52.8時間*	58.1時間	50.2時間	38.1時間	41.6時間
		ライオングループ全体	31.0時間*	34.9時間	32.1時間	25.9時間	27.2時間
FTEあたり平均研修 時間詳細	30歳未満	単体+出向者	97.7時間	93.1時間	80.4時間	79.9時間	133.5時間
		ライオングループ全体	44.2時間	44.1時間	43.7時間	41.2時間	59.1時間
	30-50歳	単体+出向者	49.3時間	55.2時間	56.7時間	39.0時間	31.9時間
		ライオングループ全体	26.3時間	31.7時間	32.8時間	25.0時間	19.9時間
	50歳超	単体+出向者	54.5時間	46.3時間	31.0時間	22.3時間	20.8時間
		ライオングループ全体	36.6時間	34.1時間	23.7時間	18.3時間	18.7時間
	男性	単体+出向者	49.2時間	66.9時間	54.4時間	39.2時間	40.2時間
		ライオングループ全体	30.1時間	40.9時間	35.6時間	26.8時間	25.7時間
	女性	単体+出向者	59.8時間	41.9時間	43.0時間	36.4時間	44.0時間
		ライオングループ全体	30.3時間	26.1時間	26.9時間	24.4時間	27.2時間
	上級管理職	単体+出向者	39.7時間	281.5時間	48.2時間	53.3時間	24.9時間
		ライオングループ全体	21.1時間	63.8時間	29.3時間	29.3時間	19.3時間
	中級/初級管理職	単体+出向者	83.3時間	128.5時間	79.0時間	61.1時間	69.9時間
		ライオングループ全体	60.4時間	95.0時間	58.2時間	46.2時間	53.8時間
	準管理職	単体+出向者	42.9時間	18.7時間	67.4時間	16.4時間	27.6時間
		ライオングループ全体	33.4時間	16.8時間	47.8時間	16.8時間	23.7時間
FTEあたり平均研修費用		単体+出向者	67,100円	94,800円	74,793円	77,549円	88,529円
		ライオングループ全体	36,700円	51,400円	43,992円	45,162円	46,733円
FTEあたり平均研修 費用詳細	30歳未満	単体+出向者	67,100円	288,300円	107,671円	152,507円	203,329円
		ライオングループ全体	43,500円	120,000円	48,381円	62,896円	80,463円
	30-50歳	単体+出向者	107,700円	82,900円	103,211円	98,209円	108,677円
		ライオングループ全体	46,700円	40,700円	52,257円	49,336円	49,243円
	50歳超	単体+出向者	24,100円	27,700円	28,557円	21,262円	27,192円
		ライオングループ全体	16,900円	20,400円	22,207円	16,528円	21,104円
	男性	単体+出向者	70,800円	98,300円	76,049円	76,269円	90,665円
		ライオングループ全体	41,300円	55,900円	45,954円	54,391円	33,318円
	女性	単体+出向者	60,000円	87,500円	72,602円	79,730円	85,006円
		ライオングループ全体	29,200円	41,900円	38,129円	40,586円	42,914円
	上級管理職	単体+出向者	65,000円	643,500円	562,378円	294,692円	269,164円
		ライオングループ全体	33,700円	108,200円	168,668円	103,555円	71,092円
	中級/初級管理職	単体+出向者	105,000円	176,600円	119,545円	138,747円	101,564円
		ライオングループ全体	76,800円	127,600円	87,895円	98,518円	78,405円
	準管理職	単体+出向者	44,000円	182,900円	62,361円	49,480円	116,078円
		ライオングループ全体	33,500円	139,200円	44,186円	39,448円	79,983円

業績評価・内部昇格

		対象	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
業績評価手法 MBO *1導入状況	上級管理職	単体	導入	導入	導入	導入	導入
	中級/初級管理職	単体	導入	導入	導入	導入	導入
	準管理職	単体	導入	導入	導入	導入	導入
	非管理職	単体	導入	導入	導入	導入	導入
業績評価手法 MBO *1導入従業員比率	上級管理職	ライオングループ全体	57.3%	53.3%	59.8%	59.8%	46.1%
	中級/初級管理職	ライオングループ全体	95.5%	94.8%	94.7%	94.7%	94.5%
	準管理職	ライオングループ全体	94.9%	94.4%	97.6%	97.6%	96.9%
	非管理職	ライオングループ全体	63.6%	66.2%	69.4%	69.4%	67.0%
空きポジションの内、社内候補で埋められた率 (内部昇格率)*2		単体+出向者	69.0%	89.1%	95.1%	92.2%	78.1%
		ライオングループ全体	55.7%	67.6%	82.5%	66.0%	63.3%

*1 MBO: Management by Objectives

*2 内部昇格率:内部昇格者数/(中途採用数+内部昇格者数)

> 取り組み内容はこちら

従業員の健康増進

対象:単体+出向者

		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
健康状態	定期健康診断受診率	100.0%	99.8%	99.9%	99.9%	100.0%
	精密検査受診率	59.6%	59.4%	55.7%	62.0%	55.4%
	特定保健指導該当率(40歳以上)*	16.8%	15.9%	14.7%	15.5%	16.1%
	特定保健指導実施率(40歳以上)*	83.6%	79.6%	85.1%	84.3%	確認後更新
	メタボリックシンドローム該当者率(40歳以上)	14.3%	13.6%	12.9%	14.0%	13.3%
	メタボリックシンドローム予備群該当者率(40歳以上)	14.4%	12.1%	13.4%	13.8%	13.9%
	適正体重維持者率	66.9%	67.5%	67.7%	66.2%	67.0%
生活習慣	非喫煙者率	82.6%	83.1%	83.6%	83.9%	84.1%
	運動習慣者比率	24.8%	26.1%	26.1%	26.9%	28.7%
	睡眠で十分な休養がとれている人の割合	67.4%	68.0%	66.9%	68.0%	71.8%
	朝食習慣者比率	75.8%	75.3%	74.4%	74.9%	76.3%
	適正飲酒習慣者率	84.5%	83.0%	89.2%	87.7%	86.8%
メンタルヘルス	ストレスチェック実施率	94.7%	97.5%	98.3%	98.5%	97.4%
	高ストレス者率	9.2%	8.7%	9.5%	8.6%	7.6%
ヘルスリテラシー	健診結果のそれぞれの項目が、何を意味しているかわかりますか「大体わかる」「よくわかる」と回答した割合	89.8%	91.2%	90.8%	90.8%	90.8%
	健診結果から、健康改善のためにどう行動するべきか判断することが出来ますか「判断できる」「大体できる」と回答した割合	87.2%	88.6%	88.6%	88.9%	89.3%

* 健康保険組合算出の数値(グループ全体の被保険者)

生産性と働きがい

対象:単体+出向者

		2022年	2023年	2024年	2025年	2030年目標
生産性	パフォーマンス発揮度(プレゼンティーズム)*1	84.7%	85.9%	85.0%	84.8%	85.0%以上
	病気や体調不良による休業率(アブセンティーズム)*2	0.8%	0.9%	1.0%	1.1%	0.7%未満
働きがい*3	ワークエンゲージメント	2.6	2.4	2.4	2.6	3.0以上
	「仕事に満足だ」に「満足」「まあ満足」と回答した割合	75.4%	69.4%	68.9%	72.7%	—
	「働きがいのある仕事だ」に「そうだ」「まあそうだ」と回答した割合	71.2%	73.2%	71.5%	75.9%	—

*1 プレゼンティーズム:何らかの疾患や症状を抱えながら出勤し業務遂行能力や労働生産性が低下している状態。
SPQ(東大1項目版)を用いて測定、2025年 回答者数:3,345名、回答率:96.3%

*2 アブセンティーズム:病欠、病気休業している状態。
休業率＝休業日数/総労働日数(勤務情報より算出)

*3 働きがい:ストレスチェックを用いて測定(ワークエンゲイジメント:4段階の設問2問の平均点)
2025年 回答者数:3288名、回答率:97.4%

主要原料におけるRSPO認証品への切替比率(国内)

2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
93%	99%	99%	99%	99%

＜ 取り組み内容はこちら

主要商品における国内原紙メーカーからの第三者認証紙の調達比率

2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
98%	99%	98%	99%	98%

＜ 取り組み内容はこちら

セルフチェックを依頼した一次サプライヤー数と回答率

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
サプライヤー数	502社	474社	436社	392社	356社
回答率	100%	96%	96%	97%	97%

＜ 取り組み内容はこちら

重要なサプライヤーの状況

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
重要なサプライヤー数	90社	90社	90社	90社	90社
重要なサプライヤーの割合 (全一次サプライヤーのうち占める割合)	17.9%	17.9%	19.3%	25.6%	29.8%
重要サプライヤーの購買金額比 (全一次サプライヤーのうち占める割合)	89%	89%	89%	92%	95%

＜ 取り組み内容はこちら

ESGデータ・第三者検証

環境

社会

ガバナンス

第三者検証

ガバナンス

✓ コンプライアンス受講率 ✓ 「AL心のホットライン」社内認知率

✓ 「AL心のホットライン」への相談・通報内容 ✓ 社告を伴う消費者・流通からの製品回収(リコール状況)

対象範囲：ライオン単体＋国内グループ会社

コンプライアンス受講率

2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
99.2%	98.1%	96.2%	97.3%	98.1%

＞ 取り組み内容はこちら

「AL心のホットライン」社内認知率

2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
99.0%	99.4%	99.5%	98.6%	99.5%

「AL心のホットライン」への相談・通報内容

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
ハラスメント的行為	12件	13件	17件	20件	15件
人事・労務管理上の問題	5件	9件	7件	5件	11件
その他	2件	3件	13件	9件	11件

＞ 取り組み内容はこちら

社告を伴う消費者・流通からの製品回収(リコール状況)

対象範囲：ライオン単体

2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
0件	0件	0件	0件	0件

ESGデータ・第三者検証

環境

社会

ガバナンス

第三者検証

第三者検証

第三者検証の実施（環境）

ライオングループは、環境データにおける温室効果ガス排出量（スコープ1、スコープ2、スコープ3一部カテゴリ）、並びに、水使用量及び排水量について、透明性と正確性を確保するため、SGSジャパン株式会社による第三者検証を受審しています。2025年の環境データについても、第三者検証を受審しました。

今後も、第三者検証を有効に活用し、継続的に精度向上に取り組んでいきます。

検証意見書

2026年5月27日
意見書番号: SGS26/049

ライオン株式会社
東京都台東区蔵前1-3-28
代表取締役社長執行役員
竹森 征之様

検証目的
SGSジャパン株式会社（以下、当社）は、ライオン株式会社（以下、組織）からの依頼に基づき、組織が作成した検証対象（以下、GHG等に関するステートメント）について、検証基準（ISO14064-3:2019及び当社の検証手順）に基づいて検証を実施した。本検証業務の目的は、組織の対象範囲にかかるGHG等に関するステートメントについて、判断基準に照らし適正に算定・報告されているかを独立の立場から確認し、第三者としての意見を表明することである。GHG等に関するステートメントの作成及び公正な報告の責任は組織にある。

検証範囲
検証対象は、Scope 1及び2、Scope 3、水使用量（取水量）、排水量及びCOD排出量である。
対象期間は2025年1月1日～2025年12月31日である。
詳細な検証対象範囲は別紙参照。

検証手順
本検証業務は、検証基準に則り、限定的保証水準にて次の手続きを実施した。

- 算定体制の検証：検証対象の測定・集計・算定・報告方法に関する質問、及び関連資料の閲覧
- 定量的データの検証：明石工場及び小田原工場の現地検証及び証憑突合、本社でのその他検証対象範囲に対する分析的手続き及び質問

判断基準は、温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル（Ver. 6.1）、IEA Emissions Factors 2025、フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（以下、フロン排出抑制法）、及び組織が定めた手順を用いた。

結論
前述の要領に基づいて実施した検証手続の範囲において、組織のGHG等に関するステートメントが、判断基準に従って、算定及び報告されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。
なお、当社は、組織から独立しており、公平性を損なう可能性や利害の抵触はない。

SGSジャパン株式会社
神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸134
横浜ビジネスパーク ノーススタジアム1
ビル5F アジアンフロア
認定・認定職員責任者

竹内 裕二

1 / 2

別紙

2026年5月27日
意見書番号: SGS26/049

検証対象範囲の詳細

検証対象	検証範囲	GHG等に関するステートメント
1 Scope 1, Scope 2	組織の国内工場4拠点、国内研究所2拠点、国内オフィス6拠点、国内物流1拠点、グループ国内工場4拠点、グループ海外工場6拠点、グループ海外研究所1拠点、グループ海外オフィス10拠点（計34拠点） ^{*1}	・エネルギー起源CO ₂ 排出量 Scope 1: 60,079 t-CO ₂ Scope 2: 49,685 t-CO ₂ ・エネルギー起源CO ₂ 以外のGHG排出量 ² : 10,931 t-CO ₂
^{*1} : フロン排出抑制法に關するフロン類については、国内工場4拠点、研究所2拠点、オフィス3拠点、グループ国内工場4拠点、グループ海外工場1拠点（計14拠点）に限定 ^{*2} : MERAP LION HOLDING CORPORATIONにおける排水処理に伴い発生するGHG排出量は含まない。		
2 Scope 3 カテゴリ1	組織単体及びLion Corporation (Korea) が販売した製品にかかる原材料、包材並びに組織単体における間接調達	473,118 t-CO ₂
3 Scope 3 カテゴリ11	組織単体及びLion Corporation (Korea) が販売した製品 ³	808,787 t-CO ₂
^{*3} : 組織の商品設計の使用方法を前提として算定されている。なお、ハンドソープ、食器用洗剤、お風呂用洗剤は本での使用を前提として算定されている。		
4 Scope 3 カテゴリ12	組織単体及びLion Corporation (Korea) が販売した製品	207,354 t-CO ₂
5 水使用量（水源別取水量（上水、工業用水、地下水、雨水含む） 排水量（放流先別（下水、公共水域、その他含む））	組織の国内工場4拠点、グループ国内工場4拠点、グループ海外工場5拠点（計13拠点）	・水使用量（取水量） : 1,584 千 m ³ ・排水量 : 641 千 m ³
6 COD排出量	組織の国内工場4拠点、グループ国内工場4拠点、グループ海外工場4拠点（計12拠点）	36 t

SGSジャパン株式会社によってwww.sgs.com/terms-and-conditions.htmで参照することができる「認証サービスの一般条件」に従って発行されたものであり、「認証サービスの一般条件」に規定されている責任の範囲と検証に関する事項および管轄に関する事項等に準じます。この書面に記載された内容は検証を行った時点における状況と適用される法令及び組織の範囲内における検証内容を示しています。組織およびこの書面に署名するSGSジャパン株式会社は取引先におけるすべての権利および義務の履行から、免脱されるものではありません。本書の内容または記載について、許可なく偽造、変造または改ざんすることは違法であり違反した場合には法令に基づきあらゆる範囲において罰せられる可能性があります。

2 / 2

検証意見書

イニシアチブ・外部評価

▼ イニシアチブへの参画

▼ 評価・認定

▼ SRIインデックス組み入れ状況

イニシアチブへの参画

国連グローバル・コンパクトへの参加

国連グローバル・コンパクト(UNGC)は、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって社会のよき一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な取り組みです。参加する企業・団体は「人権の保護」「不当な労働の排除」「環境への対応」そして「腐敗の防止」の4つの領域に関わる10原則の支持と実践が求められています。



国連グローバル・コンパクトの10原則

人権	原則1: 人権擁護の支持と尊重
	原則2: 人権侵害への非加担
労働	原則3: 結社の自由と団体交渉権の承認
	原則4: 強制労働の排除
	原則5: 児童労働の実効的な廃止
	原則6: 雇用と職業の差別撤廃
環境	原則7: 環境問題の予防的アプローチ
	原則8: 環境に対する責任のイニシアティブ
	原則9: 環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則10: 強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取り組み

ライオンは2009年にUNGCへの支持を表明し、この取り組みに参加しています。また、当社はUNGCのローカルネットワークであるグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)にも加入しています。GCNJには、参加企業のCSR活動推進を目的としたテーマごとの分科会があり、当社も「サプライチェーン分科会」「環境経営分科会」「HRDD分科会」「SRI/ESG分科会」等に参加しています。各分科会では、有識者の講演会によるCSR関連の最新動向や各社の事例を共有すると同時に、参加企業各社の幅広い業界における経験をもとに、様々な企業のCSR推進を支援する各種アウトプットの制作に取り組んでいます。

当社が制作に関わったアウトプット

◎ サプライチェーン分科会

CSR調達入門書 – サプライチェーンへのCSR浸透 –

CSR調達セルフ・アセスメント・ツール・セット

その他

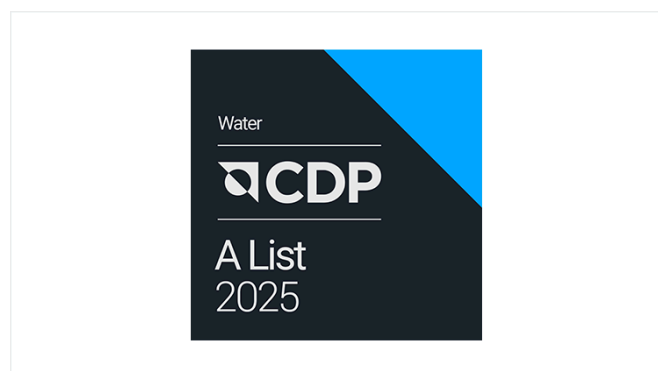
- ＞ 環境に関する外部イニシアチブへの参画
- ＞ 医薬品安全性に関する外部イニシアチブへの参画
- ＞ サプライチェーンに関する外部イニシアチブへの参画
- ＞ 人権に関する外部イニシアチブへの参画

評価・認定

ライオングループの環境や物流、人材に関する取り組みは、行政・外部機関から高い評価をいただいています。

2026年6月現在

CDPウォーター



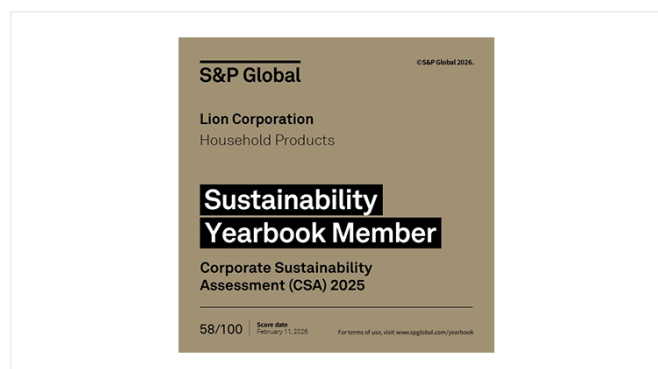
- 🔗 CDP Water Security
- ＞ ニュースリリース

サプライヤーエンゲージメント評価



- 🔗 サプライヤーエンゲージメント評価
- ＞ ニュースリリース

Sustainability Year book



- 🔗 Sustainability Year book
- ＞ ニュースリリース

SBTイニシアチブ



- 🔗 SBTイニシアチブ
- ＞ ニュースリリース

日経サステナブル総合調査SDGs経営編



[「日経SDGs経営」調査ウェブサイト](#)

日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編



[日経スマートワーク公式サイト](#)

ESG Finance Awards Japan



[ESG Finance Awards Japan](#)

DX認定



[DX認定](#)

健康経営優良法人～ホワイト500～



[健康経営優良法人](#)
[> ニュースリリース](#)

くるみん認定・プラチナくるみん認定



[くるみん認定・プラチナくるみん認定](#)

スポーツ庁「スポーツエールカンパニー」



[🔗 スポーツエールカンパニー](#)

[➤ ニュースリリース](#)

東京都スポーツ推進企業



[🔗 東京都スポーツ推進企業](#)

[➤ ニュースリリース](#)

食育実践優良法人



[🔗 食育実践優良法人顕彰制度](#)

[➤ ニュースリリース](#)

エコレールマーク



[🔗 エコレールマーク](#)

SRIインデックス組み入れ状況

ライオングループは、財務面だけではなく、環境・社会・ガバナンス面での課題にも取り組んでおり、国内外において代表的なSRI（社会的責任投資）インデックスに組み入れられています。

これらのインデックスへの組み入れは、世界的に認識されている企業倫理や企業の社会的責任基準を満たしていると評価された、信頼性の高い企業であることを示すものです。

2026年6月現在

グローバル

[🔗 MSCI Selection Indexes](#)

[🔗 FTSE4Good インデックス](#)

国内

[🔗 MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数](#)

[🔗 MSCI日本株女性活躍指数 \(WIN\)](#)

[🔗 MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数](#)

[🔗 FTSE JPX Blossom Japan インデックス](#)

[🔗 FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative インデックス](#)

[🔗 S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数](#)

[🔗 Morningstar日本株式ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数（除くREIT）（愛称「GenDi J」）](#)

ステークホルダー・エンゲージメント

- ✓ 考え方
- ✓ ライオンの主なステークホルダー
- ✓ ステークホルダー・エンゲージメント
- ✓ ステークホルダー・ダイアログの実施

考え方

ライオングループは、事業活動に関わるステークホルダー（利害関係者）の皆さまからの期待や要望に応えることが重要と認識しています。そのため、ステークホルダーの皆さまとの相互理解が持続可能な成長を続けていくうえで不可欠であり、様々なコミュニケーションの機会を通じて積極的に対話・協働するよう努めています。

皆さまからいただいた貴重なご意見やご提案を真摯に受け止め、社内で分析・検討したうえで今後の企業活動の中に落とし込み、より良いサステナビリティへの取り組みに活かしてまいります。

ライオンの主なステークホルダー

ライオンでは、株主・投資家、お客様（生活者）、ビジネスパートナー、行政・自治体、非営利団体、地域社会、従業員を主なステークホルダーと位置付けています。



ステークホルダー・エンゲージメント

当社は、社会に貢献する企業であり続けるために、ステークホルダーの皆さまの声に耳を傾け、以下のようなコミュニケーションの機会を通じて、ステークホルダー・エンゲージメント*を推進しています。頂いたご意見は経営層や該当部所に報告し、当社の事業活動に生かしています。

* 企業が社会的責任を果たしていく過程において、相互に受け入れ可能な成果を達成するために、対話などを通じてステークホルダーと積極的に関わり合うプロセス（経団連の「企業行動憲章 実行の手引き」（第7版）より参照）

主なステークホルダーとコミュニケーション方法

パーパス(存在意義)「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)」の実践

ステークホルダー	果たすべき主な責任	主なエンゲージメントの機会
株主・投資家	- 事業成長(売上・利益) - 株主への利益還元 - 健全で透明な経営 - 説明責任、建設的な対話 - 実効性のあるコーポレートガバナンス	- 株主総会、冊子「定時株主総会招集ご通知」 - 決算説明会 - 個人投資家・機関投資家向け説明会 - IRツアー:海外機関投資家・アナリストとの個別取材
	- 開示情報の充実 - 経営関連情報の適時開示	Webサイト「株主投資家情報」「ニュースリリース」等
	積極的な財務・非財務情報の開示	統合レポート
お客様(生活者)	よい良い習慣づくり	普及活動や展示会イベント
	安心安全なモノづくり	工場見学
	生活者視点を重視した商品開発	生活者研究:グループインタビュー、モニター調査
	日々の暮らしに役立つ優良な製品・サービスの提供	CM、店頭、通販ECサイト
	日々の暮らしに役立つ生活情報の発信	ホームページ、SNS等のソーシャルメディア
	お客様への適切・誠実な対応・サポート	お客様相談窓口
ビジネスパートナー	●<u>サプライヤー(原材料メーカー、生産委託先)</u> - 人権や環境等に配慮したサプライチェーンマネジメントの構築 - 責任ある原材料調達	「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」に基づくセルフチェック／フィードバック - コンプライアンス相談・通報窓口(AL心のホットライン)
	●<u>小売店、卸店</u> - 公平で公正な取引を通じた信頼関係の構築 - 商品の安定供給 - 生活者ニーズをとらえた付加価値商品やサービスの提案 - 各カテゴリー市場活性化への貢献	- 新製品説明会、商品勉強会 - ライオン会、卸店会 - 売場戦略提案会、MD(マーチャンダイジング)会議 - 協働イベント・フェア - 環境に関する協働取り組み
行政・自治体	監督官庁への適切な対話	協議会・委員会・意見交換会、人事交流
	地域の社会課題解決に向けた連携	協定締結、協働イベントや取り組み
	対等で健全な関係構築・保持	報告会、情報交換
非営利団体	社会や環境の課題解決に向けた協働・協力支援	- 協定締結、協働イベントや取り組み - 意見交換会 - 金銭・現品寄付による支援

ステークホルダー	果たすべき主な責任	主なエンゲージメントの機会
地域社会	社会的・経済的な課題解決	社会貢献活動、地域コミュニティへの参画
	地域活性化発展への貢献と地域共生	イベントを通じた地域住民との触れ合い
	- 健康増進・清潔衛生に関する次世代教育 - 教育カリキュラムの提案 - 環境教育	- 健康セミナー - 災害支援 - 科学教室支援 - 森林整備活動
	自然環境への配慮	環境美化活動
	生物多様性の保全	地域住民との保全活動
従業員	- 従業員が働きやすい環境の提供 - 働きがい支援	- イントラネットなどによる情報発信（社内広報活動） - 従業員意識行動調査アンケート - コンプライアンス意識調査アンケート
	- 良好な関係づくり - イノベーションに挑戦する組織風土の醸成	- 経営層と意見交換する社長懇談会 - 新価値創造プログラムを通じた新規事業の創出
	- 公正な評価や処遇 - 福利厚生制度の充実	- 労使協議会 - 個別面談
	人材の活用と育成	- スキル習得と能力開発に対応した多彩な教育プログラム研修 - 階層別研修
	労働安全衛生の推進	- 労働災害防止プログラム - e－ラーニング研修
	健康増進・管理	健康診断、歯科健診
	人権の尊重	コンプライアンス相談・通報窓口（AL心のホットライン）
	多様性（ダイバーシティ）の尊重	

ステークホルダー・ダイアログの実施

当社は、ステークホルダーとの対話を「当社の目指す方向と社会の要請を照らし合わせ、よき企業市民としてのバランス感覚を確認できる貴重な機会」として重視しています。

最近では、これまでにない社会からの要請に応える必要性が増したことを背景に、ステークホルダー・ダイアログ*の一環として経営層を対象とした勉強会を開催しています。経営に直結するサステナビリティに関するテーマを取り上げ、外部有識者と当社の経営層の間で意見交換を実施しています。いただいた示唆やご意見は、経営に反映させるだけでなく、サステナビリティ活動の促進につなげています。

2022年5月、近年大きな社会問題として注目を集めている「人権尊重」をテーマとして、人権を専門とする外部有識者を講師に迎え、会長、社長、取締役、監査役、執行役員とのダイアログを実施しました。

今後も世の中のニーズをとらえ、社会の要請に応える企業を目指し、様々な形でステークホルダー・ダイアログを続けていきます。

実施年	参加ステークホルダー	テーマ
2022年	外部有識者	「人権尊重（「国連ビジネスと人権に関する指導原則」）～今、なぜ人権尊重の取り組み強化が必要か」
2021年	NPO法人	「おくちからだプロジェクト」
	外部有識者、従業員	「サステナビリティ浸透」
2020年	外部有識者	「ESG経営」
2019年	外部有識者	「サステナビリティ経営の推進に向けて」

* 企業が自社の社会・環境的活動に対するステークホルダーの意見を反映することを目的とし、様々なステークホルダーを集め開催する双方向の対話のこと

社会貢献活動

▼ 考え方 ▼ 社会貢献のあゆみ ▼ 社会貢献活動の重点領域

考え方

ライオンは、パーパス(存在意義)「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する(ReDesign)」を掲げ、日々実践しています。一人ひとりの毎日を、より良い習慣づくりで支え、サステナブルな社会の形成に取り組む続けることを社会貢献活動における使命としています。

社会貢献活動を通じて、ステークホルダーの皆様と日本のみならずアジアの社会が抱える課題に向き合い、新たな社会価値を創出する製品やサービスを生み出すことで、人々の心と身体へのヘルスケアの実現と健全な地球環境の実現を目指しています。

社会貢献のあゆみ

ライオンの創業者である小林富次郎は、「事業を通じて社会に貢献する」という想いを抱き、ライオン株式会社の前身である小林富次郎商店において、『ライオン歯磨慈善券付袋入』を発売し、その売上の一部を慈善団体に寄付するという、当時としては画期的な社会貢献の仕組みを生み出しました。

この「社会に貢献する」という想いは、ライオン企業理念のDNAである「愛の精神の実践」として受け継がれ、今日に至るまで続いています。

現在、ライオンの事業は、生活者の健康、快適、清潔・衛生的な暮らしを実現する商品やサービスの提供にとどまらず、生活に役に立つ情報発信や普及啓発活動にも力を注ぎ、人々の暮らしの向上と社会への貢献を見据えた「より良い習慣」を提案し続けています。

社会貢献活動の重点領域

当社は、「健康な生活習慣づくり」「エコの習慣づくり」「次世代の習慣づくり」「防災・災害時の清潔・健康ケア啓発」を、社会貢献活動における重点領域として位置づけています。これらの活動には、「より良い習慣づくり」に関する知見やリソースを活用しつつ、自治体をはじめとする多様なステークホルダーの皆様と連携して取り組んでいます。

社会貢献活動	連携しているステークホルダー(順不同)
<重点領域> 1. 健康な生活習慣づくり 2. エコの習慣づくり(環境コミュニケーション) 3. 次世代の習慣づくり(次世代育成) 4. 防災・災害時の清潔・健康ケア啓発 <その他の活動> - 地域共生(生物多様性保全活動・工場見学 他) - スポーツ振興(LION FANGSラグビー交流) - 寄付・協賛活動	◆行政・自治体 (沖縄県・石巻市・台東区・坂出市・墨田区・明石市・横浜市) ◆非営利団体 - 公益財団法人(ライオン歯科衛生研究所) - NPO法人、NGO団体(全国こども食堂支援センター・むすびえ 他) - 一般社団法人 ◆地域社会 - 学校法人、教育機関 ◆ビジネスパートナー ◆従業員

- ✓ 健康な生活習慣づくり(オーラルヘルスケア、清潔・衛生)
- ✓ エコの習慣づくり(環境コミュニケーション)
- ✓ 次世代の習慣づくり(次世代育成)
- ✓ 防災・災害時の清潔・健康ケア啓発
- ✓ 行政・自治体との連携活動
- ✓ その他の活動(地域共生、スポーツ振興、寄付・協賛活動)

1. 健康な生活習慣づくり

健康な生活習慣づくりの社会貢献活動では、「オーラルヘルスケア」と「清潔・衛生」の大きく2つの習慣づくりを展開しています。

日本やアジアにおけるオーラルヘルスケアや清潔・衛生の更なる習慣定着を目指し、地域社会の課題に合わせ、子どもや生活者の暮らしに向き合い、多様なステークホルダーと連携することで、健康な生活習慣づくりの普及啓発活動を展開しています。また、こうした活動を広く周知し、社会全体の意識や行動の変化を早めるために、PR活動にも積極的に取り組んでいます。

1-1. オーラルヘルスケア習慣の普及啓発活動

<インクルーシブ・オーラルケア／おくちからだプロジェクト>

当社は、2021年から「誰一人取り残さずオーラルヘルスケアを提供できる社会」の実現を目指し、「インクルーシブ・オーラルケア」に取り組んでいます。その一環として、「おくちからだプロジェクト」を展開し、子どもたちの心とからだの健康を「オーラルケアの習慣づくり」で支える活動を行っています。

「おくちからだプロジェクト」では、「認定NPO法人全国こども食堂センター・むすびえ」や、沖縄県で子どもの居場所づくりを行う団体と連携し、子どもの自己肯定感を育むことを目指しています。主な取り組みとして、子ども食堂・子どもの居場所に向けた体験プログラムキット(歯みがきの紙芝居、工作体験、カードゲーム、歯みがきカレンダーなど)の全国配布、社員研修を通じた子どもと社員の交流、企業同士が連携した啓発PRを実施しています。

また、沖縄県においては、地域特有の課題にも向き合い、子どもたちへの多様な体験機会の提供、認定こども園・保育園での啓発活動、若年妊産婦への支援など、特定地域に根差したオーラルヘルスケア習慣の普及にも取り組んでいます。



こども食堂で展開する体験プログラムの様子



企業と共創した体験イベントの様子



福祉まつりでの体験イベントの様子

1-2. 清潔・衛生習慣の普及啓発活動

当社は、子どもや保護者の皆様の清潔・衛生習慣の定着と、教育現場の先生による啓発を支援することを目的に、手洗いや手指の消毒の普及啓発活動に取り組んでいます。

<幼稚園や小学校での手洗い普及啓発活動>

幼稚園や小学校で、当社製品『キレイキレイ泡ハンドソープ』のボトルを活用したマイボトル工作体験や、泡の性質を学ぶ実験などを実施しています。これらの体験を通じて、子どもたちに「家族や大切な人のために手を洗う」意識と習慣を育むとともに、保護者や先生に向けた手洗い啓発の支援も行っています。



幼稚園での手洗いアラウタン体操の様子



『キレイキレイ』マイボトルシール工作ワークの様子



小学校での手洗い授業の様子

2. エコの習慣づくり(環境コミュニケーション)

当社のエコの習慣づくりの社会貢献活動では、資源循環の視点から「水を大切に使う習慣」と「プラスチックを無駄にしない習慣」の2つを柱として取り組みを展開しています。日本やアジアにおける水使用量やプラスチック使用量の削減、資源循環の促進を通じて、CO₂排出量の削減に貢献し、サステナブルな地球環境につながる習慣の定着を目指しています。

2-1. 水を大切に使う習慣の普及啓発活動

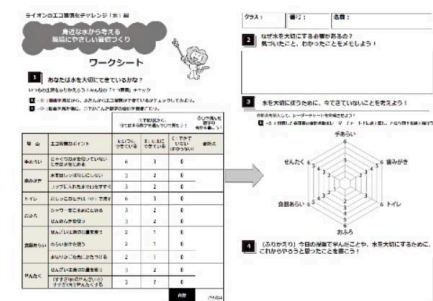
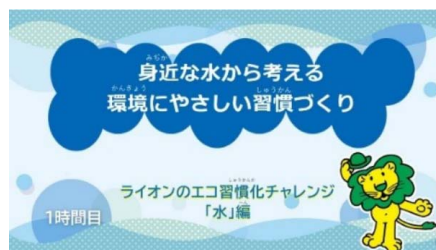
当社は、歯みがき、手洗い、洗濯、食器洗いなど、水と密接に関わる製品を多く扱う企業として、水資源を大切にすることを重要な責任と考え、「水を大切に使う習慣」の普及啓発に取り組んでいます。

<小学校向け：節水エコ習慣化チャレンジ>

子どもの初等教育から“水を大切に使う習慣”の意識を育むことを目的に、小学校での環境学習で活用できる「節水エコ習慣化チャレンジ」学習教材を提供しています。洗濯のすすぎ回数を減らすことによる節水効果を学びながら、日常生活でできるエコな行動を考える内容としています。

<本社地域でのワークショップ>

本社地域の子どもたちをオフィスに招き、台東区環境ふれあい館と共同で、地域の河川に生息する生物と水環境、浄水処理の仕組み、暮らしの中でできる節水行動などを楽しく学ぶワークショップを開催し、水を大切に使う習慣づくりを支援しています。



小学生向け節水エコ習慣化チャレンジ教材



節水エコ習慣化チャレンジ教材を用いた授業の様子

2-2. プラスチックを無駄にしない習慣の普及啓発活動

当社は、プラスチック由来のボトルやパウチなどの容器・包装を数多く扱う企業として、資源循環型社会の実現に向け、“プラスチックを無駄にしない習慣”の普及啓発に取り組んでいます。

<中高生向け:SDGs授業>

一人ひとりの資源循環への意識醸成を目的に、中等・高等教育の場で、プラスチックを取り巻く環境問題や、当社が進める「ハブラシリサイクル」「詰め替え・パウチリサイクル」などを学ぶSDGs授業を実施しています。

<全年代向け:体験・教材を通じた啓発>

幼児から高齢の方まで幅広い世代を対象に、資源循環を身近に楽しく体感できる工作体験(回収ハブラシのプラスチック片を活用した万華鏡のアップサイクルアート)や、環境コミュニケーション冊子「数字で見るくらしのたいせつ」の配布などを行い、プラスチックを無駄にしない習慣づくりを推進しています。



ハブラシプラスチック片を用いたアップサイクルアート「万華鏡工作ワーク」の様子



> 環境コミュニケーション冊子「数字で見るくらしのたいせつ」の発行

3. 次世代の習慣づくり(次世代育成)

当社では、次世代の習慣づくりと将来世代とのリレーション構築を目的に、学校教育や地域と連携した探究学習や職業体験など、様々な活動に取り組んでいます。事業や社会課題をテーマにしたワークショップ、社員との対話を通じて、子ども・若者が「より良い習慣づくり」やキャリア形成について主体的に考える機会を提供し、次世代の育成とサステナブルな社会づくりへの参画を支援しています。

3-1. 教育旅行の探究学習授業・SDGs授業

本社が観光エリアに位置する特長を生かし、修学旅行での企業訪問や校外学習を受入れ、SDGsをテーマにして授業を実施しています。

東京都台東区や旅行代理店と連携し、中学生・高校生を対象に、探究学習に対応した「オーラルヘルスケア習慣づくり」や「エコの習慣づくり」をテーマとした授業、アイデアワークショップ、工作体験などを行い、社会課題と自分たちの行動のつながりを学ぶ機会を提供しています。



修学旅行生・校外学習のSDGs授業の様子

3-2. 出張授業

地域の小学校へのお出張授業や、企業のファミリーデーなどの社内イベントにも対応し、子どもや保護者がオーラルヘルスケアや手洗い、環境問題について楽しく学べる工作体験型プログラムを実施しています。

3-3. 職業・職場体験プログラム

2026年からは、東京都の「こどもスマイルムーブメント」事業に参画し、中学生・高校生向けの職業体験プログラムを実施予定です。幼稚園での歯みがき・手洗い啓発といった社会貢献活動の体験に加え、社会課題の解決につながる取り組みを自ら企画・提案する機会を提供し、次世代がキャリアや社会参画について考えるきっかけづくりを行っていきます。



こどもスマイルムーブメント ロゴ
ライオン株式会社はこどもスマイルムーブメントに参画しました

4. 防災・災害時の清潔・健康ケア啓発

災害時は、避難生活や水不足等により、衛生環境が悪化し、身体を清潔に保つことが難しくなるため、清潔・健康ケアの重要性が一層高まります。特に、歯や口の健康は全身の健康と深く関わっており、口腔ケアが不十分になると、むし歯や歯周病などの口腔トラブルだけでなく、誤嚥性肺炎をはじめとした感染症のリスクが高まります。

こうした背景から、ライオンは「防災・災害時の清潔・健康ケア啓発」に取り組み、災害時だけでなく平時から備える習慣づくりを推進しています。

<災害時のための清潔健康セットの配布・啓発>

非常用持ち出し袋にハブラシなどの口腔ケア用品や衛生関連用品を備えることを呼びかける「災害時のための清潔健康セット」を配布し、日常的に使いながら定期的に入れ替えて備蓄する「ローリングストック」の実践を普及啓発しています。

<「災害時のための清潔&健康ケアBOOK」の作成・配布>

水が不足している時のお口のケア方法や、避難生活時の清潔・健康ケアの注意点などをまとめた冊子「災害時のための清潔&健康ケアBOOK」を作成・配布し、災害時に役立つ具体的な情報を提供しています。

<防災イベント等での啓発活動>

各地の防災イベントや関連行事に参加し、災害時の清潔・健康ケアの重要性や具体的なケア方法について、実物展示や説明を通じて積極的な啓発活動を行っています。



台東区防災フェアイベントの様子



災害時の清潔・健康ケア情報



5. 行政・自治体との連携活動

ライオンは、「健康な生活習慣づくり」や「エコの習慣づくり」といった重点領域を推進するにあたり、事業所の立地や歴史などでゆかりのある地域の行政・自治体と連携を図っています。地域の多様なステークホルダーと協力しながら、それぞれの地域課題に根ざした社会貢献活動を進めています。

5-1. 宮城県石巻市との包括連携協定活動

石巻市は、創業者である小林富次郎のゆかりの地であることから、2011年の東日本大震災以降、市内で独自の復興支援活動を継続しています。

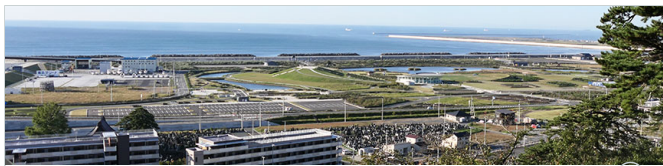
2019年1月には、当社が培ってきた健康づくりに関するリソースを活用し、市民の皆様の健康増進と地域の活性化を図ることを目的として、石巻市と包括連携協定を締結しました。コロナ禍による一時的な活動休止期間を挟みながらも、2024年1月には第2期包括連携協定を締結し、連携を継続しています。今後も健康習慣の定着や地域コミュニティの活性化、従業員による復興支援活動など様々な活動に取り組んでいきます。



包括連携協定活動報告会の様子



石巻南浜津波復興祈念公園での植樹活動集合写真



東日本大震災におけるライオンの取り組み

5-2. 東京都台東区との包括連携協定活動

2023年の本社移転を契機に、ライオンは台東区と「台東区・ライオン株式会社 包括連携協定」を締結しました。健康や環境等における地域が抱えるテーマに対し、「(1) 健康づくり・歯科保健対策」「(2) 環境対策・製品再資源化」「(3) 男女共同参画社会の推進」「(4) 子供・若者の健全な育成」「(5) 防災対策の推進」「(6) 観光の振興」「(7) スポーツの振興」の7項目での連携を推進しています。これらの連携を通じて、区民の健康増進と地域共生及び持続可能な社会の実現を目指し、双方協力しながら活動を進めています。



包括連携協定活動報告会の様子

5-3. 香川県坂出市との連携協定活動

「キレイキレイのまち 坂出」プロジェクトは、2014年に坂出市、ライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所、当社が連携協定を締結した取り組みです。手洗いやオーラルヘルスケアなどの健康習慣の啓発を通じて、坂出市民の健康増進を目指すとともに、ハブラシサイクルにも取り組み、市内の施設や学校などで使用済みハブラシの回収を行っています。

2026年2月に第4期となる連携協定を締結し、これまでの成果を踏まえつつ、双方協力しながら活動を継続・発展させています。



連携協定締結式の様子



坂出市内小学校での手洗い授業の様子



5-4. 沖縄県との連携協定活動(インクルーシブ・オーラルケア)

インクルーシブ・オーラルケア「おくちからだプロジェクト」では、子どものむし歯罹患率や自己肯定感の低さが課題とされる沖縄県において、2022年から産官学連携でプログラムの効果検証を実施してきました。こうした取り組みを2025年まで継続したうえで、2026年には沖縄県と「こどもの多様な体験に関する連携協定」を締結しました。沖縄県が掲げる「こどもまんなか社会」の実現に向けて、双方で様々な体験機会を創出し、子どもの“生きる力”と“良い習慣”の定着を目指した活動を推進しています。



沖縄県との連携協定式の様子

5-5. 東京都墨田区とのハブラシリサイクル協定活動

これまでライオン本社の所在地であった墨田区とは、2020年にプラスチックの資源循環を目的として、使用済みハブラシの回収・リサイクルを行う協定を締結しました。

区内で回収した使用済みハブラシは、学校や教育機関などで使用できる定規などに再生し、協力してくれた小学校などへの返礼品や啓発活動のツールとして再利用しています。こうした取り組みを通じて、地域と連携して資源循環型社会づくりに貢献し、当社が進める「プラスチックを無駄にしない習慣」の定着を目指しています。



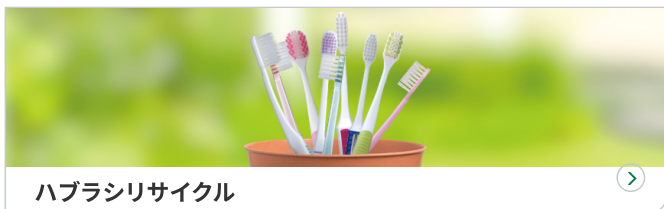
回収に協力してくれた小学校を訪問



定規を手にして喜ぶ小学生



完成した「15cm定規」



ハブラシリサイクル

6. その他の活動

6.1 生物多様性保全活動（各事業所）

化学原料を使用する企業として、化学物質汚染から生態系保護や地域の環境保全を目的として生物多様性保全活動に取り組んでいます。環境省やIUCN（国際自然保護連合）レッドリストに指定されているアカウミガメなどを保護する取り組みを行っています。



生物多様性保全活動

6.2 地域共生(事業所近隣の清掃活動/工場見学)

地域社会への奉仕と市民の皆さまとのコミュニケーション促進を目的に、事業所近隣の清掃活動や、工場見学の受け入れを行っています。清掃活動を通じた地域環境の美化に加え、工場見学では製品がつくられる過程や環境・安全への取り組みを紹介し、企業活動への理解促進と地域との信頼関係の構築に努めています。



工場見学と清掃活動の様子



各事業所での清掃活動集合写真

6.3 スポーツ振興

ライオンは、社会人ラグビートップイーストリーグに在籍する「LION FANGS」ラグビークラブチームを運営し、スポーツの振興を通じて人々の心と身体のヘルスケアに貢献する活動を行っています。地域の子どもたちを対象としたタグラグビー教室の開催やクラブ選手と市民との交流フェスタなどを通じて、スポーツの楽しさや心と身体の健康づくりを伝え、地域に根ざした活動を推進しています。



石巻市でのラグビー教室



千葉工場でのラグビーフェスタ



[ライオンファングスホームページはこちら](#)



6.4 寄付・協賛活動

ライオンは、国内グループ会社を含め、毎年、寄付金等を集計・管理しています。2025年度の寄付金は、合計約299.9百万円となりました。今後も寄付金や物資の寄付、協賛活動を進めてまいります。

海外グループでの取り組み

考え方

ライオングループでは、事業展開しているアジアにおいても「オーラルヘルスケア習慣」「清潔・衛生習慣」の普及定着活動を実施し、また、海外グループ会社の事業所所在地や各地域で「環境保全活動」「寄付活動」にも取り組んでいます。実施にあたっては、生活者に寄り添い、現地の行政、流通、学校、歯科専門家や各コミュニティ等とともにパートナーシップを組みながら、活動を推進しています。

海外グループ会社で行っているサステナビリティ活動



Lion Corporation (Korea)	>	獅王日用化工（青島）有限公司	>	獅王家品股份有限公司	>
獅王（香港）有限公司	>	Merap Lion Holding LLC	>	Lion Corporation (Singapore) Pte Ltd	>
Lion Kallol Limited	>	Lion Corporation (Thailand) Ltd.	>	Southern Lion Sdn. Bhd.	>
PT. Lion Wings	>				

Lion Corporation (Korea)

✓ オーラルヘルスケア ✓ 清潔衛生習慣 ✓ 環境保全活動 ✓ 寄付活動

オーラルヘルスケア

① 保健所と共同した社会的弱者の妊婦及び乳幼児へのオーラルケア指導

Lion Corporation (Korea) (以下、「ライオンコリア」という。)は、西大門(ソデムン)区保健所の協力のもと、ソウル特別市内の西大門区管内の福祉施設で、社会的に困難を抱えている妊婦と乳幼児に対して、正しい「予防歯科」習慣の指導をしています。2025年は292名が参加しました。2024年までは、教育機関に歯みがき施設(歯科健診やオーラルケア指導を行う施設)を設置し、そこで歯みがき教育を実施してきましたが、昨今の社会課題を鑑みて、対象者を設定しました。2014年から累計で80,987名のソウル市民に歯みがき教育を行っています。



指導風景

② 「小学生歯みがき大会」の実施

ライオングループは、生涯にわたって人々の健康保持をサポートするため、子どものころからの歯とお口の健康意識を育むことに重点を置いています。日本では、小学生に対して正しい歯みがき指導やオーラルヘルスケアを指導することを目的に「全国小学生歯みがき大会」を1932年から実施しています。現在では、活動の場をアジア中心に広げ、小学校で毎年開催しています。

ライオンコリアでは、2009年より「小学生歯みがき大会」を開催しています。

2025年は6月の大会に、ソウル特別市内と釜山広域市内にある、ソウル日本人学校4年生、プサン日本人学校4～6年生の児童の合計70名が参加しました。2009年から累計で8,438名の小学生が参加しています。



「小学生歯みがき大会」(2019年)の様子

③ 個々人の障がいに合わせたオーラルヘルスケア教育プログラム『ヘレンケラーオーラルヘルスケア教室』の開催

障がいの有無に関わらず、すべての人が等しく医療やケアを受けることができる社会を目指し、ダイバーシティを促進することが重要です。ライオン코리아は障がい者の口腔保健分野を支援するスマイル財団と協力し、ミルアル福祉財団が運営するヘレンケラーセンターを利用する視覚と聴覚に障がいのある50名に対し、個人の障がいに応じたオーラルヘルスケア教育を支援しています。

2025年9月には、キョンヒ大学歯科病院教授が講師として参加し、口腔検診から歯の管理の重要性及び障がい者支援政策などを紹介し、ライオン코리아が販売するオーラルヘルスケア製品を活用して、正しい歯磨き方法を指導しました。ご自宅でも自分でオーラルヘルスケアが行えるように、1年間使用できるオーラルヘルスケア製品セットを提供し、習慣化を促進しています。また、視覚・聴覚障がい者があっても理解が十分に出来るように、1対1の触手話通訳(手話を手で触ってコミュニケーションを取る視覚・聴覚障がい者向けの通訳方法)を支援し、オーラルヘルスケアのアクセス向上に貢献しています。



触手話通訳の様子



指導を受け、歯磨きを実践する参加者

【特別共同企画】
Actions for Handwashing Day 2025

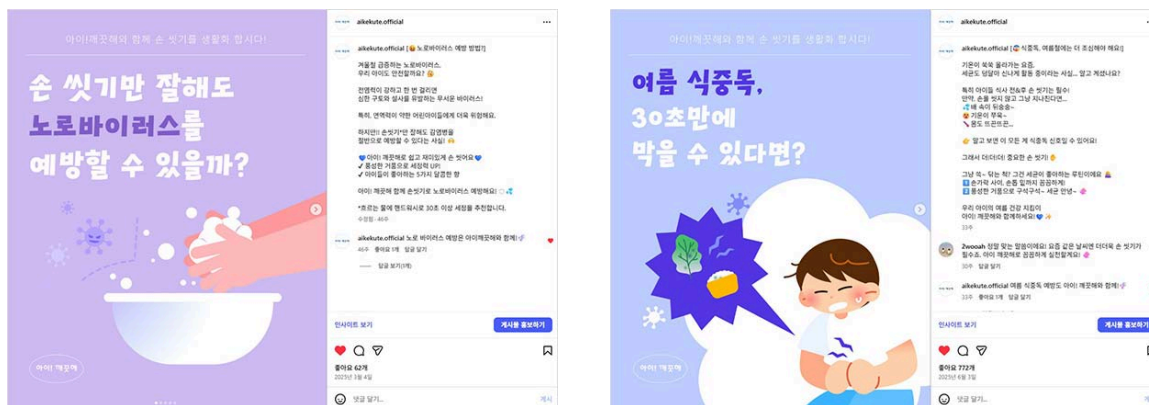


ライオン코리아は、2025年9月18日から10月12日にかけて、世界手洗いの日に賛同した活動を「My Bottle Challenge」で行いました。『Ai!Kekute』Instagram、ライオン코리아オフィシャルモールとB to C（一般消費者を対象に商品やサービスを直接提供するオンライン）チャンネルで『Ai! Kekute（アイケクテ）*』を購入した方にマイボトルステッカーを送付し、ライオン코리아のInstagramにイベントに参加した子どもたちが作成したマイボトルステッカーの絵をアップロードしてもらいます。

『Ai! Kekute』のInstagramのフォロワーは、2万2,000人を上回ります。ライオン코리아では、手洗いが必要なタイミングでの確な情報発信をして、「手洗い習慣」の促進をしています。また、情報コンテンツ「News Letter」を配信して『Ai! Kekute』のファンと繋がっています。

『Ai! Kekute』ブランドとの親和性や手洗いをしたくなるか、描かれたステッカーの絵に芸術性があるかなどの基準で優れた作品を選定しました。40名の子どもたちが手洗い啓発に対し楽しく学ぶことが出来ました。

* 『Ai! Kekute（アイケクテ）』は、ライオン코리아が販売するハンドソープのブランド名です（ライオンが販売する『キレイキレイ』）。韓国語で「あら！キレイ」という意味です。



InstagramのNews Letter

① 地域社会の清潔衛生習慣づくりによるマタニティ支援施策「ヨチヨチキャンペーン」

ライオンコリアでは、2013年から継続してきた社会貢献活動「ヨチヨチキャンペーン」の開催を通じ、全国56の地方自治体と、全国の出産世帯に『Ai!Kekute出産ギフトセット』を無償で提供し支援しています。2024年からは、免疫力が弱くなり、正しい衛生管理が特に大事になる妊婦を対象に、『Ai!Kekute』および『Systema』ハミガキ・ハブラシが同封された衛生用品セットを提供していきます。商品のパッケージデザインは低所得高齢者の雇用創出に貢献する社会的企業の「Arip&Werip」と協業して制作し、付加価値をつけています。

2024年から活動を開始し、毎年ソウル市保健所25か所で、登録した妊婦40,000人に『ヨチヨチ衛生用品セット』を提供しています。2025年には、長年の活動が評価され、「第1回ソウル市寄付文化活性化功労賞」を受賞し、授賞式では、ソウル市長より表彰状が授与されました。2026年からは年間60,000人の妊産婦の清潔衛生習慣づくりに貢献していきます。



授賞式の様子
(ソウル市長(左)ライオンコリア社長(右))



「お花よりも大事なうちの孫娘、お母さんになったね、おめでとう」
「不器用でもいいよ、おばあちゃんが応援するよ」
不安な気持ちに寄り添った祖父母
目線のメッセージが入った衛生用品セット

② 衛生教育キャンペーン「出動!スーパー健康ヒーロー」

衛生教育キャンペーン「出動!スーパー健康ヒーロー」は乳歯から永久歯に生え変わる時期の小学校1年生から2年生対象のプログラムです。ライオンコリア、Good neighbors仁川本部、Seed Co-op(若者教育社会的協同組合)が協働し作成しました。

2025年8月に仁川児童福祉施設2カ所でプログラムを実施し、小学生50名が正しい歯みがき・手洗い衛生習慣を身に付けました。



プログラムに参加する小学生たち

③ 『Ai! Kekute(アイケクテ)』とCGVとのコラボ広告宣伝企画

ライオン코리아は韓国で最大級の映画館「CGV」で、『Ai! Kekuteプレミアムモイスチャー』の大々的な広告宣伝を実施しました。全土にあるCGVのロビーに、ポスターや動画を通じて広告宣伝するとともに、館内のトイレにはポスターだけでなく、商品と啓発ステッカーを設置して商品の良さと正しい手洗いの方法をPRしています。2025年には、4,200万名の来館がありました。



館内のトイレに貼ってある『Ai! Kekute(アイケクテ)プレミアムモイスチャー』の手洗い説明ステッカー

④ 社会的弱者への健康支援活動

韓国では、お年寄り等、社会的弱者の劣悪な生活環境による健康被害(シックハウス症候群・ハウスダスト症候群等)が社会課題となっています。韓国政府(環境部 韓国環境産業技術院)は企業・病院・自治体等と連携して、生活環境の改善に向けた支援事業に取り組んでいます。

ライオン코리아もこの事業に参画しており、2015年より社会的弱者の方がいる世帯を対象に、台所用洗剤、洗濯用洗剤、オーラルヘルスケア製品等の日用品を提供し、健康的な毎日を支援しています。2025年は1,500世帯を対象に実施し、今後も継続的に取り組めます。



政府との事業協約



日用品の支援

環境保全活動

① 仁川広域市協カスングギチョン環境浄化活動

2025年4月、ライオン코리아は仁川広域市協カスングギチョン環境浄化活動に従業員10名が参加しました。仁川スング川の水質改善および水域生態系の復元のために周辺のゴミ拾い、外来植物除去などを実施し、市民の生活の質を向上させることに貢献しました。ライオン코리아は「1社1河川、1社1道路づくり運動および街づくり」をテーマとして掲げています。



清掃活動の様子

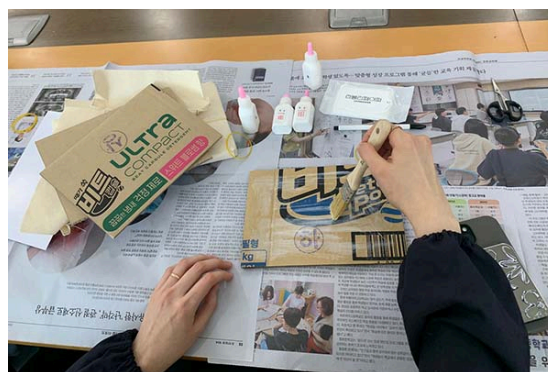
② 従業員による資源リサイクル活動「BEATBOXアップサイクリング」

ライオン코리아は、従業員の環境保全や資源リサイクル意識を向上させるため、仁川工場で使用後に廃棄が予定されている衣料用洗剤『BEAT（ビート）』の包装用段ボールを活用して、ペーパーキャンバスKit「BEATBOX」にアップサイクルしました。廃紙を回収する高齢者に安定した雇用を提供する非営利社団法人「ラブリーペーパー」と協業で40セットを作成して、仁川地域の支援を必要とする家庭の小学生が通う児童福祉施設に寄付し、小学生の文化芸術を体験するチャンスの提供にも貢献しています。

2025年は環境デーの6月5日に20名の従業員が参加し、環境意識の醸成につながりました。



アップサイクル作業をする従業員



ペーパーキャンバスKit
「BEATBOX」の制作過程

③ 従業員の健康な生活習慣づくり活動「ヨチヨチウォーキング・チャレンジ」

健康な生活習慣づくりを推進するライオン코리아では、従業員の健康増進にも力を入れています。2025年3月には、従業員福祉サイトのBenepia アプリを活用して、1カ月の従業員累積歩数2,000万歩を達成すると、2,000万ウォン相当（約200万円）のライオン코리아の製品を未婚の片親世帯に寄付する目標をたて、202名の従業員がチャレンジしました。結果は、2,838万歩で目標を達成（達成率142%の歩数を記録）しました。

未婚の片親世帯支援を専門とするNGOのG Foundationから製品を配布いただくため、伝達式には歩数1位を記録した従業員がライオン코리아の代表として寄付製品を贈呈しました。

参加者の歩数を距離に換算すると21,569kmとなり、2,820kgの炭素排出量が軽減される副次的な効果もあります。健康と同時に、地球環境の健全性も追求されるプラネタリーヘルスをこれからも実践していきます。



伝達式の様子
(歩数1位を記録した従業員(左))

④ 障がい者雇用創出のための従業員物品支援活動「使い道探しキャンペーン」

ライオングループでは、資源循環型社会の実現を目指し、「捨てない習慣づくり」に取り組んでいます。2025年11月25日から12月4日にかけて、ライオン코리아のソウル本社及び仁川工場、研究所の計3カ所で、従業員の家庭で眠っていて、まだ使用できる中古品を集め、障がい者就労支援施設Good will storeに寄付するキャンペーンを実施しました。44名の従業員から、洋服や本など661点が集まり寄付することで、Good will store で販売され、障がい者の給与と雇用拡大に活用されています。資源を大切にしながら、ダイバーシティを促進する活動となり、参加した従業員も分かち合いの精神を実感しました。



使い道が見つかった洋服や本など

寄付活動

ライオンコリアは、企業の社会的責任と衛生用品製造会社として、自社で販売する衛生用品の現物寄付活動等、社会貢献活動を積極的に行いました。

活動1 11月の「点字の日」記念活動

活動時期	2022年から継続中
社外協力者	生活家庭用品事業者定例協議体（ライオンコリア、LG生活健康、AK、韓国P&G、Henkel Korea）、韓国消費者院、韓国視覚障害者連合会、社会福祉共同募金会（愛の実）
寄付内容	商品識別のための点字タグを製作し、LCKが販売する点字ラベルのついた家庭用品（『BEAT』洗濯用洗剤と『チャムグリーン』台所用洗剤）を8,170世帯に支援しました。
活動の詳細	生活家庭用品事業者定例協議体では、製品識別用点字タグを制作し、ライオンコリアも普及に参加。 一部の 카테고리では容器形状が全く同じ、又は似ているため、視覚障害者は識別しにくい状況にある。様々な製品にかけて使える点字タグを制作し普及させて、視覚障害者の生活安全に寄与。



点字ラベルと提供した商品



韓国消費者院と伝達式の様子

活動2 障がい者の日に合わせたGood will store 全国体戦(体育大会)支援

活動時期	障がい者の日(4月20日)
社外協力者	障がい者就労支援施設 Good will store
寄付内容	『Ai!Kekute』携帯用ハンドウォッシュ 1,000個
活動の詳細	Good will store全国体戦は、全国のGood will storeで働く障がい者及び健常者約1千人が集まり、調和と相互尊重の価値を改めて考える体育大会イベントで、ライオンコリアがパートナーシップを結んでいるGood will storeの障がい者雇用拡大や自律を応援。



提供した『Ai!Kekute』携帯用ハンドウォッシュを持つ Good will storeの従業員

活動3 ヘレンケラーの日に合わせた日用品 Kit 製品支援

活動時期	ヘレンケラーの日(6月27日)
社外協力者	Giving plus ミルアル福祉財団ヘレンケラーセンター
寄付内容	衣料用液体洗剤『BEAT』200個
活動の詳細	毎年6月27日‘ヘレンケラーの日’を祈念し、視覚・聴覚障がい者に対する社会的認識改善及び社会的コンセンサス形成を図ることを目的に、視覚・聴覚障がい者の生活安定支援及び福祉向上のために商品を提供。



Giving plusでヘレンケラーセンターに通う人達との支援作業

活動4 障がい者雇用創出のための Good will store への製品支援

活動時期	2025年6月
社外協力者	障がい者就労支援施設 Good will store
寄付内容	1億2千万ウォン相当(約1,300万円)の『A Plus Lab』シャンプー・トリートメントを寄付
活動の詳細	Good will store の新規4店舗の安定的な運営を支援するため、1億2千万ウォン相当の日用品を寄付し、全国7つの Good will store 店舗で陳列・販売し、収益金は障がい者労働者の給与と雇用拡大に使用。障がい者の自立支援にも貢献。



Good will storeに並ぶ『A Plus Lab』抜け毛予防シャンプー・トリートメント

活動5 国際結婚家庭及び移民を対象として日用品支援

活動時期	2025年10月
社外協力者	社会福祉共同募金会 (Community Chest of Korea)
寄付内容	約3億9千万ウォン相当 (約4,200万円) のシャンプー・リンス・コンディショナーなどの日用品
活動の詳細	Save the childrenとソウル市家族センターを通じ、支援が必要な国際結婚をしている家庭及び移民に対し、シャンプーなどの日用品を寄付し、韓国での生活を支援。



支援品の目録を贈呈

獅王日用化工(青島)有限公司

✓ オーラルヘルスケア ✓ 清潔衛生習慣

オーラルヘルスケア

① IBQ歯科クリニックと協働でオーラルヘルスケア教育活動

獅王日用化工(青島)有限公司(以下、「青島ライオン」という。)は、2025年1月から12月にかけて、上海にあるIBQ歯科クリニックと共同で、オーラルヘルスケア教育活動を実施しました。青島ライオンが販売するオーラルケア商品の紹介をして商品に関心を持っていただき購入につなげることが目的です。自分に合ったオーラルヘルスケア商品を見つけ出せるように、展示を工夫しました。歯の健康のために、自宅で行うオーラルヘルスケアは大事です。楽しい体験を通じて、100,000名のオンライン視聴の方々にオーラルヘルスケアの大切さを感じてもらいました。



IBQクリニックの様子

② 昼歯磨き習慣の促進

青島ライオンは2023年から継続して、生活者に向けて「昼歯磨き習慣」の普及啓発活動を行っています。

2025年は青島ライオンが販売するオーラルヘルスケア製品(『システム』ハブラシ、『クリニカ』ハミガキ、『NONIO』マウスウォッシュ)を上海、広州のショッピングモールにあるWatsonsストア20店舗で配布し、昼食後に歯を磨く習慣を身につけることの重要性を認識してもらうことを目指して実施しました。

昼食後に歯を磨くことは、お口の健康だけにとどまらず、気分をリフレッシュしたり、人とのコミュニケーションを促進する相乗効果も期待されます。

店頭では、多くの使用済みハブラシの回収も同時に実施し、資源循環にも貢献できました。

青島ライオンでは、中国に暮らす多くの人たちに、これからもより良い習慣づくりを促進していきます。



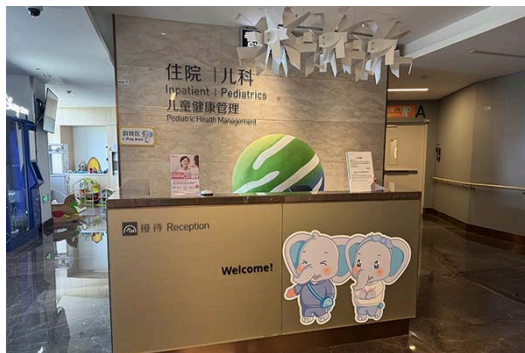
Watsonsの店頭で参加する人たち



店頭イベント展示とハブラシリサイクル

③ 病院に入院している子どもへのオーラルヘルスケア啓発活動

病気で入院している子どもたちにとって、オーラルヘルスケアは感染症など他の病気にかからないためにも重要です。青島ライオンでは、上海嘉会国際病院において、親子でオーラルヘルスケアに取り組んでもらうように、病院の受付や病室で情報提供をしています。2025年4月から開始し、年間を通じて8,000家族に啓発を行いました。オーラルヘルスケアは、親と子供のコミュニケーションの一部にもなっています。この活動を通じて、親子の絆が強まることを願っています。



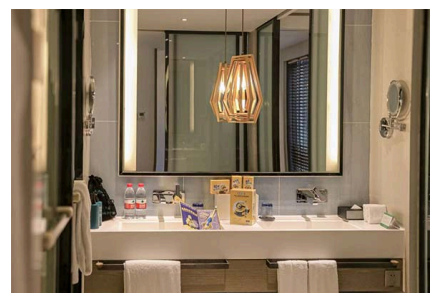
病院の受付や病室でオーラルヘルスケア情報を提供

④ 家族向けホテル(クラブメッド・安吉休暇村)における子供向け口腔ケア啓発活動

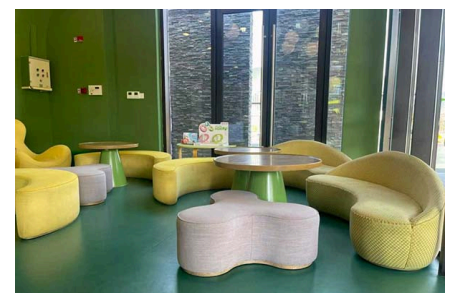
楽しい家族旅行の間でも、歯磨きは大事です。青島ライオンは、2025年5月から10月のハイシーズンに、家族での滞在が多いクラブメッド・安吉休暇村のロビーや客室にオーラルヘルスケア製品を30,000家族に提供し、旅行先でもきちんと歯磨きすることを伝えています。



提供したハミガキセットを持つ姉妹



客室に設置された青島ライオンの商品



ホテルのロビーにオーラルヘルスケア情報の掲示

清潔衛生習慣

① 幼稚園での手洗い習慣普及活動実施

上海市の幼稚園では、感染症予防のために、園内に入る前に、手を洗うことを推奨しています。青島ライオンは、その支援策として、2016年より上海市の各幼稚園に通う3歳から6歳の幼稚園児を対象とした手洗い習慣普及活動を行っています。青島ライオンは、園児たちが手洗い用の洗面台で使えるよう、現地で販売している『Kirei Kirei(キレイキレイ)ハンドソープ』を幼稚園に寄贈しています。また、手洗い習慣が身につくための手洗い教室の開催や、きちんと手洗いを実施した幼稚園児全員に手洗いのステップや正しい手洗いのタイミングなどを記載した『Kirei Kirei』健康手帳を配布しています。2025年は9月から12月にかけて、100園、約30,000名の園児たちに配布しました。



幼稚園でのハンドソープ設置状況

② 家族向けホテル(クラブメッド・安吉休暇村)における手洗い啓発活動

多くの人が集うホテルでは、感染症予防のため手洗いが大事です。青島ライオンは、2025年5月から10月のハイシーズンに、家族での滞在が多いクラブメッド・安吉休暇村のロビーや客室に『Kirei Kirei』泡ハンドソープを設置しました。また、ホテルのイベントでは、スタッフと『Kirei Kirei』ママから子どもたちへ、正しい手洗い方法を楽しく伝えてくれました。旅の思い出を「手形」で残し、子どもたちは絵の具で汚れた手を、キレイに落とすことで、正しい手洗い方法を学びました。期間中に20,000家族がイベントを通じて、旅行先でも正しい手洗いを実践しました。



手洗い場に設置された『Kirei Kirei』



ホテルのイベントで正しい手洗いを
学ぶ様子



手形で旅の思い出づくり

③ 衣類の洗濯・お手入れ方法の提供

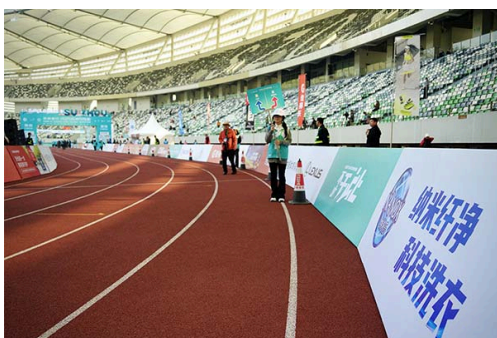
2025年3月から12月にかけて、上海と蘇州で開催されたマラソン大会で、スポーツを愛する40,000家族に対して、衣料用液体洗剤『NANOX』のブースで、衣類の洗濯やお手入れ方法のコツをお伝えしました。



『NANOX』のブース全体像



『NANOX』ブース内の様子



イベント競技場内の『NANOX』広告



イベント会場外の『NANOX』のぼり

獅王(香港)有限公司

✓ オーラルヘルスケア ✓ 清潔衛生習慣

オーラルヘルスケア

香港に暮らす人たちに向けたオーラルヘルスケア習慣の普及啓発活動

獅王(香港)有限公司(以下、「香港ライオン」という。)は、香港に暮らす様々な人たちをターゲットにオーラルヘルスケア習慣を促進する活動を行っています。2025年は2期に分けて、香港ライオンが販売するオーラルヘルスケア商品を活用してオーラルヘルスケア習慣の普及啓発活動を実施しました。

1期目の1月から4月は、葵青安全コミュニティ健康都市協会*1と連携し、高齢者や支援を必要とするご家庭に対し、歯科医師によるオーラルヘルスケア講和を行い、最後に『Systema ハブラシ』400本、『クリニカプロハミガキ』200個、『NONIOハミガキ30g』200個、『Systema歯間ブラシ』400個をお渡しして、ご自宅でもしっかり歯磨きが出来るよう支援しました。

*1 安全な生活環境と健康的な生活習慣を日常生活に定着させることで、公衆衛生と公共の安全の向上を図ることを目的とする協会



イベントのパンフレット



講和を受講する参加者



配布したオーラルヘルスケア商品

2期目の8月から12月には、香港大学が主催する地域貢献活動*2に参加し、高齢者や支援を必要とするご家庭を対象にしたイベントでは、移動歯科診療所にて、オーラルヘルスケア教育、歯科検診、フッ素塗布、歯石除去、および緊急歯科治療を含む、包括的な歯科医療サービスを提供しました。イベントの最後に『システム極上プレミアムハブラシ』と『クリニカプロハミガキ』各450個を提供し、地域の健康に貢献しています。

*2 香港18地区保健コミュニティ・プロジェクトで、持続可能なコミュニティづくりへの取り組み、および高齢者向け歯科医療サービス



香港大学歯学部 of the student から、オーラルヘルスケアの指導を受ける参加者

【特別共同企画】

Actions for Handwashing Day 2025



香港ライオンは、2025年11月13日から12月5日にかけて世界手洗いの日に賛同し、『Kirei Kirei』My Bottle Sticker Drawing Contest を実施しました。幼稚園の園児たちに『Kirei Kirei』のボトルとステッカーを配布し、園児たちがステッカーにお絵描きをます。香港ライオンの KIREI's and Classmate facebook にステッカーお絵描きの作品を投稿してもらい、コンテストを行いました。ステッカーお絵描き作品の選定には、健康的、独創性且つ独自性が問われます。622人の園児が手洗い啓発活動に参加し、343作品が集まりました。

子どもたちは、正しい手洗いをして、健康でいることの大切さを楽しく学びました。



コンテストで優秀賞を受賞した3作品

香港に暮らす人たちにに向けた手洗い習慣の普及啓発活動

香港ライオンは、香港に暮らす様々な人たちをターゲットに「より良い習慣づくり」を促進しています。2025年10月6日と12月1日に、少数民族の方が暮らすコミュニティで香港の NGO 団体 Unity in Diversity と連携して、香港ライオンが販売する『Kirei Kirei』泡ハンドソープを活用した手洗い習慣の普及啓発活動を実施しました。

参加者には、ボランティアによる健康に関する研修と中医学をベースとした疼痛治療ワークショップが提供されました。この活動には40名が参加し、香港で健康に暮らすためのよい習慣を学びました。



イベントの参加者たち



講演を聞く参加者と
提供した『Kirei Kirei』泡ハンドソープ

清潔衛生習慣

【特別共同企画】

Actions for Handwashing Day 2025



獅王家品股份有限公司（以下、「台湾ライオン」という。）は、世界手洗いの日に賛同しています。台湾の子どもたちに正しい手洗いを広めるため、2025年4月に、台湾の幼稚園を通じて「マイボトルお絵描きコンテスト」の募集をして、210名の園児が『キレイキレイ』マイボトルをデザインしてくれました。



コンテストに入賞した作品

幼稚園での「手洗い習慣」啓発活動の実施

新型コロナウイルスパンデミック以降、手洗いの大切さが改めて重要視されています。台湾ライオンは、手洗いの重要性和正しい手洗い方法の教育を目的に、2025年4月に台湾の3つの都市（板橋・苗栗・台南）で各1園ずつ手洗い習慣の啓発活動を実施しました。幼稚園児・先生・保護者約210人が参加しました。

- (1) 手洗い衛生知識に関する先生からの指導
- (2) 手洗い歌を歌う/踊るタイム
- (3) マイボトル絵描き
- (4) 手洗い
- (5) バクテリアチェック

併せて、『Kirei Kirei (キレイキレイ)』を寄贈し、園内の手洗い場に設置して実際に園児に手洗いを体験してもらいました。

幼稚園での手洗い啓発活動は、ライオンちゃんが台湾各地の幼稚園を訪問し、子供たちと一緒に実施しています。手洗い衛生知識に関する先生からの指導では、ばい菌・ウイルスの話、「手洗いによって自分の大切な人を守ること」、「正しい手洗いの方法」や『Kirei Kirei泡ハンドソープ』の特長やブラックライトを使用した細菌実験の様子等も分かりやすく伝えました。また、描いたマイボトルに詰め替えて繰り返し使用するよう呼びかけることで、プラスチック廃棄物の削減や海洋環境の保護につながる効果も広めています。更に、このイベントのPR策として新聞社と連携することで、記事を掲載し、イベントの露出が高まり、より多くの方に「手洗いの大切さ」を認知していただきました。



先生の話をよく聞く園児たち



ライオンちゃんと一緒に話を聞く園児たち



マイボトルお絵描き



マイボトルを持つ園児たち



ライオンちゃんと記念撮影

寄付活動

台湾ライオンは、企業の社会的責任として、自社で販売する衛生用品の現物寄付活動等、社会貢献活動を積極的に行いました。

① 社会的困窮者への寄付活動

活動時期	2025年1月9日
寄付内容	台湾ライオンの販売する商品NTD152,877元(約77万円)分
活動の詳細	台湾ライオンが所属する台湾洗剤協会と一緒に、「南投県愛心之旅」イベント*が、2025年1月9日に開催され、社会福祉団体へ台湾ライオンの商品を提供し、支援を必要とする人へ日用品を進呈

* 921震災からの復興をテーマにした、住民参加型の交流イベント
1999年9月21日1時47分18秒に、台湾中部の南投県集集鎮付近を震源として発生したモーメントマグニチュード(Mw)7.6の地震

② 社会的に困窮している若者への寄付

活動時期	2025年3月15日
寄付内容	台湾ライオンの販売する商品 24梱(ハミガキ・洗剤・台洗等)
活動時期	2025年3月15日
活動の詳細	桃園市社会福祉協会が支援する児童および青少年のために、生活に必要な物資を寄付

③ 経済的に困窮している原住民への寄付

活動時期	2025年6月12日
寄付内容	NTD26,351元(約14万円)
活動の詳細	花蓮県秀林郷*の経済的に困難な原住民家庭の子どもおよび一人暮らしの高齢者に、小太陽学堂を通じて生活必需品の購入のための寄付活動に参加

* 秀林郷の人口は1万5000人余りで、タロコ族がその90%以上を占めています。

Merap Lion Holding LLC

社会貢献活動

カンファレンスへの出展

Merap Lion Holding LLC（以下、「メラップライオン」という。）は、ベトナムの主要な製薬企業であり、「ベトナムの家庭（および東南アジア全域）のヘルスケアと健康を守るトップクラスの専門家となる」ことをビジョンに掲げ、「すべての家庭の健康のために」を企業メッセージに定めています。

毎年ベトナム各地で開催されるカンファレンスにスポンサーとして出展し、医療関係者と連携しながら、ベトナムの人たちの健康のための有意義な情報発信をしています。

2025年7月から、ライオングループの一員となり、これからも健康増進に貢献していきます。



メラップライオンのブース展示



敏感肌用『Sunohada』ブランドの紹介

メラップライオンの商品を活用した病院での活動

メラップライオンは医薬品を中心に製造・販売をしています。病院へ通う患者さんのために、医師をはじめ医療従事者と協働で、家庭でのセルフメディケーションを促進しています。

チャリティイベントや洪水などの被災者を支援するため、メラップライオンの製品を無料でお渡しして、毎日の健康に役立てていただいています。こうした活動は年間を通じて、ベトナム各地で実施しています。子供から高齢者の方まで、様々な年代の方の健康に貢献しています。



健康状態をヒアリングする様子



医師による眼科検診



親子で医師から検診を受ける様子



症状に合わせたメラップライオン製品の提供



メラップライオンと協働する医療関係者



メラップライオンが提供する製品

HƯƠNG SƠN x **merapLion**
PHÒNG KHÁM ĐA KHOA

Ưu đãi
NỘI SOI TIÊU HÓA
(Dạ dày, đại tràng)

Tặng

Amfortgel
EBYSTA



0868.777.129 | 129 Nguyễn Thái Học, P. Quy Nhơn Nam | pkhs129@gmail.com

クリニックと連携した胃腸薬の効能を示すPOP

Lion Corporation (Singapore) Pte Ltd

✓ オーラルヘルスケア ✓ 清潔衛生習慣 ✓ 環境保全活動

オーラルヘルスケア

① National Dental Centre Singapore^{*1} と連携したMobile Dental Clinicの開設

Lion Corporation (Singapore) Pte Ltd (以下、「シンガポールライオン」という。)は、「オーラルヘルス運動 8020^{*2}キャンペーン」推進の一環として、シンガポール国立歯科センター (NDCS) と提携し、地域社会における検診活動を拡大するとともに、十分な歯科治療を受けられない人々の治療へのアクセスを向上させるため、移動式歯科クリニックを立ち上げました。このキャンペーンの目的は、2028年までに10か所の介護施設で1,900人の高齢者を対象に検診を行うことを目指しており、従来の歯科治療へのアクセスが限られている地域において、現場での治療および包括的な検診サービスを提供します。

シンガポールライオンは、長年にわたるあらゆるライフステージにおけるより良いオーラルヘルスケア習慣の促進と、地域社会における歯科治療へのアクセス向上という理念に共感し、NDCS移動歯科クリニックの立ち上げのため、オーラルヘルスケア製品とノウハウを提供し支援しました。

2025年9月26日にブライト・ヒル・エバーグリーン・ホームで開催された発足式には、保健省およびデジタル開発・情報省のラハユ・マザム国務大臣にも出席いただき、全国放送のテレビ、新聞、オンラインメディア、および歯科医療関連のニュースプラットフォームで広く報道されました。シンガポールライオンの活動を、多くのシンガポールの方に知っていただく機会となりました。

*1 シンガポール国立歯科センター (NDCS) は、SingHealthグループの一員です。SingHealthグループは、急性期病院、国立専門医療センター、地域病院、一般クリニックからなるネットワークを持ち、40以上の臨床専門分野を提供するシンガポール最大の医療グループです。

*2 「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」という運動です。1989年、厚生省 (現・厚生労働省) と日本歯科医師会が提唱し、自治体、各種団体、企業、そして広く国民に呼びかけてきました。



NDCS移動歯科クリニックの外観



歯科治療をする中の様子



発足式の日に歯科治療が実施された介護施設でのシンガポールライオンが販売するオーラルヘルス商品の紹介



『Systema』ブランドのアンバサダーメディアコープ所属アーティスト Elvin Ngとライオンちゃんのコラボレーション

② National Dental Centre Singaporeと連携した2025年World Oral Health Day Public Forumに出展

2025年3月15日、チャンギ総合病院にて「NDCS主催 世界口腔保健デー公開フォーラム」が開催されました。2025年のテーマは『健康な口、健康なあなた』で、シンガポールライオンは参加者300名全員にLIONオーラルヘルスケア製品が入った記念品バッグを配布し、NDCSのブースでよいオーラルヘルスケア習慣の啓発や予防歯科の普及を通じ、口腔の健康維持と生活の質の向上を支援しました。



オーラルフレイルについて紹介するブース



イベントのブックレット

③ Smileworks Dental Clinic と連携した啓発活動に商品を協賛

シンガポールライオンは、Smileworks Dental Clinicと連携して、患者さんが治療後も自宅でオーラルヘルスケアが出来るように、オーラルヘルスケア習慣の促進をしてきました。この活動は2025年も継続し、7月から11月にかけて、就学前5才の60名の子どもたちが通うプレスクールでは『KODOMO』のオーラルヘルスケアセット、12歳児300名が通う小学校では『Systema』オーラルヘルスケアセットを提供しました。



『Systema』と『KODOMO』のオーラルヘルスケアセット

④ 歯科医院を通じたオーラルヘルスケアの普及活動

シンガポールライオンは、シンガポールの歯科医院のグループである「Thomson Dental Centre」と連携して、来院した患者さんに正しいオーラルヘルスケア習慣を啓発しています。初めて「Thomson Dental Centre」に来院される方に、『KODOMO』と『Systema』（シンガポールライオンが販売している商品）のオーラルヘルスケアセットを提供しています。「子ども用オーラルヘルスケアセット」「ガムケアセット」のいずれかのセットを、患者さんの年齢やお口の悩みに合わせて、歯科医師からお渡しします。お渡ししたキットを用いて、よいオーラルヘルスケア習慣や歯の磨き方の指導を行います。各セットには、ハブラシ、ハミガキ、洗口液およびオーラルヘルスケアリーフレットが含まれています。2025年は「Thomson Dental Centre」の患者さん10,100名にオーラルヘルスケアセットを提供しました。



Thomas Dental Centreのプレゼント BOX に『Systema』と『KODOMO』のロゴ掲載

⑤ National Dental Centre of Singapore (NDCS) と共同で Sembawang Group のヘルスフェスタ2025に参画

2025年10月12日、シンガポールライオンはBukitCanberraが主催する「ヘルス・フィエスタ2025」イベントのNDCSのブースに出展し、Bukit Canberra に暮らす住民に口腔衛生の重要性を啓発しました。このイベントは家族連れを対象としており、Eゲームや子供向けの歯磨き体験などが行われました。参加した 1,000 家族には『Systema』、『NONIO』、『KODOMO』オーラルヘルスケア製品が入った福袋が贈られました。



ロゴ入りアクティビティ・カード

⑥ シニア対象のオーラルヘルスケア啓発活動をT32 Dental Groupと協働して展開

シンガポールライオンは、2025年1月にT32 Dental Groupと連携し、高齢者向けの口腔ケアに関する啓発活動を行いました。このイベントは4か所の活動センターで開催され、240名の高齢者が参加しました。シンガポールライオンは歯科講演の終了後、参加者に『Systema』オーラルヘルスケア商品を提供し、イベントを支援しました。



アクティビティセンターでの講演と『Systema』バナー

【特別共同企画】

Actions for Handwashing Day 2025

Kirei Kirei
キレイキレイ
supports

Global Handwashing Day:
My Bottle Sticker Drawing Contest
-What I Enjoy Doing With My Family-

2025年8月、世界手洗いの日に向けて、シンガポールライオンと Cora Environment Pte. Ltd. が実施した、手指衛生とリサイクルの習慣を学ぶ楽しいセッションに、生後6ヶ月から6歳までの就学前の子どもたち1,100名が参加しました。

楽しいクイズやハンドソープのボトルのステッカーをデザインして自分だけのマイボトル作成を通じて、正しい手洗い方法だけでなく、リサイクルの大切さを身に付けてくれています。



『Kirei Kirei』Handwashing Day 2025の様子

環境保全活動

① Cora Environment Pte. Ltd. と連携したリサイクルチャレンジ

シンガポールライオンは、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進を通じて、持続可能な製品により環境保護に取り組んでいます。2025年3月から12月にかけて、Cora Environmentと連携してライオンの環境配慮型製品を活用したイベントを、教育機関で実施しました。

「LIONリサイクル・チャレンジ」のテーマは、シンガポール建国60周年にちなみ、「LIONと共に持続可能な彫刻をつくろう!」としました。Cora Environment Pte. Ltd.のネットワークに属する学校に対し、LION製品のパッケージを用いて、創意工夫を凝らし、最大の彫刻作品を制作するよう呼びかけました。また、参加校は彫刻作品と共に、「シンガポールの独自性」が自分たちにとって何を意味するかを発表しました。表彰式では、優勝校および参加校が表彰され、賞品が贈呈されました。

参加率の向上とブランド・製品の認知度向上を図るため、Cora Environmentは学校での講演を通じて、リサイクルの重要性を啓発する広報活動を積極的に実施してきました。また、CSR活動を紹介するLIONのロゴ入り活動冊子を配布し、企業ブランディングの強化にもつながりました。

さらに、ブランド認知度を高め、製品とサステナビリティとの関連性を強化するため、参加校に対しては、製品が入ったバッグを生徒に配布しました。



「LIONリサイクル・チャレンジ」優秀賞を獲得した彫刻作品と表彰状

② 環境配慮『Kirei Kirei』ハンドソープを活用したリサイクルワークショップの開催

2025年5月17日、シンガポールライオンは、新製品『Kirei Kireiエコハンドソープシリーズ』の発売に合わせ、エコフレンドリーなブランドイメージを強化するとともに、使用済みの『Kirei Kirei』ハンドソープ詰め替えパウチを再利用可能なアイテムにアップサイクルすることで、持続可能な捨てない習慣づくりを促進することを目的に、ワークショップを開催しました。

まず、リサイクルの重要性を伝える啓発セッションから始まり、家庭で実践できる良いリサイクル習慣の事例を紹介しました。

続いて行われた体験型ワークショップでは、参加者は使用済みの『Kirei Kirei』泡ハンドソープの詰め替えパックを、ミニハンディバッグやミニポーチといった実用的なアイテムにアップサイクルする、シンプルでありながら独創的な方法を学びました。

また、参加者は適切な手洗いの重要性と、衛生状態を保つための正しい手順についても学びました。この活動には100名が参加しました。



アップサイクルされた『Kirei Kirei』ミニハンディバック(左)とミニポーチ(右)



親子でワークショップに参加し、アップサイクル品を制作する様子

清潔衛生習慣

Bangladesh 小学校での衛生習慣啓発

Bangladesh は高温多湿な気候条件に加え、衛生環境が十分に整っていない地域もあり、衛生習慣を根付かせていくことは重要な社会課題です。そこで、JICA（独立行政法人国際協力機構）と Bangladesh 食品安全庁が展開する「査察・規制・調整機能強化プロジェクト食の安全PJT」の「一般消費者への啓発活動」へ参画し、 Bangladesh の小学生に手洗いと食の安全に関する衛生習慣の啓発活動を実施しました。

Lion Kallol Limited（以下、「ライオンカロール」という。）は、2025年ダッカ管区マニクガンジ県小学校651校で食品衛生の啓発活動を実施し、児童52,080名に食品衛生・安全や手洗いの正しい知識を子ども達に広める活動をしました。

活動には、大型の紙芝居やカードゲームを用いており、子どもたちは正しい衛生行動を、楽しく学ぶことができます。

紙芝居に用いられるイラスト等は、ダッカ大学の監修を受け作成しており、「良い習慣と悪い習慣の例を挙げて示してくれているので、非常に役に立つと思う。」「生徒が自分の生活に関連づけやすいので良い」など、先生方もわかりやすいと評判です。また、改善点についてもご提案をいただいています。

この活動は、新聞36紙に掲載され、25局のTVニュースでも放映されました。 Bangladesh に暮らす多くの人たちに、ライオンカロールの活動を知っていただくことが出来ました。



小学校での啓発活動に参加する子どもたち

Lion Corporation (Thailand) Ltd.

✓ オーラルヘルスケア ✓ 清潔衛生習慣 ✓ 寄付活動

オーラルヘルスケア

① 『KODOMO』ブランドを活用したオーラルヘルスケア普及啓発活動「Oral Care School Road Show」の実施

Lion Corporation (Thailand) Ltd. (以下、「タイライオン」という。)では、1999年から子どもたちに口腔衛生に関する情報と正しい歯磨き方法を伝える教育プログラム「KODOMO School Road Show」を行ってきました。長年の活動により、『KODOMO』ブランドのイメージを構築し、売上を拡大してきました。

2025年6月から9月、11月から12月にかけて、13地方の5-12歳の子どもたち45,000名を対象に、Chan Activation Co.,Ltd.と共同で口腔衛生に関する教育をステージで行い、『KODOMO』ブランドのキャラクター動物たちと一緒に楽しいイベントとして実施しました。イベントの最後には『KODOMO』ハミガキのサンプリングを行い、子どもたちの歯磨き習慣づくりに貢献しています。



『KODOMO』ブランドの動物キャラクターによる講演



正しい歯磨き方法を模型で実演する様子



『KODOMO』ハミガキ サンプルをプレゼントされる子どもたち

② 保健省と連携した子どもたちの健康なオーラルヘルスケアプロジェクト『Sandbox』の推進

2023年のデータによると、タイの3歳児の47%、5歳児の72.1%にはむし歯があります。タイの子どもたちにおける高いむし歯有病率に対処するため、タイライオンは、タイ保健省が推進する、子どもたちの歯科健康増進効果を検証する特別モデルプロジェクト「Healthy Teeth Kids Province Sandbox」においてに移動式歯科診療車「Lion Smile Express」を活用して、子どもたちの歯科治療を実施しています。

タイの子どもたちのむし歯ゼロを目指して、「2-2-2」（少なくとも、1日2回、毎回2分歯を磨き、歯磨きをしたら2時間は飲んだり食べたりしないこと）をコンセプトに、2025年6月から1年間をかけて119,441名の児童を対象に活動を推進しています。

すべてのタイの子どもたちが健康で自信に満ちた笑顔で共に成長できるように、支援していきます。



タイ保健省との出陣式の様子



プロジェクト参加者



オーラルヘルスケアについて、クイズで学ぶ児童

③ 「Lion Smile Express」移動歯科バスを活動したオーラルヘルスケア活動

タイライオンは、2024年に創業55周年を迎えました。長い歴史を持つオーラルヘルスケアのリーディングカンパニーとして、タイの人々のオーラルヘルスケアに対する意識と習慣を向上させるために、これまで公衆口腔衛生活動を牽引してきました。

2025年1月13日から6月30日までバンコクおよび近郊で、バンコクおよび近郊で、タイライオンのマーケティング部門とバンコクスマイルクリニックが協力して、予防や治療に基づいた歯科治療を受けることができない人々や子供たちを支援するため、全身の健康と幸福への入り口として、オーラルヘルスケア習慣を促進しました。レントゲン検査、診察椅子、歯科治療システムなど最新の歯科技術と設備を完備した「Lion Smile Express」と名付けた移動歯科バスに歯科医師が常駐し、歯科検診と歯科治療を無料で提供しました。2年目となった2025年は、子どもたちを中心に活動を行い、1,669名が歯科治療を受けました。

タイライオンはこれからも、タイの人々の健康と幸福のために「より良い習慣づくり」を通じて貢献していきます。



Lion Smile Express の出陣式



Lion Smile Express



移動歯科バスの中で歯科診療を受ける様子

④ 未就学児のためのフッ素塗布活動

タイライオンのサステナビリティチームは、タイライオンが販売する『KODOMO』ブランドの商品を使用して、就学前の687名の子どもたちに正しい歯みがき指導を行っています。2025年は以下のスケジュールでフッ素塗布を実施しました。

- Wat Sukri Boongram School (8月23日)
- Wat Nong Kla School (11月4日)
- Leam Chabang Municipal School (11月11日)

フッ素は私たちの身近な自然界にある元素のひとつで、お茶や魚介類など多くの食品に含まれています。フッ素はむし歯予防に欠かせないだけでなく、丈夫な歯や骨をつくるために大切な役割を果たしています。生えたての歯は歯の質が弱い(未完成)ので、特に効果的と言われています。

『KODOMO』のキャラクター動物マスコットと一緒に、子どもたちは喜んで学んでくれました。



啓発活動の様子



⑤ 地方の保健所と連携した高齢者のお口の機能改善に向けた取り組み

タイ北部のプレー県は、高齢化が進んでいる地方のひとつです。タイライオンは2018年からプレー県の保健所と連携して、高齢者の喉のつかえ(むせ)を減らし、嚥む力を高め、ドライマウスを改善することで、QOL(生活の質)を高める活動に取り組んでいます。この活動は、2016年の「ライオン・オーラル・ヘルスアワード」で歯科専門家により紹介されました。保健所の歯科医師は定期的に高齢者が集まる地域のコミュニティで、オーラルヘルスケアに関する講演を行います。また、お口の機能が低下するのを防ぎ、「お口の元気度」を保持、増進することを目的に、ライオンにより設立された(公財)ライオン歯科衛生研究所(LDH)が開発した「健口美」体操(お口の体操)を取り入れています。体操を始めてから6ヵ月もすると、多くの参加者に効果が現れ、喉のつかえやドライマウスが改善されました。タイライオンは多くの高齢者が実践できるように、「健口美」体操のパンフレットと掲示板を提供しています。

2025年は2月・6月・10月に6ヶ所で、合計2,265名の高齢者の方と一緒に「健康美」体操を行いました。

タイライオンでは、行政と連携しながらタイの人々のオーラルヘルスケアの改善に継続して貢献していきます。



「健康美」体操の参加者とのコミュニケーション



「健康美」体操のパンフレットと
タイライオンの商品を持つ参加者



レクチャーを受ける参加者

【特別共同企画】

Actions for Handwashing Day 2025



10月15日は「世界手洗いの日」に制定されています。

2025年10月5日、タイライオンは Chat Chak Park にてGlobal Hand Washing Day Runを開催し、800名のランナーが参加しました。このイベントは、世界手洗いの日に賛同し、「手洗いは命を救う」をテーマに、タイの人々の手洗い習慣の普及と定着を目的に行いました。



ランニングイベントでの様子



日本の伝統太鼓で出発



ゴールした後は『Kirei Kirei』で手洗い

またイベントとは別に、7月から8月にかけて「お絵描きマイボトルコンテスト」を実施しました。

Oral Care School Road Show で訪問した132校の小学生にはステッカーをお渡しして、各自でお絵描きしてもらいました。また、タイライオンの E-commerce サイトから『KireiKirei』ボトルを購入して頂いた方は、Facebookのファンページからマイボトルのお絵描き用ステッカーをダウンロードができる仕組みです。Facebookにお絵描きをしたステッカーをアップロードして頂き、10月にコンテストの結果がFacebookのサイトとGlobal Hand Washing Day Runで発表されます。このコンテストの評価基準を以下のように設定しました。

- 手描き、コラージュ、またはコンピュータプログラミングのデコレーション
- お絵描きの内容が、夢や希望、情緒性などが豊かに表現されていること
- 技術レベルは問いません

3,000名の児童がお絵描きをして、コンテストには、約1,200名の子どもたちが参加し、手洗いの重要性を楽しく学んでくれました。

小学校で「Happy Life Happy Home」プログラムを実施

タイライオンは、小学校で身体を健康で清潔に保つ方法と家を清潔で快適に保つ方法を啓発するプログラム「Happy Life Happy Home」を実施しています。このプログラムは Happy Life(歯みがき、手洗い、洗顔、シャワー浴)と Happy Home(お洗濯、食器洗い、床掃除)で構成され、タイライオン製品の使用を通じて「健康、快適、清潔・衛生」に対する意識を高めることを目的としています。2025年6月10日バンコクの Wat Dokmai School、11月11日シーラーチャーの Thai Kasikorn Songkro School で小学校4年生を対象に、歯磨き・手洗いだけでなく、大切な衣類を手洗いする洗濯方法など指導しました。子どもたちは、とても興味津々で参加し、自宅でも習ったことを実践してくれています。



指導風景



参加した児童たち



衣類の手洗いの方法を実践する児童たち



指導を受けながら食器洗いをする児童たち

寄付活動

タイライオンは、企業の社会的責任と衛生用品製造会社として、自社で販売する衛生用品の現物寄付活動等、社会貢献活動を積極的に行いました。

創立56周年を記念し「Kirei Kirei」ハンドソープを寄付

タイライオンは、創立56周年を記念して、タイ国民の疾病予防に貢献するため、『Kirei Kirei』ハンドソープ5,986梱を公立学校はじめ病院や寺院、公共団体67ヶ所56団体に、金額で1.5ミリオンバーツ(約750万円)を寄付し、適切な手洗いの習慣を普及・支援しています。



保健局、地方保健所、公立病院、公立学校などへのハンドソープ進呈

Southern Lion Sdn. Bhd.

✓ オーラルヘルスケア ✓ 清潔衛生習慣 ✓ 寄付活動

オーラルヘルスケア

① マレーシア保健省(MOH)や歯科学会と連携したオーラルヘルスケアブランド『Systema』『KODOMO』の推奨

Southern Lion Sdn. Bhd. (以下、「サザンライオン」という。)はマレーシア保健省(MOH)や歯科学会と連携して、サザンライオンが販売するオーラルヘルスケアブランドを推奨してもらっています。大人の方には『Systema』を子ども向けには『KODOMO』のサンプルと教育用パンフレットをお渡しし、ブランド認知の獲得と患者さんへのブランド推奨をいただいています。

2025年はセランゴーン州と首都クアラルンプールで、歯科医院、大学、および関連団体による無料歯科検診、口腔衛生指導、教育などを含む、計57の協力プログラムを実施し、大人5,490名、子ども4,073名にサンプルをお渡しし、ご家庭でも歯磨きをしっかり行うことの重要性をご理解いただき、使用後の販売促進にもつなげていきました。



『Systema』のイベントブースで
サンプルを持つ参加者たち



イベントでの講演

② マレーシアの幼稚園・小学校にて「ライオン衛生プログラム」を実施

「ライオン衛生プログラム」は1998年に開始された、サザンライオンが実施しているよいオーラルヘルスケア習慣の普及定着プログラムで、年間を通してマレーシア全土の幼稚園と小学校で行われています。このプログラムの目的は、健康なお口の状態が全身の健康につながることを生活者に啓発することと、子どもたちのオーラルヘルスケア意識を向上することです。このプログラムは、4歳から12歳の子どもたちを対象としています。なぜならライオンはよい歯みがき習慣は、幼少期に身につくものと信じているからです。

コンテンツは、ライオンにより設立された(公財)ライオン歯科衛生研究所(LDH)が作成し、何年もかけて、サザンライオンのチームがこのプログラムを、現地に即したものに作り上げてきました。また、長年にわたって、マレーシア各地の政府の歯科医院やマレーシア歯科医師会(MDTA)と連携したため、このプログラムはマレーシアの人々に正しい歯みがき方法を伝える最適なコンテンツになったと確信しています。2021年からは、手洗い啓発もプログラムに加え、「ライオン衛生プログラム」と名称変更しました。

歯科衛生士による検診、塗り絵、クイズに加え、SLからは「健康な歯を保つための方法」をテーマにした紙芝居を通じた歯磨き指導を行います。プログラムは子どもたちが、お互いに楽しめるように工夫しています。また、衛生全般について関心を持てるよう、このプログラムに参加した子どもたち全員にハブラシ、ハミガキが入った『KODOMO』セットをプレゼントしています。

この活動は、2025年1月から12月にかけて実施され、32,087名が参加しました。1998年にプログラムを開始して以来、マレーシア全土で累計約135万名を超える子どもたちがこのプログラムに参加しています。



歯科衛生士による検診



プログラムを実施した幼稚園での記念撮影

③ 歯科関連の学会、学術会議、シンポジウムにおけるブランド認知度の向上

サザンライオンは、マレーシア保健省(MOH)や歯科学会など、歯科に関する専門的な機関と連携して以下4つを行いながら、マレーシア全土でオーラルヘルスケア習慣の促進をしています。

1. ブランドの認知度向上と専門家のネットワーク強化
2. 製品説明やサンプル提供を通じた継続的な教育の推進
3. 歯科医師との強固な信頼関係の構築
4. 売上拡大の促進と診療所における製品推奨の促進

2025年は歯科の学科やシンポジウムで、7,502名の歯科医師や歯科専門家に対し、製品の特長を実験で確認してもらいながらブランドについて理解を深めていただきました。



サザンライオンのブース



『KODOMO』ハミガキの実験の様子



出展したカンファレンスの様子

④ サザンライオン「オーラルヘルスデー」

「予防歯科*」を推進する取り組みの一環として、サザンライオンは2018年から年に1回、口腔衛生と歯周病の予防とその重要性について、従業員の意識を高める目的で、「オーラルヘルスデー」を開催しています。2025年12月15－16日に、サザンライオンのジョホール・バル本社にて、KP Kota Tinggi のもと、「オーラルヘルスデー」は実施され、歯科医師による無料の歯科健診が行われました。歯科健診には137名の従業員が参加しました。

サザンライオンは、この活動を今後も継続し、全従業員のオーラルヘルスケア習慣に対する意識を高めていく予定です。また、従業員の健康促進に寄与していきます。

* ライオンが海外グループ会社で推進している「予防歯科」の考え方は、歯科専門家、流通、ライオンの3者が連携した取り組みです。歯科専門家と一緒にライオンは、歯みがきの実践的な指導やオーラルヘルスケア情報の発信により、生活者のオーラルヘルスケアに対する理解や関心を高めてもらうよう努めています。加えて、ライオングループでは店頭やその他市場を通じて、一人ひとりに合った商品の提供によるオーラルヘルスケア習慣の実践を推進しています。



歯科検診受付の様子



歯科検診

【特別共同企画】

Actions for Handwashing Day 2025



2025年9月29日から10月26日にかけて、オンラインと幼稚園3園で『キレイキレイグローバルお絵描きマイボトルコンテスト』を行いました。コンテストには300名の子どもたちが参加し、世界に1つだけのマイボトルを作成し、毎日の手洗いに励んでいます。



オンラインでのコンテスト告知



幼稚園でお絵描きする様子

寄付活動

サザンライオンは、企業の社会的責任と衛生用品製造会社として、自社で販売する衛生用品の商品寄付活動等、社会貢献活動を積極的に行いました。

恵まれない家族と洪水被害にあった方への寄付

活動時期	2025年12月8日
社外協力者	マレーシア赤新月社
寄付内容	24,000RM マレーシアリングgit (約100万円)
活動の詳細	2025年12月東南アジアで発生した大規模洪水に対し、洪水への備えと地域社会の福祉に対する継続的な取り組みの一環として、マレーシア赤新月社災害対応チームへ寄付を実施。

PT. Lion Wings

✓ オーラルヘルスケア ✓ 寄付活動

オーラルヘルスケア

① オーラルヘルスケア教育イベント

PT. Lion Wings(以下、「ライオンウイングス」という。)は、子どものころからのオーラルヘルスケア習慣の普及を目指し、歯科医師と連携したオーラルイベントを2008年よりインドネシアの幼稚園や小学校などの教育機関と連携して開催しています。

イベントは、4歳から5歳の幼稚園児と6歳から10歳の小学生を対象としており、『KODOMO』ブランド(ライオンウイングスの子ども用オーラルヘルスケア商品)の動画や歯科医師による歯みがき指導などを通じて、歯をみがくことの大切さを伝えています。また、家でも実践してもらえるよう、イベントの最後には、児童と保護者を含む参加者全員で正しい歯みがき方法で歯をみがいてもらっています。さらに、オーラルヘルスケア習慣が確実に定着するように、ライオンウイングスは毎年、同じ学校及び幼稚園を訪問しています。2025年は、1月から12月にかけて、10都市でイベントを開催し約1,000名の子どもたちが参加しました。



イベントの様子

② 大人のためのオーラルヘルスケア習慣の普及啓発活動

2025年7月と12月に、ランブン州、プカンバル州の他22都市でライオンウイングスが販売するハミガキ『Ciptadent(チプタデント)』のブースを出展し、サンプリング、無料の歯科検診を実施、この活動には約170,000人の住民の方々が参加し、オーラルヘルスケアを習慣にすることの大切さを学ぶ機会となりました。



Ciptadentのブースを訪れる人たち

③ 歯科医師向けカンファレンスと展示会に出展

ライオンウイングスは、オーラルヘルスケア習慣をインドネシアの方々に浸透させるため、ライオンウイングスが販売する『Systema』ブランドを活用して、歯科医師や学生が多く参加するカンファレンスや展示会に出展しています。2025年は、約50,000名の歯科医師や学生に対し、大人が注意すべき歯周病ケアなどをお伝えしました。



イベントの様子

④ 歩行者天国で、オーラルヘルスケアイベント実施

インドネシアの首都ジャカルタは、世界的にみて交通量が多く渋滞で有名な都市として知られています。そこでインドネシア政府は、毎週日曜日の午前中は、「カーフリーデー」としてジャカルタの中心部の道路(約6キロ)を規制し、歩行者天国にして、一般市民が楽しめるように開放しています。

2023年から、ライオンウイングスは生活者との接点拡大やブランド認知促進を目的に、歩行者天国でオーラルヘルスケアイベントを実施しています。イベントブースでは、歯みがきのサンプリングを受け取り、歯みがき体験ができます。2025年の活動には、約80,000人の市民が参加しました。



歩行者天国でのイベント開催の様子

⑤ 母の日に親子でオーラルヘルスケア習慣の普及啓発活動実施

日本で母の日といえば5月の第2日曜日となっていますが、インドネシアでは12月22日に祝われます。2025年12月21日にジャカルタ市で親子でオーラルヘルスケアに関する知識を高めるためのイベントを開催しました。歯科医師による歯科検診を実施し、オーラルヘルスケアの重要性に関する教育や家族心理学の専門家による保護者向けのトークショーが行われました。

母の日にちなみ、お子さんからお母さんへ花束のプレゼントとお手紙がサプライズで手渡されました。ライオンウイングスは、販売する『Ciptadent』のサンプリングやトークイベントを行いました。このイベントには、1,000名の親子が参加しました。



歯科医師による歯科検診



イベントでのトークショー



イベントの集合写真

⑥ 歯科検診バス(モバイル歯科検診車)の始動

ライオンウイングスは、スラバヤでの新工場稼働を記念して、移動式歯科検診バスを始動させました。「歯科検診バス(モバイル歯科検診車)」の導入を通じて、ライオンウイングスが社会貢献活動に取り組んでいることを、広く知っていただき、地域の人たちのお口の健康に貢献していきます。2025年3月1日の出発式には歯科医師をはじめ関係者が集まり、200名が検診を受けました。



歯科検診バスで検診を受ける様子

寄付活動

ライオンウイングスは、企業の社会的責任と生活者の身近な製品を製造・販売する企業として、製品寄付等の社会貢献活動を積極的に行いました。

活動1 洪水被害に対する寄付

活動時期	2025年1月31日
寄付内容	生活用品の寄付
活動の詳細	東ジャカルタ市のカクン地区にある PALAD (地域のコミュニティセンター) に、洪水の被害にあった方に対する生活用品を寄付



地域住民へ寄付物品の授与

活動2 施設に寄付

活動時期	2025年7月25日
寄付内容	ライオンウイングスが販売する商品
活動の詳細	Al-Hidayah モスクに入所している子ども80名に商品が無償寄付



施設入所者へ目録の贈呈

活動3 孤児院に寄付

活動時期	2025年12月20日
寄付内容	ライオンウイングスが販売する商品
活動の詳細	西ジャワ州にある孤児院へ入居している子ども35名に、商品を寄付



孤児院で商品を贈呈

編集方針・各種ガイドライン対照表

編集方針

- 2011年から社会的責任に関する国際的な規格であるISO26000に沿ってサステナビリティへの取り組みの体系化を進めており、レポートはガイドラインを参考にしています。
- [ライオン統合レポート2026](#)  は、株主・投資家をはじめとしたステークホルダーの皆様に、ライオンのパーパス（存在意義）「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する（ReDesign）」の実践を通じた中長期の企業価値向上に向けた取り組みをお伝えし、当社グループをより深くご理解いただくことを目指しています。
- サステナビリティWebサイトは、ESG情報およびSDGsへの取り組み等、当社のサステナビリティへの取り組みを知っていただくため、各活動の内容を詳細に報告しています。

参考にしたガイドライン

統合レポート

- IFRS財団「Integrated Reporting Framework」
- 経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」

サステナビリティWebサイト

- 環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」
- Global Reporting Initiative「GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード」
- 日本規格協会「ISO26000:2010社会的責任に関する手引」

対象組織

ライオン株式会社およびすべての連結子会社を基本としています。

* 掲載する活動やデータについて対象範囲が異なる場合は、個々にその旨を明記しています。

* [サステナビリティ重要課題と2030年目標](#)は、海外連結子会社も含まれます。

対象期間

- ライオン 統合レポート2026
2025年1月～2025年12月
- サステナビリティWebサイト
2025年1月～最新情報

* 対象期間外に実施した活動も一部紹介しています。

各種ガイドライン対照表

- ＜ [ISO26000対照表](#)
- ＜ [GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード対照表](#)
- ＜ [国連グローバル・コンパクト対照表](#)
- ＜ [環境報告ガイドライン\(2018年版\)対照表](#)

ISO26000 対照表

ライオングループは、2011年から社会的責任に関する国際的な規格であるISO26000に沿って、サステナビリティへの取り組みの体系化を進めています。

当社グループ全体で取り組むべきサステナビリティ重要課題と目標は、このISO26000に示された社会からの要請や、SDGs等の社会全体の課題を理解した上で、経営課題とすり合わせて特定・設定し、毎年進捗を報告しています。

この対照表では、ISO26000の7つの中核主題と37の課題に該当する取り組みをお示ししています。

- ✓ 組織統治 ✓ 人権 ✓ 労働慣行 ✓ 環境 ✓ 公正な事業慣行 ✓ 消費者課題
- ✓ コミュニティへの参画および発展

中核主題と課題		取り組み事項	統合レポート2026における掲載（該当）箇所
6.2	組織統治	＞ トップメッセージ	p8-11, p29, p47-60
		＞ 考え方と推進体制	
		＞ コーポレート・ガバナンスの考え方と体制	
		＞ 内部統制	
		＞ リスクマネジメント	
		＞ コンプライアンス	
		＞ 役員紹介	
		＞ 国連グローバル・コンパクトへの参加	
		＞ ステークホルダー・エンゲージメント	
		＞ 投資家情報	
6.3	人権		
6.3.3	デュー・ディリジェンス	＞ ライオン人権方針の制定	p45, p66-67,
		＞ 人権デューディリジェンスの推進	
6.3.4	人権に関する危機的状況	＞ 人権デューディリジェンスの推進	
6.3.5	加担の回避	＞ 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築	
		＞ 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進	
		＞ 持続可能な原材料調達に向けて	
6.3.6	苦情解決	＞ コンプライアンス	
		＞ お客様の声にお応えする取り組み	
6.3.7	差別及び社会的弱者	＞ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進	
6.3.8	市民的及び政治的権利	＞ 労使関係	
6.3.9	経済的、社会的及び文化的権利	＞ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進	
6.3.10	労働における基本的原則及び権利	＞ ライオン人権方針の制定	
		＞ 労使関係	
		＞ 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築	
		＞ 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進	

中核主題と課題		取り組み事項	統合レポート2026における掲載(該当)箇所
6.4	労働慣行		
6.4.3	雇用及び雇用関係	＞ 労使関係	p13, p36-40, p66-68
		＞ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進	
		＞ ワークライフエンリッチメントの推進	
6.4.4	労働条件及び社会的保障	＞ 労使関係	
		＞ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進	
		＞ 労働安全管理体制の充実	
6.4.5	社会対話	＞ 労使関係	
		＞ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進	
		＞ ステークホルダー・エンゲージメント	
6.4.6	労働における安全衛生	＞ 労働安全管理体制の充実	
		＞ 内部統制	
		＞ リスクマネジメント	
		＞ 従業員の健康増進	
6.4.7	職場における人材育成及び訓練	＞ 人材開発	
		＞ 労働安全管理体制の充実	
6.5	環境		
6.5.3	汚染の予防	＞ 環境方針／マネジメント	p7, p14, p29-30, p33-35, p46, p66-68
		＞ 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」	
		＞ 脱炭素社会の実現	
		＞ 資源循環型社会の実現	
		＞ 化学物質管理	
6.5.4	持続可能な資源の使用	＞ 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」	
		＞ 自然との共生(生物多様性)	
		＞ 持続可能な原材料調達に向けて	
		＞ 持続可能なプラスチック資源の活用	
		＞ 製品のライフサイクルにおける水使用量削減	
6.5.5	気候変動の緩和及び気候変動への適応	＞ 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」	
		＞ TCFD提言に基づく情報開示	
		＞ TNFD提言に基づく情報開示	
		＞ 事業所活動におけるCO2排出量削減	
		＞ 製品のライフサイクルにおけるCO2排出量削減	
6.5.6	環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復	＞ ライオン山梨の森	
		＞ 生物多様性保全活動	
6.6	公正な事業慣行		
6.6.3	汚職防止	＞ 内部統制	p45, p50-57, p66-67
		＞ リスクマネジメント	
		＞ コンプライアンス	
		＞ 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築	
		＞ 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進	
6.6.4	責任ある政治的関与	＞ 内部統制	
		＞ リスクマネジメント	
		＞ コンプライアンス	

中核主題と課題		取り組み事項	統合レポート2026における掲載(該当)箇所
6.6.5	公正な競争	＞ 内部統制	p41-42, p45, p50-57, p66-67
		＞ リスクマネジメント	
		＞ コンプライアンス	
6.6.6	バリューチェーンにおける社会的責任の推進	＞ 内部統制	
		＞ リスクマネジメント	
		＞ コンプライアンス	
		＞ 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築	
		＞ 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進	
6.6.7	財産権の尊重	＞ 内部統制	
		＞ リスクマネジメント	
		＞ 知的財産	
6.7	消費者課題		
6.7.3	公正なマーケティング、事実に即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行	＞ 品質保証、安心・安全への取り組み	p4-6, p21-23, p30-32, p34-35, p66-67
		＞ お客様の声にお応えする取り組み	
		＞ お客様への情報提供の強化	
6.7.4	消費者の安全衛生の保護	＞ 品質保証、安心・安全への取り組み	
		＞ お客様の声にお応えする取り組み	
6.7.5	持続可能な消費	＞ お客様への情報提供の強化	
		＞ ライオンのエコ製品(環境配慮型製品)	
		＞ 持続可能なプラスチック資源の活用	
6.7.6	消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決	＞ お客様の声にお応えする取り組み	
		＞ 品質保証、安心・安全への取り組み	
		＞ ライオンのエコ製品(環境配慮型製品)	
6.7.7	消費者データ保護及びプライバシー	＞ お客様への情報提供の強化	
		＞ お客様の声にお応えする取り組み	
6.7.8	必要不可欠なサービスへのアクセス	＞ ライオンのエコ製品(環境配慮型製品)	
		🔍 製品取扱店舗検索	
		＞ お客様の声にお応えする取り組み	
6.7.9	教育及び意識向上	＞ ライオンのエコ製品(環境配慮型製品)	
		＞ 品質保証、安心・安全への取り組み	

中核主題と課題		取り組み事項	統合レポート2026における掲載(該当)箇所
6.8	コミュニティへの参画及びコミュニティへの発展		
6.8.3	コミュニティへの参画	＞ 健康な生活習慣づくり	p4-6, p21-23, p30-32, p34-35, p66-68
		＞ オーラルヘルスケア習慣の定着化に向けた取り組み	
		☑ インクルーシブ・オーラルケア	
		＞ 清潔・衛生習慣の定着化に向けた取り組み	
		＞ 社会貢献活動	
		＞ 生物多様性保全活動	
		＞ ステークホルダー・エンゲージメント	
6.8.4	教育及び文化	＞ 健康な生活習慣づくり	
		＞ オーラルヘルスケア習慣の定着化に向けた取り組み	
		☑ インクルーシブ・オーラルケア	
		＞ 清潔・衛生習慣の定着化に向けた取り組み	
		＞ 社会貢献活動	
		＞ 生物多様性保全活動	
		＞ ライオンのエコ製品(環境配慮型製品)	
6.8.5	雇用創出及び技能開発	☑ インクルーシブ・オーラルケア	
6.8.6	技術の開発及び技術へのアクセス	＞ 学術支援を通じた環境コミュニケーション	
		＞ 初期ムシ歯の診断技術開発	
6.8.7	富及び所得の創出	☑ インクルーシブ・オーラルケア	
6.8.8	健康	＞ オーラルヘルスケア習慣の定着化に向けた取り組み	
		☑ インクルーシブ・オーラルケア	
		＞ 清潔・衛生習慣の定着化に向けた取り組み	
		＞ 社会貢献活動	
6.8.9	社会的投資	＞ 社会貢献活動	

GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード対照表

【利用に関する声明】

ライオングループは、「GRI（Global Reporting Initiative）サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」を参照し、当該期間（2025年1月1日～12月31日、一部最新情報を含む）について、本対照表で記載した情報を報告いたします。

【利用したGRI1】

GRI 1：基礎2021

＊ 表中の「－」は、サステナビリティWebサイトで開示していない項目です。

GRIスタンダード		Web掲載箇所
GRI 2：一般開示事項2021		
1. 組織と報告実務		
2-1	組織の詳細	＜ 会社概要 ＜ グループ・関連会社一覧 ＜ 海外拠点一覧
2-2	組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	＜ 編集方針・各種ガイドライン対照表
2-3	報告期間、報告頻度、連絡先	＜ 編集方針・各種ガイドライン対照表
2-4	情報の修正・訂正記述	＜ ESGデータ （環境、社会）
2-5	外部保証	＜ ESGデータ・第三書検証（環境）
2. 活動と労働者		
2-6	活動、バリューチェーン、その他の取引関係	＜ 有価証券報告書【事業の内容】
2-7	従業員	＜ 有価証券報告書【従業員の状況】 ＜ ESGデータ 人材関連データ
2-8	従業員以外の労働者	＜ ESGデータ 人材関連データ
3. ガバナンス		
2-9	ガバナンス構造と構成	＜ コーポレート・ガバナンスの考え方と体制
2-10	最高ガバナンス機関における指名と選出	＜ コーポレート・ガバナンス基本方針 PDF
2-11	最高ガバナンス機関の議長	＜ コーポレート・ガバナンスに関する報告書 PDF
2-12	インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	＜ コーポレート・ガバナンスの考え方と体制 ＜ コーポレート・ガバナンス基本方針 PDF
2-13	インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	＜ コーポレート・ガバナンスに関する報告書 PDF ＜ コーポレート・ガバナンスの考え方と体制 ＜ サステナビリティマネジメント（推進体制）
2-14	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	＜ サステナビリティマネジメント（推進体制） ＜ トップメッセージ
2-15	利益相反	＜ 有価証券報告書
2-16	重大な懸念事項の伝達	＜ コンプライアンス ＜ 内部統制 ＜ リスクマネジメント
2-17	最高ガバナンス機関の集合的知見	＜ コーポレート・ガバナンス基本方針 PDF
2-18	最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価	＜ コーポレート・ガバナンス基本方針 PDF ＜ コーポレート・ガバナンスに関する報告書 PDF
2-19	報酬方針	＜ 有価証券報告書

GRIスタンダード		Web掲載箇所
		＞ コーポレート・ガバナンス基本方針  ＞ 役員報酬
2-20	報酬の決定プロセス	＞ 有価証券報告書 ＞ 役員報酬
2-21	年間報酬総額の比率	＞ 役員報酬
4. 戦略、方針、実務慣行		
2-22	持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	＞ トップメッセージ ＞ 経営戦略・中期経営計画
2-23	方針声明	＞ 方針・宣言 ＞ 人権の尊重
2-24	方針声明の実践	＞ 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築 ＞ 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進
2-25	マイナスのインパクトの是正プロセス	＞ コーポレート・ガバナンス基本方針  ＞ 人権デューディリジェンスの推進 ＞ リスクマネジメント
2-26	助言を求める制度および懸念を提起する制度	＞ コーポレート・ガバナンス基本方針  ＞ コンプライアンス
2-27	法規制遵守	＞ コンプライアンス
2-28	会員資格を持つ団体	＞ イニシアチブ・外部評価 ＞ 環境に関する外部イニシアチブへの参画 ＞ エコ・ファーストの約束 ＞ 薬品安全性に関する外部イニシアチブへの参画 ＞ サプライチェーンに関する外部イニシアチブへの参画
5. ステークホルダー・エンゲージメント		
2-29	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	＞ ステークホルダー・エンゲージメント
2-30	労働協約	＞ 労使関係
GRI 3: マテリアルな項目 2021		
3-1	マテリアルな項目の決定プロセス	＞ 重要課題(マテリアリティ) 特定のプロセス
3-2	マテリアルな項目のリスト	＞ サステナビリティ重要課題と2030年目標
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	＞ サステナビリティマネジメント(推進体制)
200: 経済		
GRI 201: 経済パフォーマンス 2016		
201-1	創出、分配した直接的経済価値	＞ 決算短信・決算説明資料
201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	＞ TCFD提言に基づく情報開示
201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	＞ 有価証券報告書
201-4	政府から受けた資金援助	—
GRI 202: 地域経済でのプレゼンス 2016		
202-1	地域最低賃金に対する標準的新入社員給与の比率(男女別)	—
202-2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	—
GRI 203: 間接的な経済的インパクト 2016		
203-1	インフラ投資および支援サービス	—
203-2	著しい間接的な経済的インパクト	—
GRI 204: 調達慣行 2016		
204-1	地元サプライヤーへの支出の割合	—

GRIスタンダード		Web掲載箇所
GRI 205: 腐敗防止 2016		
205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	—
205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	＞ コンプライアンス
205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	—
GRI 206: 反競争的行為 2016		
206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	—
GRI 207: 税金 2019		
207-1	税務へのアプローチ	＞ 税務方針
207-2	税務ガバナンス、管理およびリスクマネジメント	＞ コンプライアンス ＞ リスクマネジメント
207-3	税務に関連するステークホルダー・エンゲージメントおよび懸念への対処	＞ ステークホルダー・エンゲージメント
207-4	国別の報告	＞ 税務方針 ＞ コンプライアンス
GRI 301: 原材料 2016		
301-1	使用原材料の重量または体積	＞ ESGデータ 原材料使用量の推移及び容器・包装材料使用量の推移
301-2	使用したリサイクル材料	＞ 持続可能なプラスチック資源の活用
301-3	再生利用された製品と梱包材	＞ 持続可能なプラスチック資源の活用
GRI 302: エネルギー 2016		
302-1	組織内のエネルギー消費量	＞ ESGデータ 事業所におけるエネルギー総使用量の推移
302-2	組織外のエネルギー消費量	＞ ESGデータ サプライチェーンにおけるCO ₂ 排出量(スコープ1・2・3)割合の推移
302-3	エネルギー原単位	—
302-4	エネルギー消費量の削減	＞ 事業所活動におけるCO ₂ 排出量削減
302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	＞ 製品のライフサイクルにおけるCO ₂ 排出量削減
GRI 303: 水と廃水 2018		
303-1	共有資源としての水との相互作用	＞ 資源循環型社会の実現 ＞ 製品のライフサイクルにおける水使用量削減
303-2	排水に関するインパクトのマネジメント	＞ 事業活動における水使用量削減
303-3	取水	＞ ESGデータ 事業活動での水使用量(取水量)の推移 ＞ 製品のライフサイクルにおける水使用量削減
303-4	排水	＞ ESGデータ 事業活動での排水量の推移 ＞ 事業所における排水量の推移
303-5	水消費	＞ ESGデータ 事業活動による環境負荷の全体像
GRI 304: 生物多様性 2016		
304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業拠点	＞ 各事業所の活動
304-2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	＞ 自然との共生(生物多様性) ＞ TNFD提言に基づく情報開示
304-3	生息地の保護・復元	＞ 各事業所の活動
304-4	事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	＞ 社会貢献活動 6.1 生物多様性保全活動(各事業所)
GRI 305: 大気への排出 2016		
305-1	直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(Scope1)	＞ 事業所におけるCO ₂ 排出量と削減率の推移(スコープ1,2)

GRIスタンダード		Web掲載箇所
305-2	間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (Scope2)	＞ 事業所におけるCO ₂ 排出量と削減率の推移 (スコープ1,2)
305-3	その他の間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (Scope3)	＞ サプライチェーンにおけるCO ₂ 排出量 (スコープ1・2・3) 割合の推移
305-4	温室効果ガス (GHG) 排出原単位	—
305-5	温室効果ガス (GHG) 排出量の削減	＞ 事業所活動におけるCO ₂ 排出量削減 ＞ ESGデータ 製品のライフサイクルにおけるCO ₂ 排出量の推移
305-6	オゾン層破壊物質 (ODS) の排出量	—
305-7	窒素酸化物 (NOx)、硫黄酸化物 (SOx)、およびその他の重大な大気排出物	＞ ESGデータ 化学物質管理 ＞ 化学物質管理 大気に配慮した生産活動
GRI 306: 廃棄物 2020		
306-1	廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	＞ 資源循環型社会の実現
306-2	廃棄物関連の著しいインパクトの管理	＞ 持続可能なプラスチック資源の活用
306-3	発生した廃棄物	＞ ESGデータ 廃棄物
306-4	処分されなかった廃棄物	＞ ESGデータ 廃棄物
306-5	処分された廃棄物	＞ ESGデータ 廃棄物
GRI 308: サプライヤーの環境面のアセスメント 2016		
308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	＞ 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進
308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	＞ 持続可能な原材料調達に向けて
GRI 401: 雇用 2016		
401-1	従業員の新規雇用と離職	＞ ESGデータ 人材関連データ
401-2	正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	—
401-3	育児休暇	＞ ワークライフエンリッチメントの推進
GRI 402: 労使関係 2016		
402-1	事業上の変更に関する最低通知期間	—
GRI 403: 労働安全衛生 2018		
403-1	労働安全衛生マネジメントシステム	＞ 労働安全管理体制の充実
403-2	危険性 (ハザード) の特定、リスク評価、事故調査	＞ 労働安全管理体制の充実
403-3	労働衛生サービス	—
403-4	労働安全衛生における労働者の参加、協議、コミュニケーション	＞ 労働安全管理体制の充実
403-5	労働安全衛生に関する労働者研修	＞ 労働安全管理体制の充実
403-6	労働者の健康増進	＞ 従業員の健康増進
403-7	ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の防止と軽減	＞ 労働安全管理体制の充実 取り組み (設備安全 / 労働安全)
403-8	労働安全衛生マネジメントシステムの対象となる労働者	＞ 労働安全管理体制の充実
403-9	労働関連の傷害	＞ 従業員の健康増進 ＞ 労働安全管理体制の充実 取り組み (設備安全 / 労働安全)
403-10	労働関連の疾病・体調不良	＞ 従業員の健康増進 ＞ 生産性と働きがいに関する指標

GRIスタンダード		Web掲載箇所
GRI 404: 研修と教育 2016		
404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	＞ ESGデータ 人材関連データ
404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	＞ 全社共通の学びとキャリア自立を支える取り組み
404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	—
GRI 405: ダイバーシティと機会均等 2016		
405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	＞ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進
405-2	基本給と報酬総額の男女比	＞ ESGデータ 人材関連データ
GRI 406: 非差別 2016		
406-1	差別事例と実施した是正措置	—
GRI 407: 結社の自由と団体交渉 2016		
407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	＞ 人権デューディリジェンスの推進
GRI 408: 児童労働 2016		
408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	＞ 人権デューディリジェンスの推進
GRI 409: 強制労働 2016		
409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	＞ 人権デューディリジェンスの推進
GRI 410: 保安慣行 2016		
410-1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員	—
GRI 411: 先住民族の権利 2016		
411-1	先住民族の権利を侵害した事例	—
GRI 413: 地域コミュニティ 2016		
413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	＞ 社会貢献活動
413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト(顕在的しているもの、潜在的なもの)を及ぼす事業所	—
GRI 414: サプライヤーの社会面のアセスメント 2016		
414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	＞ 新規サプライヤーの選定
414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	＞ 持続可能な原材料調達に向けて
GRI 415: 公共政策 2016		
415-1	政治献金	＞ 政治献金
GRI 416: 顧客の安全衛生 2016		
416-1	製品・サービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価	＞ 品質保証、安心・安全への取り組み ＞ 商品使用時の安全性
416-2	製品・サービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	—
GRI 417: マーケティングとラベリング 2016		
417-1	製品・サービスの情報とラベリングに関する要求事項	＞ 責任ある表示・広告の取り組み
417-2	製品・サービスの情報とラベリングに関する違反事例	＞ 消費者庁からの広告表示に関する勧告について
417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	—
GRI 418: 顧客プライバシー 2016		
418-1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	—

国連グローバル・コンパクト COP対照表

ライオンは、2009年に国連グローバル・コンパクト(UNGC)への支持を表明し、この取り組みに参加しています。当社は、UNGC署名企業として、UN Global Compact 4分野・10原則(人権・労働・環境・腐敗防止)の実践状況と成果に関する報告書を毎年提出しています。

	国連グローバル・コンパクト原則	Web掲載箇所
人権	原則1:人権保護の支持と尊重	＞ 行動憲章・行動指針 ＞ ライオン人権方針 ＞ 人権の尊重 ＞ 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築 ＞ 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進 ＞ 持続可能な原材料調達に向けて ＞ ステークホルダー・エンゲージメント ＞ ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進 ＞ 品質保証、安心・安全への取り組み ＞ 従業員の健康増進 ＞ 労働安全管理体制の充実
	原則2:人権侵害への非加担	＞ 行動憲章・行動指針 ＞ ライオン人権方針 ＞ 人権の尊重 ＞ 人権デューディリジェンスの推進
労働	原則3:結社の自由と団体交渉権の承認	＞ 行動憲章・行動指針 ＞ ライオン人権方針 ＞ 人権の尊重 ＞ 人的資本・労働安全 ＞ 労使関係
	原則4:強制労働の排除	＞ 行動憲章・行動指針 ＞ ライオン人権方針 ＞ 人権の尊重 ＞ 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築 ＞ 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進 ＞ 持続可能な原材料調達に向けて
	原則5:児童労働の実効的な廃止	＞ 行動憲章・行動指針 ＞ ライオン人権方針 ＞ 人権の尊重 ＞ 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築 ＞ 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進 ＞ 持続可能な原材料調達に向けて

	国連グローバル・コンパクト原則	Web掲載箇所
	原則6:雇用と職業の差別撤廃	> 行動憲章・行動指針 > ライオン人権方針 > 人権の尊重 > 人的資本・労働安全 > ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進 > ワークライフエンリッチメントの推進 > 労働安全管理体制の充実
環境	原則7:環境問題の予防的アプローチ	> 行動憲章・行動指針 > 環境方針 > サステナブルな地球環境への取組み推進 環境方針／マネジメント > 化学物質管理 > ステークホルダー・エンゲージメント
	原則8:環境に対する責任のイニシアチブ	> 行動憲章・行動指針 > トップメッセージ > 考え方と推進体制 > 重要課題(マテリアリティ) 特定のプロセス > 環境に関する外部イニシアチブへの参画 > 脱炭素社会の実現 > 資源循環型社会の実現 > イニシアチブ・外部評価 > ステークホルダー・エンゲージメント
	原則9:環境にやさしい技術の開発と普及	> 行動憲章・行動指針 > 環境に関する外部イニシアチブへの参画 > 持続可能なプラスチック資源の活用 > ライオンのエコ製品(環境配慮型製品)
腐敗防止	原則10:強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取組み	> 行動憲章・行動指針 > コーポレート・ガバナンスの考え方と体制 > コンプライアンス > ライオン贈収賄防止指針

環境報告ガイドライン(2018年版)対照表

第1章 環境報告の基礎情報

項目	該当項目
1. 報告にあたっての基本的要件	
(1) 報告対象組織	＞ 会社概要
(2) 報告対象期間	＞ 対象期間
(3) 基準・ガイドライン等	＞ 各種ガイドライン対照表
(4) 環境報告の全体像	＞ 編集方針 ＞ サステナブルな地球環境への取組み推進
2. 主な実績評価指標の推移	
(1) 主な実績評価指標の推移	＞ サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標、2025年実績、施策  (1.2MB) ＞ ライオン 統合レポート2026 p.66-68

第2章 環境報告の記載事項

項目	該当項目
1. 経営責任者のコミットメント	
(1) 重要な環境課題への対応に関する経営責任者のコミットメント	＞ トップメッセージ
2. ガバナンス	
(1) 事業者のガバナンス体制	＞ コーポレート・ガバナンス体制
(2) 重要な環境課題の管理責任者	＞ サステナビリティマネジメント(推進体制) ＞ 環境管理体制
(3) 重要な環境課題の管理における取締役会及び経營業務執行組織の役割	＞ サステナビリティマネジメント(推進体制) ＞ 環境管理体制
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況	
(1) ステークホルダーへの対応方針	＞ ステークホルダー・エンゲージメント ＞ 環境に関する外部イニシアチブへの参画
(2) 実施したステークホルダーエンゲージメントの概要	＞ ステークホルダー・エンゲージメント ＞ ライオンのSDGs(持続可能な開発目標)への取り組み ＞ 環境に関する外部イニシアチブへの参画 ＞ 社会貢献活動
4. リスクマネジメント	
(1) リスクの特定、評価及び対応方法	＞ リスクマネジメント ＞ サステナブルな地球環境への取組み推進 環境方針／マネジメント
(2) 上記の方法の全社的なリスクマネジメントにおける位置付け	＞ リスクマネジメント
5. ビジネスモデル	
(1) 事業者のビジネスモデル	＞ 経営戦略・中期経営計画

項目	該当項目
6. バリューチェーンマネジメント	
(1) バリューチェーンの概要	> バリューチェーンにおけるサステナビリティ重要課題のリスクと機会 > 脱炭素社会の実現 > 資源循環型社会の実現 > 自然との共生(生物多様性) > 化学物質管理
(2) グリーン調達の方針、目標・実績	> 環境方針 > 調達基本方針 > 持続可能な原材料調達方針 > 原材料メーカーや生産委託先とのサステナビリティの推進 > グリーン購入
(3) 環境配慮製品・サービスの状況	> ライオンのエコ製品(環境配慮型製品) > 「暮らし、まいにち、エコ。」マーク表示製品一覧 > 自然との共生(生物多様性) > 節水に役立つ製品/海外における節水製品
7. 長期ビジョン	
(1) 長期ビジョン	> 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」
(2) 長期ビジョンの設定期間	> 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」
(3) その期間を選択した理由	> 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」
8. 戦略	
(1) 持続可能な社会の実現に向けた事業者の事業戦略	> 経営戦略・中期経営計画 > 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」 > TCFD提言に基づく情報開示 > TNFD提言に基づく情報開示
9. 重要な環境課題の特定方法	
(1) 事業者が重要な環境課題を特定した際の手順	> 重要課題(マテリアリティ) 特定のプロセス
(2) 特定した重要な環境課題のリスト	> 重要課題(マテリアリティ) 特定のプロセス > 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」
(3) 特定した環境課題を重要であると判断した理由	> 重要課題(マテリアリティ) 特定のプロセス > 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」
(4) 重要な環境課題のバウンダリー	> 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」
10. 事業者の重要な環境課題	
(1) 取組方針・行動計画	> 環境方針 > 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」
(2) 実績評価指標による取組目標と取組実績	> 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」 > サステナビリティ重要課題と2030年目標・指標、2025年実績、施策  (1.2MB)
(3) 実績評価指標の算定方法	> ESGデータ 環境
(4) 実績評価指標の集計範囲	> ESGデータ 環境
(5) リスク・機会による財務的影響が大きい場合は、それらの影響額と算定方法	> TCFD提言に基づく情報開示 > TNFD提言に基づく情報開示
(6) 報告事項に独立した第三者による保証が付与されている場合は、その保証報告書	> 第三者検証の実施(環境)

参考資料 主な環境課題とその実績評価指標

項目	該当項目
1. 気候変動	
温室効果ガス排出	
(1) スコープ1排出量	＞ ESGデータ 環境
(2) スコープ2排出量	＞ ESGデータ 環境
(3) スコープ3排出量	＞ ESGデータ 環境
項目	該当項目
原単位	
(1) 温室効果ガス排出原単位	＞ 事業所活動におけるCO ₂ 排出量削減
エネルギー使用	
(1) エネルギー使用量の内訳及び総エネルギー使用量	＞ 事業活動による環境負荷の全体像 ＞ 事業所におけるエネルギー総使用量の推移
(2) 総エネルギー使用量に占める再生可能エネルギー使用量の割合	＞ 事業所における再生可能エネルギー使用量と比率の推移
2. 水資源	
(1) 水資源投入量	＞ 事業所における水使用量(取水量)の推移
(2) 水資源投入量の原単位	＞ 製品のライフサイクルにおける水使用量割合の推移
(3) 排水量	＞ 事業所における排水量の推移
(4) 事業所やサプライチェーンが水ストレスの高い地域に存在する場合は、その水ストレスの状況	＞ 事業活動における水使用量削減(水ストレス地域の特定と評価)
3. 生物多様性	
(1) 事業活動が生物多様性に及ぼす影響	＞ 生物多様性保全活動 ＞ ライオンと生物多様性
(2) 事業活動が生物多様性に依存する状況と程度	＞ 生物多様性保全活動 ＞ ライオンと生物多様性
(3) 生物多様性の保全に資する事業活動	＞ 生物多様性保全活動 ＞ 生物多様性保全への取り組み
(4) 外部ステークホルダーとの協働の状況	＞ 社会貢献活動 ＞ 学術支援を通じた環境コミュニケーション ＞ ライオンのエコ製品(環境配慮型製品)
4. 資源循環	
資源の投入	
(1) 再生不能資源投入量	該当なし
(2) 再生可能資源投入量	該当なし
(3) 循環利用材の量	該当なし
(4) 循環利用率(=循環利用材の量/資源投入量)	該当なし
資源の廃棄	
(1) 廃棄物等の総排出量	＞ 廃棄物総発生量・廃棄物最終処分量・有価物総量の推移
(2) 廃棄物等の最終処分量	＞ 廃棄物総発生量・廃棄物最終処分量・有価物総量の推移

項目	該当項目
5. 化学物質	
(1) 化学物質の貯蔵量	該当なし
(2) 化学物質の排出量	> 事業活動による環境負荷の全体像 > 化学物質管理 > ESGデータ 環境
(3) 化学物質の移動量	> 事業活動による環境負荷の全体像
(4) 化学物質の取扱い量（使用量）	> 事業活動による環境負荷の全体像
6. 汚染予防	
全般	
(1) 法令遵守の状況	> 法規制の遵守
大気保全	
(1) 大気汚染規制項目の排出濃度、大気汚染物質排出量	> 化学物質管理
水質汚濁	
(1) 排水規制項目の排出濃度、水質汚濁負荷量	> 化学物質管理
土壌汚染	
(1) 土壌汚染の状況	> 法規制の遵守

サステナビリティ発行物ダウンロード

- ✓ 統合レポート2026
- ✓ 統合レポート バックナンバー
- ✓ サステナビリティWebサイト2026<PDF版>
- ✓ LION's SUSTAINABILITY
- ✓ サステナビリティ コミュニケーションブック
- ✓ エコ・パンフレット
- ✓ 災害時のための清潔&健康ケアBOOK

統合レポート2026

ライオン統合レポートは、株主・投資家等をはじめとするステークホルダーの皆様に、ライオンのパーパス（存在意義）「より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する（ReDesign）」の実践を通じた中長期の企業価値向上に向けた取り組みをお伝えし、当社グループをより深くご理解いただくことを目指しています。



全ページダウンロード  (15.5MB)

統合レポート バックナンバー

- ＞ 統合レポート2025  (17.2MB)
- ＞ 統合レポート2024  (18.4MB)
- ＞ 統合レポート2023  (11.9MB)
- ＞ 統合レポート2022  (11.9MB)
- ＞ 統合レポート2021  (12.6MB)

サステナビリティWebサイト2026<PDF版>



＞ 全ページダウンロード  (62.2MB)

サステナビリティWebサイト バックナンバー＜PDF版＞

- ＞ サステナビリティWebサイト2025＜PDF版＞  (PDF:60.8MB)
- ＞ サステナビリティWebサイト2024＜PDF版＞  (PDF:36.0MB)
- ＞ サステナビリティWebサイト2023＜PDF版＞  (PDF:66.5MB)
- ＞ サステナビリティWebサイト2022＜PDF版＞  (PDF:45.4MB)

LION's SUSTAINABILITY

SDGsの観点から、当社の活動を紹介するものとなっています。



＞ LION's SUSTAINABILITY (PDF:12.6MB)

※PDF内に記載されたURLをクリックすると、関連動画・Webページにジャンプします。

LION's SUSTAINABILITY SDGsの取組み バックナンバー

- ＞ LION's SUSTAINABILITY SDGsの取組み 2024  (PDF:11.7MB)
- ＞ LION's SUSTAINABILITY SDGsの取組み 2023  (PDF:10.8MB)
- ＞ LION's SUSTAINABILITY SDGsの取組み 2022  (PDF:11.0MB)
- ＞ LION's SUSTAINABILITY SDGsの取組み 2021  (PDF:6.8MB)

サステナビリティ コミュニケーションブック

「数字で見る 暮らしのたいせつ」



＞ サステナビリティ コミュニケーションブック 「数字で見る 暮らしのたいせつ」 (PDF:24.8MB)

エコ・パンフレット

ライオンの環境活動を、図やイラストを活用して紹介しています。



＞ [エコ・パンフレット](#)  (PDF:5.25MB)

災害時のための清潔&健康ケアBOOK 印刷用PDFファイル

災害時のための清潔&健康ケアについてご案内しているPDFです。

災害時の「手や指の清潔ケア」と「お口のケア」の重要性とともに、普段からの備えや食事の注意点など、いざというときに役立つ情報を掲載しています。

また、高齢者や体が不自由な方、小さな子どもがいるご家庭の準備と災害時のケアの情報も掲載しています。



＞ [6枚版](#)  :印刷して中央で折りたたんでお使いください。

関連コンテンツ



ハブラシリサイクル

使用済みハブラシを回収・リサイクルし、サステナブルな資源循環を推進する活動です。



インクルーシブ・オーラルケア

誰一人取り残さない。オーラルケアを通じて、人と社会の課題に取り組む活動です。



東日本大震災におけるライオンの取り組み

創業者である初代小林富次郎のゆかりの地である宮城県石巻市で、ライオンのリソースを活用した様々な活動を行っています。



ライオン山梨の森

水源である森林の整備を通し、森を育て守るだけでなく、人も育てる活動です。



キレイキレイのまち坂出プロジェクト

キレイキレイハンドソープの工場がある香川県坂出市とライオンは、市民の健康増進への貢献を目指した活動を行っています。



kaji x kaji ハッピーシェア

身近なジェンダー平等への取り組み。「家事ギャップ」を解消し、みんながハッピーになるための活動です。





生物多様性保全への取り組み

自然と共生する社会の実現に向け、各地の事業所で取り組む生物多様性保全のための活動です。



災害時の清潔・健康ケア情報

いざというときのお口や手の清潔ケアや、普段からの備えなど、災害時の清潔・健康ケアに関する情報を提供しています。



ライオンのSDGsへの取り組み

SDGsの達成には向けて、様々な方々とのパートナーシップにより、課題解決に取り組んでいます。

